２０２１年度

貝塚公民館のあゆみ

～人と人、地域をつなぐ公民館～

貝塚市立中央公民館
貝塚市立浜手地区公民館
貝塚市立山手地区公民館

「2021年度貝塚公民館のあゆみ」発刊によせて

今年度、山手地区公民館が開館30周年の節目の年を迎えました。

平成3年4月10日、山手地区公民館が満開の桜の中で晴れやかにオープンした日の様子について、当時の「公民館タイムズ」は、「山手地区公民館開館記念事業と併せて、はじめての講座を13講座開講しましたが、どの講座も定員をはるかに超える応募があり、しかも山手地域の方の応募がほとんどでした」と記されています。まさに地域住民が待ち望んだ施設であり、地域の公民館に対する期待が大きかったことを伺わせます。

本市の公民館は昭和28年（1953年）に開館して以来、36年間一市一館体制で運営されてきましたが、平成元年（1989年）にパークタウンの街びらきと同時に浜手地区公民館が開館、さらに平成3年（1991年）に山手地区公民館が開館したことにより三館体制が実現し、浜手地区から山手地区まで南北に細長い市域をカバーする地域づくりの拠点が出来上がりました。

以来30年間、3つの公民館は地域住民に身近な施設として、「人と人、地域をむすぶ」という共通の目標を持ちつつも、それぞれの館の地域性や施設の特色を生かした独自性のある公民館活動を展開してきました。

本年度、新型コロナウイルス感染症のまん延、及び、緊急事態宣言の発出に伴い4月から6月にかけてほぼ2ケ月の間、公民館は臨時休館を余儀なくされ、2年続けて「中央公民館まつり」は中止となりました。

再開後も開館時間の短縮をはじめとする様々な制約を受けるなど、講座・事業の運営に苦心を強いられましたが、これまで70年近い貝塚公民館の歴史の中で築き上げてきた成果を大切にしつつ、ICT 技術の進展など公民館活動をめぐる環境の変化にも積極的に対応すべく、「令和3年度貝塚公民館事業方針」に基づき事業運営を進めてきました。

本誌では、本年度の講座・事業の成果や課題のみならず、臨時休館中でもできることとして利用者とのつながりを維持しようと開催した「公民館だョ！Zoomで集合」や、3館をZoomでつなぎ会場を分散するとともに、Zoomによる自宅からの参加者も募った「第10回貝塚公民館大会」など、コロナ禍で様々な工夫を凝らし講座・事業を実施してきたこと、また、このような状況を経験したからこそ得られた「気づき」についても綴られています。

公民館関係者をはじめ、広く市民の皆様にもご高覧いただき、様々な分野からのご意見等いただければ幸いです。

貝塚市立中央公民館長　甲　斐　裕　二

令和３年度　貝塚公民館　事業総括

はじめに

本年度の貝塚公民館は、日本国憲法・教育基本法及び社会教育法の理念はもとより、本市が策定している「第５次貝塚市総合計画」及び「第２期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、また、教育委員会が定めた「令和３年度教育努力目標」を踏まえ、

・市民の主体的参画型講座内容の充実を図り、新たな利用者を開拓する。
・関係機関と連携を深め、公民館からの広報等の情報発信をより進める。
・公民館での学習や交流を通じて、人権意識の高揚と地域の活性化を図る。

の３点を事業展開の基本とした令和３年度貝塚公民館事業方針に基づき、中央・浜手地区・山手地区各公民館（以下、「各館」という）において重点目標を掲げ、多様な講座や事業を展開した。

とりわけ、山手地区公民館は開館30周年という節目を迎え、よりいっそう地域の学習・交流に取り組んでいく決意を新たにした。

本年度においても、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という）の影響を受けたが、コロナ下であっても安心して公民館を利用していただけるよう、サーモグラフィ体温計やパーテーションの設置など環境整備に努めた。

また、コロナにより従来の取組みが困難、かつ、公民館に集うクラブ・グループ員の減少が全国的にも課題となっている中、利用者の新たな発掘を進めるとともに、職員と利用者が協働する「第10回貝塚公民館大会」の企画などにより「つどい、まなび、まじわり、むすぶ」公民館活動の原点に立ち返り、多くの人のつながりの中から課題の克服に向けた取組みを広げてきた。

以下、本年度各館で取り組んだ講座事業について事業別に状況・成果・課題をまとめ総括した。

１．公民館主催事業

①　青少年対象事業

＜状況・成果＞

コロナのため昨年度開催できなかった「夏の子ども講座」をクラブ等の協力により２年ぶりに開催、子どもたちの体験の場を提供するとともに、異世代間交流を図ることができた。開催に向けて、校園長会を通じて市内全小中学校の児童・生徒に「2021 夏　公民館タイムズ」を配布し広報に努めた。

他にも、青少年の主体的な活動を支援する「レッツTRY」事業や「明るいおばけやしき作戦会議」「+KOMINKAN」「新春あそびたい会」「新春子ども将棋大会」など様々な青少年対象の講座・事業を実施し、子どもの居場所づくりや異世代間交流の場づくりに努めた。

貝塚少年少女合唱団は、コロナのため定期演奏会が延期になるなど活動が十分にできない状況が続いたが、２月の貝塚公民館大会のオープニングで演奏し、練習の成果を発表する機会を持つことができた。

＜課題＞

子どもたちが参加したくなるような講座・事業の企画と広報の工夫。

音楽やダンスに限らず、青少年の自主的な活動に公民館が利用できることを広く知らせる。

②　子育て支援事業

＜状況・成果＞

「赤ちゃんルーム」「子育てサロン☆ほっとスペース」「保育付き講座　子育て×自分磨き」など、様々な工夫を凝らした講座を開催し、子育て中の親同士の交流の場を作るとともに、子育ての悩みや疑問、子育てに関する情報を共有することができた。また、「パパサロン」や「かいづか家族の日」関連事業など父子・ファミリー参加の事業にも取り組んだ。

講座の開催に際しては、「貝塚子育てネットワークの会」などの子育てグループや図書館、健康推進課、子育て支援課など関係課との連携を図ることができた。

＜課題＞

コロナ下で、親子が安心して受講できる講座の開催方法の工夫。

目まぐるしく変化する子育て行政の中で、関係団体と連携しながら公民館としての特性を生かした事業の展開。

③　成人対象事業

＜状況・成果＞

各館において高齢者を対象とした「New つるかめ大学」や「シルバーライフ」、障がい者を対象とする「ふれあい料理」などの講座、また、地域の新たな介護課題であるダブルケアラー、ヤングケアラーについて学ぶ講座、全世界的な課題となっている SDGs、プラスチックごみ問題に関連する講座など、多様な市民を対象として、多様な学びの場、社会参加の場を提供してきた。

さらに、近年、「健康寿命」が注目される中、介護予防の取組みとして高齢介護課との共催による「ノルディックウォーキング」「スポーツ吹き矢」などの健康講座や認知症予防にもなる「スマホでイキイキライフ」などの講座を開催するとともに、若年層、男性、勤労者など、日頃、公民館活動に馴染みが薄い市民の取込みを目指して、テーマや開催時間に工夫を凝らした「ダイエットボクササイズ」「かしこく夜活」「茶歌舞伎」「俺の公民館」など、三館の地域性、独自性を生かした講座にも取り組んだ。

＜課題＞

オンラインを活用し、リモートでも受講できる講座の実施。

新規講座終了後のクラブ化を促進する自主学習の場の拡大。

若年層や勤労者が公民館活動に興味を持てる事業の企画と新たな参加者の発掘。

④　人権課題事業

＜状況・成果＞

主に在住外国人を対象とする「日本語会話よみかき教室」や 3 回目の開催となる障がい者の作品展「こうせい展」を通して、市民のみならず、職員・ボランティアが、社会を構成する多様な人々に対する理解を深め、互いの人権を尊重し、つながりあいながら共に生きていくことの大切さについて学ぶことができた。

また、「HSP 入門講座」は、人一倍感受性が強く敏感な気質を持つため、心が疲れやすく生きづらさを抱える人を指す「HSP」という新たな切り口から、多様性と共生について考えることができた。

＜課題＞

講座に限らず、あらゆる機会を通じ人権問題について学ぶ場を設ける。

新たな講座開設にあたり、関係行政機関との情報交換を進めながら連携する必要性。

⑤　文化振興事業

＜状況・成果＞

コロナのため中止や延期、場所の変更、人数制限など様々な影響を受けつつも、浜手地区・山手地区各公民館ではロビーやホールを活用し、市民が企画に参画する「ロビーコンサート」「アフタヌーンコンサート」を定期的に開催した。中央公民館では、視聴覚室、コスモスシアターホールにおいて、毎年好評を得ている「ジャズライブ」「春一番コンサート」、市民参加による「ピアノリレー」などを開催し、音楽文化の発信に努めた。

また、山手地区公民館では、地域に伝わる「お夏清十郎」物語を題材にしたオペレッタを昨年度に引続き再演し、プロと一般公募による市民が共演、文化の発信だけではなく地域振興にも貢献した。

＜課題＞

クラブ・市民グループ等の発表や広報の場となるよう、ロビーやホールを活用した公民館育成団体のコンサート・作品展示をさらに支援する。

２．人材養成事業

＜状況・成果＞

「日本語会話よみかき教室」および各館の料理・保育などのボランティアが、公民館主催事業などを通じて人とのつながりを大切にしながら活動を進めている中、新しい人材発掘を図り、公民館や地域活動を支える人材養成に努めた。

中央公民館を拠点に活動しているあそびボランティア「遊び隊」は、長年の地域におけるボランティア活動が評価され、大阪府教育委員会から教育功労者表彰を受けた。

＜課題＞

三館ボランティアの情報交換の場設定と主体的運営に対する支援。

新規加入ボランティア及び各事業協力ボランティアの活動支援の拡大。

３．地域連携事業

＜状況・成果＞

「公民館まつり」は、公民館の活動を広く地域の人々に知ってもらう機会であるが、コロナのため中央公民館では2年連続の中止となり、浜手地区・山手地区公民館では一般市民向けの広報はせず、「クラブ発表会」として館内で展示と舞台発表のみ実施した。

移動公民館や地域出前講座を町会・老人会など地域の団体からの要請に基づき実施しているが、コロナのため全体的に実施回数が減少している。

＜課題＞

コロナ下でも実施できる「公民館まつり」の開催方法の検討。

移動公民館、地域出前講座におけるオンラインの活用。

４．団体支援事業

＜状況・成果＞

「クラブ協議会」は各館とも高齢化が進み、加入クラブ数が減少するなど退潮傾向が続いているが、公民館活動においては中心的な役割を果たしている。特に「山手地区公民館活動協議会」は山手地区公民館の開館とともに結成30周年を迎え、記念誌の発行など精力的に記念事業に取り組んだ。

その他「貝塚ファミリー劇場」や「貝塚子育てネットワークの会」では、例会や各部会の開催の都度相談に乗り、また、各文化団体については、コロナ下でのイベント開催にあたり会場変更の相談に乗るなどきめ細かい支援を行ってきた。

＜課題＞

子育てサークルメンバーや高齢化に伴うクラブ員の減少に対し支援を行うとともに、新たな活動グループの育成を行う。

市民企画講座の開催による団体学習の促進。

５．三館連携事業

＜状況・成果＞

今年度もコロナによる「緊急事態宣言」が発出されたため、公民館の臨時休館を余儀なくされた期間があったが、休館中であってもできることを考え、利用者と3館をZoomでつなぐ「公民館だョ！Zoomで集合」を実施、オンラインを通して利用者とつながる機会を持つことができた。

さらに、公民館の課題や将来について考える「第10回貝塚公民館大会」（テーマ：夢をつなげる公民館　～「行き場」から「生き場」へ～）では、オンラインを活用し3館に分散して開催するとともに、自宅からオンラインによる参加者も募った。大会は、コロナの経験を踏まえて、あらためて公民館活動の意義を問い直す機会となった。

＜課題＞

三館利用者と連携した、貝塚公民館大会をはじめとする各種交流事業の開催。

貝　塚　市　立
中　央　公　民　館

目　　次

◆年間総括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 1
◆講座・事業
□　青少年対象事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 8
レッツＴＲＹ事業（中高生の活動支援）
貝塚少年少女合唱団
夏の子ども講座【12 講座】（幼児・小学生・中学生対象の講座）
□　子育て支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 11
赤ちゃんルーム（0 歳児を持つ親や妊婦の交流の場）
保育つき講座 おや子教室〈中止〉
□　成人対象事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 14
NEW つるかめ大学（おおむね 65 歳以上の方対象の講座）
夢にチャレンジ(心身に障がいのある方対象の講座)
ホッとワーク(視覚に障がいのある方対象の講座)
ふれあい料理(心身に障がいのある方対象の講座)
介護について語り合う場
介護と仕事・子育て・学業の両立、悩みを話して心を軽くしよう
みんなでノルディック・ウォークグループをつくろう
スポーツ吹矢の体験講座（春）・スポーツ吹矢を楽しもう（秋）
ダイエットボクササイズ
いすヨガ（秋）・ゆるふわヨガ（冬）
Handmade factory in 公民館～身近なところから SDGｓ～
気軽に書道
楽しくフィットネス１・2
俺の公民館～趣味を見つけて楽しく生き生き、リア充生活～
市民企画講座（SDGｓ～私たちのちょっとした選択が未来をかえる～）
□　人権課題事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 35
日本語会話よみかき教室　（日本語学習支援講座）
□　文化振興事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 36
クラシックコンサート・ジャズライブ・春一番コンサート・
ピアノリレー（GW）＜中止＞・ピアノリレー（七夕・X’mas ）
□　人材養成事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 39
遊び隊(あそび隊・折り紙グループ)
保育ボランティア
日本語会話よみかき教室ボランティア
ふれあい料理ボランティア
□　地域連携事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 43
第 65 回中央公民館まつり＜中止＞
ロビー活用
地域出前講座
オンライン事業
移動公民館「健康サロン」
ほかでもがんばっているよ
□　団体支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中 51
中央公民館クラブ協議会
貝塚学習グループ連絡会
貝塚ファミリー劇場
貝塚子育てネットワークの会
文化団体

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

令和３年度　中央公民館　事業総括

はじめに

昨年度から続くコロナの感染拡大により、今年度においても「緊急事態宣言」が、４月と８月の２回発出され、多くの事業や講座が中止または延期となった。

特に４月下旬から６月下旬にかけて、ほぼ２ヶ月間、臨時休館の措置が実施されたため、公民館における活動がほとんど実施できない状況となった。

このような状況下での今年度の取組みについて、令和３年度貝塚公民館事業方針に基づき定められた重点目標に沿って、事業別に状況・成果・課題をまとめた。

１．公民館主催事業

・市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、社会教育への理解を深める取組みを進め、市民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。

・SDGs（持続可能な開発目標）の推進と達成に向け、講座事業などで取り組み、普及啓発を進めていく。

＜状況・成果＞

・コロナにより４月から計画していた講座の中止・延期があり、講座が動き出したのは６月からである。その後コロナの状況を見ながら人数制限等の対応を取り講座を開催してきた。

・新規利用者の開拓を図るため、勤労者の参加を考えた平日夜間講座、また、土日での文化事業・講座を開催した。

・青少年対象事業・子育て支援事業・障がい者が参加する事業などで「クラブ協議会」「貝塚子育てネットワークの会」をはじめとする支援団体・ボランティアの協力を得て事業を展開した。

・市発信の広報紙・ホームページ・フェイスブック・ラインにより事業の実施・報告に努めた。

＜課題＞

・引き続き、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの発掘に努め、学習成果の共有に努める。

・コロナ対策をしつつ講座の開催方法を探る。その中でオンラインも積極的に活用していく。

・各事業・講座の中にSDGs（持続可能な開発目標）の視点を取り入れていく。

①　青少年対象事業

・青少年がいきいきと地域で活動し、健全に成長することをねらい、近隣小中学校との連携による事業及び異世代交流機会の拡大をめざす。

・レッツTRYの登録団体である中学生及び高校生の自主性を高め、現在活動のある音楽・ダンス以外の分野にも広げる。

・青少年教育課・学校教育課等教育委員会内部はもとより関係行政機関による共催事業の充実を図る。

＜状況・成果＞

・今年度、新たにレッツTRY事業の案内チラシを作成し、学校教育課と連携して、コスモスシアターで開催された「ジョイントフェスティバル」で配布したほか、各公民館に配架した。その結果、事業の問い合わせがあり、今年度は新規の登録があった。

・昨年度開催できなかった「夏の子ども講座」は、コロナのため一部共催講座が実施できなかったものの、クラブなど11団体の協力により開催することができた。コロナ禍による自粛生活のため、子どもたちの夏休みの居場所が限られた中での講座の開催は、保護者から大変喜ばれ、多数の応募があった。

・貝塚少年少女合唱団は、公民館の休館により活動が十分できない状況が続いたが、その中にあっても公民館の事業に協力するなど積極的に活動を行った。

＜課題＞

・レッツTRY事業について、音楽やダンスだけではなく様々な活動支援ができることを周知。

・貝塚少年少女合唱団の新規団員の獲得。

②　子育て支援事業

・子育て講座を通し、家族で参加できる講座展開を図る。

・新たな参加者の発掘をめざし、各事業とも講座内容の充実を図る。

・子育て支援課をはじめとする関係行政機関との連携強化を図り、地域への子育て支援活動の拡大をめざす。

＜状況・成果＞

・6月から予定していた「保育つき講座　おや子教室」は、講座受付をしていたにもかかわらず休館により開催できず、今年は、コロナ対応として三館ともプログラムの内容をそろえたことで、時期の違う他館の受講を勧めた。

・「赤ちゃんルーム」は、コロナ対策として毎回最大10組程度の事前申込制とし、「貝塚子育てネットワークの会」の協力や健康推進課・子育て支援課などとの連携により、多くの子育て情報を共有し、子育て中の保護者の交流の場をつくり、講座を通してつながれるよう工夫をした。

＜課題＞

・コロナ禍での講座開催方法や対策に留意しながら、子育て中の保護者同士の交流や情報発信の場を提供していく。

③　成人対象事業

・生涯を通じた自主的な学びにより、地域の課題を解決するために活躍する人が育つことをめざす。

・「第2期貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の趣旨に沿った、若い世代をひきつけ魅力のある講座を継続して取り組む。

・講座終了受講者に対しクラブ化を勧めるなど、学習グループの形成支援を図る。

・高齢介護課をはじめとする関係行政機関との連携をさらに進める。

・アクティブシニア層が地域とつながる意欲を高める講座内容の充実を図る。

・受講者の主体的参画と活動を促進し、社会貢献につながる学習の機会を創出する。

・あらゆる成人が対象の公民館活動につながる講座の展開により、社会参加の機会創出を支援する。

・SDGsをテーマとする講座に取り組む。

＜状況・成果＞

・高齢者を対象とした講座「Newつるかめ大学」は、コロナによる休館のため前期6回の講座が休講となったが、再開後は講談や落語、戸外での活動などレクリエーションを中心とした講座を実施した。受講者にとっては「生活の一部」と感じられる場になっている。

・障がい者を対象とする様々な講座は、ボランティアや公民館利用者との交流により障がい者が社会とのつながりを持つ場となり、ボランティアの気づきや受講者の成長を感じることができた。

・「介護について語り合う場」では、実際に参加者の介護の悩みや実情を聞くことができた。また、ダブルケアラー、ヤングケアラーなどの新たな介護課題についても学んだ。

・高齢者の健康増進および介護予防の取組みとして、将来のグループ化を視野に入れて、「みんなでノルディック・ウォークグループをつくろう」「スポーツ吹き矢の体験」「いすヨガ」を高齢介護課との共催講座として実施することができた。

・昨年好評であった「気軽に書道」をはじめ、「ダイエットボクササイズ講座」「Handmade factory in 公民館」、主に男性を対象とした「俺の公民館」など、若年層や働く世代向けに土日や夜間の講座を企画した。概ね好評で、参加者から講座の継続を望む声もあった。

・母親たちを中心にSDGsへの関心が高まったため、市民企画講座として「SDGs～私たちのちょっとした選択が未来をかえる～」（全3回）を開催、日々の暮らしの中でできる実践を学んだ。

＜課題＞

・受講者が主体的に取り組める内容の検討と受講者相互の交流を深める。また、これらに協力するクラブ・グループとの調整を円滑に行う。

・公民館が主催する講座からいかにして自主学習グループの形成につなげていくか。

④　人権課題事業

・生涯の各時期にすべての市民が人間らしく生きるべく人権課題を意識した講座・事業に取り組む。

・外国人技能実習生を含む海外からの移住者増加に伴い、「日本語会話よみかき教室」への需要が高まる中、支援者の増員を図り、かいづか国際交流協会（KAIFA）などの関係機関とのさらなる連携を進める。

・「語学力向上」とともに、利用者・市民との異文化理解・交流など公民館活動に即した取組みを進める。

・市民が気軽に多様な人権課題に触れることができる機会を増やす。

＜状況・成果＞

・「日本語会話よみかき教室」は、今年度、コロナの影響により受講者が減少したが、日本語の学習だ

けではなく、受講者の仕事や生活面での相談にも親身になって応じた。また、受講者同士の交流など、在住外国人のコミュニティとしての役割も担った。

＜課題＞

・コロナ禍での受講者との関わりの維持。

・他の人権課題への取組みを継続して行っていく。

⑤　文化振興事業

・身近に多様な芸術・文化にふれる機会と文化が生活にうるおいと安らぎを与えられるまちづくりをめざす。

・文化振興事業団との連携の充実をめざす。

・子どもの文化を育む公民館育成団体の活動機会の充実をめざす。

＜状況・成果＞

・コロナ対策のため開催場所及び定員の変更を行い、クラシックコンサート、ジャズライブ、春一番コンサートによる音楽文化の発信を行った。今年度5月に予定していた「クラシックコンサート」を公民館主催の文化事業として、コスモスシアター中ホールでの開催とした。

・公民館を拠点とし、日ごろ活動する団体の発表は、コロナのため時期を延期したり、場所を変更して開催した。

・「ピアノリレー」は、小学生から80歳代まで幅広い年齢層の参加があり、グランドピアノの演奏を楽しんだ。また、合間に貝塚少年少女合唱団のミニコンサートも開催した。

・貝塚ファミリー劇場の活動を支援することで、他課とともに子どもたちの文化振興に寄与することができた。

・文化振興事業団との連携事業には至らなかった。

＜課題＞

・市民個人の学びを活かし公民館活動へつなげていく方策。

・音楽以外の芸術・文化にふれる機会の創出。

・関係行政機関との連携。

２．人材養成事業

・地域コミュニティの活性化と地域課題解決のために市民と協働し、まちを紡ぐ取組みをすすめる。

・各ボランティア養成講座活動への支援と連携の強化を図り、各ボランティアの新たな協力者の発掘と育成を進め活動機会を広げる。

・各ボランティア協力者が館事業を通じ、ボランティア活動グループとして自主性を育み、他の利用者や多くの市民とつながり互いに支え合う関係を広げる。

・各「代表者会」を継続し、公民館と利用者団体との意思疎通を図る。

＜状況・成果＞

・「保育ボランティア」は、「保育つき講座　おや子教室」の開催準備を進めていたが、コロナのため講座が開催できなかった。

・「ふれあい料理ボランティア」は、施設職員、公民館職員とのミーティングにより、講座の中での受講者の変化など気づきを得ることができ、障がい者への理解を深めるとともに、ボランティア活動の意義を確認できた。

・「日本語会話よみかき教室ボランティア」は、3人のボランティアが加わった。また、茶話会や母国料理づくりを通じてボランティアと受講者との交流も盛んに行われた。

・あそびボランティア「遊び隊」により、市内外の学校園や自治会、公民館の子育てグループや福祉施設等へ出向き、地域における貢献度の高い活動が行われたが、コロナのため機会が激減した。しかし、コロナ禍でもできる活動としておもちゃ作りの動画配信や、市役所本庁舎、中央公民館ロビーで作品展示を行い、幅広く市民の方に「遊び隊」の活動を知ってもらう機会とした。

＜課題＞

・各ボランティアの事情や状況に寄り添った支援。

・ボランティアの高齢化と新規ボランティアの加入及び活動への定着。

３．地域連携事業

・地域課題の解決に活躍できる人材の発掘と養成をめざすため、近隣町会との接点を探り、地域との連携を深め、移動公民館のさらなる進展を図る。

・市民が各々住む地域に関心を持ち、地域コミュニティの活性化につながる講座を地域単位で展開する。

＜状況・成果＞

・「公民館まつり」は、公民館における活動を広く地域の人々に知ってもらう機会であり、開催に向けて実行委員会を中心に準備を進めていたが、コロナの感染拡大により昨年度に続き中止となった。

・公民館クラブを中心に市内の学校園や自治会、福祉施設等へ出向き地域貢献活動を展開しているが、コロナのため活動の機会が激減した。

・移動公民館は、コロナのため活動があまりできなかったが、10 月の緊急事態宣言解除後に、「出前講座」を小瀬、堤の 2 町会で、「健康サロン」を加神、東山、窪田の 3 町会で実施し、地域とのつながりを持つことができた。

・ロビーは、三館利用者連絡会展示交流活動を含めた公民館クラブ・団体が創る作品発表の場であるとともに、読書や受験勉強、打ち合わせなど様々な用途で地域の市民が活用できる場、また、市民のコミュニケーションの場ともなっている。

・コロナ禍で行動が制限される中でもできる活動として、オンラインを活用して高齢者の健康をサポートするための「健康づくり教室」と「オンライン落語」を実施した。「便利だ」という声がある反面、講師、受講者とも不慣れなオンラインに戸惑いも見られた。

＜課題＞

・「公民館まつり」については、コロナ禍でも安全・安心に開催できる方法を実行委員会とともに検討していく。

・移動公民館の開催にあたり新しい地域を開拓していく。

・地域連携事業におけるオンラインの一層の活用。

４．団体支援事業

・公民館活動から培われる市民グループ活動や文化活動を支援し、各団体の自主性と地域交流貢献活動の拡大促進に取組み、各団体の自主的活動を支援する。

・社会的課題を捉えた市民企画講座をきっかけとする新たな学習グループの発足を促し、学習グループ連絡会の活性化を図る。

＜状況・成果＞

・「中央公民館クラブ協議会」は高齢化が進み、加入クラブ数が前年度より 5 クラブ減少するなど減少傾向が続いているが、役員の献身的な取り組みにより協議会事業をすすめ、「公民館まつり」などにおいては中心的な役割を果たしている。

・「貝塚ファミリー劇場」は“こども市”や例会、委員会等を開催するにあたって相談に乗るなどの支援を行うことにより、さらに自主性が深まった。

・「貝塚子育てネットワークの会」には、綿密な支援により各部会の開催や公民館との共催講座を実施し、地域における子育て支援の活性化に取り組んだ。

・各文化団体のイベントは、コロナのため開催延期や規模の縮小、会場の変更などの影響を受けつつも、概ね開催することができた。しかし、活動が停滞したことによる各団体の会員減少が顕著である。

・市民企画講座「SDGs 私たちのちょっとした選択が未来をかえる」を開催し、SDGs への理解を深め、個々が自分のこととしてとらえる機会となった。

＜課題＞

・新規クラブ員の獲得による公民館クラブの活性化と担い手の確保。

・公民館支援団体の自主的活動の推進を図る。

・コロナの影響を受けた各文化団体の活動の立て直し。

・市民企画講座の開催による団体学習の促進に努める。

・学習グループ連絡会の活性化と新たな学習グループを連絡会につなげていく支援。

事業区分	講座・事業名		受講者数	期　間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	レッツ TRY 事業（登録数）			通年	―	―
	少年少女合唱団・定期演奏会		74 人	3/26	1 回	74 人
	夏の子ども講座	遊び隊の作ったおもちゃで遊ぼう		7/24	1 回	22 人
		親子で作ろう和菓子スイーツ		7/25、8/8	2 回	19 組
		和楽器を演奏してみよう		7/29	1 回	21 人
		絵手紙を書こう		7/31	1 回	10 人
		お茶を楽しむ		8/3、8/10	2 回	35 人
		中国語で楽しくはなそう		8/10	1 回	10 人
		ピザを作ろう！！		8/20	1 回	10 人
		つげさん手話教室		8/20	1 回	9 人
		折り紙に挑戦しよう		8/22	1 回	16 人
		親子で楽しもう HIPHOP		8/23	1 回	1 組
子育て支援事業	赤ちゃんルーム　※4/26～6/14 は中止		20 組	4/12～3/28	17 回	257 人
	保育つき講座「おや子教室」※注１					
成人対象事業	New つるかめ大学（前期）　※4/26～6/20 は中止		77 人	4/12 ～7/12	6 回	357 人
	New つるかめ大学（後期）		72 人	9/6 ～12/6	13 回	650 人
	夢にチャレンジ　※4 月～6 月は中止		13 人	7/17～3/19	8 回	44 人
	ホッとワーク　※5 月は中止		11 人	6/22～3/22	10 回	46 人
	ふれあい料理　※4 月～6 月は中止		22 人	7/30～3/25	8 回	141 人
	介護について語り合う場　※4 月は中止		20 人	6/28～2/28	5 回	48 人
	介護と仕事・子育て・学業の両立、悩みを話して心を軽くしよう～ダブルケアに悩まないで！みんなで話そう～		20 人	7/1	1 回	20 人
	いすヨガ（高齢介護課共催講座） ※4 月～6 月は休講		15 人	4/16～9/10	6 回	80 人
	みんなでノルディック・ウォークグループをつくろう（高齢介護課共催講座）		23 人	4/12～6/28	4 回	53 人
	スポーツ吹矢の体験講座（高齢介護課共催講座）		15 人	6/22～7/13	4 回	51 人
	スポーツ吹矢を楽しもう（高齢介護課共催講座）		22 人	11/2～11/30	4 回	77 人
	ゆるふわヨガ		9 人	10/15～2/25	10 回	64 人
	ダイエットボクササイズ		15 人	9/14～10/26	4 回	55 人
	Handmade factory in 公民館　エコクラフトバックを作ろう		12 人	11/13、20、27	3 回	35 人
	Handmade factory in 公民館　ボディスクラブ		12 人	12/4	1 回	12 人
	Handmade factory in 公民館　ダーニング		10 人	12/12、19	2 回	20 人

成人対象事業	気軽に書道	13 人	11/8～11/22	3 回	13 人
	楽しくフィットネス～いっしょに動きましょう～	17 人	1/17～2/14	5 回	65 人
	楽しくフィットネス２	18 人	2/21～3/14	4 回	59 人
	俺の公民館　※3/11 は中止	10 人	3/5～3/25	3 回	28 人
	市民企画講座　SDGs～私たちのちょっとした選択が未来を変える～	32 人	9/2、14、10/7	3 回	73 人
人権課題事業	日本語会話よみかき教室　※4/26～6/15 は中止	33 人	4/5～3/29	95 回	239 人
文化振興事業	クラシックコンサート	200 人	11/27	1 回	200 人
	ジャズライブ	41 人	1/16	1 回	41 人
	春一番コンサート	42 人	3/21	1 回	42 人
	ＧＷピアノリレー　※注１				
	七夕ピアノリレー	20 人	7/4	1 回	20 人
	Ｘ’ｍａｓピアノリレー	21 人	12/19	1 回	21 人
人材養成事業	遊び隊	24 人	7/24～3/27	11 回	329 人
	保育ボランティア　※注１	16 人			
	日本語会話よみかきボランティア	19 人	4/5　～3/29	95 回	312 人
	ふれあい料理ボランティア	15 人	7/30～3/25	7 回	90 人
地域連携	第 65 回中央公民館まつり　※注１				
	ロビーの活用		通年	―	―
	地域出前講座	80 人	12/11、12/19	2 回	80 人
	移動公民館「健康サロン」		6/26～3/6	7 回	69 人
団体支援事業	ファミリー劇場・例会		6/27～1/23	3 回	255 人
	ファミリー劇場・子ども市		10/30	1 回	130 人
	共催鑑賞『新作！笑福亭鶴笑の爆笑寄席・SDGs 落語「ごみ怪獣」』		9/5	1 回	100 人
	貝塚市軽音楽連盟・ライトミュージックコンサート		2/20	1 回	76 人
	貝塚市民踊連盟・民踊まつり		10/3	1 回	100 人
	貝塚市クラシック音楽家協会・クラシックコンサート ※注１				
	貝塚市美術協会・貝塚市美術協会展		9/18～9/26	1 回	150 人
	貝塚市美術協会・小作品展		1/16～1/30	1 回	―
	貝塚市日本民謡連合会・民謡フェスティバル		11/27	1 回	78 人
	貝塚市合唱連盟・合唱フェスティバル		12/5	1 回	312 人

団体支援事業	クラブ協議会・レクリエーション　※注１				
	にっこり展（障がい者施設合同作品展示）		12/7～1/20	―	―
	クラブ協議会・研修会		3/13	1 回	47 人
	プレーパーク　※ＧＷの巻は中止		夏の巻・秋の巻・春の巻	3 回	1､520 人
	乳幼児部会共催講座「みんなで育てる楽しいつながり」		12/14	1 回	25 人
	園児部会共催講座　「Happy Life～子育てシェア～」 ※4 月～6 月は中止		9/30～11/25	3 回	57 人
	小学生部会共催講座「信じて見守る学童期」		7/9～12/2	5 回	114 人
	中高生部会共催講座「思春期をのりきる！！」 ※4 月～6 月は中止		7/2～12/9	5 回	70 人
	貝塚子育てネットワークの会・夏の研修会　※注１				
	貝塚子育てネットワークの会・全体研修会		2/17	1 回	22 人
三館連携事業	しゃべり場★公民館		4/20～3/18	14 回	164 人
	保育ボランティア養成講座	3 人	2/15、2/22	2 回	5 人
	第 10 回貝塚公民館大会	115 人	2/6	1 回	115 人
	貝塚公民館大会事前学習会　佐藤一子先生を迎えて考える持続可能な未来に向けての学びと公民館	46 人	1/18	1 回	46 人
	公民館だヨ！Zoom で集合		5/24～6/18	4 回	36 人

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または１回限りの事業
（参加者数は「述べ参加人数」欄に記載）、ボランティアにおいては「登録人数」
※注１は「新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止」

―青少年対象事業―

レッツ TRY 事業

＜ねらい＞

青少年(主に中高生)の活動を行う上で必要な場の提供。

活動全般を支援することで、自主性を高める。

公民館に若者を呼び込む。

＜状況・成果＞

コロナの状況で学校の休業、公民館への入館が出来ないなど学生には制約が多く、公民館として心苦しい時期もあった。

しかし、一定コロナが落ち着くと学校クラブの活動再開により学生は活気を取り戻し、また、公民館で勉強するなど少しずつ学生が戻ってきた。

本来、この事業のねらいは青少年のいろいろな活動をバックアップする事業である。

今まで、三館でこの事業をどのように進めて行くのか、またどのように周知していくのかを深く議論してきた。また、公民館運営審議会においても「公民館に若者を」と若年層への取り組みが審議された。

この「レッツ TRY」事業、三館で取り組むものの登録団体数は少ない状況である。しかし、今年度は貝塚市立第一中学校合唱部の登録、コーラス活動の場を探す高校生グループ、若干のダンスグループの登録があった。少なからず学生が活動する場所を探している実態があるなら、この事業を続ける意味は十分にある。

この「レッツ TRY」事業の周知・宣伝としては、受験勉強、友達とのくつろぎなど来館した学生などにおこなう地道な声掛けが「公民館に若者を」との一つの近道だと考えるが、学校教育課とも連携してコスモスシアターで開催された「ジョイントフェスティバル」でチラシ配布もおこなった。

現代、子ども達にはいろいろな時間の使い方があると思われる。仲間との活動で時間と場所が必要になった時、公民館がそばにあること、公民館が使えることを少しずつでも知ってもらえればと考えて「レッツ TRY」事業を継続していく。

＜課題＞

学校（中・高）との連携を図る。

SNS 等を利用した広報宣伝。

学生仲間の口コミに伝わる声掛け。

貝塚少年少女合唱団

＜ねらい＞

年中～小中学生を対象に、合唱練習や発表を通じて青少年の健全育成をはかる。

活動を通して本市及び地域における音楽文化の発展につなげる。

育成会（保護者会）の自主活動の支援を行う。

＜状況・成果＞

4/3～3/26　47 回(練習及び行事)指導者 4 人、団員 18 人(男子 3 人・女子 15 人)うち新規入団が 1 人

今年度は、4/11 に入団式を行い、1 人の新規入団者を迎えて少年少女合唱団の活動がスタートした。

5 月に開催される予定だった公民館まつりにも参加する予定で準備を重ねていたが、コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言発出によって公民館が休館し、練習できない状況が続いた。

そのようななかでも、工夫を凝らしながら定期演奏会を開催するべく練習に励んでいたが、9 月に入って小中学校でコロナ感染が拡大し、学級閉鎖や休校が相次いだため、9/12 開催予定だった定期演奏会は中止を余儀なくされた。演奏会を楽しみにして夏休みも熱心に練習していた子どもたちにとっては辛い事実ではあったが、今年度卒団する子どものためにも、中止にしてしまうのではなく、3 月に規模を縮小して演奏会を開催しようということになった。

3/26 に開催された定期演奏会では、アニメの主題歌やディズニーの曲など 18 曲が披露され、会場いっぱいに子どもたちの歌声が響いた。特に今年卒団する男子 1 名が仲間と一緒に「宿命」という曲を披露し、会場は清々しい感動に包まれた。

昨年はコロナにより多くの合唱イベントは相次いで中止となったが、今年は開催されるところもあり、子どもたちが歌える機会も増えた。X'mas ピアノリレーや公民館大会など、公民館の事業にもゲストで出演し、多くの観客に少年少女合唱団の活動を周知することができた。特に公民館大会のオープニングでは、３館の公民館及び Zoom での参加者の前で歌声を披露し、会場内が感動に包まれていた。　　※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

日程	一年の活動内容
4/11	第 43 期生入団式
5/22・23	公民館まつり　※コロナの為中止
8/22・24・29	第 43 回定期演奏会に向けた強化練習（中央公民館）
12/5	合唱フェスティバル　（コスモスシアター大ホール）
12/19	X'mas ピアノリレー（中央公民館）
12/26	クリスマス会（中央公民館）
2/6	第 10 回公民館大会オープニング（中央公民館）
3/26	第 43 回定期演奏会　（コスモスシアター中ホール）

＜課題＞

合唱団の活性化と団員の増加が急務であり、積極的な情報発信等により合唱団の周知を図る。

―青少年対象事業―

夏の子ども講座

＜ねらい＞

夏休み期間を利用し、子どもたちが公民館で様々な体験や学習ができる場。

子どもたちが公民館クラブやボランティア、地域の大人と交流やふれあえる場。

＜状況・成果＞

7/24～8/23　受講者：延べ 227 人　12 講座 13 枠　協力：11 団体　申込総人数：436 人

昨夏はコロナで中止となったことから、今年はぜひ開催したいと公民館は例年どおりクラブ・団体に働きかけた。しかし、講座の企画について話し合う時期と、コロナの影響で公民館の休館期間がかぶったことや、休館前から活動を自粛しているところもあり、なかなか講座の希望がでてこなかった。職員は、いつも講座をしてくれるクラブ・団体に電話連絡をとり、コロナ対策をしつつ講座について丁寧な説明をした結果、例年より少ないが 12 講座ができた。しかし毎年、青少年教育課と健康推進課、公民館の共催で開催している「キッズキッチン」は開催に向けて話し合いを進めていたが、直前で中止となった。

受講申し込みも、従来の方法に加え、三密を避けるため二次元コードを取り入れた。多少改善すべき点はあったものの、保護者からは好評で申し込みの半数以上が二次元コードでの申し込みであった。

「夏の子ども講座」の広報手段は、ホームページの他に市立小学校・中学校に「公民館タイムズ」の配布をしている。公民館をあまり利用しない青少年（中学生）にも公民館を知ってもらおうと、今年は 3 公民館で講座の企画が出された時に、対象を中学生まで広げてもらえないか個別に頼んだところ、中央公民館では講座の半分が中学生も対象となった。しかし、中学生の申し込みはなかった。

講座開催期間に再び、緊急事態宣言が発出され、8/2 から 8/31 まで公民館は午前 9 時から午後 8 時までの時短開館となったが、幸いどの講座も開館時間内であったので、コロナ対策により注意して講座を開催した。

講座のアンケートからは、「子どもたちが楽しめたこと」「普段は体験できないことに挑戦したこと」「親子でゆっくりと参加できたこと」などが良かったと書いてあった。クラブ・団体からは「子どもたちから元気をもらった」「コロナでどれだけ子どもが参加してくるか心配したが、たくさん来てくれて嬉しかった」などがあった。

＜課題＞

二次元コードを使った申し込みの改良。

中学生への周知。

和楽器を演奏してみよう

ピザを作ろう！！

親子で楽しもう HIPHOP

赤ちゃんルーム

＜ねらい＞

0 歳児をもつ親や妊婦が気軽に仲間づくりや情報収集などに参加できる場。

子育ての不安を和らげるための交流の機会を設け、安心して子育てできるようにする。

＜状況・成果＞

4/12～3/28　第 2・第 4 月曜日　10 時～11 時半（全 17 回）受講者　延べ 257 人

※4/26～6/14 はコロナのため中止

20 組の登録。4 月の第 1 回目の開講直後、コロナによる緊急事態宣言発出で公民館が休館となり 6 月からの再開となった。また、昨年同様コロナ対策として人数制限を行い、定員は 10 組までとし事前申込制で開講した。

昨年度からの継続受講者もおり、人気のイベント時では申し込みに不慣れな新規受講者が申し込みづらい状況もあった。

受講のきっかけは保健センターの乳幼児 4 か月健診で配布するチラシや子育てナビゲーション、上の子を出産した時に「赤ちゃんルーム」を利用していたなど様々である。「赤ちゃんルーム」スタッフが作成した市内医療機関でのポスターやチラシを見て受講につながった人もいた。

今年度の受講者の特徴としては前年度からの継続が 6 組と多く、お互いに連絡先を交換するなど和気あいあいとした雰囲気であった。

毎回受講者が変わることから講座の始めには必ずお互いの自己紹介から始める。最近の子どもの様子やお母さん自身の趣味など簡単なアイスブレイクも入れ、受講者どうしが話しやすい雰囲気をつくっている。また、継続の受講者が初回の人にも優しく声を掛け、世間話や普段どの施設を利用しているかなど自然と会話が弾み情報交換する場面が多く見られた。

受講者の大半が結婚を機に貝塚市に引っ越してきており、「どの子育て施設を利用すればよいのか」「情報が溢れすぎてどこを選べばよいのか」など、子育て施設に関する悩みを持つ人が多かった。そのため、前半には子育て支援課の職員を講師として座談会形式で受講者の質問や悩みに答えてもらう場を設けた。また、子どもの食事に関する質問も多くあり、1 月には、すくすく子育て応援隊による「食事時間の工夫」をプログラムに取り入れた。

先輩ママとして「赤ちゃんルーム」に協力している貝塚子育てネットワークの会（以下、子育てネット）のスタッフは受講者にとって心強い存在である。受講者どうしがつながりをもち楽しく子育てができるようプログラムの企画にも積極的で、自身の子育て経験を活かして受講者の悩みや困りごとに真摯に向き合い相談にも乗っている。

今年度は子育てネットから「赤ちゃんルーム」のスタッフとして若手 6 人が加わり、各々の得意分野を活かしたおもちゃづくりや手遊びで受講者を楽しませた。

プログラムの中で子育てネットのサークルに何度か来てもらい、サークルの様子を話してもらうことで興味を持った 5 組の受講者が入会につながった。そのほか、今年度は 2 組の双子の受講があり、双子を持つ親にしか分からない共通の悩みを受講者どうし熱心に語り合っている様子が

見られた。この内１組は中央公民館を拠点に活動する双子対象の子育てサークル、「まめっこ room」にもつながった。

今後も受講者のニーズをしっかりとくみ取り、他課とも連携しながら本市の子育て支援に関する情報提供、また、受講者どうしがつながれるようなきっかけづくりを積極的におこなっていく。

＜課題＞

コロナ下での講座申し込み受付方法と対策。

講座受講者への情報提供。

≪プログラム≫

開催日	内　　容	開催日	内　　容
4/12	はじめまして赤ちゃんルーム	11/22	手作りおもちゃ～どんぐりマラカス～
6/28	公民館内おさんぽ （施設説明、講座事業案内、展示見学）	12/13	クリスマス～サンタがやってくるかも～
7/12	貝塚市の子育て情報について聞いてみよう	12/27	手作りおもちゃ【協力：遊び隊】
8/23	水あそび ～お水をさわってみよう～	1/24	すくすく子育て応援隊が来てくれます
9/13	水あそび ～お水をさわってみよう～	2/14	バレンタイン～パパにプレゼント～
9/27	はじめての人形劇～親子で楽しもう～ 【協力：人形劇あひる】	2/28	ひなまつり ～公民館でおひなさまを見つけよう～
10/11	おさんぽ～図書館へ行こう～	3/14	おさんぽ～春を楽しもう～
10/25	ハロウィン～みんなでたのしもう～	3/28	ヨガ～ママのリラックスタイム～
11/8	おさんぽ～親子で秋を感じよう～		

保育つき講座　おや子教室

＜ねらい＞

子育ての不安解消をはかり、子育ての悩みを共有できる場とする。

子育て中の日頃のストレスやイライラをリフレッシュし、子育てに前向きに取り組める機会とする。

＜状況・成果＞

6/1～7/20　火曜日　10 時～12 時（全 8 回）　※コロナのため中止

今年度春期講座を企画し募集していたが、コロナのため休館となり中止を余儀なくされた。

コロナ禍での工夫として休館等の状況、講師依頼、受講者募集などを見据え、3 公民館の保育つき講座のプログラムを統一し、時期を 6 月～7 月（中央）、9 月～10 月（山手）、10 月～11 月（浜手）で開催する計画を立てた。

中央では 4 組の申込みがあった最中での中止決定となり、山手地区公民館での「子育て×自分磨き」や浜手地区公民館での「げんきに子育て」講座への受講案内をし、受講につなげることができた。プログラムを統一したことで他館への受講案内もスムーズにおこなえた。

	日 程	内　容	講　師
1	6／1	はじめまして！自己紹介	相　　互
2	6／8	話してみよう・・・	堀　麻美 （保育ボランティア）
3	6／15	エコクラフトで作るかご	公民館クラブ　ろうの花
4	6／22	リラックスできる アロマソープづくり	上野　千賀子 （まちのすぐれもの登録者）
5	6／29	ストレス解消!- ボクササイズ体験	梅本　道代　（いきいき・のびのび健康づくり協会理事）
6	7／6	ホッと一息!　アルパ演奏・体験	濱口　富子（瑞音）
7	7／13	入園までに知っておきたいこと	すくすく子育て応援隊
8	7／20	講座まとめ	相　　互

＜課題＞

今後も 3 公民館での子育て講座開催や内容について検討していく。

コロナ禍での開催について工夫していく。

―成人対象事業―

NEW つるかめ大学

＜ねらい＞

持続可能な高齢期の生き方と社会を考える。

感染症（コロナ）に負けない心身とつながりをつくる。

前期

＜状況・成果＞　4/12 ～7/12　月曜日　10 時～12 時　（全 6 回）　受講者 77 人

＊緊急事態宣言発出のため 4/26～6/20 までの期間は休講

コロナが治まりきらない中、つるかめ大学が開講。感染予防のため今回は開講式をコスモスシアター中ホールで行うことにした。昨年度は密接な状態を避けるために 2 部制や隔週になるなど、満足な体制で講座を組むことができなかったが、今年度は開講式にはほとんどの受講者が出席し、今期に寄せる期待の大きさを感じた。

しかし、2 回目を開講したところで 3 度目の緊急事態宣言が発出された。当初は 19 日間の辛抱だと軽く考えていたが 2 度延長され、公民館の休館は 57 日間におよび、つるかめ大学は 6 回の休講を余儀なくされた。

休講の間、2 度つるかめ通信を発行した。少しでもつるかめ大学とのつながりを感じられるように、「つるかめ大学まいにちの記録カレンダー」を作成して受講者に送った。開講後、10 人以上がこの用紙を持ってきてくれた。どれもびっしりと書かれており、一人は「日々の記録をつけることによって、今日の最大の課題は何か、重要視されていることは何かという問題意識をもって新聞を読むようになった。（中略）今回このことに気づいた。」とあった。1 枚の用紙ではあったが、この 1 枚に気づきを得た人がいたことは意義深かった。

前期プログラムは中断され、新会員 9 人にはつるかめ大学の良さが伝わらないまま時間ばかりが進むことの心配もあった。再開後は、コロナで鈍った身体をほぐすために健康体操を行い、脳や心もほぐしていこうと講談や落語で笑いも取り入れるなどレクリエーションを中心にし、新会員が馴染めるように相互の交流を意識した。

軽い認知症の方も数人在籍しているが、その人たちに対しては、受講者が声掛けや自宅訪問など細やかな関わりをもち見守っている。再開し、対面で話ができることはいいとみな嬉しそうだ。後期は中断されることなく、講座が開講されることを祈り前期を終了した。

中ホールでの開講式。間隔を空けて着席

＜課題＞

初参加の人が馴染めるような交流と講座のもちかた。

＜前期プログラム＞

4/12	開講式　（中ホール）	アンサンブル BUNS	6/28	貝塚の歴史	上岡兼千代
4/19	つるかめ交流カフェ	相互	7/5	講談＆交流カフェ	旭堂南舟
4/26～6/20　緊急事態宣言のため 6 回が休講			7/12	落語	桂恩狸
6/21	健康体操	髙橋智子			

後期

＜状況・成果＞　　9/6 ～12/6　月曜日　10 時～12 時　（全 13 回）　　受講者 72 人

コロナの影響により、前期 6 回が休講となったためプログラムの一部を後期に持越した。

新規受講者を迎えたつながりづくりが中断され、2 か月の休講と夏休みを経て不活発になりがちだった身体。それらを取り戻すために、レクリエーションや戸外での活動に意識して取組んだ。

コロナで一躍脚光を浴びたオンラインは、これからの高齢者の生活の一部になるだろうと Zoom を学ぶ機会を夏休み期間に設けた。希望者を募ったところ 5 人の受講者が関心を示し、使いこなせるまでになった。後期には長野県長寿社会開発センター所長を中心に伊那シニアクラブの受講者など同世代の方々とオンラインで話を聴く機会をもった。初めてのオンライン講座を体験しその可能性を感じ取ったが、個人で取り組むには敷居が高い状態だ。一方的に聴講するだけの内容も不完全燃焼となったが「つるかめ大学にいるからこそ、オンラインなど未知との学びと出会える。そう学べる場所があることが大事だ」との声もあった。今後もオンラインなどを身近に感じてもらえるよう工夫をしていきたい。

おおむね好評だった内容に SDGs（持続可能な開発目標）も含まれた。2 年前の同講座では認知度はゼロだったが今回はほぼ全員が知っており、掘り下げられた内容によくわかったとの声が多く「つるかめ大学でないと学べないこと」ということでの満足度が高かった。

水間鉄道を使い十六童子を探したハイキングも好評で「身近なところを歩いて楽しかった。」「戸外で食べるお弁当がおいしかった」と、久しぶりの戸外での活動を喜んでいた。

体育館でのレクリエーションや健康体操は、体を動かすことを求めているため熱心に出席し受講していた。ボウリングは初めての取組みだったが、体に不調を抱えていても楽しめることが語られたため今後は参加者が増加するのではないかと期待を感じさせる。

各回ともワクチン接種後は在席の 8 割を超える日が多く、積極的に受講し楽しもうという姿勢が見受けられた。

2 年にわたるコロナの影響でフレイル状態と近接していることを知り、つるかめ大学に通うことが生活の一部であるとの気づきが受講者にあった。受講者の様子から、『学習は生存の欲求が満たされたあとに行使されるものではなく学びこそが人間の生存に欠かせない』ことだと痛感した。

認知症や心身の不活発な状態に陥っても、このつながりが活かされる関係を築くことが今後も求められる。

＜後期プログラム＞　　＊Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

9/6	開講式（アルパハープ奏）	濱口富子	10/25	体操とレクリエーション	奥埜由起子
9/13	鉄道と地域	西川一弘	11/1	ボウリング	相互
9/27	Zoom でつながる（長野県）	木下巨一	11/8	講義と合作俳句	上田假奈代
10/4	水鉄/十六童子をさがそう	相互	11/15	健康運動	髙橋智子
10/11	SDGs を知ろう	中川知子	11/22	消費者トラブルを防ぐ	真砂美香
10/18	フレイル予防	今岡真和	11/29	つるかめ交流会	相互
			12/6	修了式	笑福亭鶴笑

＜課題＞

生活の困りごとや悩みを話し合え、支えあえる関係づくりをさらに強める。

共同作業や戸外での活動をふやしフレイル予防に力を入れる。

―成人対象事業―

夢にチャレンジ

＜ねらい＞

障がいのある青年（年齢を問わない）たちのチャレンジの場、社会参加の場とする。

公民館のクラブ利用者やボランティアとの交流を深めるとともに、関わった人たちの障がい者理解につなげる。

＜状況・成果＞

7/17～3/19　毎月第 3 土曜日　10 時～12 時（全 8 回）　受講者 15 人

4 月から開講の予定でプログラム企画をしてきたが、コロナによる緊急事態宣言が発出され、昨年同様 7 月からの開講となった。いまだに終息が見えない状況が続いている中、受講している障がい者施設は不安から外部との接触を自粛しており、今年度も受講を断念している。しかし、こんな中でも毎年新しい受講者を迎え入れて開講している。

毎回の受講者が 10 人程度なので講座もゆったりとしていて、みんなの様子もよく伺えた。

7 月は昨年好評だった「ギョウザづくり」で開講し、今年度の新しい取り組みとして「さをり織り」を予定していたが、9 月に台風直撃の予報が出たため前日に中止の連絡を入れた。11 月にはウクレレ体験を企画し、山手のウクレレクラブが来てくれることになった。ウクレレクラブの講師は障がい者の指導は初めてで、とても不安を抱えながらも講座を引き受けてくれた。職員との数回の打ち合わせをする中で講座の準備をすすめ、一人ずつウクレレを用意してくれ、体験することが出来た。夢にチャレンジ（以下夢チャレ）のメンバーもウクレレクラブの演奏を聞いたり、初めて触るウクレレに緊張しながらも一緒に音を奏で演奏することが出来、楽しいひと時が持てた。また 12 月にはクリスマスリースづくりにも挑戦し、クリスマスへの準備が楽しめた。この日は、岸和田市の職員 2 人が障がい者講座の視察ということで夢チャレに参加し、障がい者の人たちとの交流が持てた。1 月・2 月は夢チャレメンバーからリクエストがあった「HIPHOP ダンス」に挑戦した。3 月は恒例の料理を作って食べて今年度の夢チャレをしめくくった。

＜課題＞

受講者が積極的に取り組めるような働きかけ。

受講者が興味を持てるようなプログラムの開拓。

〈プログラム〉

月	内　容	講　師
7 月	ギョウザづくり	料理 ボランティア
9 月	さをり織に挑戦 （台風のため中止）	グループ・ リボン
10 月	絵手紙をかこう	絵手紙クラブ
11 月	ウクレレ演奏・体験	山手ウクレレ クラブ
12 月	クリスマスリースづくり	上野　千賀子
1 月	HIPHOP ダンスに挑戦①	大人の HIPHOP チェケラッシュ
2 月	HIPHOP ダンスに挑戦②	大人の HIPHOP チェケラッシュ
3 月	つくってたべよう	料理 ボランティア

ホッとワーク

＜ねらい＞

視覚に障がいのある人たちに多彩な体験や学習の場を提供する。

障がいのある人たちの可能性を広げ、主体性を高めて精力的な日々を過ごす力をつける。

公民館で活動するクラブやボランティアの協力を得て実施することで、障がいのある人たちへの理解や交流を深める機会とする。

＜状況・成果＞

5/25～3/22　全 10 回　第 4 火曜日　10 時～12 時　受講者 11 人

今年度も「ホッとワーク」の 5 月開講は延期となった。

高齢者が受講するにあたり、昨年同様、コロナ禍での開講は最新の注意をはらった。

依然、続くコロナ禍での外出不安の中で「ホッとワーク」の 6 月開講で久方ぶりに集まった元気な顔に受講者は喜びを表した。

今年度、講座の特徴として毎月の講座の前段に職員より「SDGs（持続可能な開発目標）ってなあに？」と称して SDGs17 の目標について講話をプラスした。当初の説明では聞き慣れぬ用語に戸惑いが見られたが少しずつであるが理解を深めた。

講座が夏休みに入る前の講座「沖縄三線を聴く」という 1 コマでは沖縄三線の音色と軽快な話に沖縄気分を満喫した。

夏休み明けの「料理にチャレンジ」では講座内容においては受講補助もおこなうガイドヘルパーに、日頃の感謝をこめて料理を振る舞った。以前より希望があった「ろうの花」作成では完成した作品は貝塚市障害者福祉大会や公民館ロビーにおいても展示し講座活動を披露した。年末には 2 年ぶりの「川柳」、年明けの講座「講談を聴く」など日本文化の持つ趣にふれた。

ここ数年、新規受講者の受講はないが、単発参加で 2 人の参加があった。

紙媒体でのスケジュール確認の難しさ、受講者の高齢化も考えると、今後も受講者への毎月の講座内容の説明、出席や健康状態の確認など電話連絡は欠かすことは出来ない。また、2 人の新規受講者へも講座情報の提供を行っていきたい。

≪プログラム≫

5/25	中止「なかなかええやん貝塚市」についての話	政策推進課職員
6/22	「落語を楽しむ」	喜怒家哀楽（噺の会じゅげむ）
7/27	「沖縄三線」を聴く	沖縄三線サークル「遊び場」
9/28	「料理にチャレンジ」	ふれあい料理ボランティア
10/26	「ろうの花」を作成	ろうの花（中央公民館クラブ）
11/16	「楽しく元気に体操」	高橋智子（健康運動指導士）
12/21	「川柳を楽しむ」	浜手川柳クラブ講師
1/25	「講談を楽しむ」	旭堂南舟（講談師）
2/22	「料理にチャレンジ」	ふれあい料理ボランティア
3/22	一年のふり返り	相互に話し合い

＜課題＞

新規受講者、現受講者の積極的な講座参加につなげる内容・広報の充実。

―成人対象事業―

ふれあい料理

＜ねらい＞

料理を通して障がい者のできることを伸ばす。障がい者の社会参加の場とする。

ボランティアと料理をともにすることで交流を深める。

＜状況・成果＞

7/30～3/25　毎月第 4 金曜日　10 時半～12 時半　受講者 22 人

市内 5 施設（いぶき、どんまい、夢二色、あすなろ、らぱん）　一般 2 人

ふれあい料理ボランティア 15 人

昨年度末にあたる 3 月に、2020 年度の振り返りと 2021 年度に向けてのミーティングを行った。出席は各施設職員と、ふれあい料理ボランティア、担当職員により年に 1 度開催している。

施設職員からは、「施設職員だけでは、丁寧に話を聞いてあげられないので、ボランティアさんの存在に感謝している。」「マスクの理解ができなくて、しない人がいた。この講座に来てマスクをするものだと知り、マスクができるようになった。料理だけでなく、生活面での変化がある。ボランティアさんとの関係の中で成長がみられる。」など、この講座が生活面での支援に役立っていることや、料理のレシピが一人暮らしをする利用者にも活用されていることが語られた。

ボランティアからは、施設を 2 グループに分け受講者を半分にしたことで個々に目が行き届きゆったりと関われるという意見が聞かれた。

上記の話を踏まえて 2021 年度のスタートを切ったが、4 月にコロナによる緊急事態宣言が発出され初回は 7 月スタートとなった。昨年度にも増して感染が広がる中、作業前には一斉に手洗いをする、作業中や食事中には会話をしないなど、利用者には厳しいかもしれなかったが徹底した感染予防対策を行なった。いつもの賑やかさはないが、公民館に来て料理をすることが楽しみとなっているので約束を守り、静かな中でボランティアと作業を共にしていた。ある施設は、昨年度はコロナを理由に 1 年間休んだが、今年度は参加の方向で意欲をみせていた。しかし、緊急事態宣言が発出されたため前半はすべて不参加となり 11 月からの参加となった。

クリスマス会のかわりに雰囲気だけでもと、ボランティアさん手製のリース

講座への参加が 2 か月に 1 度になって寂しさはあるが、開催したことを喜んでくれる施設作業所の受講者たちに丁寧に接するボランティアの姿があった。

＜課題＞

会話が少ない分、利用者とコミュニケーションを図る方法。

施設職員、ボランティア、職員の情報交換の場を大事にしていく。

プログラム

7-8 月	キーマカレー、スパゲティサラダ、コーヒーゼリー
9-10 月	牛肉混ぜ寿司、ひじきと切り干し大根炒め、すまし汁、オレンジゼリー
11-12 月	ピザ、から揚げ、ポテトフライ、コーンクリーム、デザート
1-2 月	鮭のちゃんちゃん焼き、小松菜と揚げのそぼろ煮、たまごスープ、フルーツポンチ

介護について語り合う場

＜ねらい＞

介護に携わる人たちが互いに交流し、学習することにより、当事者の孤立や介護の不安を無くし、精神的な負担を軽減させる。

＜状況・成果＞

6/28～2/28　　偶数月の第 4 月曜日　13 時半～15 時（全 5 回）　受講者　延べ 48 人

※4/26 はコロナのため中止　協力：貝塚市介護者家族の会「コスモスの会」

今年度も緊急事態宣言発出のため 4 月の開催は中止となり、6 月からの開催となった。

昨年度はコロナ禍で、介護施設の面会禁止なども続き、介護者も十分な介護ができない日々が続いた。講座の参加者や協力してくれている介護者家族の会もモチベーションの停滞が感じられていたが、ダブルケアラー、ヤングケアラーなど新たな介護課題への検討や地域包括支援センターの職員を招いての勉強会など少しずつ活発な発言も聞かれるようになった。

6 月と 10 月には、認知症の配偶者を介護する男性 2 名が新たに講座に参加し、介護の悩みを打ち明けてくれたことで、介護経験のある参加者から介護にあたってのアドバイスや介護者自身を気遣う優しい言葉などがかけられた。現在の介護対策に対する課題なども話し合われ、参加者同士の活発な議論が行われるようになった。

7/31 に開催した「介護と仕事・子育て・学業の両立、悩みを話して心を軽くしよう～ダブルケアに悩まないで！みんなで話そう～」の講座にも「介護について語り合う場」のメンバーが何人か参加し、「介護について語り合う場」においてもヤングケアラーなどの課題についても議論を深めるべきだという意見が交わされた。

10 月には、市立貝塚病院の認知症看護認定看護師を招いて、認知症についての学習会を開催した。学習会終了後も講師に残ってもらい相談に乗ってもらうなどして、認知症患者の介護認定につなげることができた。3 月には、受講者の中から希望者を募り、バスで浜手地区公民館開催の講座「笑って！認知症と介護予防」を受講した。受講したメンバーは「勉強になった」、「楽しかった」と満足そうにしていた。

最近は「オレンジカフェでこの講座があることを知った」等、講座に関する問合せも多くなり、少しずつではあるが、講座についての周知が図れてきているという実感も得ることができた。

	内　容	受講者数
6/28	（相互）資料；①小さな悩みも「仲間」と共有　介護する人へ　福井の事件から考える、②診察室から＠埼玉　家族の苦しみ　安心して打ち明ける場必要	9 人
8/23	(相互)7 月 31 日開催「介護と仕事・子育て・学業の両立、悩みを話して心を軽くしよう～ダブルケアに悩まないで！みんなで話そう～」講座のふりかえり	11 人
10/25	「認知症のお話」　講師：市立貝塚病院　認知症看護認定看護師　直井愛子さん	14 人
12/20	（相互）資料：介護ストレスの逃し方・かわし方３カ条　もめない介護（認知症当事者とともにつくるウェブメディア『なかまある』より）	9 人
2/28	（相互）資料：妻はサバイバー　公的制度使い人の手借りる・体とこころの通信簿　介護うつ・介護男性悩み共有　仕事と両立経験者助言	5 人

＜課題＞

若い層や多様な介護者（ケアラー）などにも門戸を拡大し、受講者の増加を目指す。

社会福祉協議会や地域包括支援センター等との連携を図り多様な介護についての課題に向き合う講座内容を検討する。

―成人対象事業―

介護と仕事・子育て・学業の両立、悩みを話して心を軽くしよう
～ダブルケアに悩まないで！みんなで話そう～

＜ねらい＞

新たな介護課題となりつつあるダブルケアラー、ヤングケアラーについて、学び、話し合うことで、周囲の理解や介護者自身の気づきを促し、介護と仕事・育児・学業などの両立に悩む人たちの精神的負担の軽減を図る。

＜状況・成果＞

7/31　　13 時半～15 時半　　参加者　20 人　講師：斎藤真緒（立命館大学教授）

現在、介護に携わる人たちが交流し、学習する場として「介護について語り合う場」を定期的に開催しているが、参加者及び協力者である「介護者家族の会」の高齢化等により、メンバーの減少や講座内容の停滞化が顕著になりつつあった。

どうすれば講座の活性化が図れるか。介護者（ケアラー）は社会状況の変化等から以前のように専業主婦が配偶者の親や自身の親を介護する場合だけでなく、子や孫、配偶者など多様な様相に変化しつつある。働きながらの介護、学校へ行きながら介護している人も増加している。このような介護者もまた、生き辛さを抱えており、彼らの居場所づくりが急務となっている。こうした辛さを抱える介護者を「介護者家族の会」へつなげて適切な支援ができれば良いのではないか、また、新たな介護者との交流や学習により、これまでと異なる気づきが生まれて、「介護について語り合う場」の講座も活性化できるのではないかと、この講座を企画した。

講座は職場や学校に行っている人も参加しやすい土曜日の午後に設定した。

講師には家族社会学を専攻し、ダブルケアラー、ヤングケアラーについての調査研究を行っている立命館大学　斎藤真緒教授を招いた。まず斎藤教授に「ダブルケアラー、ヤングケアラーの現状と介護者家族の支援について」講演をしていただいた後、講師も含め全員で座談会を行った。

講座には、「介護について語り合う場」にも参加している介護者家族の会のメンバーや民生・児童委員のほか、子育て関係の NPO 法人や子育てネットワークのメンバーが参加していた。

斎藤教授は、自身も知的障害の子を持ちながら働くダブルケアラーでもある。講演では、自身が関わっている調査や研究成果から得たダブルケアラー、ヤングケアラーの事例を上げながら、課題点や解決策、さらに周囲や自治体がどう行動すべきなのかといったことまで話をしてくれた。

参加者の中には、実際に子育てをしながら自身の親を介護しているというダブルケアラーの人もいて、ダブルケアの実情を詳しく話してくれた。親は長く患っており、介護保険を使ってデイサービスやショートステイなどの支援を受けていたが、最近は「(介護者である) 娘だけがそばにいてくれたらいい」と言ってサービスに行くのを嫌がるようになってきたという。介護者本人は自分自身と向き合う時間も取れなくなってきて、介護の負担感も大きくなっているとのことであった。

また、参加者の一人は、「実際のヤングケアラーの中には、報道などでヤングケアラーが社会問題として取り上げられる度に、自分自身が親や祖父母、親族などを悪者にしてしまっているのではないかと悩んでいる人も存在する」という話をしてくれた。

講師である斎藤教授はひとつひとつの話に真剣に耳を傾け、参加者との対話の中で様々なアドバイスなどを話してくれた。

民生・児童委員の人達は実際にこれからヤングケアラーについての勉強会を考えているとのことで、講師と公民館に対し、「相談させてほしい」との依頼もあった。

今回の講座で、ダブルケア、ヤングケアについて、更に考えていくべき多くの課題が明らかとな

った。斎藤教授ほか研究者が言及しているように、ダブルケアラーは子育て、介護、障害、貧困など重層的な支援が必要であり、その支援体制は確立できていない。また、介護者本人も自身がダブルケアラーであるという認識がない人が多いため、気づきを促すことが重要である。

こうした課題を解決する場として、一度きりの講座でなく、引き続き講座を開催してこの問題に取り組んでいくことが大事である。

＜課題＞

引き続き同様の講座を行い、ケアラーが抱える悩みや生き辛さ、負担感などを少しでも取り除く。「居場所」と、適切な支援へと結びつけることができる「きっかけ」作りに取り組む。

―成人対象事業―

みんなでノルディック・ウォークグループをつくろう（高齢介護課共催講座）

＜ねらい＞

ノルディックウォークを学び、健康寿命を延ばす。

既存グループと交流の機会。

＜状況・成果＞

予定日：4/12・19・26・5/10・17 月曜日　14 時～16 時（全 5 回）

受講者 23 人(内既存グループ 9 人)

講師：古澤裕文・宮内千代子（全日本ノルディック・ウォーク連盟公認指導者）

※4/19・5/17 は講師なし、既存グループが中心となり街歩き。

4 月に講座がスタートし、2 回開催した後に緊急事態宣言で公民館が休館となった。講座の日程変更か中止か悩んだが、幸い講師や部屋などの調整が出来たので下記の日程で開催した。

開催日：4/12・19・6/21・28　月曜日　14 時～16 時（全 4 回）

昨年の「ノルディック・ウォーキングを体験しよう」講座が好評であったことや、そこから中央公民館の自主グループに入り活動する人がでてきたことから、グループの増員とクラブ化も目指し企画した。

昨年同様、高齢介護課が講師謝礼とポールの貸し出し、公民館が講座の企画・運営を担った。

受講者のほとんどが初体験でポールの貸し出しも多く、また 1 回目 2 回目の出席率も良く、既存グループに繋がる手ごたえを感じていたが、その後の延期で受講者のモチベーションが下がったのか、講座が再開した 3 回目はたった 5 人の出席だった。それでも 4 回目は少し持ち直し 12 人が出席した。

3 回目と 4 回目は、少人数で受講者同士の交流やつながりは難しかったが、講師から個別に丁寧な指導を受けることができた。

講座修了後の 7/5 と 7/19 は既存グループが熱中症予防のため、通常午後の活動を午前にし、受講者が引き続き参加できるようにしたが、梅雨の不安定な天気やコロナワクチン接種の時期なども重なり新しい参加者はなかった。

＜課題＞

講座後の受け皿として既存グループへの移行。

既存グループのクラブ化への働きかけ。

高齢介護課と連携の継続。

スポーツ吹矢の体験（高齢介護課共催講座）

＜ねらい＞

室内でできるスポーツ吹矢の体験。

腹式呼吸をベースにした誰にでもできるスポーツで気軽に参加してもらう。

＜状況・成果＞

6/8・22・29・7/13　火曜日　14 時～15 時半（全 4 回）受講者 15 人

講師：小中　富生ほか（一般社団法人　日本スポーツウエルネス吹矢協会）

緊急事態宣言で公民館が休館となり、急遽日程の変更を強いられたが、講師や部屋等の調整がうまくいき、受講者にもそれほど不便をかけず開催することができた。

6/22・29・7/6・13　火曜日　14 時～15 時半（全 4 回）

ノルディックウォーク同様、高齢介護課が講師謝礼、公民館が講座の企画・運営を担う共催講座。

コロナ下にもかかわらず、申し込み初日に定員 15 人が決まり、キャンセル待ちがでた。

講師はたくさんの道具を持参し、視聴覚室いっぱいに的を設置してくれた。受講者は筒と矢などのセットを使い、二人一組の交替で的を使った。

出席率も高く、休みのほとんどがコロナワクチン接種のためで、受講者の関心の高さが伺えた。

初回、筒や矢の扱い、息の使い方を覚えるのに精一杯で、動作はぎこちなかった。しかし、2 回目からは講師の声掛けに従って、ゆったりとした動作で集中し的を射る姿が見られた。

講師は細かい説明よりも、実際に的を射ること、点数をつけることを指導してくれたので、受講者はたくさん実技ができ、待ち時間を使って近くの人と点数を比べるなど、マスクごしに少しは交流もできた。

最終回は、後半にゲーム形式で点数をつけ、1 位から 3 位までを決定した。講師はちょっとした景品を用意してくれており、ゲームの楽しさも体験できた。スペースの関係で的までの距離を 8 メートルのところ 6 メートルで行っていたことを伝えると、受講者から「8 メートルも挑戦したい」との声に、講師は即対応してくれ、希望者は全員体験することができた。

講座の継続を望む声も多かったが、中央公民館では充分な広さの部屋がなく、後期に浜手地区公民館で講座を企画することを伝えた。

＜課題＞

講座後の受け皿と自主グループへのすすめ。高齢介護課と連携の継続。

―成人対象事業―

スポーツ吹矢を楽しもう

＜ねらい＞

室内でできるスポーツ吹矢の体験。グループ化への働きかけ。

腹式呼吸をベースにした誰にでもできるスポーツを気軽に体験してもらう。

＜状況・成果＞

11/2・9・16・30　火曜日　13 時半～15 時（全 4 回）受講者 23 人

講師：小中　富生ほか（一般社団法人　日本スポーツウエルネス吹矢協会）

前期の吹矢講座で継続を望む声も多かったが、中央公民館では充分な広さの部屋がなくグループ化がすすめにくいことから会場を浜手地区公民館ホールにして後期講座を企画した。

定員 20 人に対して 23 人の申し込みがあった。講師に相談したところ、会場も広いことから全員を受け入れた。

前期の受講者は、会場が変わって来館しにくくなったのか 2 人だった。

講座の様子を見ながら、浜手地区公民館でグループ化をすすめる予定だったが、講師の都合もあり断念した。現講師が遠方で「グループ化のために近場の講師で」と新しい講師と打合せをしてくれていたが、後日「自信がない」と断ってきた。そのため 12 月に 2 回の予備日を考えていたが取りやめた。

講座は 2～3 人で 1 グループとなり、吹矢をどんどん体験する方法で進んだ。細かい注意よりも実践で習得する方法で、2 回目からはスムーズに進み何度も体験することができた。後半の時間では毎回スコアをつけ、グループ内で競った。

中央公民館よりも広いホールだったので、待ち時間もゆったりとでき、またコロナも治まっていた時期であったので、吹矢の姿勢やスコアについてなど会話を楽しむ姿も見られた。

＜課題＞

講座後の受け皿と自主グループへのすすめ。

ダイエットボクササイズ

＜ねらい＞

公民館を利用したことのない若い世代、働く世代へのアプローチ。

気軽に公民館を利用する機会をつくる。

＜状況・成果＞

9/14、28、10/12、26　火曜日（全 4 回）　19 時～20 時　受講者 15 人

講師　梅本　道代（NPO 法人いきいき・のびのび健康づくり協会理事）

昨年度秋、浜手地区公民館で大好評であったダイエットボクササイズ講座を中央公民館（以下、中央）の職員 3 人が受講した。その際、運動が苦手な人や初心者でも気軽に体験でき、みんなで楽しみながらシェイプアップやストレス発散ができること、また、他の受講者からも中央でもぜひ開催してもらいたいと希望があったことから講師に依頼した。

日中、公民館に来られない人や働く世代が気軽に受講してもらえるよう夜間の 19 時半から定員 15 人の先着順で企画したところ、20 代から 70 代の定員を上回る申し込みがあった。しかし、コロナによる公民館開館時間短縮で急遽、講師と講座開始時間の変更を調整後、受講者に連絡した。全 4 回とも 19 時からのスタートに変更したが、受講者のキャンセルはなく関心の高さがうかがえた。出席率もよく毎回、仕事帰りに講座へ駆け込んでくる様子がみられた。

受講者からは今回のサブテーマであったダイエットやストレス発散というネーミングに惹かれて参加したという声が多く、ボクササイズが初めてという人でも楽しめるよう講師指導のもと、ウォーミングアップから基本的なパンチやキックの動きを軽快な音楽とリズムにのせて行った。回を重ねるごとに受講者もアップテンポのリズムに合わせられるぐらいに上達し、コロナを吹き飛ばすような熱気に包まれて終了した。

講座終了後には受講者から講師に直接、ボクササイズを継続開催してほしいという声やクラブにならないかなどの質問があがった。将来的にはクラブ化が望ましいが、中央では初めての開催であり、かつ夜間開催の受講者ニーズの把握がきっちりとできていないため、今回は見送ることとし、公民館で活動する運動系の既存クラブも案内した。しかし、このような受講者の意見があったことを踏まえ、講師と来年度のスケジュールを調整し、次回開催を計画している。

≪アンケートより≫

・今回とても楽しかったので、4 回講座で終わるのが残念です。年間通しての講座にしてほしいです。

・ダイエットボクササイズ楽しかったです。汗かけました。また、やってほしいです。

・とてもよかったです。肩こり解消！ストレス解消！また、あったら参加したいです。

・とても良い。この講座次回もあれば良いが、場所を広くしてほしい。

＜課題＞

夜間の時間帯での講座の充実。

単発講座から公民館を知ってもらい、継続的な利用につなげる。

いすヨガ 高齢介護課共催事業

＜ねらい＞

高齢者のフレイル（虚弱）予防、認知症予防。

＜状況・成果＞

4/16～7/2　金曜日　10 時～11 時半（全 6 回）緊急事態宣言により 4/16、7/2、16、8/6、20、9/10 に変更　受講者 15 人　講師：津田美穂（シニアヨガインストラクター）

コロナによる自粛期間が長引き、高齢者の運動量の低下が懸念された。足腰の弱り、気分的な落ち込み等フレイル状態が進んでもおかしくない状況下、気軽に体を動かす機会をもった。

ブームになっているヨガという上に、いすに座ったままできるという手軽さで定員をはるかに上回る人気だった。4 月に開講したが、緊急事態宣言が発出され一度開講した後に休講となった。7 月に再開し 9 月まで講座を継続した。

受講者の中にはヨガ経験者も数名いたが、いすに座ってのヨガは初めてとのことで、ゆったりと体を伸ばしていた。「体力のない状態でも体を動かすことができて嬉しい」「足のあがりが良くなりすり足が減った」など、生活面での改善につながっていた。男性受講者は 2 人と少なかったが、ヨガ体験を楽しんでいた。

＜課題＞

ニーズの多い講座の継続した取り組み

ゆるふわヨガ（夜ヨガ） 1～2 月 高齢介護課共催事業

＜ねらい＞

勤労者など夜の時間帯に活動できる層を増やす。

フレイル予防と心身の調和を保つ機会。

＜状況・成果＞

10/15～12/17　1/14～2/25（高齢介護課共催事業）金曜日 19 時～20 時半（全 10 回）

受講者 9 人

講師：津田美穂（シニアヨガインストラクター）

夜の時間帯を活用したヨガ講座で受講者層は 60 代から 70 代の勤労者が大半を占めていた。仕事を終えて駆け込んでくる姿もあったが、開始時間までにはおおむね全員が集合できた。

部屋の灯りを落とし暗闇の中で行うヨガは、周りを気にしなくて済むことで自己に集中することができ、安心感が生まれるとともに心身が軽くなったという声が多かった。

講座の中盤で継続に対して意見を聞いたところ、今後も続けたいという要望が多かった。1 月からは自主活動を進め次年度からはクラブ化か自主グループ化を視野にいれた活動をする予定になっている。

＜課題＞

自主活動を促進し継続できるよう支援する。

Handmade factory in 公民館　～身近なところからSDGs～

＜ねらい＞

公民館を利用したことのない若い世代、働く世代へのアプローチ。

気軽に公民館を利用する機会をつくる。

身近なものづくりを通してSDGs（持続可能な開発目標）について知ってもらう機会とする。

① エコクラフトかごバックを作ろう

＜状況・成果＞

11/13、11/20、11/27　土曜日　13時半～15時半　全3回　受講者12人

講師：ろうの花（中央公民館クラブ）

公民館クラブ「ろうの花」のメンバーが活動日以外に公民館に集まってエコクラフトかごバックを楽しそうに作っているのを見てぜひ講座を開催してみたいと企画した。

今年度はSDGsを意識した取り組みが目標とされていることもあり、エコクラフトかごバックの材料が再生紙を使用していること、SDGsの17の目標に掲げられている「つくる責任、つかう責任」についての学習も取り入れながらすすめた。受講者からは関心を持ち、機会があれば学習したいという声が聞かれた。

また、日頃公民館に来れない人や若い人も来やすい土曜日の昼間の時間帯に設定し、募集したところ、定員12人に対しキャンセル待ちの6人を含む18人の申し込みがあり、普段公民館に来れない若い層の参加もみられた。

物作りということもあって受講者の出席率はよく、3回の講座で全員がかごバックを完成させることが出来、受講者たちは初めての作品完成に感動していた。講師陣のろうの花のメンバー全員が丁寧にかかわってくれ、作業の遅れている人には別の日に特別指導も行ってくれた。

＜感想＞

・ステキな作品が出来て大変うれしかったです。

・一人じゃ作れないのを教えて頂いて楽しくできました、他のも作ってみたいなと思いました。

・とても楽しい時間を過ごせました、一つできることが増えました。

② ボディスクラブ

＜状況・成果＞

12/4　土曜日　13時半～15時半　受講者12人

講師：上野　千賀子（まちのすぐれもの登録者）

平日、公民館に来られない働く世代や若い世代の人たちにも公民館を知ってもらいたいと土曜日に講座を企画した。特に今回は若い世代に興味を持ってもらえるような美容に関する講座を開催したいと講師に依頼し、ボディスクラブ（角質をケアするクリーム）を作ることとした。しかし、ボディスクラブは聞きなれないネーミングだったようで、チラシや広報紙で見た市民からは何度か問い合わせがあった。一時は、受講者が集まるかどうか心配したが、宣伝や口コミなどで12人が受講した。

近年、SDGsの取り組みは益々進んできており、私たちの生活の中でも身近なものになっている。

ボディスクラブはコーヒーを飲み終わった後の出がらし、砂糖、はちみつ、オリーブオイルとどれも家にある身近な材料で簡単にでき、環境にもやさしいということで講座に取り上げた。

また、講座で扱ったグレープシードオイルやはちみつなどの自然素材は海を汚さず、コーヒーかすは陸の豊かさを守ることにつながっている。それらを SDGs の 17 の項目にあてはめ、楽しくものづくりを通して SDGs についての学びを深めてもらった。講座中、受講者からは「家にある他の調味料が材料として代用できないか。」など講師に直接質問しメモを取る様子があった。後日、受講者から「抹茶の粉を利用し実際にスクラブを作ってみました。」と嬉しい声があった。

土曜日に講座を開催したことで 20 代から 50 代の若手世代の参加もあり、公民館を初めて利用した人も 3 人いた。また、おもしろい講座があれば参加したいという声も聞かれ、公民館を知ってもらうきっかけとなった。

＜感想＞

・捨ててしまいがちな物を新しく生まれ変わるよう方法を教えて下さってとても勉強になりました。

・SDGs について詳しく知ることができて良かったです。家庭や職場でもコツコツ取り組んでいきたいです。

・楽しかったです。色々な事を学べて良かったです。

・アットホームな感じで楽しかったです。

③ダーニング

＜状況・成果＞

12/12、12/19　日曜日　13 時半～15 時半　全 2 回　　受講者 10 人

講師：kitokito no mori（日髙　麻希子）

ダーニングは、イギリスやヨーロッパに伝わる衣類の補修方法で、擦り切れたり穴が開いたりした衣服をカラフルな糸で刺繍に似た手法でかわいい模様を描いて繕っていくものである。

まるで最初から施されていた模様のように補修することで、本来捨ててしまう衣類を再生させ、その後も長く使うことができる。その結果ゴミを減らして環境問題の改善にも役立ち、それら衣類の元となる資源の乱獲を防いで豊かな自然も守ることができる。講座の初めには公民館職員による SDGs の解説も聞き、受講者には、まさに身近に SDG s を体現できる取り組みとして、ダーニングを通して SDGs について学ぶ機会となった。

講師は高槻市を中心に活動している人で、大阪府下だけでなく、他府県においてもワークショップを開催している。貝塚市周辺ではダーニングはまだ浸透しておらず、近隣で講師を依頼する人はいなかったため、無理を承知で講師に依頼すると、快く引き受けてくれた。

受講者には、あらかじめ直したい衣服などを持ってきてもらうよう伝え、持ってきた衣服に合わせて糸選びから始めた。最初は基本的な四角の形に繕う方法を学び、2 回目は丸やパッチワークの手法も取り入れたアレンジ方法を実践した。

受講者の中にはダーニングを知っていて、「以前から興味を持っていた」という人や、独学で取り組んだ経験のある人もいた。

細かな作業に、最初は難しそうにしていた受講者も互いに助け合ったりしながら、楽しそうに作業をしていた。最後は互いの作品を見せ合ったり、作業の進んでいる人が隣の人の作業を手伝ったりして、受講者どうしでつながりあう風景も見られた。

＜感想＞

・ダーニングはずっと気になっていましたので今回の講座を知り、とてもうれしく、丁ねいに教えていただきありがとうございました。これからの手仕事が楽しくなります♪

・続編として来年、又、この講座が有るといいです。

・以前から気になっていたダーニングに初挑戦でき、とても楽しかったです。

＜課題＞

新たな利用者層開拓の為、今後は申し込み受付方法を工夫する。

引き続き SDGs に関心をもってもらえるような講座の企画や取り組みを行っていく。

―成人対象事業―

気軽に書道

＜ねらい＞

書道文化のすそ野を広げる。

新規書道クラブへのクラブ化を図る

＜状況・成果＞

11/8・15・22　　月曜日　全 3 回　13 時～15 時　受講者 13 人

講師：西谷麗明（まちのすぐれもの登録者）

講座チラシのキャッチコピー「もう一度、筆を持ちたい方も大歓迎」とうちだし 12 人の方が欠席なく 3 回講座を受講した。初回の自己紹介では受講者の大半が「もう何年と筆など持っていません」と話した。

昨年から続くコロナ禍で、外出が減り在宅の時間が増える中、「何かしなくてはと自らの学びの必要性を感じてこの講座を受講した。」との声もあった。

書道講座と聞くと構えてしまうのか、受講者の大半が「自分は下手なので恥ずかしい」と話していた。しかし講師の細やかで丁寧な指導のもと受講者は書に向き合い筆を走らせた。アンケート集計では「久しぶりに集中した時間を過ごした。」との声が多く受講者の満足感が伺えた。

受講者の大半は引き続き書道講座受講の意思があることを話していたこともあり、公民館で活動中をしている書道クラブの紹介、クラブ化、グループ化への説明は行ったが、その先へ進むことはなかった。

開催回数を増やしたり季節ごとの書を学ぶなど、受講者の生活リズムの一部になるような仕掛けが必要なのかも知れない。

≪アンケートより≫

・筆を持つことがない毎日ですが、筆を持つということは気持ちがシャキッとし、下手でも集中できました。良い時間をいただきありがとうございました。

・今回の書道、とても楽しく学べました。ありがとうございます。

＜課題＞

受講した時だけでなく日常的に書道に取り組むことを促す。

講座のクラブ化、及び既存クラブ入部への働きかけ方。

楽しくフィットネス１・２

＜ねらい＞

コロナ感染症の不安や寒い季節で家に閉じこもりがちな人たちに、軽い運動で気分転換や、外出する機会を作る。

＜状況・成果＞

楽しくフィットネス１：1/17・24・31・2/7・14（全５回）受講者 18 人

楽しくフィットネス２：2/21・28・3/7・14（全４回）受講者 18 人

いずれも月曜日 13 時半～14 時半

国内のコロナ感染者が減少し、社会活動が少し活発化してきた時期を見計らって企画した講座。

コロナの不安やそれ以外にもなんらかのストレスを感じる人が、気分転換や運動不足の解消を目的に「市民が気軽に参加できるもの」として開講した。

近い将来、コロナの第６波が来ると予想されており、講座中止時のリスクを考えて、あえて職員が講師を兼任した。

企画した時期も遅く、職員が手探りで講座をすることもあって、「楽しくフィットネス 1」は館内ポスターやチラシと口コミで募集した。定員 15 人のところ応募は 18 人あり、全員を受け入れた。開講途中でまん延防止等重点措置が実施され、それを不安に感じた数人が受講をあきらめた。

「楽しくフィットネス 2」は広報かいづかに載せ、公民館に初めて来た人の参加もあった。

講座の内容は椅子やタオルを利用したストレッチ、脳トレ、音楽にあわせて簡単な動きをみんなで行うことにした。それぞれ体力差はあるものの「自分の体調をよく考えて、出来る範囲で気持ち良く動きましょう。」と声掛けをし、受講者は自分のできる範囲で楽しく動くことが出来た。

最初の講座アンケートでは「よい汗をかきました。顔見知りができてうれしかったです。」「多少ハードでしたがとても楽しかったです。」「一人では家でなかなかできません。また、受講したい。」との感想があった。

２は１のアンケートから運動量を少し上げた内容とした。前半は変わらないが、後半の音楽に合わせて動く部分で変えてみた。１から引き続き受講した４人は「この前よりも激しい。」「足が疲れた。」との声もちらほら耳に入ったので、職員から講座の前後で受講者へ積極的に話しかけ、自宅でのストレッチなど伝えることで、最終日まで楽しく通えるような工夫をした。

楽しくフィットネス１・２を終えて、指導者兼担当者としては「運動が必要だと思いつつも一人では続かないが、みんなと一緒だと頑張れる。また、友達もできる。」という講座ならではの良い点が再確認できた。

＜課題＞

講座を求める声はあるが、内容の工夫が必要。

クラブへの誘導。

―成人対象事業―

俺の公民館～趣味を見つけて楽しく生き生き、リア充生活～

＜ねらい＞

普段、公民館に足を運ぶことの少ない人（特に男性）に、公民館の良さや楽しさを理解してもらい、新たな参加者層の獲得をめざす。

＜状況・成果＞

日中働いていて公民館のクラブや講座に参加できない人、何となく公民館に敷居の高さを感じている人に公民館を知ってもらおうと企画した。

とくに、公民館運営審議会等で、男性利用者の増加の必要性をたびたび指摘されていることから、男性をターゲットとしたタイトルや講座内容について考慮し、新たな参加者層を呼び込めるよう工夫した。募集対象は女性も参加可能としており、実際に女性の参加もあった。

講座は料理、アウトドアなどを中心に全４回の開催とし、働いている人も参加しやすい、土曜日の日中、金曜日の夜間に設定した。

①手づくりうどん打ち　～モチモチうどんで元気に！～

3/5 土曜日　13 時　　受講者　7 人　　講師　おやじの会

全４回講座のスタートとして、うどん打ちを体験してもらう講座を企画した。講師は公民館まつりなどでも協力してもらっている「おやじの会」のメンバーに依頼した。

おやじの会の１人がうどんのこね方などの説明を行い、受講者全員で、(1)粉をこねる、(2)冷蔵庫で 20 分ほど寝かす、(3)生地を足や棒を使って四角く伸ばしていく、(4)数ミリの幅に切る、といった作業を順に行った。出来上がったうどんは順に全員で試食した。

当日は広報交流課がつげさんとともに取材に来て、講座の様子がつげさんのフェイスブックでも紹介された。

②星空観察で気軽にアウトドア　～夜空を見上げて男のロマン～

3/11 金曜日　19 時　　※中止

善兵衛ランドの協力により、星空観察をしてアウトドアを満喫してもらおうと企画したが、コロナ感染拡大に伴うまん延防止等重点措置発令のため、善兵衛ランドのイベント等が全て中止となり観客の入場も制限され、やむなく中止とした。

③魚のさばき方　～魚をさばいて晩酌のおともに～

3/18 金曜日　19 時　　受講者　11 人　　講師　全国学校調理師連合会調理師　伐栗政和

当日は受講者全員に丸アジが１匹ずつ用意され、講師の説明と見本をもとにアジを３枚におろした。講師や、講師と同じく全国学校調理師連合会のメンバーが受講者の補助に回り、各テーブルを巡回して、丁寧に指導を行ってくれた。

さばいたアジは、半分を煮付け、半分を照り焼きに調理し、出来上がったアジをごはんとともに全員で試食した。受講者は自身が苦労してさばいたアジを美味しそうに食べていた。

④コーヒーの入れ方と基礎知識　～お家でゆったりコーヒータイム～

3/25（金）　19 時　　受講者　10 人　　講師　BEERCOFFEE　宇賀一仁

講師が用意した資料に基づいて、実際に豆の種類や精製・焙煎の違いを試飲しながら、コーヒーの産地、種類や栽培方法等について学んだ。

その後は実際にペーパードリップでコーヒーを抽出し、美味しいコーヒーを入れる方法を実践した。

周辺にはコーヒーの良い香りが漂い、隣の部屋で別の講座を受講していた人も興味深く講座の様

子を見にくるほどだった。

全ての講座を通して、5 人の男性が初めて公民館の講座に参加したという人だった。また、40 代～60 代を中心とした壮年層の参加が多く、講座企画当初の目的はある程度達成することができたと感じる。

感想では「公民館の講座に関心を持った、こんな機会があればもっと知りたい」といった声が聞かれ、「楽しかった」との評価が多かった。

今回初めて参加した 40 代の受講者は、うどん打ちの講座後、おやじの会のメンバーが、「5 月の公民館まつりに出店するので一緒にうどんを打たないか」と勧誘すると、「行ってみたい」と答えていた。

今回の講座受講者が今後も公民館に来て、公民館で活動しているクラブや団体等とつながることで、新たな参加者層の開拓につながっていくことが望まれる。

≪アンケートより≫

知ると人生　たいそうですが　楽しくなります。企画ありがとうございます。

料理の講座が興味あります。

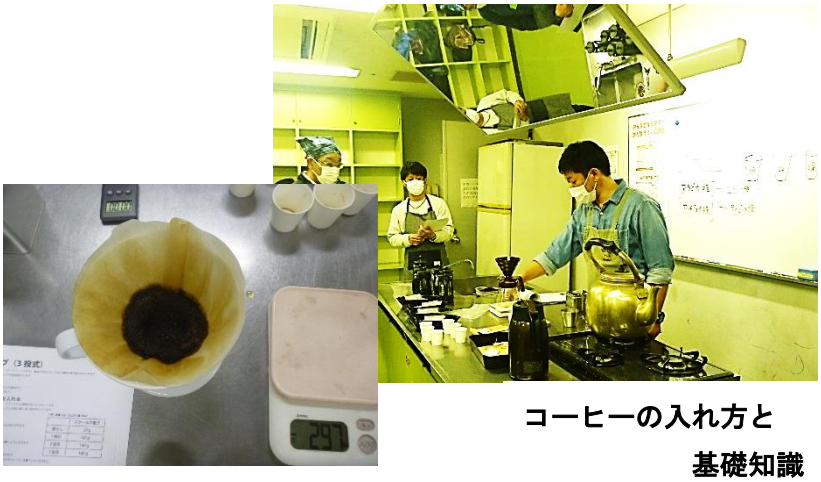
今回は少人数でていねいに指導して下さってよかったです。

＜課題＞

新たな参加者層を増やすための企画の工夫と宣伝方法の検討。

魚のさばき方

手づくりうどんうち



コーヒーの入れ方と
基礎知識

市民企画講座（SDGs～私たちのちょっとした選択が未来をかえる～）

＜ねらい＞

SDGs を理解し、実践することを目的とするグループの支援。

＜状況・成果＞

9/2・14　10/7　木曜日・火曜日　10 時～12 時（全 3 回）　受講者 32 人　（保育 6 人）

講師：おくのひろみ・山路登葉・湯浅愛・中川知子

SDGs（持続可能な開発目標）の取組みが推進されテレビなどのメディアで日常的に目にするようになった。母親たちを中心に SDGs への関心が高まり、子どもたちに持続可能な未来を残すためになにができるだろうという思いからこの講座が生まれた。まずは、SDGs の内容を知ること、その上でグループの中から実践者の報告を行い、最後は食の分野で活躍中の講師の話で SDGs の取組みが身近であることを受講者に実感してもらおうというねらいがあった。

当初、6 月に予定していた同講座はコロナのために秋に開催を延期。保育をつけることで乳幼児の保護者にも受講してもらうことができた。

1 回目の「SDGs を知ることから始めよう」は公民館職員が行い、17 の目標を詳しく話し、生活の中でできることを具体的に感じてもらった。

2 回目の「カラダにも地球にも優しい暮らし方」ではメンバーの 2 人が SDGs と関連した暮らしぶりを報告。洗濯洗剤や柔軟剤の話など日々の中で気になることを生活に照らし合わせて紹介し受講者の共感を得ていた。

最終回は「消費者のわたしたちにできること」と題し、岸和田市で活躍する料理研究家を招き、食品ロスや環境面から私たちの食卓を考えた。話から、家族の健康と自然環境の調和はもとより、一人ひとりの行動が国家予算の削減につながるなど社会にも影響を与えることを知った。グループワークは盛り上がり、個々が未来へのビジョンを描いて終了した。家庭でできることの案から、地域で取り組めるのではないかと思えることなども含め、豊かな想像が飛び出した。それを実践に結びつけることが次への課題として講座を終えた。

ワークショップでは活発な意見交換が見られた。

＜課題＞

講座で出たことを実践に結びつけるための機会。

何度も繰り返して学ぶことの必要性。

9/2	まずは知ることから始めよう。 ～身近な暮らしに関係している SDGs～	中川知子(職員)
9/14	カラダにも地球にも優しい暮らし方 ～自然な暮らし方で消費しすぎないシンプルな生活～	山路登葉 湯浅愛
10/7	消費者のわたしたちにできること	おくのひろみ （料理研究家）

日本語会話よみかき教室

＜ねらい＞

在住外国人やさまざまな要因で日本語に不自由している人たちに日本語を教え、日本で生活しやすくなるよう支援を行う。

＜状況・成果＞

4/5～3/29　受講者 33 人　ボランティア　19 人　※4/26～6/15 はコロナのため中止

日本語の読み・書き・会話に困っている人たちにボランティアが教える講座で各館の開講状況は下記表の通りである。

教室では受講者一人ひとりに寄り添い、それぞれの日本語能力や学習状況に応じたきめ細かな指導を行っている。また、学習だけでなく受講者の仕事や生活面でも親身に相談にのるなどボランティアは受講者の支えにもなっている。

浜手地区公民館（以下、浜手）では昨年度から受講している中国出身者に加え、中央公民館（以下、中央）の韓国出身者が加わった。教室以外でも一緒に出掛けたり、滞在歴の長い韓国出身者が中国出身者に日本語や日本文化を教えるなど、2 人の間には信頼関係が生まれている。本講座は日本語教室という側面だけでなく在住外国人のコミュニティとしての役割もあり、受講者にとっても貴重な場となっている。

中央ではベトナム、中国出身者が継続して受講しているが、転職や家庭の事情、妊娠などで 10 月中旬からしばらくの間、欠席の状態が続いた。それでもボランティアどうし密に連絡を取り合い日本語教材の研究や他館の教室の学習状況を把握し、欠席の受講者にも連絡を取っていた。

中央、浜手は教室の開講日が同じこともあり受講者、ボランティアの交流を兼ねて数回、合同授業を行った。内容としては Zoom の使い方やラインでの会話練習、12 月には料理を行った。韓国出身者にチヂミづくりを習い、ボランティアは、受講者からリクエストのあった豚汁を教えることで相互交流を図った。コロナ対策のため実施できなかった約 1 年ぶりの料理にお腹も心も満たされ、生き生きした様子がみられた。

山手地区公民館では夜間開講としており、福祉、医療、工場のシフト勤務で働く受講者が大半を占めている。昨年度から引き続きコロナの影響で、福祉、医療従事者は業務多忙や感染対策を理由に出席を控える受講者が多かった。コロナの影響に左右された 1 年ではあったものの、受講者の送別会やお楽しみ会を企画し親睦を深めた。今年度の新規受講者であるベトナム出身女性 2 人の職場担当者もボランティアとして会話練習に入ってくれるなど、ボランティアを中心とし活動の工夫がみられた。

※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

＜課題＞安定した受講継続をサポートする。

開催場所	曜日・時間	回数	受講者数	出身国
中央公民館	火・10 時～12 時	31	7	ベトナム、中国、ブラジル、フィリピン
浜手地区公民館	火・10 時～12 時	31	3	中国、韓国、台湾
山手地区公民館	月・19 時半～21 時	33	23	ベトナム、台湾、中国、シリア、パキスタン

文化事業

＜ねらい＞

芸術や文化に親しむことができる場の提供。

公民館を利用したことのない人たちに公民館を知ってもらう機会とする。

＜状況・成果＞

◆クラシックコンサート

「音楽サプリ～あなたの心をサポートする名曲たち～」（出演：貝塚市クラシック音楽家協会）

11/27　土曜日　14 時開演　場所：コスモスシアター中ホール　来場者：200 人

貝塚市クラシック音楽家協会は、毎年 5 月に協会の主催事業としてコスモスシアター中ホールでコンサートを開催していたが、コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言発出で令和 2 年から続けて 2 回中止となった。そこで、公民館側から貝塚市クラシック音楽家協会に働きかけ、毎年視聴覚室で実施している「クラシックコンサート」の規模を拡大して、中ホールでのコンサート開催が実現した。

当日は、連弾を含めたピアノやヴァイオリン、声楽の名曲 18 曲が演奏された。合間には、司会者が演奏曲に合わせたサプリの名前を掲げながら、その効用と曲目の説明を行い、軽妙なお話に観客は楽しんでいた。

観客からは、「大変心のいやしになりました」との声が聞かれた。また、「コロナが下火になればもっといろいろなイベントをしてほしい」といった声もあり、コロナ禍のなかで人々の心を癒すことのできる音楽を初めとした芸術鑑賞の場を提供することの重要さを痛感した。

◆ジャズライブ

1/16　日曜日　13 時半開演　場所：視聴覚室　来場者：41 人

（出演：中野ひろしクァルテット）

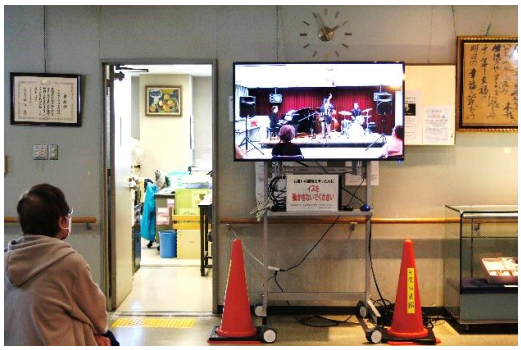
昨年は中ホールで開催したジャズライブだが、今年は通常通り視聴覚室で開催した。毎年人気が高く、市内外から多くの観客が訪れる。しかし今年はコロナ対策として入場者を 40 人に限定し、市内優先でチケット制とした。代わりにロビーにテレビと観客席を設け、ライブの様子を映像で流して観てもらうよう工夫することとし、ロビー視聴チケットを 20 枚配布した。

ジャズライブ当日はコロナが拡大しつつあり、当日キャンセルも多く出た。また、前半のみで帰った人もいて、結果的にロビーにいた人達も視聴覚室内でライブを聴いてもらうことができた。

ジャズライブでは、ジャズやボサノバのスタンダードナンバーが演奏され、聴き馴染みのある心地よい音楽に会場が満たされた。合間にはバンドマスターの中野ひろしさんによる曲の解説があり、

軽妙なトークに観客は大いに盛り上がっていた。

アンケートでは「生ライブ良かったです！元気をもらえますネ」、「色々開催していただきありがたく思います。今後もジャズ等色々取組みをお願いします」との声があった。毎年楽しみにしている人が多いイベントではあるが、密になりやすく、より安全安心な事業運営のためにも今後も改良を重ね、コロナ対策をより徹底していく必要性がある。



◆春一番コンサート

3/20　日曜日　13 時半開演　場所：視聴覚室　来場者：42 人

（出演：サザンウインドアンサンブル）

毎年、春分の日前後に開催している春一番コンサートだが、今年はコロナ対策として入場者を 40 人に限定し、チケット制とした。ジャズライブと同様、ロビーにテレビと観客席を設け、コンサートの様子を映像で流して観てもらうよう工夫し、ロビー視聴チケットを配布した。当日は、ロビーで視聴する人もいたが、キャンセルもあって最終的に全員が会場内に入ることができた。

コンサートは、クラシックの名曲を中心にＮＨＫ連続テレビ小説の主題歌なども交えた構成で、合間には出演者によるわかりやすい解説もあって、観客も曲の意味を理解しながら鑑賞していた。

オーボエのソロ曲では教会音楽ということで、出演者がステレオを工夫し、まるでドーム内で演奏しているかのように音が会場内に響きわたった。最後は、出演者みんなで「故郷」を合唱して、コンサートは終了した。参加者からは「春の佳き日にありがとうございました。いつまでも続けていただけるようにお願い致します」、「今日は音楽の春一番をきかせていただき、心があたたまりました」といった感想が寄せられた。

＜課題＞

現在開催している文化事業に加えて、幅広く多彩なジャンルの文化芸術に触れてもらう機会を検討する。

ピアノリレー

＜ねらい＞

ピアノリレーを通じて老若男女を問わず、文化に親しむ機会を提供する。

公民館が身近な場所であることを知ってもらう機会とする。

＜状況・成果＞

GWピアノリレー（中止）

5/2　日曜日

4月より来館者に開催会場を飾る「こいのぼりぬりえ」を作成してもらいつつ、開催に向け準備をしたが、緊急事態宣言で開催中止となった。

しかし、36枚の「こいのぼりぬりえ」は御礼の意味も込めて、市の公式フェイスブック、ラインを通じて紹介した。

七夕ピアノリレー

7/4　日曜日　9時～16時　参加者13人　演奏者20人

会場の飾りには西幼稚園より万国旗を借入し6月の開館時より来館者に短冊を作成協力してもらい完成した七夕飾りを視聴覚室に施した。

サブテーマ「公民館に行こう」を掲げて3年が経った。気軽に演奏、練習出来ることを知ったリピーターもいる。立ち寄った年配の方より「幼少の頃、ピアノの練習を紙製の鍵盤でしました。グランドピアノが弾けてうれしいです。」と感慨深い話を聞き、続けることの大切さを再認した。

X'mas ピアノリレー

12/19　日曜日　9時～16時　参加者63人　演奏者21人

今回も小学校2年生から80歳代の参加者と幅広い層の参加があった。スタートは本市、職員によるピアノとエレクトーンとのセッション、家族に披露する発表会、お昼には貝塚少年少女合唱団によるミニコンサートを開催し花を添えた。また障害福祉施設の展示「にっこり展」を見学するために公民館に訪れていた障がい者の飛び入り参加もあった。

誰もが集う、弾く、歌う、聴く、そして参加者どうしがつながっていく公民館らしいピアノリレーとなった。

＜課題＞

歳時記を意識した開催で回数を増やす。

遊び隊（あそび隊・折り紙グループ）

＜ねらい＞

近郊の地域に出かけるボランティア活動を支援する。

次世代を担う人材育成。

＜状況・成果＞

登録メンバー24 人（あそび隊 20 人・折り紙グループ 4 人）

貝塚市内を中心に小学校・幼稚園・保育園・こども園・子育てグループ・介護施設・障がい者施設・公民館の講座事業などからの依頼で現地に出向き、子どもから高齢者までに幅広くおもちゃ作りや昔あそびを通して交流している。また、月に 1 度、中央公民館で定例会を設けスケジュールの調整、おもちゃ製作の勉強会、講座準備、材料作りなど隊員の交流や情報交換の場にもしている。コロナ禍で定例会に出席する隊員が半数以下でも顔を合わせ、互いの近況報告を行うなど前向きに活動に取り組んでいる。

今年度の活動（計 11 回）	
幼・保・こども園・小学校	2 回
公民館講座・グループ	8 回
施設・他市	1 回
地域・町会ほか	0 回

昨年度からコロナの影響で活動が減っているが、より多くの人に「遊び隊」を知ってもらいたいと 4 月下旬から 5 月中旬にかけて手作りおもちゃ、折り紙作品の展示を中央公民館ロビーで実施した。しかし、その後、緊急事態宣言による公民館の臨時休館延長を受け急遽、貝塚市役所本館 1 階のエレベーターホールに場所を変更して 6 月中旬まで展示を行った。期間中、隊員は何度も本館まで足を運び展示作品を直接手に取って見てもらいやすいよう試行錯誤していた。また、展示会場に足を運ぶのが難しい人にも見てもらえるよう、展示作品の様子をビデオ撮影するなど工夫し、本市フェイスブックやラインで配信した。本館で実施したことで市役所に立ち寄った際に足を止めて見てくれる人や、作品やチラシを手に取り遊び隊の活動に興味を示す人もいた。残念ながら新たな隊員獲得にはつながらなかったが、市民に幅広く「遊び隊」を知ってもらうきっかけとなった。

また、これまでの功績が認められ、社会教育関係の地域教育振興関係団体として大阪府教育委員会より令和 3 年度「文化の日」の教育功労表彰を受けた。また代表 3 人が市長を訪問し、表彰の報告をした様子が 1 月広報紙で取り上げられ、隊員のモチベーションもあがった。

隊員の高齢化が進むなかで、チラシや口コミ、またフェイスブック、ラインなどの SNS も活用しながら引き続き新たな隊員獲得のため、募集や宣伝を行っていく。

＜課題＞新たな遊び隊員の獲得。

遊び隊の歴史・・・遊び隊は「あそび隊」と「折り紙グループ」をあわせた総称。あそび隊は「つるかめ大学遊び隊」と公民館講座の「あそびボランティア養成講座」終了メンバーを中心に平成 20 年に発足。折り紙グループは平成 9 年につるかめ折り紙として結成し、平成 22 年中央公民館クラブ協議会に加入。その後あそび隊と共に活動していく中で平成 24 年に一緒に活動することとなり、その際に全体の総称を「遊び隊」とした。折り紙グループは、誰でも申込みなしで参加できる「オープン折り紙」事業を毎月第 3 土曜日に実施している。

保育ボランティア

＜ねらい＞

子育て中の親の学習機会を保障し、子どもにとって安心・安全かつより良い保育をめざす。

親の気持ちに寄り添い、親への支援を心がける。

＜現状・成果＞

定期登録 11 人　　不定期登録 5 人

令和 3 年 3 月末にボランティア登録の案内と保育付き講座の開催についての通知を送り、16 人のボランティアが登録した。

しかし、コロナ感染拡大による緊急事態宣言発出で、中央公民館では「おや子教室」が中止となったため、ボランティアの活動ができなかった。

その後も何度か相互の交流を図るため、ボランティアが集まる機会を持とうとしたが、コロナ感染拡大が続き、叶わなかった。

2/15、2/22、中央公民館講座室にて３館合同保育ボランティア養成講座を開催した。

本講座は現在ボランティアとして活動している人で養成講座未受講者も受講可能としたため、中央公民館に登録しているボランティア１人が受講した。受講したボランティアは「保育ボランティアのことをもっと勉強したい」と受講を申し込んだと言い、「保育付講座は親だけでなく子どもにとっても友達ができるという良いことがあると再認識させていただきました」との感想を寄せてくれた。

また、保育ボランティア養成講座申込者の中で、保育を申し込んだ人がいたため、当日は保育ボランティア数人に声をかけ保育の依頼をしていた。しかし、申込者がコロナ濃厚接触者となり、急遽受講を辞退したため、保育ボランティアの活動はできなかった。

＜課題＞

コロナ予防のための衛生対策の検討。

保育内容をより充実したものとするための企画や保育体制の検討。

日本語会話よみかき教室ボランティア

＜ねらい＞

日本語会話や読み書きが困難な人たちに対し、学習を支援する。

受講者が安心して生活できるようサポートするボランティアを養成する。

＜状況・成果＞

今年度の受講者は中央公民館（以下、中央）7 人、浜手地区公民館（以下、浜手）は 3 人、山手地区公民館（以下、山手）は 23 人で全員在住外国人である。対するボランティアは 3 館合わせて 19 人の登録で、中には中央と山手の教室を掛け持ちしているボランティアもいる。しかし、昨年度からコロナの影響もあり、家庭の事情や仕事を理由に活動を控えるボランティアが目立つようになった。

そのような中でも各館でグループラインを作成し、受講者の出席状況に応じてボランティア間でこまめに出欠を調整し、協力しながら活動に取り組んでいる。

また、講座実施日以外にも受講者の要望に応じて個別で対応している。例えば、家庭の事情で教室をお休みしている受講者をボランティア宅に招き学習を指導したり、一緒に料理やみかん狩りに出かけるなど交流も盛んに行っている。時には受講者の仕事や家庭の事情などプライベートな悩みに対しても親身に話を聞きアドバイスするなど日本語学習だけでなく受講者と深く関わり、信頼関係を築いている。

今年度は中央に 1 人、山手に 2 人のボランティアが新たに加わった。参加のきっかけはボランティアからの紹介や市の広報、ホームページを見て募集を知ったり、山手では今年度新たに加わったベトナム出身受講者の職場担当者が彼らの学習中、他の受講者の会話練習に入るなどボランティアとしても協力してくれている。

12 月には中央と浜手のボランティア、受講者合同で料理を行った。ボランティアが中心となり企画し、浜手の韓国出身者を講師としてチヂミづくりをした。普段は日本語を学ぶ側の受講者がボランティアや他の国の受講者に母国料理を通して文化、習慣などを教えている姿はとても生き生きしていた。

山手では 10 月にベトナム出身者が帰国することになり送別会を行った。夜間開講で受講者が教室に揃う時間にばらつきがあるため、料理を作ることは難しかったが、ボランティアと職場担当者が連絡を取り合い調整し、日本のお弁当を振舞った。また、12 月にはお楽しみ会を企画し、パネルゲームをボランティアが作成し、大変盛り上がった。

ボランティア向けの研修では、2 月に大阪府教育庁と共催で「大阪府識字・日本語教室サポート出前講座」を中央公民館で実施した。主に 3 館のボランティアと貝塚国際交流協会の学習支援者を対象に募集を行い計 7 人が参加した。大阪府教育庁の職員から入門・初級者向けの教材紹介をはじめ識字・日本語学習に関する情報提供などを 1 時間で実施してもらった。教材の活用方法等説明も分かりやすく今後の活動に役立てていきたいと好評だった。

＜課題＞

ボランティアが活動しやすい環境を整える。スキルアップにつながる研修の機会を設ける。

―人材養成事業―

ふれあい料理ボランティア

＜ねらい＞

障がい者が安心して活動できるようにボランティアのスキルアップを支援する。

受講者との交流を通して障がい者への理解を深める。

受講者が主体となる関わりを心がける。

＜状況・成果＞

7/30～3/25　金曜日　10 時半～12 時半　（全 9 回）　登録 15 人

昨年度 3 月に料理ボランティアと施設職員、公民館職員で 1 年間を振り返るミーティングを行い、施設職員から「マスク着用を嫌がる利用者が、講座に参加してマスクを着用するようになった」「拒食症の利用者が、作業をすることで食べられるようになった」との話があった。意見交換の中で若いボランティアが、「食の講座だと思っていたが、生活の改善につながっていると知り、これからはそういった面にも気をつかいながらボランティアを行いたい」との意見が聞かれた。3 つの立場でミーティングをもつことで障がい者理解が深まり、ボランティアにとって新たな気づきをもたらし意欲の向上へとつながった。

一方で、ボランティアの高齢化が顕著となり、病気で休む人が多くなった。今までレシピを担当していたボランティアが今年度から講座に入れたことで補うことはできたが、月によってはギリギリで講座を行う時もあった。

コロナが一旦沈静化した 11 月以降に、以前よりボランティアを希望していた 2 人を受け入れたことで人数の不足は解消されたが、やはり高齢化には変わりないので今後も新しいボランティアを募集し続ける必要がある。

講座準備の合間には若手のボランティアがベテランボランティアから調理の手順や“おばあちゃんの智恵”を教わっていた。「ここに来るととても勉強になり楽しい」と、関わることを楽しんでおり、知人を活動に誘いボランティアの輪を広げていた。

コロナ以降、「受け入れ施設を 2 つに分け半数にしたことでゆったりと講座を進めることができ、利用者にも落ち着いて接することができる」とボランティアたちはこの状態にすっかり慣れたようだ。

コロナ以前はどの施設も毎月受け入れ、たくさんの人に利用してもらうことを講座の意義に見出していたが、一人ひとりの様子を把握しながら関わることも大事だとの気づきも生まれた。ふれあい料理講座が何を大事にしていくのか再度確認しながら、ボランティアの結束力を高めていきたい。

先輩ボランティアに教わりながら料理の準備を進めています

＜課題＞

ボランティアの高齢化を見越して新たな会員を増やす。

新しいボランティアとの親交を図る機会をもつ。

講座の趣旨を確認しながら新年度に備える。

第６５回中央公民館まつり（中止）

＜ねらい＞

公民館と公民館を拠点に活動する団体が日頃の活動成果を発表する場。

公民館で活動する団体の交流と活性化につなげる。

公民館活動を広く地域の人々に知ってもらう。

＜状況・成果＞

開催予定　5/16 日曜日バザー　5/22 土曜日 5/23 日曜日

誰もが経験したことのない第 64 回中央公民館まつりの中止。

この苦い経験を踏まえ、第 65 回中央公民館まつり準備会の前段階としてコロナによる開催の是非も含んだ意見交換会を 9 月、10 月と 2 回持った。意見交換会には公民館を拠点とする団体、そして例年の中央公民館まつりに主軸となって動いてくれる団体に参集を依頼した。

チラシ（案）

意見交換会では第 65 回中央公民館まつり（※以後「まつり」と表記）開催の是非に始まり、まつりの意義、開催に伴うコロナ対策、さらに市庁舎建替え工事による会場のスペース問題などについて議論された。

2 回の意見交換会を経て開催された準備会においても議論をつくし、まつり実行委員会を開催した。実行委員会においても議論を重ね、まつり開催の承認を受け、動き出すことになった。

まつりテーマは「今こそ、新たな一歩を！With コロナの地域生活を共に築こう。」と参加団体の公募により決定した。役員会また各委員会においてもコロナ対策を含め苦心を重ね開催に向け動いた。

しかし、開催に向けあと一歩の 4 月、コロナの拡大は強まり貝塚市におけるイベント開催中止との行政判断が下った。2 年続けて「学びの発表の場、地域交流の場、団体交流の場」を失うことになった。

開催中止を受けた、最終のまつり役員会では各委員並びに各職員より今回のまつりについて感想（以下標記）を述べ合ったが各々の複雑な思いが垣間見えた。

・まつりは中止となったが、話し合ってきたことが公民館活動だと思う。どこかで発表できる場があればいいなと思う。

・コロナについてある程度覚悟していたがこの経験を次に活かしたい。

・せっかくやってきたことが、実現できなくて残念だ。

・今回は中止になったが、今後この経験を活かせたらいいと思う。

・はっきりと中止になり安心した。

・現状をみると中止は当然。

・会議の中でいろいろな意見が出た。それぞれの思いをみんなで話し合えて決めることができたことが良かった。

・今まで当たり前に出来ていたことが出来ないという経験をするとは思わなかった。
・発表などの映像をとって流してはどうかと思う。
・メンバーが高齢のため参加するのに抵抗が多い。
・当日、まつりに作品を持って行くのが不安という声があった。
・今一番大切なのは命を守ること。昨年、今年の経験を次に活かす。
・2 年続けて中止となり、やり残した感じがある。来年もどうなるか分からないがやり続けたい。
・開催を求めるの意見ではなく、高校生が会議に参加してくれていた、子ども達にとっては大人と違う時間が流れていると思う。今回しか無いという時間があった。そのような子（高校生）もいたということも心にとめていてほしい。
・来年も部会の代表をします。
・初めはのり気でなかったが会議でいろいろ話し合う中で頑張っていこうと思えた。
・コロナの中でも委員さんは会議に出席してくれた、たくさん話し合うことで「つながり」を感じた。
・ただ、次回を待つのではなく、何か出来ることを出来ればと思う。
・準備を進めてきたので残念。
・発表する場が昨年からなく今回も発表する場がなくなったことが残念。どこかで SNS・ユーチューブなども駆使して発表できる場があればと思う。

＜課題＞

コロナ対策を踏まえた開催運営。
貝塚市新庁舎整備事業に伴い、来年度のまつり規模・内容の考慮。
実行委員会がスムーズに運営できるための支援。

ロビー活用

＜ねらい＞

クラブや団体の発表の場（展示）、情報収集の場、コミュニケーションを図る場、憩の場等とし、市民がいつでも誰でも気軽に利用できるように整備する。

＜状況・成果＞

○居場所･コミュニケーションの場として

ロビーは活発に利用されており、昼間は主に雑談、ミーティング、休憩、昼食、クラブ前の自主練習などの場として、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の人が利用している。

部屋が満室の場合は会議などにも使われていることもある。

夕方からは受験勉強や中間期末テストに向けて学習をする中高生がやってきて本やノートを開く姿が見られた。コロナ禍でもあり、昨年より活発な活用はみられなかったが受験期が近づくにつれ利用が増した。ヘルスチェックシートの記入も定着し、学生側から窓口へ挨拶をする姿も見られた。職員と言葉を交わす機会もあり、学生にとっても地域の大人と接する場になっている。

団体名（内容）	期間
遊び隊	6/18～6/30
月曜絵画	7/26～8/6
個人展示（絵画）	8/7～8/15
貝塚ファミリー劇場	8/16～9/5
個人展示（割りばし細工）	9/10～9/16
貝塚市美術協会展	9/17～9/19
ろうの花（エコクラフトほか）	9/28～11/9
文化祭	11/1～3
木曜書道	11/11～11/25
彫金	11/19～12/3
にっこり展（障害者施設展示）	12/6～12/21
公立幼稚園作品展	12/22～1/16
貝塚市美術協会小作品展	1/16～1/30
水墨画（水墨画）	2/4～2/18
善兵衛ランド（天体写真）	2/28～3/14
浜手 水彩画光（三館展示交流）	3/15～4/5

○展示場所として

クラブや市民が自由に展示できる場として通路壁面やガラスケースが開放されており、多種多様な作品が年間を通じて展示されていた（右表参照）。クラブについては、市立貝塚病院への展示もあったがコロナ以降は休止となっている。

また、市内三館にあるクラブ協議会の交流を目的とし他公民館のクラブと展示交流を引き続き行った。

クラブ協議会主催の障がい者福祉施設利用者作品展（「にっこり展」）はコロナの影響を鑑み時期を遅らせた。

ちょうど貝塚市障害者福祉大会（以後、福祉大会）が開催されると知りそれに合わせて作品の展示を行った。

各施設は、5 年に一度開催される福祉大会に向けて作品を制作していたため、にっこり展に出展された作品は豊富で力作が勢ぞろいした。各施設の利用者、職員、家族や知人が多数鑑賞に訪れていた。

にっこり展は、今年度新たに 1 施設が加わり 9 施設が参加。力作揃いの作品に多くの人が足を止めた。

○情報収集の場として

様々な情報を提供する場として、公民館主催または共催講座事業のチラシ、市の広報や市内外の各種団体からのチラシを市民が自由に手に取れるよう配架している。また、クラブ協議会のお知らせなど、周知の場としても活用されている。男女共同参画をはじめとする人権啓発コーナーが設置されている。各団体や子育てサークルの PR ポスターなど手作りのポスターもあり、公民館が市民の居場所、集いの場であることが知らされている。

公立幼稚園・5 園の作品展。壁面いっぱいに貼られ冬休みに入ると親子で鑑賞された。

公民館ロビーは個人作品の展示も可能。わりばしで制作された建築物に感心して足を止める人が多かった。

2021 年度　三館展示交流

ろうの花 11/9～19(浜手へ)

月曜絵画 12/5～11/18(山手へ)

いけ花クラブ（浜手）→中央へ 2/4～10

水彩画光(浜手)→中央へ 3/6～4/5

山手地区公民館で展示された中央公民館クラブ月曜絵画の作品展。クラブ帰りの人たちが鑑賞中。

各クラブの作品が公民館ロビーを飾った。

＜課題＞

ロビー展示を市民だれもが利用できることのさらなる周知。

ロビー展示を利用者や市民の人に気軽にみてもらう工夫。

地域出前講座

＜ねらい＞

話題提供を行い、長生会や町会の活性化を図る。

地域の人に公民館を知ってもらう機会。

＜状況・成果＞

コロナの影響でここ 2 年ほど、どこの町会も活動が行われていなかった。10/25 に緊急事態宣言が解かれてからは次々と活動を再開させ公民館にも急な依頼が増えた。そのような状況下、12 月に 2 つの町へ出かけた。

詩人の上田假奈代さんと合作俳句を楽しむ小瀬町のみなさん

・12/11　（土曜日）10 時～12 時

小瀬町長生会 10 周年記念講演会　参加者 50 人

講師　上田假奈代（詩人、NPO 法人こえとことばとこころの部屋運営）

小瀬町長生会誕生 10 周年を記念して講演会を開催したいということで依頼があった。

つるかめ大学の講師として人気のある上田假奈代さんに登壇いただき、講話と合作俳句で約 2 時間講演してもらった。果たして合作俳句ができるのか、長生会会長は気を揉んでいたが、いざ始まると盛り上がり、久しぶりの会合に笑いが絶えなかった。

・12/19　（日曜日）10 時半～12 時

堤町老人会　参加者 30 人　　講師　千里亭だし吉（お笑い福祉士）

2 年前に企画されながら、コロナで中断されていた堤町老人会に訪問した。

緊急事態宣言解除後初めての催しとあって、老人会のみなさんを迎える女性スタッフもやや緊張した面持ちであった。男性の参加者が多く会場はいっぱいになったが、久しぶりの催しのためか全体に堅さを感じさせる雰囲気があった。じゃんけんゲームなどで緊張をほどき、雰囲気が和らいだところで千里亭だし吉さんが登場。落語と腹話術を楽しんでもらった。生の演芸を観る機会があまりないということで主催者側のスタッフもたいへん喜んでいた。

＜課題＞

新しい地域の開拓と新しいメニューの構築。

千里亭だし吉さんの落語で楽しんだ堤町老人会。

腹話術は高齢者に人気。

オンライン事業

＜ねらい＞

・ICT を活用しフレイルや認知症を予防。

・身体を動かすことで高齢者の不活発な状態を防ぐ。

① オンラインを活用した健康づくり教室

＜状況・成果＞

7/15　木曜日　10 時～12 時　受講者 41 人

対面 11 人/オンライン参加者 6 組（内 1 組は浜手シルバーライフ 22 人含む）

講師：今岡真和（大阪河崎リハビリテーション大学講師）

長引くコロナの行動制限で高齢者のフレイルや認知症の進行が心配された夏休み、オンラインを活用して高齢者の健康づくりがサポートできるのかを試験的に実践した。

直接公民館に足を運び対面で指導を受ける受講者もいたが、家からオンラインで体操を行う人をメインに講座を行った。

春から Zoom ミーティングを用いて練習を重ねていたためオンライン受講者は慣れた様子で大きなトラブルもなく講座を進めることができた。家から講座が受けられるということで、便利だという感想もあった。

オンラインの活用で、家から出にくい高齢者向けにアプローチができるのではないかとの期待ももたれた。ただ、スマホやオンラインを使いこなせる高齢者が少数なためにハードルは高いと言える。一定の効果を感じつつも今後に向けての取組みが必要だと実践から感じ取られた。

② オンラインを活用した落語体験

＜状況・成果＞

8/16　月曜日　13 時半～15 時　受講者 18 人(オンライン参加者 3 組)

協力　貝塚の知恵袋・大阪市立大学落語研究会

オンライン健康体操と同時期に「貝塚の知恵袋」から、オンラインで落語の体験会ができないかとの提案があった。貝塚の知恵袋は、大学の落語研究会とコラボレーションし、各町会の長生会を訪問していたが、コロナの流行で活動が途切れたということで、大学生と高齢者の双方が元気になる方法はないかと、オンライン落語を思いついたという。落語を演じる大学生が大学からオンラインで落語を披露し、公民館の会場に集まった高齢者が落語を鑑賞するという形だ。ちょうど夏休み期間中であるつるかめ大学の受講者に呼び掛け試験的に行うことにした。

大学生もオンラインで落語を演じるのが初めてとあって緊張をした面持ちで高座にあがっていた。演じ手は、客の反応がわからないということでより緊張が高まったと言い高座でとまどうシーンも見られた。やってみることでいろいろな気づきを得られるので、一度や二度でくじけず何度もオンラインでの講座にチャレンジして慣れることが求められる。

＜課題＞

講師、受講者ともにオンラインに慣れる機会が必要。

移動公民館「健康サロン」

＜ねらい＞

地域の町会館（自治会館）などを利用して「健康」をキーワードに地域コミュニティの活性化と「絆」を深める機会とする。

「公民館を地域へ」の足掛かり、公民館を知ってもらう機会とする。

公民館が地域を知るきっかけとする。

＜状況・成果＞

6 月～3 月（7 回）　延べ 69 人

10 年目を迎える「健康サロン」はコスモス市民講座のプログラムのひとつ「移動公民館～公民館があなたの町へ出かけます～」を利用した町会や団体からの依頼で実施している。

コロナのために、昨年度から町会・団体の活動自粛が続いた。

緊急事態宣言やまん延防止措置期間などの隙間で 6 月に加神町会で 1 回開催したが、通常のように軽体操後の茶話会はとりやめ、雑談もほとんどせず、即解散となった。

それでも町会の役員たちから「顔を見れて良かった。」「出てきてくれただけでも良かった。」との声を聞くことができた。

9 月にはいったんコロナの状況もおさまってきていると判断した町会から依頼があった。

感染者の数もかなり減ってきているので、会話を楽しむ時間も作られたが、コロナ前と比べると短い時間だった。そのような中でも「ふれあい喫茶」の再開に向けての取り組みなどを話し合っていた。

「健康サロン」で訪問することが「地域の活動の一役を担え、同時に公民館を知ってもらう機会となれば良いのでは。」とこの事業を続けている。

日	場所
6/26	加神さつき会
9/10	東山　いきいきクラブ　中止
10/8	東山　いきいきクラブ
10/23	加神さつき会
11/19	東山　いきいきクラブ
12/5	窪田　シャルマンフジ長生会
3/6	窪田　シャルマンフジ長生会

＜課題＞

地域の人たちが自分たちの活動を継続するための支援。

市政の情報提供。

【参考】ほかでもがんばっているよ　中央公民館クラブ協議会や団体の地域での活動

No.	月日	クラブ名	会　場	備　考（感想など）
1	7/24	遊び隊	中央公民館夏の子ども講座（総合体育館２階）	幼児から小学 4 年生までを対象に隊員が作ったつげさん自動車、飛行機で遊んでもらい好評だった。
2	7/25	遊び隊	プレーパーク　夏の巻	子ども達や子育てネットワークのお母さん達と遊びを通じて交流した。シャボン玉は大人気だった。
3	7/26	遊び隊	二色小学校仲良しホーム	約２年ぶりの派遣要請があり、折り紙グループを中心に６人で活動。動物の指人形は喜んでくれた。
4	7/29	遊び隊	木島西幼稚園	今年で閉園になる為、記念事業の「夕涼み会」でのおもちゃ作り、マジックの依頼を受け出かけた。
5	8/22	遊び隊	中央公民館夏の子ども講座（視聴覚室）	幼児から小学 4 年生までを対象に折り紙で金魚のモビール製作、サイコロルービック作りを行った。
6	9/6	月曜絵画	山手地区公民館	9/6～9/13 まで山手地区公民館にて三館展示交流の一環で応募し、展示を行った。
7	9/27	人形劇あひる	中央公民館子育て支援事業赤ちゃんルーム	エプロンシアター、人形劇、パネルシアターを公演した。1 才前後の赤ちゃんだったが、しっかりと観てくれた。
8	9/29	遊び隊	放課後子ども教室わとわ	ハロウィン祭りに折り紙のお化けやリースを飾りたいので作り方を教えてとの依頼で出かけた。
9	10/21	マジッククラブ	大阪府営二色の浜公園	南校区老人クラブ連合会に依頼を受けて、イベントにマジックで出演。皆さんに喜んでもらえた。
10	11/9	ろうの花	浜手地区公民館	11/9～11/19 までの 10 日間展示を行いました。ろうの花の作品を知ってもらう良い機会となった。
11	11/11	人形劇あひる	みらいずこども園泉大津市	とても楽しそうに鑑賞してくれた。特にパネルシアターの「かきのきマン」が喜んでもらえた。
12	11/12	人形劇あひる	貝塚市幼稚園こどもの集い（総合体育館）	子ども達も保護者もコロナを意識し控えめに笑ったり、歓声をあげて喜んでくれた。大好評だった。
13	11/21	遊び隊	プレーパーク　秋の巻	約 200 名の来場者があった。特に 5～10 才の子ども達で「弓矢」「風車」「ブンブンゴマ」を楽しんだ。
14	12/6	月曜絵画	山手地区公民館	12/6～12/17 まで山手地区公民館にて三館展示交流の一環で応募し、展示を行った。
15	12/11	人形劇あひる	泉南支援学校	とても楽しんでくれ、クリスマスの出しもの「ハンドベル」や「Xmas ソングに合わせて踊ろう」は喜んでいた。
16	12/23	人形劇あひる	中央こども園	とても喜んで観てくれた。特にクリスマスの踊りはのりのりだった。
17	12/27	遊び隊	中央公民館子育て支援事業赤ちゃんルーム	子育て中のお母さん達と「かざぐるま」作りをした。隊員によるマジックショーに皆、大喜びしていた。
18	1/11	遊び隊	浜手地区公民館新春あそびたい会	「ブンブンゴマ」「ストロートンボ」「ゴム銃」で子ども達とふれあい、親子で約 40 名の参加があった。
19	3/27	遊び隊	プレーパーク　春の巻	ブルーシートを広げ「コマ回し」「竹弓矢」「ヤットコ」「風車」「皿回し」などを子ども達と楽しんだ。
20				
21				
22				
23				
24				
25				

中央公民館クラブ協議会

＜ねらい＞

クラブ協議会が文化・学習活動を通して豊かな市民文化の基盤を形成する。

クラブ協議会の円滑な運営及び変革へのサポートをおこなう。

会員の相互交流と理解を図るために事業・研修をおこなう。

＜状況・成果＞　クラブ数 43　クラブ員数 457 人

今年度はコロナ禍での 4 月定期総会は開催できたものの、その後緊急事態宣言が発出され、6 月に予定していた定例会は 7 月に持ち越された。また緊急事態宣言中は開館時間の短縮もあり、長期にわたり夜間のクラブ活動ができなかった。しかしやっと協議会活動がスタートし、クラブ活動についてもほぼ通常の活動に戻り、活気を取り戻してきている。

レクリエーション部会は、9 月にボウリング大会開催を実施する方向ですすめていたが、コロナのため中止とし、再度 2 月に開催することですすめ、クラブ員も楽しみにしていたがコロナの急拡大となり中止を余儀なくされた。

地域担当研修部会は、例年開催している障害福祉施設の展示「にっこり展」を 5 年に一度の障害福祉課「障害福祉大会」にあわせ、12 月展示として開催した。また、クラブ協議会委員研修会については、パワーポイントの「クラブ協議会のしくみ」を活用し、3 月定例会後に新役員・新委員向けに実施した。コロナのため各クラブ 1 名としたため 47 人の参加ではあったが有意義な研修会となった。

広報部会では、協議会ニュース「泉のほとり」を今年度も 2 回の発行とした。発行回数を減らしたことで泉のほとりのクイズ景品数を増やすなど今回も工夫をした。また、活動記録「どらせな」の発行もおこなった。どらせな原稿についてはクラブ紹介に加え、コロナ禍で工夫していることや感じたことも書きこんでもらうよう依頼した。

「どらせな」発行にともない、クラブ協議会で昨年購入したパソコンを使用してクラブ員対象に研修会を開催したり、「どらせな」や「泉のほとり」の編集作業にも活用した。

コロナ禍でなかなか集まれない中、各担当職員は各部会の役員・部長に寄り添いながらアドバイスや作業を支援した。また、今年度もクラブの活性化を図るため毎回の定例会でクラブ体験講座の企画依頼をおこない、市の広報で呼びかけ、クラブ員獲得につなげた。

＜課題＞

クラブ協議会活動が円滑に進められ、協議会が活性化できるようなサポートをする。

クラブ協議会役員・委員の役割を明確化する。

―団体支援事業―

貝塚学習グループ連絡会

＜ねらい＞

連絡会全体の活性化を図る。

各グループが学んでいることをサポートする。

＜状況・成果＞

公民館で活動する学習グループが結集して学び、個々のグループの学習状況を報告し情報交換を行っている。昨年度、「スリーメイト」がメンバーの高齢化や家庭の事情などの理由で脱会したことで、今年度からは「あこーる♪」「第三土曜の会」の2グループで活動していくこととなった。

今年度、学習グループ連絡会（以下、学連）の代表は、ここ数年グループの脱退が続き、コロナ禍で活動が縮小していること、またメンバー外へ向けた発信もなく個々の月例会の活動のみとなっていることを課題とし、学連の今後の活動について各グループに投げかけた。

1月の「第三土曜の会」の月例会に学連代表も入り、まずはしっかりと今後の各グループと学連としての活動について一緒に話し合いの場を持ちたいとの提案をした。また、「学連のことを外に向けて発信するため、共に歩み寄り、何か一歩動き出しませんか」と合同での講座企画を持ちかけた。すると、早速2月に話し合いの場が持たれ、今後は4か月に1度グループ合同での会議をし、今後の活動について考えていくこととなった。一歩ずつではあるが前へと進み出している。

「あこーる」は女性メンバー7人で活動を行っている。月1回、お互いの近況報告や情報共有を行っている。今年度の主な活動としては「リレー・フォー・ライフジャパン2021泉州貝塚」の24時間オンライン開催に向けて動画作成などで啓発に取り組んだ。今年度はコロナのため講座開催はできなかったが、令和元年度に開催し好評であった「あなたの想いを描く文字　心書」の講座を2グループ合同での講座企画の一環で計画している。この講座を通してグループ内で学び合うだけでなく外へも広く発信し、「心書」をきっかけに学連の活動を知ってもらうことを期待している。

「第三土曜の会」は現在8人で活動している。10月には広報で活動を知った1人の女性が見学に来て加入につながった。新規加入者も「介護の合間に様々なテーマで学習したり、近況報告などを行うことでちょっとした息抜きにもなり楽しい」と語っていた。

今年度も発表・記録・司会の役割を決め、「貝塚市について」「SDGs（持続可能な開発目標）とは」などについて学習した。また、発足当初から毎月継続しているグループの会報「お元気ですか通信」は1月で第287号をむかえ、コロナ禍で活動ができない間も毎月継続されてきた。学習内容に加え、例会の報告、連絡事項をまとめ情報共有に努めている。

今年度も連絡会全体の交流の場である社会見学がコロナのため中止となり、グループ個々での活動が地道に行われた1年となった。

＜課題＞

各グループの連携強化。

新メンバーの募集により各グループの活性化を図る。

「あこーる」…1989年「公民館保育を考える会」として発足。中央公民館が現在のコスモスシアターに移転する際保育室の内容について提言した。2000年から現在の名称。

「第三土曜の会」…1985年に「働く女性の会」として発足。働く環境の問題から関連して女性史、女性問題について学習してきた。20～30年も活動しているメンバーもいる。現在は介護の問題や時事的な問題をメンバー持ち回りで担当し学習している。

貝塚ファミリー劇場

＜ねらい＞

「本物の舞台鑑賞やこども市などの様々な行事を通じて人と繋がるスキルや自主性を育て、生きる力を身に付けることを支援し、文化豊かなまちづくりを目指す」というファミリー劇場の理念達成を支援する。

＜状況・成果＞

コロナ禍においても貝塚ファミリー劇場メンバー（以下、メンバーと表記）は「子どもたちの生きる力を育むことや運営に携わることで親も子とともに成長を目指す」という強い理念のもと団結力・行動力を示した。

昨年のコロナ禍でも開催出来たイベントの経験を踏まえて、さらに公民館と協議を深め安全な運営に努めた。

コロナに対して今年度も会員、運営スタッフ、演者、関わる人すべての健康を守ることを最優先とした。

この様な状況下においてもメンバーは積極的に例会・イベントを組み立て、数多くの例会、季節を意識したファミリ―ひろば、キャンプなども開催した。

貝塚ファミリー劇場の運営スタイルはコロナ禍での他団体の運営・イベント開催の見本となった。

月/日	内容　参加者数　（場所）
4/17	第 36 回総会（中央公民館）
6/13	チャレンジキャンプ　23 人（水間公演）
6/27	第 132 例会（低学年向け）「ボクパグと金澤麻由子の絵本の世界展」108 人（コスモスシアター中ホール）
7/16	ファミリーひろば「お盆の習わし」8 人（事務所）
7/25	親子第 130 例会（低学年向け）「URASIMA～やぎのはなし～」63 人　（山手地区公民館）
8/7～8	親子キャンプ　13 人　（二色の浜公園）
9/5	中央公民館共催例会（全体向き）「新作！笑福亭鶴笑の爆笑寄席・SDG'S 落語「ゴミ怪獣」」　100 人（コスモスシアター小ホール）
10/19	ファミリ―ひろば「ハロウイン」9 人（事務所）
10/30	こども市　130 人　（中央公民館）
10/31	二色の浜ビーチクリーン 23 人
11/19	ファミリ―ひろば「七五三」8 人（事務所）
12/14	ファミリ―ひろば「クリスマス」11 人（事務所）
12/24	OUTDOOR CHRISTMAS　47 人　（青少年野外活動広場）
1/21	ファミリ―ひろば「バレンタイン」8 人（事務所）
1/23	第 133 例会（低学年向け）むかしばなし「こぶとりじいさん」84 人（コスモスシアター中ホール）
2/5	ファミリ―ひろば「ひなまつり」7 人（事務所）
3/6	貝塚市子育て支援課委託事業「ピアニカの魔術師」441 人　（コスモスシアター大ホール）

＜課題＞

芸術鑑賞だけにとどまらない活動の意義をいかに伝えるか。

―団体支援事業―

貝塚子育てネットワークの会

＜ねらい＞

会の円滑な運営に対しての助言。大人が育つ学習の場と環境づくりを提供。

＜状況・成果＞

新年度早々にコロナで休館し出鼻をくじかれた状態で、部長会や代表者会の交流を図れず１年の計画も立てられずのスタートとなった。

７月から始動することになったが、学校が夏休みに入る頃と重なり思うような活動には至らなかった。コロナで生活の変化を余儀なくされて仕事を始めるメンバーもおり、子育て、家庭、仕事に貝塚子育てネットワークの会（以下子育てネット）の活動と、どれも大事なこととして踏ん張る姿があった。

その状況下、年間を通じて「生活の中での優先順位をつける」「仕事との両立」などの声をよく耳にした。活動と生活の間で揺れ動く心に、幹部たちは、子育てネットの活動が社会に結びついていることを実感として捉える機会がなかったことだと振り返った。自分たちはなんのために活動をしているのか、活動する後ろ姿を子どもたちが見ていることに意味があることなどが語られる、夏と冬の研修会の大切さを改めて噛みしめた。

冬には乳幼児部会の振り返り座談会と、全体の研修会を行った。

2/17 に行われた全体研修は「私の生き方、これからの自分」と、まさしく今年度の課題をテーマに据え語り合った。コーディネーターの村田先生からはこのテーマに取り組むことがネットの大きな発展と言えること、活動を自分たちのものと理解してきたからこそコロナ禍でも集い、皆で考え話し合うことができたとの評価をもらった。今回のテーマについては、仕事か活動かのどちらかではなく１年に１度でも参加することを許容することができるかということも含めて活動の今後を考えるとよいとのアドバイスに、ホッとする参加者も多かった。

今後、仕事をもちながらの活動者が増える中、子育てネットの活動意義をどのように伝えていくのかが課題の焦点となってくる。コロナで子育てネットが重視している対面と対話に十分な時間が割けず意欲やモチベーションが保てなくなる場面もあったが、現在の苦しさを乗り越えて、楽しかったと言える活動にどうつなげていくのかが存続のカギとなっていく。人とのつながりと対話がこれからの活動を左右するだろう。

＜課題＞

後継者の育成と新たな担い手の発掘。

夏冬の研修会を開催し会を活性化する。

【主な取り組み】

・夏の研修会（コロナで見合わせ）・冬の研修会・代表者会議、部長会議（毎月）・中央公民館まつり（参画/21 年度中止）・公民館大会（参画）・公民館講座事業、地域活動、他団体への協力

乳幼児部会

7 月初旬、新体制となり最初の乳幼児部会会議が開かれた。昨年度の後退ムードから引き継いだ新メンバーは、春に予定していたサークル体験会が中止となり、何から手をつけてよいのかわからない中でのスタートとなった。乳幼児部会単体での活動は困難で園児部会との合体なども取り沙汰されていたが、いつしかそのような話題は消えていた。地道な話し合いの積み重ねと新部長が個々

の考えに寄り添い意見を尊重する姿が、周りに響き共感され、皆で支え合おうという機運が広がったためだと思われる。

4 月から 6 月の休館中も各サークルは戸外で活動を続けており、部長副部長間での連絡もとりあっていたため開館後は進めやすい雰囲気があった。

課題となっているサークル会員を増やすための活動は、個々に声をかけたり、「赤ちゃんルーム」への訪問などの広報に努め、秋には多くの親子で賑わうまでになった。

乳幼児部会としての活動はスローペースで進んでおり連続講座に関しては、今年度は断念するかと思われたが 12 月に「笑顔でいってらっしゃい」というタイトルで幼稚園に送り出す親としての心構えを公立園の園長から話を聴いた。学習の場を得たことで、「連続講座は大事だと感じ、次年度はやはり連続で学ぶべき」との強い意思も部長から示された。

2/24 には乳幼児部会だけの研修会が開かれ、現サークル代表がスピーチを行い、それを聞いてグループトークをするという内容であった。

サークルの枠を超えたつながりの中で運営され結束力を高めた 1 年間。その連帯の強さや信頼関係が育まれる様子が研修会でも語られ、グループトークでは前向きな発言が多かった。

平均所属が 2 年という短いサイクルでの運営を余儀なくされている乳幼児部会だが、関わる人によって、その年の意欲が左右される。部長たちは学びの大切さを伝えることの難しさを知りながらもどのように次へとバトンをつなぎ伝えていくかを模索する姿は今後も繰り返されることだろう。

＜課題＞

サークルで大事にしていることや学びの大切さを伝えること。

各サークルの会員を増やす工夫。

プログラム

テーマ「みんなで育てる楽しいつながり」　サークル体験会（前期 5/25・27 コロナのため中止し 9/28/30 に開催）・4 サークル合同アリサ上映会 7/30・8/26　・運動会 11/16　学習会 12/14（北野雅子園長）　乳幼児部会研修会 2/24

園児部会

今年は「Happy　Life　子育てシェア」をテーマとして活動がスタートした。昨年度から話し合いを継続させ、4 月には前期連続講座もほぼ決まり、後は講師と打合せをするだけだったが、コロナで計画していたすべての講座が中止となった。

開館と同時に会議を持ち、中止した 3 講座は秋に再度日程調整して開催することを決定した。

講座以外にも、野外で集まる機会をつくったり、コロナでも出来る事を探し実行してきた。7 月に行った野外炊飯で、部会の結束力が一気に高まったようで、会議中の発言はもとより講座の役割分担が以前よりもスムーズに決まった。

部会代表の 4 人が他部会の会議を見学したり、積極的に交流したりすることで、会議の進行や講座運営もうまくなり、徐々に代表以外も意見を述べたり、役割分担に手をあげるようになってきた。

―団体支援事業―
＜課題＞
保護者のニーズをくみ取り、他部会や一般参加者が受講しやすい講座の組み立て。
代表以外の部員が積極的に動き、代表だけに負担がかからないしくみ。

プログラム

5/20　講座「貝塚市の防災について」（中止）　5/28　講座「ヨガ～心と体を整える～」（中止）
6/11　トークシェアリング（中止）　9/30　講座「ＨＡＰＰＹ　ヨガ」　平山公子
10/21　講座「みんなで学ぶ防災講座」　危機管理室職員　11/25　トークシェアリング

小学生部会

「信じて見守る学童期」を年間テーマに掲げ、5 月に『オンライン授業』の不安や疑問について学ぶ講座を皮切りに 6 月は座談会、7 月には新学年への不安や期待を共有できるような講座を予定していたがコロナで全てが中止となった。

開館と同時に会議を持ち 7 月に講座を開催し、後期には 3 連続講座を開催した。

特に 9 月の講座では、既にタブレット学習が始まっていたので、親は詳しい状況を知ることができ、また具体的な質問をすることができ良かったとアンケートにあった。5 月に受講を予定していた申し込み者には､公民館から 9 月の講座開催について電話連絡をしたことで｢受講でき良かった｣との声も聞かれた。

講座以外でも夏は夕涼みと花火大会、秋の登山とコロナでも工夫し、部会としての活動を広げていた。

＜課題＞
保護者のニーズをくみ取り、他部会や一般参加者が受講しやすい講座の組み立て

プログラム

5/18　講座「おしえて！？貝塚市のタブレット学習」（中止）　6/11　座談会「ちょっと聞いて」（中止）
7/9　講座「学童期に大きく変わる心と体～親子関係の大切さ～」　木戸口光子
9/16　講座「おしえて！？貝塚市のタブレット学習」　学校教育課職員
10/29　講座「ギャングエイジって何だろう？」　代田盛一郎
11/11　座談会「みんなどうしてるの？こんなとき」
12/2　講座「子どもの個性の伸ばし方～ありのままを認めたい～」　朝日陽子

中高生部会

コロナに翻弄される学生生活、平時でも新学期は親も子も生活形態の変化に苦慮する。

小学校生活から中学校生活という大きな変化、受験・入学の準備を経て変化する新生活・新学期に臨む親子に対して、少しでも不安を取り除くことを目標に活動再開を図った。

続くコロナの影響により予定していた講座は延期となった。部会メンバーの情報交換を絶やさず、少しでも出来ることを探り活動を行なった。

まず、夏休みには「見守りスタディ」として夏休みの宿題、勉強を見ることで子ども達に寄り添った。コロナにより続く不安定な学校生活を乗り切る為の活動も考えた。

今年度のタイトル「どうなってるの？今どきの中高生」として、まず先輩お母さんの経験談を聴き現状にあわてることなく親として真摯に子どもと向かい合うことを再認識した。

昨年に続き、コロナ禍で臨む受験対策と進学校の情報を得るために講師を招いた。今回は現役の受験生も保護者と参加し講師と情報交換を行った。講師からのアドバイスを受けて受験生からは「受験、頑張ります。」との発言もあった。

また再開した後期講座では貝塚の学校教育現場の実態、先生方の対応の考え方を知り、保護者サイドからの一方通行的な考え方にならないようにも努めた。

後期の新しい取り組みとしてオンラインを利用して学生参加を予定し(録画放映に変更)、「今になっての親への思い」など当日参加の現役大学生の言葉にも耳をかたむけた。

12 月になり少しコロナが落ちつき外出の時間が増えだす学生生活の中で、親として油断なきように子ども達を取り巻く犯罪についても学習した。

昨年に続くコロナ禍でのスタートであったが、子育てネットのベテランと呼ぶにふさわしい前向きな活動であった。

＜課題＞

ネットメンバー以外の受講者参加を促す内容・宣伝の充実。

プログラム

7/2「どうなってるの？今どきの中高生 PART3～リアルな思春期の話～」講師:先輩お母さん
8/5「子どもに合った進路の見つけ方」講師：水野保　10/26「中学校ってどんなところ～小学校と中学校のちがい～」　11/22 座談会「コロナ禍の学生生活」　12/9「今どきの中高生～身近に忍び寄る危険～」講師：上西栄一（元学校相談員）

プレーパーク

今年度もゴールデンウィークのプレーパークはコロナで中止となった。その反動か夏のプレーパークには昨年の 2.5 倍以上の参加者でにぎわった。子どもたちの姿に遊び場という自由な空間、好きなことで遊べる時間、仲間と遊ぶことの楽しさなど、「3 つの間」が必要であると、プレーパークの存在意義を確認できた。今年度はコロナ禍でもあるため、チラシで広報することができなかった分、動画や SNS でアピールしたり、写真の展示を幼稚園でしてもらうなど、個々のメンバーが積極的に動いた。その成果が参加者数に反映されたものと見られた。

プレーパークの活動が子どもの成長に大事であると認識する一方で、運営の大変さや肉体的にも負担がかかることなどから運営への関わりに消極的になるメンバーも多い。子育ての当事者である自分たちが切り盛りすることの醍醐味とやりきる達成感と同時にしんどさも抱えていることは否めない。現在の運営メンバーがいかに後任を育てつなげていくのか。30 周年を 2 年後に控え気持ちもまとめていきたい時期にきている。

2020 年:GW 5/8、9(コロナのため中止)　夏 7/23～25　秋 11/20、21　春 2022/3/26～3/30

＜課題＞

プレーパークに関わる人員の確保。
プレーパーク事業を広く伝え参加してもらえる方法。
青少年野外広場の安全確認。

文化団体

＜ねらい＞

市民による多彩な文化活動について、団体それぞれの特徴が発揮され主体的な運営が進められるように働きかける。

各文化団体が公民館を拠点として活動する意義や役割についての理解を深めてもらう。

＜状況・成果＞

昨年度はコロナ感染拡大により、ほとんどの文化団体が主催事業の中止を余儀なくされ、団体の発表の場が失われてしまった。

今年度も 4 月に発出された緊急事態宣言により、貝塚市クラシック音楽家協会の「クラシックコンサート」は中止となった。

開催された各団体のイベントについては、コロナ対策のため人数を制限する、密を避けるため会場や開催方法を変更するなどの措置が取られた。

貝塚市民踊連盟の「第 37 回民踊まつり」は 5 月開催から 10 月開催に延期した。

コロナのため長期で活動ができなかったことにより、健康状態の悪化やモチベーションの低下で、民踊をやめる人が相次ぎ、構成団体の廃止や役員の辞退が増加した。「民踊まつり」当日の運営では人員不足のため、進行に支障をきたす場面もみられた。また、連盟の会計や規約の不備も明らかとなり、役員体制の刷新と新しい人材確保が喫緊の課題となっている。

貝塚美術協会の第 54 回美術協会展は絵画（油絵・水彩画）28 点・陶芸 3 点の芸術作品が出展された。展示場所はコロナ対策のため視聴覚室は使用せず、ロビー壁面とガラスケースのみとし、日程を例年より延長し、9/18（土）～9/26（日）までの 9 日間とした。小作品展示は 1/16（日）～1/30（日）、ロビー壁面とガラスケースで絵画（油絵・水彩画等）46 点・陶芸 7 点の芸術作品が展示された。

貝塚美術協会では、活動を広く PR し、協会員の拡大をはかるため、美術協会展に会員外の出展者を公募しようと計画しているが、コロナのため実現には至っていない。

美術協会展の準備については代表一人に負担を負わせているところもあり、協会員からは準備に役員がもっと関わるべきだという意見が出ている。来年以降開催方法等の見直しが必要である。

貝塚市日本民謡連合会の「2021 年民謡フェスティバル」は毎年中ホールで開催していたが、規模を縮小して、山手地区公民館ホールにて開催した。

貝塚市日本民謡連合会も民踊連盟と同様、コロナで長期にわたり練習ができず、休止している構成団体がある。民謡フェスティバル開催にあたっては、少ない人員のなかで、どのようなコロナ対策をとるべきか、役員が議論を重ね、ようやく開催の日を迎えた。

当日は一般客を入れず、出演者と関係者のみが観賞する形としたが、日頃の練習を発表する場を与えられ、出演者が喜ぶ姿が印象的であった。

貝塚市合唱連盟の「合唱フェスティバル」は出演者の密を避けるため会場を中ホールから大ホールに変更し、一般客は入れずに出演者が相互に観賞する形とした。

合唱フェスティバルの最初には、2019 年 12 月に逝去した合唱連盟顧問で、連盟設立にも尽力した宮本和侑氏を偲んで、熟年コーラス銀の貝を中心に有志のメンバーが宮本氏の作曲した「生命の

泉のほとりに」を合唱した。まだコロナで出演を躊躇している団体もいるが、役員は「何とか合唱フェスティバルを開催することができた、ホッとした」と胸をなでおろしていた。

貝塚市軽音楽連盟の「第 36 回ライトミュージックコンサート」は、昨年中ホールで開催したが、今年は通常どおり小ホールで開催した。

中ホールと異なり、小ホールではどうしても出演者と客席の間に十分な間隔が取れないため、コロナ感染対策として、客席との間にパーテーションを置くなど工夫を行った。

コンサートでは、昨年出演を見合わせた団体も今年は出演することができ、計 4 団体が出演して軽快かつ多彩な音楽で満席の会場を沸かせていた。

各団体ともコロナ禍により活動が停滞したことで、所属団体の休止・廃止などで会員の減少が顕著となっており、イベントの開催や運営に支障が出てきているところもある。未だコロナにより十分な活動ができていない会員がいるなか、安全安心な事業運営方法を模索しつつ、今後は各団体の体制の立て直しが急務となっている。

美術協会展

民謡フェスティバル

民踊まつり

合唱フェスティバル

ライトミュージックコンサート

団体名	事　　業	日　　時	場　　所	参加者
貝塚市民踊連盟	第 37 回市民民踊まつり	5/9（日）→10/3（日）	中ホール	100
貝塚市クラシック音楽家協会	クラシックコンサート	5/16（日） ※コロナの為中止	中ホール	―
貝塚美術協会	第 54 回美術協会展	9/18（土）～9/26（日）	ロビー	150
	小作品展	1/16（土）～1/30（日）	ロビー	―
貝塚市日本民謡連合会	2021 民謡フェスティバル	11/27（日）	山手地区公民館ホール	78
貝塚市合唱連盟	第 44 回貝塚市合唱フェスティバル	12/5（日）	大ホール	312
貝塚市軽音楽連盟	第 36 回ライトミュージックコンサート	2/20（日）	小ホール	76

＜課題＞各団体との連携を深めながら、協力して各団体の課題について検討し、解決法を考えていく。

貝　塚　市　立
浜　手　地　区　公　民　館

目　　次

■年間総括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 1
■講座・事業
◇　青少年対象事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　・・・・・・・・・・・・・浜 6
夏の子ども講座
コドモ防災塾
明るいおばけやしき（展示会）
子ども居場所事業（はまて子どもパーク・レッツ TRY・＋KOMINKAN）
新春あそびたい会
◇　子育て支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 13
子育てサロン☆ほっとスペース
パパサロン
げんきに子育て
◇　成人対象事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 17
ふれあい料理
シルバーライフ
シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催講座）
認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ（前期：高齢介護課共催講座）
カラダすっきり☆ストレッチ
映画会「プラスチックの海」（環境衛生課共催講座）
かしこく夜活（前期・後期）
茶歌舞伎　～お茶は日本のこころです～
楽酒もう　～すばらしい日本の文化～
笑って！認知症と介護予防
文化サロン～万葉集を学んでみよう～
◇　人権課題事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 29
気が付きすぎて疲れる気質 HSP 入門講座
◇　文化振興事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 30
人形劇
浜手　歌声サロン
浜手アフタヌーンコンサート
◇　人材養成事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 34
保育ボランティア
ふれあい料理ボランティア
図書整理・読み聞かせボランティア
浜手アフタヌーンコンサート企画委員
◇　地域連携事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 37
浜手ふれあいウイーク 2021（ふれあいまつり）
Autumn Jazz Concert
ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）
プレイルーム開放
第五中学校区地域教育協議会(すこやかネット)
パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）/二色校区福祉委員会
【参考】「ほかでもがんばっているよ」一覧表
◇　団体支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・浜 42
浜手地区公民館利用者連絡会

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

令和３年度　浜手地区公民館　事業総括

はじめに

今年度はコロナの影響で、やむなく休館の時期があった。一年を通じて感染予防に細心の注意を払い、できる内容とできる形態の協議を重ねながら慎重に講座・事業を展開した。また、三密が予測される場所ではパーテーションや空気清浄機を設置し、安心安全の確保に努めた。

人とのつながりやフレイル予防が重要なことを改めて認識できた年となり、浜手地区公民館では課題解決に向けた事業の展開に努めた。

１公民館主催事業

市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、市民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。

＜状況・成果＞

・講座事業において、受講者の声を講座内容に反映させ、開催においては感染予防に注意を払い、安易に中止とせずできる方法をさぐり、協議を重ねながら開催した。

・働く世代が参加しやすい夜間・土日での講座開催を行い、新規利用者の開拓につなげた。

・広報かいづか・ホームページ・フェイスブック等を活用し広報に努めるとともに事業終了後はこれらに加え壁新聞でも学習成果の報告に努めた。また地域の広報紙にも情報提供を行った。

＜課題＞

・引続き、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの発掘に努め、様々なツールで学習成果の共有をしていく。

・若年層と新規受講者の獲得に向けた事業を検討する。

・コロナ下においても出来る内容・可能な形態を協議しながら取り組む。

①　青少年対象事業

・子どもが公民館を利用しやすいよう環境を整えるとともに、夏休みや土日を利用して様々な体験ができる講座などを開催する。

・子どもが、企画・運営にも関わる事業に取り組み、主体性を育む。

・異世代・異年齢の人との交流できる機会を設ける。

・青少年の自主活動でも利用できることを広く知らせる。

＜状況・成果＞

・「夏の子ども講座」は、コロナ禍で来館での申込みを減らし、また時間外での申込みにも対応できるようメール申込みの受付を始めた。企画したすべての講座をコロナ禍でも中止せず、できる形で実施した。

・明るいおばけやしき作戦会議では、ボランティアと子どもたちでおばけやしきの作品を作成し、世代間交流の場となった。また当日の明るいおばけやしきでは、展示やおはなし会に取り組んだ。

・「コドモ防災塾」は、台風･災害をテーマにし、子どもたちの防災に対する意識向上の場となった。

・ロビーで集う子どもたちのため、玩具・卓球ラケットは、一回使うごとに消毒をし、コロナ感染防止に努めた。また、ソーシャルディスタンスを保つよう貼り紙や声をかけながら、子どもが安心して遊べるようにした。

・「+KOMINKAN」は、現在「レッツ TRY」と共に若い世代への周知に努めている。

・「新春あそびたい会」は、昔あそびや工作を通してボランティアとの世代間交流の場となった。

＜課題＞

・引き続き子どもたちが参加しやすく、安全な講座を開催するため内容と持ち方の検討を行う。

・青少年に伝わる広報の仕方について検討する。

②　子育て支援事業

・子育て世代対象の講座を企画し、学習・交流を通じて不安を解消し、孤立しないよう仲間づくりを進める。

・乳幼児親子の交流の場を設け、父親も含めた親同士の繋がりが広げられるよう工夫し取り組む。

・関係各課と連携して、子育てに対する幅広い支援を推進する。

＜状況・成果＞

・「子育てサロン☆ほっとスペース」は、造形あそびと子連れヨガを取り入れ、参加者が増加傾向にある。また備品をこまめに消毒し、コロナ感染拡大防止に努め、参加者の安心安全につなげた。

・「パパサロン」は、父親の育児参加と親子の絆を深める場となり、継続的に参加する親子に加え、新たな参加者もあった。

・「げんきに子育て」は、三館時期をずらして開催し、育児中の仲間と学び、子育て情報や交流の場となった。

＜課題＞

・コロナ下における子育ての不安を解消し、親子が安心して受講し子育てするなかで孤立しないような居場所づくりを行う。

③ 成人対象事業

・若者や働く世代が参加しやすい日時を考慮した単発講座などで受講者の拡大を図り、また講座修了後の学習及び集団作りに繋がるよう働きかける。

・より広範な市民が関心を持ち、新規受講（参加）者の開拓につながるような事業の、企画・開催に努める。

・受講者が講座運営に主体的に関われるよう配慮し、市民参画型の講座・事業を進める。

・地域課題の把握に努め、学んだ知識を日々の生活や地域の中で生かし、支え合う人間関係づくりができるような事業展開を図る。

・関係各課との連携で、事業内容を充実したものにしていく。

＜状況・成果＞

・「シルバーライフ」は、参加者同士のつながりのきっかけづくりとなり、講座終了後の学習及び集団づくりにつなげた。

・ふれあい料理は、食事を伴うため見合わせていたが、人数制限の上 12 月・1 月の 2 回開催。食事の際はパーテーションを設置し、終始コロナ感染防止対策に注意をはらい取り組んだ。

・「かしこく夜活」は、若者や働く世代が参加しやすい時間帯を考慮し夜間に実施、また若者が興味を抱く内容で開催した。

・「シニア世代の筋力アップ講座」及び「スマホでイキイキライフ」は、高齢介護課と共催で開催。高齢者の健康増進につなげ、またスマホに対する高齢者の意識の高さが伺えた。

・「からだスッキリ☆ストレッチ」は、3 期に分けて開催し、各期初めての人を優先し、新規受講者開拓に努めた。運動が苦手な人でも無理なく運動ができる機会となり、体を動かすきっかけとなった。

・映画会「プラスチックの海」は、環境衛生課と共催で取り組み、今後の環境問題を考えるきっかけづくりとなった。

・「茶歌舞伎」及び「楽酒もう」は、若年層を対象に身近な日本の食文化の促進となった。

・「はじめての Zoom サロン」は、コロナ禍でオンラインを活用した交流や会議が増え、これからの時代を見据えた講座と位置づけ取り組んだ。

・「笑って！認知症と介護予防」は、介護講座を数多く開催している人を講師に招いて開催。支え合う人間関係の気づきとなった。

・「文化サロン～万葉集を学んでみよう～」は、公民館という身近な場所で古典文化に触れる機会を提供し、新たなジャンルの講座開催により、利用拡大につなげた。

＜課題＞

・開催日時やテーマを工夫し、新規受講者の開拓に努める。

・高齢者が地域の中で生き生きと暮らせるよう講座・事業に取り組む。

④ 人権課題事業

・多様性社会への理解を広めるとともに、共生社会の課題を考える機会とする。

・人権を自身に引き寄せて身近にとらえられる講座の展開を検討する。

＜状況・成果＞

・「気が付きすぎて疲れる気質 HSP 入門講座」は、多様性への理解を深め、共生社会への理解のきっかけを目指し開催。受講者は HSP の概念を知り、また当事者として同じ悩みを持つ人たちと悩みを共有する機会となった。

＜課題＞

・人権については、テーマや切り口を変えながら、継続的に取り組むことが必要である。

・人権を身近に捉えられるようさまざま方法で人権学習の構築をする。

⑤ 文化振興事業

・発表や展示の場を提供し、利用者(市民)の文化活動の活性化を図るとともに、企画に携わる市民ボランティアの拡大など、市民参画の文化事業を推進する。

・今年度も気軽に立ち寄れるロビーを活用した催しを開催し、身近に芸術にふれる事が出来る機会を提供する。

・ホール等の活用で身近に生の文化芸術に触れる機会を設ける。

＜状況・成果＞

・「アフタヌーンコンサート」は、ピアノ・ジャズなど、音楽を通じて文化芸術に触れる機会を設ける

ことができた。参加人数の制限や事前申し込み制にするなどコロナ感染拡大防止対策に努めた。
・ロビーを活用し、公民館の利用案内・クラブ紹介を動画で流し、また公民館クラブや一般の人の作品も展示した。
・「歌声サロン」は、参加者自身がリクエストした曲を歌う参加型で、ピアノの生演奏にあわせて口ずさみ、また、歌を楽しむと共に、体に負担のかからない健康効果を図った。
・「人形劇」は、公民館クラブ「人形劇きしゃぽっぽ」の全面協力で行い、親と子が同じ時間を過ごしながら、人形劇を身近に触れる機会を設けた。

＜課題＞
・市民の新しいニーズ把握に努めるとともに、参加型の文化事業の継続も検討していく。

2　人材養成事業

・クラブやグループ活動の中から、主体的に活動を担う人材が育つよう助言や支援を行う。
・ボランティアの研修を実施し、ボランティア活動の充実・人員増を図るため周知する。
・公民館利用者の意識を高めるため、公民館に関する課題が認識できるような取り組みを企画・実施するとともにクラブ講師に対しても協力を求めていく。
・地域連携事業を通して、新たな人材の発掘・登用を図る。

＜状況・成果＞
・アフタヌーンコンサート企画委員会は、前回のコンサートの振り返りや、新規の出演者の発掘、近隣町会にチラシポスターの掲示を行った。また、コロナ感染症防止対策についても随時話しあった。
・保育ボランティア交流会を行う予定であったが、コロナ感染拡大のため中止となった。
・料理ボランティアでは、施設指導員・職員と打ち合わせを行い、今後の開催に向けコロナ感染症防止対策をはじめ、体制や調理内容見直しの話し合いを行った。
・各ボランティアの協力で、各講座・事業の活動が充実し、また世代間交流につなげた。

＜課題＞
・継続的にボランティアの人員拡大を図る。
・ボランティアの声も聞きながら、安心して講座運営に関わることができるよう支援する。

3　地域連携事業

・地域の団体や町会へ積極的に出向き、地域の課題やニーズの把握に努め事業に反映する。
・町会館・学校など身近な施設を利用し、普段公民館に来られない人も参加しやすくするよう考慮し、それを通じて地域の繋がりを広げるようにする。
・「ふれあいまつり」は、地域団体を含む参加団体で企画段階から話し合いながら広く地域住民への啓発・交流の場として取り組んでいく。

＜状況・成果＞
・パークタウン連絡協議会は6月から、防災専門委員会は7月から再開。盆踊りはコロナ感染拡大防止対策のため開催を中止した。また近隣地域の各種会議や防災訓練に職員が関わり、地域とつながりを持った。
・「Autumn Jazz Concert」は、二色小学校で行う予定であったが、学校施設の利用制限が出たため、会場を公民館ホールに急遽変更し開催した。
・「ふれあいまつり」は、「浜手ふれあいウイーク 2021」と題してクラブ発表会を開催。展示・舞台・映像での発表を行った。

＜課題＞
・コロナ下でも人とのつながりが希薄にならないよう地域と連携を図りながら取組んでいく。
・地域の状況やニーズに応じた事業を展開していく。

4　団体支援事業

・クラブやグループの状況把握に努め、会員拡大・活性化や新規クラブ化のために適切な支援をおこなう。
・各クラブの体験講座や地域活動等の取り組みを奨励し、活発に行えるよう支援するとともに、その活動状況・成果をパネル展示等で広く利用者・市民に紹介する。
・公民館活動の意義や重要性について啓発し、主体的な活動となるよう繰り返し働きかける。

＜状況・成果＞
・利用者団体代表者会議のかわりに、利用者連絡会定例会の中で、公民館についての利用者の認識を高め、自主活動の大切さ、また公民館活動の意義や公民館の使い方等について伝えた。
・クラブ活動の支援として広報等でクラブ案内とクラブ体験の紹介を行い、またロビーでもモニター

を利用しクラブ紹介を行った。

＜課題＞

・今後も公民館活動に対する認識が深まるよう働きかける。

・引き続きクラブ活動が維持できるよう支援していく。

≪主催講座・事業・共催事業≫

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	レッツ TRY		通年	－	－
	夏の子ども講座		7/26～8/7	8 回	94 人
	明るいおばけやしき作戦会議	10 人	7/26～8/20	4 回	29 人
	明るいおばけやしき		8/20	1 回	80 人
	コドモ防災塾	29 人	8/1・10	2 回	29 人
	＋KOMINKAN　（高校生・大学生の居場所）（5・6 月は中止）		4/18～3/27	10 回	15 人
	新春あそびたい会		1/11	1 回	38 人
子育て支援事業	子育てサロン☆ほっとスペース（4/27～6/15 は中止）		4/6～3/29	43 回	260 人
	パパサロン※5 月は中止	8 組 25 人	5/23～12/19	7 回	54 人
	げんきに子育て（保育付）公開講座含む	28 人	10/29～12/17	8 回	42 人
成人対象事業	シルバーライフ	28 人	6/24～12/2	17 回	370 人
	ふれあい料理講座(障がい者の料理講座)(4 月から 11 月、2 月から 3 月は中止)	38 人	12/13・1/17	2 回	59 人
	シニア世代の筋力アップ講座(高齢介護課共催講座)	20 人	6/29～7/20	4 回	73 人
	スマホでイキイキライフ(秋)(高齢介護課共催講座)	10 人	9/10～10/8	3 回	28 人
	スマホでイキイキライフ(冬)	10 人	1/14～28	3 回	29 人
	かしこく夜活（前期）	16 人	7/1～15	3 回	35 人
	かしこく夜活（後期）	17 人	1/13～2/17	5 回	68 人
	はじめての Zoom サロン（山手地区公民館共催）	25 人	7/5～12/13	18 回	50 人
	開催者になって Zoom 会議を開催してみよう(山手地区公民館共催)	①6 人 ②6 人	①10/11 ②1/17	2 回	
	カラダすっきり☆ストレッチ	①20 人 ②25 人 ③26 人	9/7～10/19 11/2～12/21 1/18～2/22	6 回 6 回 6 回	96 人 113 人 107 人
	映画会「プラスチックの海」(環境衛生課共催講座)		10/30	1 回	42 人
	茶歌舞伎		11/21	1 回	9 人
	楽酒もう		2/27	1 回	14 人
	笑って！認知症と介護予防		3/4	1 回	45 人
	文化サロン～万葉集を学んでみよう～		3/25	1 回	18 人
人権課題事業	気が付きすぎて疲れる気質　HSP 入門講座	24 人	1/24・31	2 回	43 人

文化振興事業	浜手アフタヌーンコンサート（8月は中止）		4/8～2/10	5回	354人
	人形劇		2/19	1回	18人
	浜手歌声サロン（高齢介護課共催講座）		3/20	1回	16人
人材養成事業	保育ボランティア	13人		8回	48人
	ふれあい料理ボランティア	12人		5回	48人
	アフコン企画委員会	6人		8回	39人
	図書整理・読み聞かせボランティア	2人			
地域連携事業	プレイルーム開放			17回	43人
	浜手ふれあいウイーク2021		10/23～29		500人
	Spring Jazz Concert　※注1				
	Autumn Jazz Concert		9/5	1回	48人
	ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）				
	第五中学校区地域教育協議会（すこやかネット）				
	パークタウン(連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会)/二色校区福祉委員会				
団体支援事業	浜手地区公民館利用者連絡会[29クラブ]	365人			
	利用者団体代表者会議				

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または、1回限りの事業（参加者数）は「延べ参加人数」欄に記載)、ボランティアにおいては「登録人数」

※注1は「新型コロナウィルス感染拡大防止のため開催中止」

―青少年対象事業―

夏の子ども講座

＜ねらい＞

子ども達が公民館クラブ・グループや地域の大人との交流、学年・学校を越えての交流を深め、様々な体験をする。また、講座協力を通してクラブや団体の活性化を図る。

＜状況・成果＞

7/26～8/7　受講者：延べ 94 人　8 講座　協力：8 団体

今年度の夏講座の企画受付期間が、緊急事態宣言中だった影響もあり、企画団体への声掛けは思うように進まなかった。これまで企画に参加してくれている団体へ呼びかけ、昨年夏休みを十分に過ごせなかった子どもたちのために、コロナ禍でも開催可能な夏講座への企画参加を申し入れたところ、8 団体が協力してくれた。

申込みは、窓口と往復ハガキに加え、今年度より窓口での混雑回避や日中公民館に来れない親が申込みしやすいように、二次元コード（メール）での受付を可能にした。メールでの受付けは、いくつか課題も出てきたが特に大きな問題はなかった。

密を避けるための対策で定員を絞って開催したことや、子ども達の感染も増えてきた時期と重なりコロナ禍以前の夏講座の賑わいは見られなかったが、親子や友達と一緒に申込みに来る子もいた。

毎年人気の卓球は、クラブ員からラケットの持ち方を教えてもらったり、大人の人とラリーが続いて楽しかったようだ。生け花では、クラブ員の協力によりたくさんの子ども達が生の花に触れいけ花を体験した。お弁当作りでは、感染症対策に厳しく注意を促し、食事を取る際も黙食だった。それでも子ども達は自分で作ったお弁当を家族に見せるために写真を撮る子もいて、出来上がったお弁当を満足げに食べていた。

今年の夏講座に参加した子ども達は、コロナ禍での過ごし方が身についているようで、講座に集中し静かに過ごしている様子が印象的だった。子ども達を見守る大人からは、この状況に胸を痛める声も多く聞かれた。

また申込みの際、小学生低学年の参加できる講座がほとんどなく、兄弟で参加できなくて困っている親子も複数いた。それも踏まえ、次年度は低学年でも参加できる講座や、コロナ対策で定員が絞られる内容については各団体 1 講座のみの企画という縛りを外すことも含め検討していく必要がある。食事を伴う講座については、コロナ対策にかかる費用負担についての課題も残った。子ども達のためには何とか開催したいが、コロナ禍で行っていいのか、どこまでできるか、どうやって行うかなど、例年では想定していなかった課題に企画団体・公民館共に頭を悩ませたが、参加者親子も含め無事に開催できたことに安堵した。

	講座【協力クラブ・グループ】	日・時間	対象／参加者
1	子ども卓球【卓球コロコロ】	7／26（月）	小学生（16 人）
2	夏休み習字　【火曜ﾍﾟﾝ習字・書道】	7／27（火）	小学 3～6 年生（7 人）
3	プリティかご　【はまて子どもパーク】	7／29（木）	小学 3～6 年生（12 人）
4	子ども生け花教室　【いけ花クラブ】	7／30（金）	小・中学生（29 人）
5	作ろう！自分のお弁当【貝塚地域活動栄養士会】	8／3（火）	小学 4～6 年生（6 人）
6	帽子を描こう【光水彩画クラブ】	8／3（火）	小学生（10 人）
7	手作りマスク　【3 丁目悠々】	8／5（木）	小学 3～6 年生（13 人）
8	二色囲碁こども講座　【二色囲碁ｸﾗﾌﾞ】	8／7（土）	小学 3 年～中学生（1 人）

【子どもの感想／クラブ・ボランティアの感想】

＜子ども卓球＞ 前より打てるようになって楽しかった。／参加した皆さんが喜んでくれて、お手伝い出来た事、嬉しく思いました。**＜夏休み習字＞** いつもはたのしくないんですけど、今日はたのしかった／１枚目と最後に書いた字では、別人かと思うほど上達し、大満足していました。**＜プリティかご＞** しかけやかざりを自由にはれたから楽しかった。／たのしくアイデアいっぱいで、いい作品が出来上がっていました。**＜子ども生け花教室＞** 友達もできたり、きれいなお花たちを入れたりしてたのしかった。／花を生けることが楽しかったみたいです。何回も参加してくれている子どもが多く、「楽しみだった」と言ってくれた。**＜作ろう！自分のお弁当＞** たくさん料理の作り方を知れたしとってもたのしかった。／人数が少なかったため、実習中ふざけたり無駄話をすることもなく、真面目に取り組んでいました。**＜帽子を描こう＞** 先生にいっぱい教えてもらったのがうれしかった。／好きな絵の教室で本当に集中しているから、あまり手がかからなかった。**＜手作りマスク＞** マスクをつくるのがたのしかった。／普段から手作りの好きな子どもたちのようでスムーズにでき、残りの時間を折紙で手裏剣を折りました。**＜夏休み子ども囲碁講座＞** 初めてだったけど、対けつして２回かってうれしかった。／１人だけだったが、たいへん楽しそうに受講してくれた。

＜課題＞

コロナ禍での開催についてクラブ・団体との丁寧な打ち合わせ。

たくさんの子ども達が参加できるように配慮する。

低学年が参加できる内容を、企画団体へ呼びかける。

子ども卓球

夏休み習字

プリティかご

子ども生け花教室

作ろう！自分のお弁当

帽子を描こう

手作りマスク

二色囲碁こども講座

―青少年対象事業―

コドモ防災塾

＜ねらい＞

おやこ・子どもたちに、防災・気象の知識を伝え、防災意識の高揚をはかり、災害への備えと発災時における身を守る行動を身につけてもらう。

＜状況・成果＞

本年は①台風を学ぼう　②災害から身を守ろう　の２部でおこなった。

①台風を学ぼう　8/1　日曜日　13 時～15 時　受講者：子ども２人、おとな２人

講師：柴谷一弘、（補助）下本英明　（(一社）日本気象予報士会関西支部　気象予報士）

はじめに台風の特徴や過去の台風による被害、台風の目や雲の写真などから台風に関する様々な事柄や現象についての講義。その後、講師が持参した実験道具を使い、空気の重さをはかる実験、ペットボトルに水を入れ、空気を圧縮して雲を作る実験や２本のペットボトルをつなぎ合わせて水を入れて渦を作る実験など、単に聞くだけではなく、実技的な要素を多く取り入れ、大変、わかりやすい講義であった。最後にはクイズ形式でおさらいして終了。終了後の質疑応答には、台風だけではなく気象や予報に関しての質問も積極的に飛び交い、丁寧でわかりやすい答えをもらうことができた。

夏休み最中の日曜日であったためか、または内容に興味がわかなかったのか、申込が少なかった。しかしながら参加者は皆、大変興深げに取り組み、少人数なりに盛り上った。

②災害から身を守ろう　8/10　火曜日　10 時～11 時半　受講者：子ども 19 人、おとな６人

講師：藤浦　淳　（(一財）防災教育推進普及協会　防災士）

前半はスライドを見ながら、台風や地震の被害について、さらに災害が起こったらどう行動すればいいか？被害を少しでも小さくするにはどう行動すればいいか？など、日々の備えの大切さなどの講義。後半では新聞紙を使ってのスリッパ作り、コップ作りなどを参加者全員、個々にやってみた。意外と簡単にできる事と、コップは使い方によっては簡易トイレの代用にもなること、さらに新聞紙は保温性がよく寒さもしのげることなども同時に教わった。

低学年生の参加が多く、前半はやや難しそうであったが、地域の話も織り交ぜわかりやすかったと感じられた。後半になると参加者は息を吹き返したように動き出したが、参加者数が予想以上に多く、工作ペースの個人差が多かったため講師は大変そうだった。大人も含めて皆熱心に工作に取り組み、概ね好評であった。

参加者のアンケートより

①台風のことがよくわかった。／じっけんができてよく学べました。／もっと天気予報のことや気象予報士のことをしりたいです。

②スリッパ作りがたのしかった。／しんぶんでなにかつくれるのがしらなかった。／新聞でコップを作ったりさいがいがおこったときのこわさや気をつけたらいいことをしれたから。

＜課題＞

開催日の設定や内容についての配慮が必要。

明るいおばけやしき（展示会）

＜ねらい＞

子どもや大人が工夫して作ったおばけを展示し、多くの人に楽しんでもらう。

子ども達が主体的に考え、制作できる場を作る。また、大人のボランティアと世代間交流をする。

＜状況・成果＞

（おばけの展示）8/20　金曜日　10 時～15 時　参加者：80 人

（おばけのお話会）同 10 時半～、11 時半～、13 時～、14 時～　参加者：40 人

（作品出展）参加者：1 グループ(4 人)、個人 4 人

昨年から引き続きコロナの影響があり、会場を暗くして子ども達がおばけ役などを担当する「おばけやしき」ではなく、展示を中心とした「明るいおばけやしき」を開催した。

昨年度は作戦会議ができなかったが今年度は実施し、子ども達が自分たちで作る物を考え、大人のボランティアと一緒に制作した。また、子どもから大人まで誰でも参加できる展示作品の募集も同時に行った。

「明るいおばけやしき」当日、新しい取り組みとして、展示会場の隣のプレイルームで「おばけのお話会」を実施し、おばけの紙芝居や絵本の読み聞かせを行った。

「明るいおばけやしき」展示会場の入場は一度に 20 人までとし、受付け時にお守りの札を渡して人数制限をした。子ども達のグループや、親子のグループなどが主に入場した。参加者から帰り際に感想を聞き取ったところ、「こわくなかった」「楽しくて何回も回った」「子どもが興奮して昨日眠れないぐらいに楽しみにしていた」などが聞かれた。中には怖がってなかなか会場に入れない子もいたが、何回も入場して楽しんでいる子もたくさん見受けられた。コロナで出かける機会が減っている子ども達にとって、本当に楽しみなイベントとなっていたようだ。

プレイルームでのお話会は、回ごとに職員とボランティアが交代で読み手を担当した。担当したボランティアは、ろうそく型ライトを立てて部屋を薄暗くするなど演出や読み方に工夫を凝らし、予定していた回のほかにも子ども達のリクエストを受けるなど大変好評だった。

作品出展は、個人の子ども 3 人のほかに地域の切り絵作家と公民館クラブ 1 つの参加があった。参加数は少ないが、地域の人や公民館クラブなどの協力で作られた展示となった。

【作戦会議】7/26・8/2・16　月曜日　13 時半～15 時、8/20　金曜日　9 時～10 時

メンバー：10 人　　ボランティア：6 人

ボランティア：5 人（打ち合わせ 7/19（月））

初回には自己紹介の後、過去のおばけやしきの制作物の写真や、おばけの工作の本などを見て、2 班に分かれて何を作るか話し合った。子ども達 10 人中 2 人は以前の「おばけやしき」や「おばけやしき作戦会議」に参加したことがあるとのことで、この経験者を中心に、おばけのトンネルや、子どもだけが入れる家、不気味な BGM を流すなど、いくつか案が出た。初めての子どもからはなかなか案が出てこない様子もあったが、ボランティアが一緒に考えていく中で徐々に意見を引き出し、ビリビリに破いた新聞紙とおばけの手を通路に敷き上を歩くようにするなど子どもならではの楽しい案が出て、その案を元にさっそく作業に取り掛かかった。

―青少年対象事業―

初回に班分けはしたが、2 回目からは欠席が出たり、友達に連れられて途中の回から参加する子がいたため、毎回集まったメンバーを 2 班に分けなおし、制作した。作戦会議で初めて会った子ども達同士で話す様子は少なかったが、子ども達が作りたい物をどう工夫したらできるかボランティアがアドバイスする形で子ども達とボランティアの世代間交流があり、どちらも楽しんで制作していた。

また、最終の作戦会議は本番前日の 8/19 に予定していたが、気象警報発令により変更し、当日 8/20 の 9 時に集まり、10 時の開始直前まで作品の最後の手直しと配置を行った。

展示会場の様子

おばけのお話会の様子

～作戦会議　子ども達のアンケートより～

（楽しかった）理由…

色々なものを考えてたくさん作れたからです。／おばけなどをいっしょにつくったから。／大好きな工作がたくさんできたから。／と中から入ったけどみんなも色々教えてくれたし、絵とか工作とかがとっても楽しかったなと思いました。

～ボランティアの感想～

今回は子どもが参加できてよかった。子どもが主体でするのが一番良い。／やりたいことが見つかれば熱心に取り組めるので、いかに興味をもたせるかが大切。／おとなしい子どもが多かったが、工作が好きなようで集中して取り組んでいた。／自発的でオリジナル発想。良かった。／発想が豊かで素晴らしいと思いました。

＜課題＞

感染症対策を考慮しながら、子ども達が地域の大人と関わり参加・活躍できる場、子ども達が楽しめる場を作る。

作戦会議で子ども達がもっと自分たちで意見を出し合いまとめられるよう、進め方を工夫する。

子ども居場所事業（はまて子どもパーク・レッツ TRY・＋KOMINKAN）

＜ねらい＞

ロビーを放課後や週末の子どもの安心安全な居場所として提供する。

中高生の自主的な活動を支援するために相談に応じ、交流できる場を提供する。

＜状況・成果＞

昨年度から継続しているマスクの着用、手指消毒やヘルスチェックシート提出等のコロナ対策に加え、新たに空気清浄機の設置やテーブルごとのパーテーションも充実した。ロビーに来る子どもたちは大半が小学校高学年から高校生のリピーターなので、コロナ対策についても定着し協力が得られている。

「はまて子どもパーク」（社会教育課主催の「放課後子ども教室」）は、昨年度末ボランティアが一人抜けたが、来れる人で交代しうまく当番をしている。低学年の子どもの参加が少なくなったのであそびの見守りが中心だが、それでも時々「折り紙を教えてほしい」等のリクエストがあり、その都度ボランティアたちは子どもの要望に応えながら活動している。市民課のサービスコーナーが撤去された分ロビーが明るく広くなり、そこに七夕の笹を飾り好評だった。またクリスマスツリーの飾りつけも華やかで、来館する人たちの目を楽しませてくれた。

夏ごろに地域の人から「興味のある子に将棋を教えたい」との相談があり、12 月から子どもパーク開催の曜日に合わせ週 1 回程度ロビーで将棋を教えてくれている。参加する子どもはまだ少ないが、何度も参加する姿が印象的だ。

中高生の自主的な活動を支える事業「レッツ TRY」の登録は今年度はなし。また昨年度より始めた高校生・大学生の居場所事業「＋KOMINKAN」の利用については、その日たまたまロビーに来た高校生に声をかけるとホールに上がり遊ぶという程度である。どちらも周知が必要だが、学業やアルバイトで忙しい学生も多く躊躇するところでもある。

子どもの居場所事業については、公民館へ足を運ぶ子どもの姿が少なくなっている現状もあるが、地域の大人と関わる良い機会となるので大事に続けていく必要がある。また「＋KOMINKAN」については、事業の周知や定着を目指し定期開催としたり、コロナの状況を見ながら内容を工夫していく。

＜課題＞

引き続き感染症対策を講じながら、誰もが安心・安全に過ごせる場を作る。

＋KOMINKAN について、開催方法や内容の充実。

七夕飾り

ロビーの様子（子どもパークと将棋）

新春あそびたい会

＜ねらい＞

子どもたちが地域のボランティアから昔遊びやおもちゃ作りを教わり交流を深める。昔遊びの伝承。異年齢・異世代との交流。

＜状況・成果＞

新春あそびたい会　1/11　火曜日　13 時半～15 時　参加者：38 人　遊びボランティア：26 人

遊びボランティア打ち合わせ　12/3　金曜日　14 時　遊びボランティア：10 人

子ども達が大人の遊びボランティア（以下、ボランティア）と一緒に昔遊びや工作をする新春あそびたい会を、3 学期の始業式の日の午後に開催した。ボランティアの募集は、今までに参加したことのある人への声かけを中心に行ったが、中には募集チラシを見たり経験者に誘われたりして、初めて参加してくれた人もいた。子どもたちへの事業の周知は、「広報かいづか」掲載と二色・西各小学校へのチラシ配布とポスター掲示で行った。

ボランティア打ち合わせでは、それぞれの担当の遊びや工作と使う部屋を決め、必要備品や材料、当日の流れを確認した。会場は昨年に引き続き感染症対策で密を避けるため、1 階の講座室や 2 階のホール・和室等を使用し、子どもたちが分散しつつ各会場を回れるようにスタンプラリーを実施した。スタンプラリーの景品は風船とした。

当日、1 階ロビーの受付で、子どもたちに首から下げられるスタンプラリーカードと、作品持ち帰り用のつげさん紙袋を渡し、カードと袋に名前を書いてもらった。受付け後開始時刻にホールで注意事項などの説明を行い、ボランティアからは遊びの紹介をしてもらった。

ホールでは、昔遊びのコマ回し・けん玉に加え、ボウリング、テーブルホッケー、坂道コロコロ、バルーンアートなど、2 階ロビーではビー玉とアルミホイルで作る恐竜のタマゴ、和室では百人一首や紙のおひな様作り、また 1 階講座室では牛乳パックキューブと、あそび隊による皿回しの工作などのコーナーが設けられた。コロナの影響で参加する子どもの人数が少なかったこともあり、開始直後は子どもが来ない所もあったが、分散して遊ぶように声かけをして、できるだけいろいろなコーナーに回ってもらうようにした。

バルーンアートは一度に何人もの子どもたちに教えるのが難しく、やりたい子どもたちの行列ができたので、今後も継続するなら整理券を使ったり、担当するボランティアを増やすことを検討する。今回は恒例だったまとあてに代わり、初めて参加するボランティアによるボウリングやテーブルホッケーがあり、子どもたちとボランティアが熱中して遊び、交流する姿が見られた。百人一首では子どもが自分たちで札を読んで遊んだり、けん玉ではできる子ができない子を教えたりして、子どもたち同士で遊びを進める頼もしい姿も見られた。

時間内に終われるよう、工作については 30 分前に受付を終了するように案内した。一部ぎりぎりまで制作したり遊んだりしていた子もいたが、全体としてはスムーズに終了し、子どもたちは「楽しかった」と口々に言い満足した様子で帰って行った。ボランティアも楽しんで子どもたちと関わり、「もっと昔遊びを子どもたちに伝えていきたい」など意欲ある意見が聞かれた。

＜課題＞

引き続き感染症対策をとりながら、異世代が交流できる開催方法を検討する。

子どもの参加できるとして、参加した子どもや保護者から要望が高く、夏の実施なども検討する。

子育てサロン☆ほっとスペース

＜ねらい＞

0 歳から未就園児親子の居場所・交流の場。

子どもの“あそび”について考える場。(子育てサロン de 造形あそび)

＜状況・成果＞

毎週火曜日（43 回） 10 時～12 時　参加者延べ 111 組（260 人）＊4/27～6/15 はコロナのため中止。

第 2・4 火曜日は、「子育てサロン de 造形あそび」、第 5 火曜日（11/30・3/29）は「子育てサロン de 子連れヨガ」（10 時半～11 時半　講師：MIKI）を開催。

昨年度コロナ下での生活を経て、小さな規模での居場所の必要性を感じた。そこで親子がいつでも気軽に、継続して参加できる場として今年度はサロンを毎週開催することにした。しばらくは昨年度からの参加者が引き続き利用していたが、4 月末に緊急事態宣言が発出され 2 か月弱公民館が休館となり、その期間を境に参加者の入れ替わりが見られた。

館が開けてからは 1 日 1 組の日もあったが、少しずつ人数が増え、新しい親子数組が継続して参加していたことで次第にお互いが顔見知りになり、子育ての話が弾み仲良くなる様子が伺えた。チラシを目にし、リトミッククラブや保育付き講座等、サロン以外にも公民館へ足を運ぶようになり、他の利用者から声をかけられることもあった。自分の母親以上年の離れた相手から話しかけられるわけだが、参加者はそんな世代を越えた人との関わりも含めて良い感想を述べてくれている。「ここがあって良かった」「公民館なしでは考えられない」という声も聞かれた。また、サロンが居場所としてだけでなく他の団体活動へつなぐ役割ともなっているので、引き続き自館も含め中央公民館の子育てサークルや子育ての NPO 団体等の紹介もしていく。

「造形あそび」の内容は、半年分をチラシに載せアピールしている。参加者はチラシを見て子どもに経験させたいあそびの日を選んでくる場合もある。サロンに来る子の年齢が 0 歳から未就園児までと幅広いので内容を考えるのが難しいところもあるが、その日の子どもの様子を見ながら進めていくことを大事にし、来年度も続けていきたい。

「子連れヨガ」は、今年度の参加者から提案があり急遽企画した。開催日を 11 月からの第 5 週目に設定したので今年度は 2 回だけの開催となったが、広報に載せた時点で問い合わせ・申し込みがあり、小さい子を連れた母親から関心があることがわかった。部屋の広さから定員を 6 組としたがそれ以上の申し込みがあったことや、「もっとしてほしい」という声があるので、来年度サロンの中でするか独立した講座として開催するかは考える必要がある。

造形あそびの内容	
4/13・・・ボールコロコロ	10/12・・・外あそび
4/27・・・しかけダンボール	10/26・・・外あそび
5/11・・・スタンプあそび	11/9・・・ｱﾙﾐﾎｲﾙをはがしてみよう
5/25・・・スポンジあそび	11/23・・・休み（休館日）
6/8・・・小麦粉ねんど	12/14・・・ひも通し
6//22・・・色水あそび	12/28・・・フリーサロン
7/13・・・水あそび	1/11・・・マラカス作り
7/27・・・片栗粉あそび	1/25・・・洗濯バサミで遊ぼう
8/10・・・フィンガーペインティング	2/8・・・積み木あそび
8/24・・・シールはがし	2/22・・・新聞紙あそび
9/14・・・野菜スタンプ	3/8・・・ラップの芯で遊ぼう
9/28・・・タンポ押し	3/22・・・小麦粉ねんど

＜課題＞

参加者は常に入れ替わりが予想されるので、内容の工夫や宣伝をしっかりと行う。

「子連れヨガ」については構成の再考。

―子育て支援事業―

パパサロン

＜ねらい＞

転居の多い地域性を考慮し、新しい参加者の取り込みと、継続した父親の仲間づくりをめざす。また、家族で参加できる機会を設け父親の参加を促す。

＜状況・成果＞

5 月～12 月　第 4 日曜日（10 月休講　12 月は第 3 日曜日） 10 時～12 時（11 月は 10 時～13 時）

全 7 回（うち 5 月はコロナのため中止）　参加者 8 組（25 人）　延べ 21 組（54 人）

月/日	内容	講師（協力）	参加組
5/23	カラフルてるてる坊主作り／畑づくり	相互／ パパサロンボランティア	―
6/27	たなばた飾り作り	相互	3 組 7 人
7/25	水遊び／トマトの収穫	相互	3 組 7 人
8/22	水遊び	相互／パパサロンボランティア	3 組 6 人
9/26	ダンボール工作～ままごと冷蔵庫を作ろう～ ／さつまいもの収穫	相互／パパサロンボランティア	3 組 8 人
11/28	【家族参加可】 古着を使って布ぞうり作り／やきいも作り	上野千賀子（まちのすぐれもの登録者）／ 相互	6 組 18 人
12/19	牛乳パックでサンタブーツを作ろう！	相互	3 組 8 人

昨年度同様、初回はコロナの影響で緊急事態宣言が発出され中止となり 6 月からスタートした。5 月に予定していた畑づくりはボランティアと職員で行い、夏と秋の収穫に備えた。今年は昨年より継続で参加している親子が兄弟や友人を誘って参加し、そこに新規の親子も加わった。兄弟で参加する親子も増え、今年度は子どもの年齢幅が 1 歳～6 歳児と広がり、上の子が下の子のサポートをする様子も伺えた。

感染症対策を考慮しながら、毎年好評の水あそびとダンボール工作、11 月の家族参加可の回にやきいもと、新たに SDGs の取り組みとして古着を使った布ぞうりづくり、また 8 月はこれまで開催していなかったが、帰省を控える家庭も増えているので水あそびを追加した。

今年度、親子の関心が高い内容を中心に企画したが、子どもの集中力が 1 時間程度で切れるため、子どもが自主的に遊べること（ソフト積み木遊び・お絵かき・水遊び用工作・タオル人形作り）など、飽きない工夫をした。パパ同士の交流は活発ではないものの、子どもと参加者の父親、子ども同士の交流を通じてパパ同士もつながりを持つことが出来た。

うどん打ちを希望する声もあったが、コロナの影響も考慮し食事を伴う内容は見送った。コロナ禍で外出を控える時期が長引いており、また今後も感染の波が続くと予想されるため、出来る形での開催を計画し、子育て中の父親と未就学児の居場所作りに寄与していく。さらに新規受講者の獲得に向け宣伝や講座内容を工夫していく。

＜課題＞

開催日時・内容、広報等の工夫。

げんきに子育て

＜ねらい＞

子育て仲間と一緒に学んで交流し、子育ての情報を学ぶ機会とする。

＜状況・成果＞

10/29～12/17　毎週金曜日 10 時～11 時半（全 8 回）受講者 2 人　延べ 42 人（公開講座および 1 回のみの受講者を含む）　保育 3 人（1 回のみの保育 3 人）

感染症に加え保育付講座の受講者がここ数年減少しているため、3 公民館の保育付講座の時期をずらして開催した（中央 6～7 月、山手 9～10 月、浜手 10～12 月）。また受講者の関心のある内容を 3 館で統一し、欠席した回は他館での受講が出来るようにした。

日時	内容（講師）	受講者
10/29	オリエンテーション・交流会（保育ボランティア）	2 人
11/5	入園までに知っておきたいこと（すくすく子育て応援隊）	2 人
11/12	【公開講座】アルパハープ演奏＆体験（瑞音　濱口富子）	15 人
11/19	エコクラフトで作るかご（中央公民館クラブ　ろう花）	4 人
11/26	【公開講座】ダイエットボクササイズ（いきいきのびのび健康づくり協会理事　梅本道代）	9 人
12/3	りらっくすできるアロマソープづくり（まちのすぐれもの登録者　上野千賀子）	6 人
12/10	話してみよう（保育ボランティア　堀麻美）	2 人
12/17	まとめ・保育ビデオ鑑賞	2 人

少人数での開催となったので、保育ボランティアや 1 日だけの参加の人も受講者に加わった。

初回の交流会は、保育ボランティアと受講者の自己紹介にゆっくり時間をかけ 2 回目以降の保育付講座の準備に備えた。

かご作りやアロマソープづくりの回は、その回のみの受講者も交え交流しながら作品作りに夢中になった。「話してみよう」の回で受講者から出た話の中で、自分の時間が持てていないことを実感していたこともあり、自分のための時間を久しぶりに過ごせたようだ。

定期受講者のみ参加の回は、交流が中心の内容で母親の悩みや普段の何気ない日常会話から、互いを知る良い機会となった。2 回の公開講座は、一般の受講者も一緒に参加してもらい、少人数での開催が難しい内容にも取り組むことが出来た。

最終回は、受講者親子と保育ボランティアが一緒に保育を受けている子ども達の映像を鑑賞し、保育ボランティアから子ども達の様子を伝えてもらった。受講者からは、「この講座を通じて子どもの成長や母親としても成長（子どもを誰かに見てもらう、自分の手から離れる訓練）の良い機会になった。また子どもと離れたいと思ったことはなかったが、自分の時間が持てることを楽しみに一週間を過ごした」と話してくれた。

受講者の減少は、講座情報が行き届いていない、子育て中の母親が行ける場所が増えている、母親の早期の仕事復帰、連続講座の受講が難しいなど要因は様々あるが、必要な人に情報が行き届くよう次年度以降も広報や講座運営の充実を図る。

【受講者の感想】

・二人で受けた講座でした。お友達がたくさんできるのも良いですが、少人数ならではのアットホームな雰囲気がとても心地よかったです。

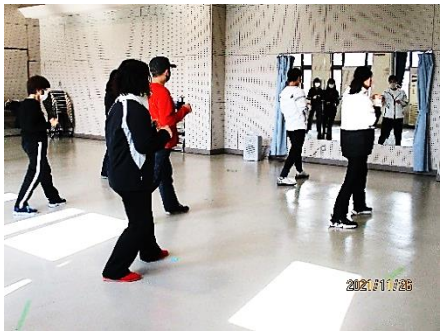
・ハープもボクササイズもクラフトもソープも全て初めてでしたが、全て面白かったです！！自分の趣味の時間を作るキッカケをもらえて感謝しています。

・保育してもらうことに初めは罪悪感がありましたが、子ども達も楽しそうで２回目からは私も楽しいに変

わっていきました。ボランティアのみなさんに大大大感謝です。
・色んな方と出会い話ができて、視野が広がり楽しかったです。自分のこと、まわりのことを見つめ直せて良い機会でした。子どもの成長も感じることができ、私自身も成長出来たように思いました。どの講座も楽しく、学びになりました。簡単な甘いスイーツを作ってお茶する講座も素敵だなと思いました。

＜課題＞

引き続き感染症対策を考慮し、3 公民館の保育付講座の講座運営や広報の充実を図る。



ダイエットボクササイズ

アロマソープづくり

保育ビデオ鑑賞会

ふれあい料理

＜ねらい＞

料理を通して障がい者の食の自立・社会参加の場を提供する。

受講者とボランティアの交流・育ちの場とする。

＜状況・成果＞

12/13～1/17　第 2 月曜日(12 月はクリスマス会)10 時半～12 時半(全 2 回)

受講者　延べ 59 人（内、指導員　延べ 10 人）※5～11 月及び 2・3 月はコロナのため中止

浜手地区公民館の「ふれあい料理」では、毎回、いぶき作業所・社会福祉法人どんまい・ワークサポートセンターらぱんの施設利用者が指導員とともに参加しており、ボランティアの手助けを得ながら、調理・配膳・片付けまでを行っている。

今年度も当初は 5 月から開催の予定であったが、コロナの感染拡大およびそれに伴う休館措置、開館後も続く会食の制限など、状況を判断し、12 月のクリスマス会からの開催とした。さらに 1 月は通常とおり開催したが、2・3 月は再び中止となり、結果的には 2 回となった。

12 月のクリスマス会については例年のような出し物や飾り付けは行わず、食事とボランティアによる紙芝居、なまえビンゴによるプレゼントのみとして開催。また、1 月からの開催にあたっても、調理・食事を内容とする講座のため細心の注意を払い、人数も 1 回あたり受講者 7 人と指導員 4 人、ボランティアが 4 人（一班）の計 15 人で実施。マスク着用・手指の消毒はもちろんのこと、密を避けるため、食事の際は隣席との間隔を空け対面の人との間にパーテーションを置くなどで対応した。

障がいの程度によって参加できる調理内容に違いはあるが、なるべく均等に参加できるよう心掛けて行った。また、メニューも標準的で、手の込んだことはしなくてもいいメニューを選んだ。

参加 3 施設ともに例年のような様々な行事が中止となり、受講者（施設利用者）の人たちはなおさら公民館に出かけること、調理し食事できることを楽しみにしていると聞き及ぶ中、状況の許す限り、例え変則的ではあっても講座が開催できること、続けることが必要であると再認識した。

月 日	メ　ニ　ュ　ー
12/13	ポテトグラタン・ロールパン・マカロニサラダ・具だくさんスープ・フルーツ、（唐揚げは購入）
1/17	ビビンバ・わかめスープ・フルーツヨーグルト
2/14	まぜごはん・豚汁・ほうれん草のおひたし・りんごとアイスのパフェ【中止】
3/14	クリームシチュー・マカロニサラダ・ロールパン・フルーツアイス【中止】

＜課題＞

次年度も感染症対策を常に念頭においた対応が必要になる。

新しいメニューや高騰傾向にある材料費への対応。

―成人対象事業―

シルバーライフ

＜ねらい＞

高齢者（65 歳以上）の居場所・仲間との絆づくりの場。

社会情勢などに目を向け関心をもつ場。

＜状況・成果＞

6/24～12/2（7/15～8/12・26 は休講）木曜日　10 時～12 時（全 17 回）　受講者 28 人

＊5/13～6/15 までコロナのため中止

昨年度と同様にコロナのためプログラムを変更・開講式を 1 ヵ月ほど延期し、ヘルスチェックや手指消毒、人との距離をとるなど感染症対策を行いながらの開催となった。異なる点はほとんどの人がコロナワクチン接種を済ませたことと、部屋の人数制限が少し緩和されたことで、昨年度のアンケートで要望の多かった“全員参加”で講座を行うことができた(昨年度は 2 班に分かれて参加)。

前期は、コロナで人と会う・交流することが制限された経験から、Zoom やラインを使ってのビデオ通話の体験や、感染症について学んだ。

Zoom 体験では、前半スマートフォン（以下、スマホ）を持っていない人でも参加できるよう 1 台のスマホ画面をテレビモニターに映し、見てもらった。後半は希望者が自分のスマホに Zoom のアプリをインストールする体験をしたが、希望者が予想以上に多く時間がとられた。スマホを持っていない人が少々飽きてしまうこともあったが、新しいことにチャレンジする・したいと思う人が多いことがわかった。また 7 月の「リモートで健康体操」にもつながった。Zoom に興味を持った人は、その後も講座「はじめての Zoom サロン」や「Zoom でしゃべり場」に積極的に参加している。

後期は、夏休みに班長に集まってもらい受講者のやりたいことについて意見交換し、その内容を組み込みプログラムを作成した。また近年注目されている SDGs（持続可能な開発目標）の視点を取り入れた講座を行った。

SDGs の講座では、まず SDGs とは何かを知るために“17 の開発目標”の話を聞き、日を変えて環境問題の 1 つであるプラスチックごみについて話し合う機会を設けた。座談会では、分別の方法がわからないという身近な質問から、プラスチックごみがうまくリサイクルされず、マイクロプラスチックとして海の中にたまっているという世界的な視点の問題までいろいろな話で盛り上がり、その講座で学んだ気づきをそれぞれ紙に書きだしてもらった。後日映画会「プラスチックの海」の上映ボランティアを募ったところ、有志 10 人が手を挙げ、みんなの気づきを展示パネルにし 10/30 の映画会「プラスチックの海」で参加者に見てもらえるよう掲示した。数日かけてプラスチックごみ問題を取り上げたことで一年間の感想では、「SDGs・プラスチックの海が一番印象に残った」と書く人が多かった。また、11/25 の「布ぞうり作り」は受講者の要望から企画したプログラムだが、着なくなった T シャツなどの古布を再利用し SDGs の一環として位置付けた。

前期にとったアンケートの中には、体を動かす体操や交流のための話し合いをしてほしいという声が多かった。話し合いの時間は前期にとれず気になっていたため、後期の最初に時間を設定することに決めた。後期 1 回目（6 回目）の「座談会＆交流会」では、ゲームを交えた自己紹介と「なぜシルバーライフに入ったのか」というテーマで班ごとに話し合った。座談会を進めていくうちに、過去の辛かった出来事を話す人もいて、それを周りが自分事のように聞く姿勢が見られたのが印象的であった。自身のことを話し受け止めてもらえる場・他人の意見を聞き共感し自分の生き方を見

つめ直す機会となったことで、受講者どうしの仲間意識が高まったようだ。その日は、「こんな話し合いの場を作ってくれてありがとう」「みんなの話を聞いて自分も頑張らなあかんと思った」と感想を述べてくれた人もいた。

この座談会をきっかけにして、受講者の中から自主活動を進める動きが出てきた。会の名を「百楽笑話会（ﾋｬｸﾗｸｼｮｳﾜｶｲ）」とし、中心メンバーがシルバーライフ受講者全員に手紙（アンケート）を出し、そのアンケートの声からそれぞれの「やりたいこと」を企画した。その内容は食事会や講師を招いての講義、グランドゴルフや展示会などさまざまで 11 月から月数回集まっている。昨年度まで職員が先導し講座が終わった 12 月から 4 月までの期間に行っていた自主活動は、今年度は百楽笑話会がそれに代わる活動となる。現在は運営費のことや来年度も継続するかなどの課題もあるが、百楽笑話会の活動を見守り、時に相談に乗りながら支援していく。

【2021 年度シルバーライフプログラム】

回	月日	内　　容	講　師
1	6/24	開講式	相互
2	7/1	Zoom 体験	花村奈々（踊るママ御殿講師）
3	7/8	ヤクルトｼｰﾙﾗﾘｰ①感染症から身を守るためには	近畿ヤクルト販売（株）
4	7/15	リモートで健康体操に参加しよう	今岡真和（大阪河﨑ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ大学）
5	8/19	ヤクルトｼｰﾙﾗﾘｰ②空容器で一輪挿しを作ろう	近畿ヤクルト販売（株）
6	9/2	交流会＆座談会	相互
7	9/9	SDGs って何？	中川知子（中央公民館職員）
8	9/16	ヤクルトｼｰﾙﾗﾘｰ③血管年齢測定	近畿ヤクルト販売（株）
9	9/30	ハイキング（水間寺）	相互
10	10/7	かんたん体操	おりいりか（ｶﾝﾄﾘｰﾀﾞﾝｽｸﾗﾌﾞ講師）
11	10/14	プラスチックごみについて考える＆座談会	相互
12	10/21	ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ・ラダーゲッター	ｽﾎﾟｰﾂ推進委員
13	10/28	映画会「プラスチックの海」準備会	相互
14	11/11	中国経済の話	町田昌弘（ｼﾙﾊﾞｰﾗｲﾌ受講者）
15	11/18	脳トレといすヨガ	津田美穂（まちのすぐれもの登録者）
16	11/25	布ぞうり作り	上野千賀子（まちのすぐれもの登録者）
	11/28	布ぞうり作り（補講）	上野千賀子（まちのすぐれもの登録者）
17	12/2	修了式	相互

＊Zoom とは、オンライン会議システムのことをさします。

【受講者の感想】

週一度皆さんとお会いすることとても楽しみです。いろんな行事に参加できて新しい発見があることも嬉しいです。／昨年は 2 つの班に分かれていたが今年は全員で行われたのがよかった。／家にいてはできないことも体験できました。考えることも（今まで気づかなかったこと）ありました。プラスチックのこと何とかしなければ。／シルバーでの友人と元気で過ごし話し合い苦楽を乗り越えられた方々と一時を過ごしました。今後も人生に参考になるような講座を。／改善点―みんなで考えてプランを…。

開講式

座談会

かんたん体操

＜課題＞コロナでプログラム変更を余儀なくされることもあるが、仲間作りのための座談会は前半で行い、その他にも話し合いの場を多くもてるよう再考する。

―成人対象事業―

シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催講座）

＜ねらい＞

筋力が低下しやすいシニア世代のフレイル（虚弱）予防・健康維持をめざす。

＜状況・成果＞

6/29・7/6・7/13・7/20　火曜日　全４回 13 時半～15 時　受講者 20 人

講師：梅本道代（Physical Heart® 代表　NPO 法人いきいき・のびのび健康づくり協会理事）

5/18 から全４回で開催を予定したが、緊急事態宣言の発出に伴い公民館が休館となったため、上記日程に延期し開催した。コロナ禍で筋力の低下を実感している人も多く、申込みは受付初日の早い段階で定員に達した。日程変更後もキャンセルする人はなく、人と人の間隔をあけること・消毒・換気・マスク着用など感染症対策を徹底し、講師や受講者の協力で無事に講座を開催することができた。

講座では、イスに座っての体操からはじまり、ヨガマットを使った腹筋運動や立って行うスクワット、水を入れたペットボトルをダンベル代わりに使って体側伸ばし、タオルを使ったストレッチや脳トレなど、息が上がるような運動はしていないが、気づけば普段使わない筋肉にも刺激を与えしっかり運動できたようだ。また、日常生活で出くわす身体のトラブルの事例を交えて、次の運動に移る前には体のどの機能に働きかけるのか解りやすく説明してくれ、運動の必要性を実感しながら行うことができた。

日程を延期した分、間隔を短くし週１回になったことがかえって筋力回復・習慣につながったようだ。はじめは沈んだ表情をしている人が多かったが、講師の元気な掛け声に誘導され講座終了後は身体も脳も活性化し、足取りも軽く明るい表情が戻っていた。

体操の講座はコロナ禍での要望が高く、受講できない人も多い一方、日程のほとんどを欠席している受講者も複数いた。当日体調が悪くなったり、急用ができたなど事情があって欠席することもあるので、欠席や受講辞退の連絡があればキャンセル待ちの人を受け入れるなど、一人でも希望者が受講できる環境を整えていきたい。

―受講者の感想―

とても楽しく受講させていただきました、1 時間半も? っと思いましたが、時間が経つのが早く感じました。また、受講したいと思いました。先生、ありがとうございました。／大変良かった。体も柔軟になった。講座の日は、よく眠れた。／先生はたのしくよかったです。日頃の運動不足がよくわかりました。ウォーキングだけでは足りませんネ!毎週はとてもよかったです。／筋力アップやってみて、自分がどれだけ筋力がないのかよくわかりました。梅本先生教えていただいてよかった。やさしい先生でした。／受講後の体がスッキリ軽くなったように思いました。足腰の調子もよくなって、家でも教わったことを思い出して実行しています。楽しかったです。／先生お世話になりありがとうございました。簡単で家でも出来る様なのが全然しなくて皆さんと一緒で楽しくすると時間の経つのも早くとても良い時間を過ごさせていただきました。毎週なので体が軽くなった様に思います。

＜課題＞

多くの人が受講できるように、開催方法を検討。

認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ（前期：高齢介護課共催講座）

＜ねらい＞

スマートフォン（以下スマホ）を活用し、生活に役立つ情報や人とのつながりを得ることで認知症予防につなげる。

＜状況・成果＞

【前期】9/10・24・10/8　金曜日　10 時～11 時半（全 3 回）　受講者 10 人

講師：坂口　耕平（パソコン教室「らいく」専任講師）

高齢者のほとんどがスマホを持つ時代。公民館に来て、買い換えたスマホを見せてくれる人やスマホの使い方を職員に聞く人も多くなったことで、市民の関心のあるスマホ講座を高齢介護課と山手地区公民館、講師と共に企画した。

事前の話し合いの中で、スマホの機種やバージョンの違い、内容のレベルをどこに置くか、受講者人数の制限、スタッフの確保など留意点がいくつか出てきた。結果 android のバージョン 7 以降のスマホに限定し、はじめてスマホを使う人が安心して講座を受ける事ができるよう初心者向けの内容で定員を 10 人とした。講師となるパソコン教室「らいく」は、当日受講者が持参したスマホが使えないという“もしもの時”のために代わりのスマホを用意してくれた。また、高齢介護課は、講座初日にスタッフとして 2 人来てくれた。

いろいろと制限されることはあったが、募集が始まると定員の 3 倍の申し込みがあり市民からの要望が高いことを再確認した。ただ、申込者のレベルについては講座前に把握することが難しく、受講者の 1 人は内容に物足りなさを感じたようで、初日受けた後辞退した。他の受講者の中にもその傾向が見られる時があり、すでに使いこなしているアプリ内容の日もあったが、「知らなかったこともあって勉強になった」と話してくれた。

【後期】1/14・21・28　金曜日　10 時～11 時半（全 3 回）　受講者 10 人

山手開催時や浜手前期に抽選で外れた人を救い上げる措置として後期にも開催。講師や内容は前期と同じで浜手地区公民館の主催講座として行った。高齢介護課からのスタッフ確保が見込めないため、前期の受講者 2 人に声をかけ、ボランティアとして関わってもらった。

前期からの改善点はチラシにどのアプリを使って学ぶのか具体的に載せたことで、受講者はある程度内容やレベルを把握して申し込め、「これを教えてほしいから参加した」という声もあった。

はじめての人を対象に募集したがやはり今回も申込者が多く（25 人）抽選となり、2 回とも受講できなかった人からは落胆の声が聞かれた。「来年まで待てないわ」という声や、1 度受講した人からも「何度でも受けたい」「わからないところをもっと気軽に聞けたらいい」等の意見があった。

【受講者の感想】

- **本当に何も知らないのに、あきれることなく親切にしていただきうれしかったです。また補助に入ってくれていた方々も親切でした。**
- **わかりやすく基礎的なことが少々わかりました。少し興味が湧いてきました。**
- **グーグルでの検索をよくするようになった。**

＜課題＞

受講希望者が多く、同じ内容で開催する必要がある。

―成人対象事業―

カラダすっきり☆ストレッチ

＜ねらい＞

感染症で自粛が続くなか、高齢者にはフレイル予防と、若い世代にも軽い運動を定期的に行なえる機会を持つ。

＜状況・成果＞

第１期　9/7、 9/14、9/21、10/5、10/12、10/19　火曜日 10 時～11 時 全６回　受講者 20 人

第２期　11/2、11/9、11/16、12/7、12/14、12/21 火曜日 10 時～11 時 全６回　受講者 25 人

第３期　1/18、1/25、2/1、2/8、2/15、2/22　　火曜日 10 時～11 時 全６回　受講者 26 人

講師：第１期　野尻広美、第２期　渡邊淳子、第３期　MIKI

コロナ下で身体を動かす機会が減っている中、特に低体力者や運動の苦手な人でも無理なく運動できる内容で計画した。継続的な運動につなげるため 6 回講座を 1～3 期に分けて開催し、また出来る限り多くの希望者が参加できるよう２期および３期は初めての人を優先して募集をした。2 期、3 期ともに初めての人でほぼ定員に達したので、2 期以降は受講者が欠席する場合は連絡をもらい、キャンセル待ちの人に参加してもらうように案内した。その結果、キャンセル待ちの数人は数回受講が可能となった。

第１期は講師が持参した体操用のボールを使って行った。2 回目以降は、早く来た人からボールに座ってウォーミングアップを行い、太ももや尻、内股などの普段使わない筋肉に働きかける運動を行った。第２期は、無理な運動をするのではなく歪んだ体を元に戻すためのコンディショニングを中心に行ない、地味な体操ながらも終わった後の体の変化を味わった。第３期は、感染症第６波が広がり前半はイスを使った体操を中心に基礎的な運動を行い、後半は徐々に中くらいの強度のポーズも取り入れながら家でも継続できる運動を中心に行なった。

コロナ下で体力低下を実感している人も多く、講座終了後のアンケートでも継続の要望が多かったので、クラブへの案内に加え第２期の講師と相談し来年度グループ活動への希望調査と提案を行った。また、一人でも多くの人が受講できる工夫をしながら継続的な開催を行っていく必要性を感じた。

【第１期　受講者の感想】非常に内容が深く、コロナによる自粛生活も続く中で、運動不足を解消する時期を得た良い講座であった。ボールを使用してのストレッチは、初めてで大変新鮮であるとともに、手を抜けない中身の濃いストレッチで、60 分で充分に満足できる内容でした。

【第２期　受講者の感想】本当！ダルーって思っていましたが、腰がすごく楽になりました。／とても良かったです。身体の使い方が大切だと思いました。／とても今の自分に合った体操で良かったです。

【第３期　受講者の感想】息子と参加出来てとてもたのしかったです。その日はすごくスッキリして楽にすごせました。／説明が上手で参加出来てよかったです。ありがとうございました。／冬期は家に引きこもりがち。週１回でも公民館へ徒歩と１時間のストレッチで活力がでました。

＜課題＞

継続参加希望者のクラブ化への移行。

参加希望者が多いため一人でも多くの人が受講できる工夫。

高齢者の健康維持につながる講座の充実。

映画会「プラスチックの海」（環境衛生課共催講座）

＜ねらい＞

環境問題という広く市民の関心がある内容を取り上げ、新規参加者の開拓を目指す。

公民館利用者が講座運営に関わる機会の提供。

＜状況・成果＞

10/30　土曜日　10 時～12 時　参加者 42 人

協力：シルバーライフ受講者 10 人

貝塚市が掲げる「かいづかプラスチックごみゼロ宣言」を広く市民に伝える機会として映画会を企画し環境衛生課に提案した結果、共催事業として開催する事になった。環境衛生課からは、ごみゼロ宣言の展示パネルや紙袋が出され、当日映画の前段では環境問題について専門的な観点からの話をしてもらった。また、今年度は並行してシルバーライフで SDGs について学びプラスチックごみについて考える機会を設けたので、その受講者 10 人が展示パネルを作成し、当日は司会や受付などの運営に協力した。

参加者は思ったより少なかったが、環境について関心のある人からの申し込みが多く、普段は浜手地区公民館へ来ない人が来館するなど新規参加者獲得については一定の成果があった。また、マイクロプラスチック問題が世界的にも関心が高まっている時期だけに、「映画会当日は行けないが、映画の内容が知りたい」「地域で上映会ができないか」という相談もあり、今後の広がりを期待する。さらに、他のテーマでも映画会をしてほしいというアンケートの声もあるので次年度以降で考えていく。

残念だったのは、字幕映画のため文字を目で追うことが難しく、わかりにくかった人や途中で退室した小学生親子がいたことである。今後映画会開催を考える時には、吹き替え版の映画を選択する等の配慮がいる。（ただこの上映会からおよそ 2 か月後に宣材会社では吹き替え短編 DVD が出されている。）

【参加者の感想】

プラスチックのリサイクル、海洋汚染、しっかりと考えさせられた。感動しました。/お散歩で二色の浜に足をのばすと海岸にあふれるゴミに心を痛めていました。この映画の内容に興味があり参加しました。/私たちが暮らす地球、大半を占める海洋、ゴミをなくしすばらしい環境をとり戻したいと、生活にとり入れたいと思いました！/海の生き物や陸の生き物を助けようと思って行動に移しているところがすごいと思った。/日本語でないとわかりにくい。

映画会の後も約 2 週間、プラスチックごみについての展示を行った。

＜課題＞

市民のニーズを拾いさまざまなテーマで講座を企画するが、映画会を開催する場合は、日本語吹き替えであるか等の確認も必要。

―成人対象事業―

かしこく夜活（前期）

＜ねらい＞

日中仕事をしている人など、比較的若い世代の人に公民館を利用してもらうきっかけとする。

＜状況・成果＞

7/1、7/8　木曜日 18 時半～20 時、7/15　木曜日　19 時～20 時半　受講者 16 人

若い世代や、日中は仕事等で公民館に来られない人にももっと公民館を利用してもらいたいという思いから企画した。内容は、比較的若い世代が関心を持つもので、趣味的なものと学びを得るものの両方を入れること、また、性別問わず参加できるものを考え、全 3 回、各回違う内容を組んだ。

1 回目の発酵食品の回は、甘麹作りのデモンストレーションと、発酵や薬膳についてのお話、薬膳茶を飲む内容だった。参加者の関心が高く活発に質問も出て、前のめりに受講している様子が見て取れた。

2 回目のコミュニケーション術は、話し手が情報を確実に伝えなかったり、聞き手も確実に聞き取らないミスコミュニケーションによる夫婦喧嘩の例などを話してくれ、また 2 人 1 組のワークもあり、楽しく学びを得ることができた。講座終了後に、職場でのコミュニケーションについて講師に相談したいという受講者もいたが、コロナで 20 時閉館になっていたこともあり、質問や相談の時間がなかった。

3 回目のレザークラフトは、時間が限られることから、材料の革を切ったり穴を開けたりする作業は講師が全て準備してくれた。スマホケース、ペンケースまたはカード入れの中から 1 つを選んで作り、平行してキーホルダーの色付けも行った。実用的でおしゃれな作品が 2 つでき、受講者は喜んでいた。

受講者 16 人中男性は 1 人だった。受講者の約半分が仕事現役世代で、夜の時間帯だから参加できた、初めて公民館に来たという人もいて、今まで公民館に縁遠かった人に来てもらえ、一定の効果はあったかと思う。

また今回、コロナで閉館時間が早まり受講者同士が話をする機会を持てなかったので、3 回の講座終了後、オンライン会議システム Zoom による交流会を企画した。Zoom の使い方の説明会は参加者 3 人、Zoom 交流会は参加者 1 人だった。

※Zoom とはオンライン会議システムのことを指します。

全 3 回の内訳

月/日	内　　容	講　師
7/1	発酵食品で健康を手に入れよう	桐原朋子
7/8	伝わるコミュニケーション術	中本麻里子
7/15	レザークラフトに挑戦	七野祐子

Zoom を使った取り組み

月/日	内　　容
7/29	Zoom の使い方説明
8/5	Zoom 交流会

伝わるコミュニケーション術

＜課題＞

夜の講座を定着させ、仕事現役世代の受講者を増やす。今までに公民館を利用したことのない人にも興味を持ってもらえる講座を企画し、公民館の利用につなげる。

かしこく夜活（後期）

＜ねらい＞

日中仕事をしている人など、比較的若い世代の人に公民館を利用してもらうきっかけとする。

＜状況・成果＞

1/13、20、27、2/10、17　木曜日　19 時～20 時半　受講者 17 人

若い世代や、日中は仕事等で公民館に来られない人にも講座に参加してもらい、さらに定着を図るため、前期に続き後期を実施した。夜の時間を活用して、公民館で楽しくいろいろな内容が学べるよう、全 5 回、各回違う内容を組んだ。定員は 16 人だったが、17 人の申し込みがあり、講師に相談して 17 人全員の受講を受け入れた。内男性は 3 人で、受講年齢層も前期より若い人が多く、多くが 40～50 歳代で、20～30 歳代の受講者もいた。

1 回目の「コンディショニングヨガ」は、心を内側に向けてゆっくり身体を動かし、身体がポカポカと温まったと好評だった。講師の説明も分かりやすく、音楽や香り、照明なども工夫し、リラックスできる心地良い内容だった。

「睡眠と健康の知恵袋」は、明治安田生命が公民館と連携して取り組む「MY 定期講座」のプログラムを活用した。南大阪では実際に連携して講座をするのが初めてとのことで、当日は講師のほかに同保険会社から 5 人来館し、講座の補助と見学をした。

コミュニケーション術は、前期とはまた違う内容で、前向きな考え方につながる言葉の使い方や、自分も相手も大切にした表現方法などを学んだ。グループワークを通じて交流が図れ、この回をきっかけに、受講者同士の距離が縮まり、講座前後に歓談する姿がよく見られるようになった。

レザークラフトでは、スマホケースなどに使える巾着型のポシェットを作った。普段手芸をしないという男性受講者も、自分で選んだ革でおしゃれなポシェットが作れ、とても喜んでいた。

ハーブ＆アロマは、マスクに使えるアロマスプレーと、ハーブティー作りをした。ハーブティーは元々の予定では、何種類かのハーブを自分でブレンドしてその場で試飲する予定だったが、感染症対策で試飲はせず持ち帰りとした。

～アンケートより～

とても身体がポカポカと温まりました。先生の説明もわかりやすかったです。また、機会があれば参加したいです。(1/13) ／夜活は参加しやすいです。また企画してほしいです。(1/13) ／睡眠について、色々知れて良かったです。(1/20) ／これまで否定的な話し方ばかりで伝え方の大切さを学び肯定的に！聴き上手、話し上手になれる様に頑張ろうと思います。(1/27) ／先生が優しく教えて下さり、すてきな物ができました。作るのは苦手な方ですが楽しくできてよかったです。(2/10) ／すごく勉強になったし興味深い話ばかりでした！楽しかったです！！ (2/17)

全 5 回の内訳

月/日	内　　容	講　師
1/13	コンディショニングヨガ	根木圭子
1/20	睡眠と健康の知恵袋（明治安田生命講座）	芦口和美
1/27	伝わるコミュニケーション術	中本麻里子
2/10	レザークラフトに挑戦	七野祐子
2/17	ハーブ＆アロマ	桐原朋子

レザークラフトに挑戦

＜課題＞

引き続き夜の講座を実施し、若い世代、仕事現役世代の更なる公民館利用の定着を図る。

―成人対象事業―

茶歌舞伎（ちゃかぶき）　～お茶は日本のこころです～

＜ねらい＞

受講者の年齢制限を設け（18～60 歳未満）、比較的若い世代に歴史ある『日本茶』について関心を持ってもらう。日本の食文化の促進につなげる。

＜状況・成果＞

11/27　日曜日　13 時半～15 時半　受講者 9 人

講師：日本茶インストラクター協会　大阪府支部 3 人

日本文化のひとつである『日本茶』の美味しい淹れ方、及び『茶歌舞伎』（お茶の銘柄や産地などを当てる遊び）体験を行った。

日本茶インストラクター協会大阪府支部（以下、インストラクター）が、茶業界から受講者一人ずつに急須や湯呑み、また茶業界が『茶歌舞伎』本番に使う茶器を借用、インストラクターによる「お茶の美味しい淹れ方」・『茶歌舞伎』体験は本格的なものとなった。

受講者は改めて日本茶に対しての再認識ができ、お茶を身近に感じることができた。日本の食文化の促進となったが、年齢制限を設けたことで募集定員を下回った。

【アンケートの感想】「楽しかった」「お茶の勉強になった」「今度自宅でゆっくり淹れてみたい」

＜課題＞

市民への周知方法（広報力）を含め、年齢制限の優先順位を設けるなど、今後再考。

楽酒（たのしゅ）もう　～すばらしい日本の文化～

＜ねらい＞

比較的若い世代に歴史ある『日本酒』について関心を持ってもらう。日本の伝統文化の促進につなげる。

＜状況・成果＞

2/27　日曜日　13 時半～15 時半　受講者　14 人

講師：酒のあべたや　代表　村井 誠

日本文化のひとつである『日本酒』の歴史や酒造りを学び、『利き酒』体験を行った。講師が酒屋ということもあり、高級な日本酒（大吟醸など）や古酒を使用し、また専用のテイスティグラスを用いるなど、本格的な『利き酒』体験となった。

受講者は改めて日本酒に対しての再認識ができ、『利き酒』体験により、お酒を身近に感じることができた。また、日本の伝統文化の促進となった。

受講者の募集方法について、年齢制限は設けず 60 歳未満の方を優先とし、結果、受講者の 13 人が 60 歳未満となり、ねらい通り比較的若い世代が受講できた。

【アンケートの感想】「楽しかった」「美味しかった」「日本酒のことがよくわかった」「帰ったらさっそく購入します」

＜課題＞

市民への周知方法（広報力）が乏しいのは否めない。今後、チラシやポスター作製を含め、広報の仕方や応募方法等を再考。

笑って！認知症と介護予防

＜ねらい＞

認知症や介護予防の方法を学び、介護について前向きにとらえる機会。

＜状況・成果＞

3/4　金曜日　13 時半～15 時　参加者 45 人

講師：石田　竜生（介護エンターテイナー）

協力：百楽笑話会（シルバーライフ受講後の自主グループ）

コロナの状況が 2 年以上続き、その間、外へ出かけることや人と関わることが躊躇された。高齢者の中には、家で閉じこもり誰とも話さない日が続いたことで認知症が進むという事例が見受けられ、また介護現場では日常的に介護疲れの声も聞かれることから、今回、介護に関わる人もそうでない人も、認知症や介護について明るく前向きに考えられる機会として企画した。

芸人でもある講師は、体操や脳トレを交えながら「介護×笑い」をうまく取り入れた講話で会場を盛り上げた。はじめは緊張感さえ感じた参加者たちだが、時に涙を流して笑う姿もあり、次第に講師の話術に引き込まれながら 90 分があっという間に過ぎていった。認知症・介護予防で大事なことをたくさん教わり、最後には、「ここにいるみなさんが、親や親戚、身近にいる要介護のかたに笑顔で接することで、その温かい輪を広げていってほしい」という講師の言葉に、会場にいる全員が温かい拍手と声援を送り終了した。

講演会の前後には、会場準備や受付に自主グループ「百楽笑話会」のメンバーが関わったことや、中央公民館の講座「介護について語り合う場」の受講者が参加していることを伝えたことで各講座の紹介ができた。

【受講者の感想】

- **さまざまな元気になる方法を教えていただいた。他の人にも伝えていきたいなと思いました。**
- **自分自身が不安に思っていたことが一人ではないと思い、大変うれしく思いました。**
- **今日教わったこと、すぐ家で実行できそうです。頑張ります。**
- **さすが芸人・エンターテイメント、話がひきつけられよくわかる。さすが‼ 楽しくためになった。「心が動けば体が動く」小さなことに心を動かします。**
- **楽しく話を聞けた。近くのまわりの人と一緒に楽しみたい。みんなで元気になりたい。**
- **身近な内容ですばらしい内容（話と体操）であった。高齢化社会に最も必要な話でした。**

＜課題＞

今後も、高齢化社会を見据え誰もが身近に感じられる内容を取り上げる。また誰もが生きやすい社会をつくるための気づきとなる講座に取り組む。

―成人対象事業―

文化サロン　～万葉集を学んでみよう～

＜ねらい＞

古典文学を公民館という身近な場所で触れる機会を提供する。

新たなジャンルの講座開催によりさらなる利用拡大につなげていく。

＜状況・成果＞

3/25　金曜日 10 時半～12 時　受講者 18 人　講師：神保　智

今まで浜手地区公民館では文学を対象とした講座がなかったため、元号「令和」の出典にもなった万葉集を取り上げ、入門講座として企画した。「万葉集」といえばほとんどの人が知っている、または聞いた事があるというものの、その内容についてはほぼ知られていない。近年、元号制定時には、一時期、メディアにも取り上げられ話題性を増した。

講座は、入門編として初歩的で、またなるべく地元など取りつきやすい話題を取り入れた内容で進められた。さらに講師自身の研究内容なども交え、パワーポイントを使っての講義は平易でわかりやすいものであった。冒頭では、講師の出身地であり、和歌の聖地と言われている和歌浦の話から入り、万葉仮名の意外でおもしろい使い方や、万葉集は原本が実在せず、写本のみが存在し、10 年ほど前にも新しい写本が発見されるなど、それに伴ういくつもの学説があることなどを学んだ。後半では有馬皇子にまつわる悲劇の話など、ここでも和歌山のネタを取り入れ、興味をわかされる内容であった。参加者からは時折「へえ～」や笑い声も聞かれた。

【参加者の感想】

久しぶりに頭を動かせたように思います。/知らない事が多かったのを色々と教えて頂きました。/身近な和歌山と結びつけたお話しが大変わかりやすかった。和歌浦等を訪れたいと思った。/万葉集の全体像の話をもっと入れてほしかった、防人の歌とか。/和歌山へ行き、碑・景色を見たい。/知ってる歌もありわかりやすかった。/和歌浦、藤白も熊野古道で歩いたこともあり、また行ってみよう。

＜課題＞

シリーズでの開催。新たなテーマでの開催。

気が付きすぎて疲れる気質 HSP 入門講座

＜ねらい＞

多様性社会への理解を深めるとともに、共生社会の課題を考える。

HSP の概念を知る機会。

＜状況・成果＞

1/24、1/31　月曜日　13 時半～15 時　受講者 24 人

講師：熊川サワコ（市民活動グループほくせつマメの木副代表【とよなか HSP 情報会】担当）

近年 HSP（Highly Sensitive Person）という言葉を耳にするようになった。HSP とは、情報をキャッチする網目が細かく刺激を過度に受けやすい人の事で、子ども時代は HSC（Highly Sensitive Child）と呼ばれる。この繊細さ故、「気が付きすぎて疲れる」「いろんな情報を過度に感じ取ってしまう」「他者の感情に影響されがち」「ついつい自分より周りを優先してしまう」など、しんどさを抱える人も少なくない。この講座では自分や家族が当事者である人、初めて HSP という言葉を聞いた人を対象に、脳の多様性の一つである HSP の概念を知る機会を持った。

講座の初回は、HSP 当事者である講師が実体験を交えて HSP の気質について解説してくれた。そのあと自分が HSP であるか、非 HSP であるかまたは HSP の可能性が高いかセルフテストを行った。HSP 気質は敏感でしんどい反面、素晴らしい特性でもあることも伝えてくれ、どんな風に自分や HSP 気質の人と向き合えばよいかアドバイスしてくれた。また受講動機を記入してもらい、講師がそれを代読し悩みを共有した。

2 回目は、グループトークのワークを取り入れる予定だったが、感染症の拡大時期を考慮し中止した。その代りに各自簡単な質問に答える自己紹介カードを記入してもらい、3 人 1 組で自分以外の 2 人の自己紹介カードを見て感想（相手をほめる）を記入する「わくほめワーク」を行った。2 人から戻ってきた自分の感想を見て、自分の強みを改めて知ることができ受講者の表情も和やかになった。また講師が HSP の書籍を持参し、悩みを抱えている人には是非読んでもらいたいおすすめの本を紹介してくれ、また実際に手に取ってもらえる機会を持った。

深刻な悩みとなっている人もいるが、HSP 気質を前向きにとらえられるよう当事者である講師の実体験を交え進行してくれたので、悩みを抱えている受講者の心にも響いたようだ。

【受講者の感想】

自分の性格はいやな性格と思っていましたが思い返してこれでも良いのだと思いました。小さな事柄が気になって寝られなくなる事も他の人と同じなんだとわかって安心しました。良いお話ありがとうございました。／参加出来本当に良かったです。大変勉強になりました。今後の生き方にもつなげたいです。交換のわくほめワーク、うれしかったです。共感して貰え良い言葉をいただき感謝です。／先生ご自身が実体験をされているという事で講座の内容も分かりやすく、うなづける事多々でした。

＜課題＞

人権のことをいろいろな切り口で、わかりやすく考える機会を提供していく。

―文化振興事業―

人形劇

＜ねらい＞

子どもから大人まで、生の人形劇を楽しむ。

公民館や地域で活動しているグループの交流、発表の場とする。

＜状況・成果＞

2/19　土曜日　10 時半～11 時 10 分　　参加者 18 人

出演：人形劇きしゃぽっぽ（浜手地区公民館クラブ）　4 人

演目：まるさんかくしかく・パネルシアター　ふしぎなたまご・オレ、カエルやめるや

昨年度に引き続きコロナの影響で、地域のおおぞらこども園の保育教諭たちのグループは出演が叶わず、人形劇きしゃぽっぽ（以下、きしゃぽっぽ）のみの出演となった。きしゃぽっぽは、昨年人形劇を見に来た人がその後加入し、1 人増えて 4 人となっている。普段なら、保育園や学童などで年 4～5 回程度公演を行っているが、今はコロナでその機会がない。新メンバーにとっては初めて人前で演じる機会となった。1 団体のみの出演となり、また参加者数も少ないことを考慮して参加者の席を中央にし、前半は舞台をホール後方に、後半は前方に設営した。

「まるさんかくしかく」は、浜手ふれあいウイーク 2021 の映像発表でも演じたが、今回はけこみを使わず、何か所かに積んだソフト積み木の後ろから飛び出して演じる、より動きのある演出に変更され、子どもたちがいっそう楽しめるよう見せ方に工夫が加えられていた。

前半は出演者と対話形式で進める内容だった。参加の子どもは 1 歳児が多く出演者の問いかけに応じるのが難しかったが、出演者の声掛けで一緒に来ている父親・母親にも声を出してもらい、あたたかい、楽しい雰囲気で進んでいった。後半の「オレ、カエルやめるや」はストーリーがあり、少し大きい子どもや大人でも楽しめる内容だった。小さい子は音楽や手作りのかわいい人形などに反応して、喜んでいる様子だった。

コロナの影響もあり参加者数は少なかったが、こぢんまりとしたアットホームな雰囲気で、みんなリラックスして見られていた様子だった。終演後、参加者は間近で人形を見せてもらい、父親・母親が、自分の子どもがどんなところに興味を持ったかなどをきしゃぽっぽのメンバーに話す様子が見られ、公演の場が減っていたクラブ員、参加する場が減っていた親子、双方にとって貴重な交流の機会となったようだ。

―感想―

子どももたのしそうに見てました！時間も長過ぎずとても楽しめました。/大人も楽しめました。音楽や音も子どもはたのしそうにしてました！/ほぼ大人しくすわってみてました。手をたたいて喜んでました。/また定期的にやってもらえるとうれしいです。子供といっしょになかなかみれるところがないので。きしゃぽっぽの皆さんが大変フレンドリーでホッとしました。

＜課題＞

コロナ後を見据え、複数団体や新しい団体の出演を検討する。

参加しやすい曜日への変更も含めて検討する。

出演者と参加者の交流を促進する。

浜手　歌声サロン

＜ねらい＞

ピアノの生演奏を味わいながら、参加者がそれぞれリクエストした曲を歌う参加型の文化事業を楽しむ機会とする。歌を楽しむと共に、体に負担のかからない健康効果を図る。

＜状況・成果＞

3/20 日曜日 13 時半～15 時　参加者 16 人

指導者：ボーカル＆司会 深海勝也、ボーカル 村田貴子、ピアノ伴奏　佐藤由行（以下、歌声サロンメンバー）

歌声サロンは、今年で第 9 回を迎える。発声することで誤嚥性肺炎の予防や運動が苦手な人でも健康効果が期待できる。また生のピアノ演奏にあわせて口ずさむだけで心地よいと感じ参加している人も少なくない。

歌声サロンは根強いファンも多い一方、近年コロナ拡大により対面での歌唱の自粛時期が続いている。今年度は空気清浄器、消毒液のほか、客席と歌唱する人との間に透明のパーテーションを設置し感染症対策をとった。3 月はオミクロン株のピークは越えたものの、当日キャンセルもあり参加者数は少なかった。

参加者の多い時は前に出て歌うことをためらう人が多かったが、今回は前に出て行きやすい人数だったのか殆どの人が一度は前に出てマイクの前に立ち歌っていた。たまたま一緒に前に出て歌った参加者同士が、歌った後握手をする代わりに「腕タッチ」を交わして席に戻るなど、中盤より参加者個々が歌声サロンを盛り上げていた。前に出る照れくさい感情と気持ちよく歌えた後の充実感の両方を味わえたようだ。毎回参加してくれる常連もいるが、今年度初めて参加した人もいて、次回の歌声サロン開催に期待する声もあった。

進行する歌声サロンメンバーは活動を中止していた期間が長かったこともあり、体力の低下を痛感していたが、久しぶりの活動再開に安堵していた。

これまで途中の休憩に喫茶コーナーを設けていた時期もあったが、ここ数年中止している。コロナが明ければ喫茶コーナーを設けた歌声サロンも検討するが、開催見合わせや新たな文化事業も視野にすすめていきたい。

【参加者の感想】

・参加者が少なかったのでびっくりしたが、とても楽しかったです。
・初めて参加しました。とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。久しぶりにストレス発散できました。ありがとうございました。
・日頃大きな声で歌うこともなく声の出し方が初め分からなかったが、次第に声も出るようになり、楽しいひとときでした。もっと歌いたかったです。次もよろしくお願いします。
・初めて歌いましたが気持ちよかった。

＜課題＞

コロナ下とコロナ明けでの文化事業の持ち方を考える。

―文化振興事業―

浜手アフタヌーンコンサート

＜ねらい＞

乳幼児から高齢者まで、誰でも身近に様々なジャンルの生の音楽に触れる機会を作る。

市民と協働で文化事業を実施することで、市民力を公民館事業に活かしていく。

＜状況・成果＞

原則偶数月第2木曜日　14時～15時　参加者　延べ354人

月/日	タイトル	内容	出演者
4/8	歌の春風～故郷に寄せて～	テノール、ピアノ	佐々木涼輔、志賀俊亮
6/10	ジャズの心髄～ピアノ＆ベースデュオ～(9月に延期)	ジャズピアノ	たなかかつこ、萬恭隆
8/12	オペラティックコンサート(中止)	オペラ	木澤佐江子、細川勝、竹山陽子
9/16	『浜手ジャズフェスタ』ジャズの心髄～ピアノ＆ベースデュオ～(6月延期分)	ジャズ	たなかかつこ、萬恭隆
9/24～9/30	『浜手ジャズフェスタ』 9/5Autumn Jazz Concert と9/16浜手アフタヌーンコンサートの上映	録画上映	
10/14	ピアノであそぼう	ピアノ	宮崎剛
12/9	Christmas Concert～冬を彩るクラリネット＆チェロ＆ピアノのイルミネーション～	クラリネット、チェロ、ピアノ	森田美穂、伊石昂平、田所千佳
2/10	二胡よ、唄え！～悠久の音色に想いをのせて～Vol.3	二胡、ギター、カホン	田中庸一、田中寛治、中務靖一郎

コロナの影響で、昨年度のロビーコンサート(以下、ロビコン)をロビーではなくホールで申込制で開催したことをきっかけに、ロビコン企画委員と職員で協議し、今年度よりロビコンに代わり、場所を2階ホールに変更した浜手アフタヌーンコンサート(以下、アフコン)を2ヶ月に1回偶数月に開催。ロビコンと同様に、市民の企画委員との協働で企画・運営を行った。

コロナの対策として、声楽など発声を伴う内容や、息を吹く楽器を演奏する内容の時にはパーテーションを出演者と客席との間に設置して行った。また、定員は80人とし、事前申込み制で実施した。またロビコンと同様、プログラムの最後には、参加者全員での「ふるさと」の歌唱及び手話を実施している。

4月は第1回目のアフコンとして、地元、二色の浜パークタウン出身のテノール歌手に出演依頼した。地元出身ということで参加希望者も多く、キャンセル待ちを入れて99人の申し込みがあり、申し込みを諦めた人を含めると、さらに多数の参加希望者がいた。

6月と8月は開催できなかったが、9月には6月延期分を開催した。9/5にはAutumn Jazz Concertが予定されており、企画委員の発案で、ジャズで浜手地域を盛り上げる取り組み『浜手ジャズフェスタ』と銘打ちその一環として実施した。コロナの感染者数が多い時期で、密にならないよう、申し込み者が69人の時点で受け付けを締め切った。内容についても、当初質問タイムを設ける予定だったが、感染予防の観点から見送り、出演者が一方向で話すこととなった。

10月はコロナの状況が少し落ち着き、再度80人までの定員で実施した。ピアノの内容で、前半はクラシック、後半は参加者からのリクエスト曲をメドレーで演奏する構成だった。リクエストについて、以前ロビコンの時にはその場で参加者に声を上げてもらい受付けていたこともあったが、

今回は当日受付け時に紙に書いてもらった。

2 月はコロナの感染者数が増加していたが、定員は減らさず、最後の「ふるさと」を歌唱せずに演奏と手話だけにして対応した。

全回を通して、コロナの影響で開催できない月があったものの、乳幼児から高齢者、障がいのある人など様々な人が参加し、誰もが身近に生の演奏を楽しめるコンサートとして、アフコンが定着してきた。またどの回も、出演者、観客ともにコンサートができることを喜び、あたたかい、優しい雰囲気に包まれるコンサートとなった。

＜課題＞

今後もコロナ対策を取ったうえで、市民企画委員と協働で、市民が身近に様々なジャンルの生の音楽に触れる文化事業を開催していく。

4 月「歌の春風～故郷に寄せて～」

9 月「ジャズの心髄～ピアノ＆ベースデュオ～」

2 月「二胡よ、唄え！～悠久の音色に想いをのせて～Vol.3」

―人材養成事業―

保育ボランティア

＜ねらい＞

保育付き講座の受講者が安心して受講できるよう、子どもにとって安全な保育を実践する。

ボランティアが保育しやすい環境を整える。

＜状況・成果＞

定期登録者　10 人　不定期登録者　3 人

昨年度、ボランティアより、コロナで講座の回数が減り、ボランティアが集まる機会も減っているので、一度ボランティアで集まって顔を合わせて話をしたり、プレイルームの備品の整備・整理などをしたいと提案があった。それを受けて今年度は 4 月に、備品の整備などを兼ねた保育ボランティア茶話会を計画したがコロナの緊急事態宣言による休館と重なり、延期とした。以降も感染拡大があり、開催に至らなかったが、10/22 には次週から始まる保育付き講座「げんきに子育て」の打ち合わせ会を行った。

打ち合わせ会では、保育時の感染症対策の確認、おやつの出し方、講座 1 回目のオリエンテーションの流れ・内容などについて確認した。保育中のおやつについて、実施しない案も含めて問いかけたところ、ぐずっている子どもも気分を切り替えられる、また、手を洗って用意をして皆で座って食べるという社会性が育つ面もあることから実施したいとの意見が出たので、前年度と同様各自持参してもらうこととなった。

1 回目のオリエンテーションでは、講座・保育の説明、自己紹介の後、ボランティアが絵本の読み聞かせや手遊びなどをして、親子一緒に和やかな楽しい時間が過ごせた。ボランティアのメンバーの中で、内容を何にするか、誰が何を準備するか、当日の担当は誰がするかなど、自分達で話し合って進めていく体制ができていて、子どもや母親のことを第一に考え、やりがいを持って主体的に活動している。

今年度も子どもよりもボランティアの人数が多い日が多かったが、分かれて子ども達に渡すクリスマスのプレゼント作りをしたり、アルパハープやアロマソープ作りなどの講座に一緒に入ってもらったりした。

講座の前後にはボランティアが母親に話しかけ、子どもの家での様子を聞いたり、保育中の様子を伝えたりした。母親が安心して預けられ、子どもの特性にあった保育ができるよう、気が配られていた。

職員としては、ボランティアが取り組みやすいように一緒に保育に入る、備品を用意するなど、ボランティアをサポートした。また最終日に子どもの様子、成長が確認できるよう、保育の様子をビデオ撮影した。

ボランティアは公民館保育に意欲的で、反省会で子育てサロンへの協力を問いかけたところ、すぐに協力を申し出てくれた。

＜課題＞

次年度も感染症対策を取った上でのよりよい保育ができるよう、ボランティアをサポートする。

従来の保育付き講座以外にもボランティアの活動機会を拡げていく。

ふれあい料理ボランティア

＜ねらい＞

障がい者の料理作りのサポートを通して食の自立への支援を行うと共に、ボランティア集団の学びの場とする。

＜状況・成果＞　　登録者数　12 人

4/12 に令和 3 年度のふれあい料理講座打合せ会を開催。ボランティア、施設職員、公民館職員の三者打合せ会として実施。5 月からの再開を断念する結論に至った。三者打合せ会終了後、引き続きボランティアだけでメニュー研究を行った。

7/12 にボランティア打合せを実施し、再開を決定したものの結果、11 月まで中止となった。

11/15、ボランティア打合せ会を実施。コロナ感染者も減少傾向となり、大阪府からの要請等も大きく緩和されていることなどを受け、縮小ではあるが 12 月にクリスマスパーティー、1 月から講座を実施することを決定。メンバーの役割分担等と 1 月からのメニューを決めた。

12 月のクリスマス会では縮小バージョンながらも一昨年同様、ボランティアによる名前ビンゴによるお楽しみや紙芝居を実施し、大変好評であった。

2 月以降についてはオミクロン株の感染拡大のため担当班と協議の結果中止とした。

この 1～2 年にボランティアの半数近くが入れ替り、コロナによる人数半減や中止によってボランティア相互間の交流が疎遠になっていた中、コロナ禍の影響で、はからずも 3 回にわたって全員が会する機会ができたことはよかった。比較的新しいメンバーでも前向きに取り組み、状況をふまえた上での意見交換が活発に行われた。

＜課題＞

ボランティア間での情報共有や連絡調整機能の充実を図る。

コロナ禍前の講座運営への転換タイミングを計る。

図書整理・読み聞かせボランティア

＜ねらい＞

ボランティアの協力を得て、多くの人が本に親しみ楽しめる環境を整備する。

ボランティアが主体的に活動できる場の提供。

＜状況・成果＞

親子連れや子どもたちが絵本や児童書を手に取りやすいように、また探している本が見つかりやすいように、家庭文庫「エルフの森」が月に 3 回程度、図書コーナーで本の整理を行っている。

図書整理ボランティアは、今年度もマスクと手袋を着けるなど感染症対策を徹底しながら作業をした。時々絵本を借りに来た人やコーヒーコーナーボランティアと会話を楽しんでおり、この活動によりロビーの雰囲気が和やかな空気となっている。

「まほうの森」による読み聞かせは、以前よりずっとコロナ禍で定期的な活動ができず、子どもの参加もほとんどなかった。今年度は自主的な活動以外に「明るいおばけやしき」でも読み聞かせできないか企画したが叶わず、その後もボランティアの仕事の都合等で活動ができていない。あくまでも自主的な活動だが、再開のタイミングと今後の運営については相談が必要。

＜課題＞読み聞かせについて、来年度継続するかはボランティアの意見を尊重する。

―人材養成事業―

浜手アフタヌーンコンサート企画委員

＜ねらい＞

公民館と市民との協働でコンサートを企画・運営する過程を通して、公民館事業に市民の力を発揮できる場をつくる。

＜状況・成果＞

これまでのロビーコンサート（以下、ロビコン）が、今年度から2階ホールでの浜手アフタヌーンコンサート（以下、アフコン）となり、企画委員もアフコン企画委員として再出発した。その際謝礼の見直しも行った。メンバーはロビコン企画委員からの5人に加え、2月に1人加入し6人となった。

企画委員会で前回のコンサートの振り返り、次回の打ち合わせ、今後の出演者の提案・決定を行っている。コンサート内容を企画する際には、企画委員の人脈や、音楽の知識等が生かされている。コロナの影響で、出演者に依頼しても受けてもらえない場合があり苦労する状況だが、委員メンバーが積極的に新しい出演者を探してきて企画会議で検討を重ね、出演決定につなげた。また、ポスター掲示やその依頼、近隣へのチラシポスティング等の広報活動、アフコン当日には準備・受付け・開演挨拶・片付け等の運営を職員とともに行った。

＜課題＞

企画委員に活発な提案や意見交換を促し、協議を重ねて進めていく。

浜手ふれあいウイーク 2021（ふれあいまつり）

＜ねらい＞

公民館で活動しているクラブの活動成果の発表の場。また、クラブ間の交流の場とする。

＜状況・成果＞

10/23 土曜日 午後～10/29 金曜日の一週間　参加者延べ 500 人

舞台発表：10/23 午後の部・10/24 午前の部

展示発表・映像発表：10/23 午後～10/29

テーマ：心でつながれ 地域の絆

年度初めに利用者連絡会（以下、利連）代表とまつり実行委員長内定者、職員でふれあいまつりについての事前打合せを行った。その中で、今年も「3 密」を回避した形で利連所属クラブのみの発表の場としてまつり開催を提案することとした。

予定していた第 1 回ふれあいまつり実行委員会はコロナによる休館で中止となり、運営は実質 7 月から動き出すこととなった。実行委員会が 1 回無くなったことで役員は不安を感じていたようだが、事前打合せで決めたまつりの案がほぼ通り、全体会議では、まつりは形を変え開催することで決定。その後の部会別会議では、模擬店は中止、舞台発表は土日の 2 部・観客入れ替え制で行う、展示発表は 1 週間開催、映像発表もクラブから希望があれば行うことが決まった。

いざ動き出すと昨年度利連で開催したふれあいまつりに代わる発表の経験が役に立った。各クラブそれぞれがコロナ下での参加の仕方を考え、感染症が怖いから舞台出演はせずビデオ撮りしたものを映像で発表するクラブがあったり、集まることも躊躇するクラブは準備や片付けのみの参加も可としたことで、全クラブが運営に関わることができた。

ただ、夏ごろに感染者数が増加したことから、同時期開催予定の山手地区公民館と相談し“まつり”という文字は表に出さず、今年のふれあいまつりのタイトルを「浜手ふれあいウイーク 2021」と題し開催することになった。これについて浜手の実行委員の中では賛否が分かれ、「やるからにはもう少し集客したい」という意見から、チラシ・ポスターを三公民館に配架し、個々でも知り合いに配るなどで周知することにした。

実行委員たちは、各部会の話し合いの中で、コロナ下でもできることを考え形にしていく作業を重ねた。いつも通りとはいかないことが多く特に各部会の代表は大変なこともあったが、年に一度の発表の場・クラブ間の交流の機会として、展示や舞台の準備・片付けも含めて、「やって良かった」という意見でまとまった。

＜課題＞

来年度もコロナの状況を見ながら、できる取り組みを一緒に考えていく。特に模擬店は 2 年中止となっているので、開催の場合は丁寧な打ち合わせが必要。

舞台発表の様子

展示発表の様子

―地域連携事業―

Autumn Jazz Concert

＜ねらい＞

フルバンドの迫力ある生演奏を味わう。

身近な場所で公民館事業に触れる機会とする。

＜状況・成果＞

9/5　日曜日　13 時半～15 時　参加者：48 人

出演：中野ひろし＆スウィングガイズオーケストラ　19 人

会場：浜手地区公民館（コロナの為、二色小学校体育館での出前事業を中止）

出演者は、中央または山手地区公民館主催講座として例年コンボまたはフルバンド両編成のコンサートを行なっているが、浜手では会場設備や音漏れの心配等でフルバンドでの出演は見送られてきた。そこで今年度は出前事業とし二色小学校体育館で開催を予定した。

5/16 の「Spring　Jazz　Concert」は、緊急事態宣言が発出され中止、9/5 に改めて「Autumn Jazz Concert」として計画したが、直前に学校の利用制限（放課後）が出され、急きょ会場を自館に変更し開催した。

昨年度からコロナの影響で計画していたコンサートやその他の講座事業も中止が頻発し、今年もその可能性があったので、中止になった場合は無観客で演奏したものを録画しロビーで流すことも視野に入れ計画した。また同月に延期した浜手アフタヌーンコンサートと内容（ジャズ）が重なったため、浜手ジャズフェスタと題し、両コンサートの録画映像をロビーで上映することとなった。9/24 は 13 時～、9/25～9/30 は 10 時～と 13 時～の 1 日 2 回上映とし、参加できなかった人にも演奏会の様子を鑑賞できるようにした。

開催は 90 分で予定していたが、出演者の要望で演奏時間を延長し約 120 分、ジャズ演奏を楽しんだ。出演者は、浜手での演奏会が初めてで、また会場が直前に変更となったため調整が難しい状況であったが、コロナ禍の自粛が続く中、参加者の心に響く生演奏を披露してくれた。1 曲ずつバンドマスターから曲やソロパート奏者の紹介などの楽しい話があり、コロナ禍のストレスを吹き飛ばしてくれる迫力ある演奏に引き込まれていた。ジャズコンサートがはじめての人でも演奏を楽しめるよう馴染みの曲もあり、また客席からのアンコールにも応えてくれ、最後は手拍子も加わり盛り上がって終了した。出演者・主催者そして参加者、このコンサートに関わった皆がコロナ禍で無事に開催できたことに安堵した。

出前事業は中止となったものの、出演者・参加者共に浜手での開催を望む声が聞かれ、文化事業として開催を検討していく。

【アンケートの感想より抜粋】

ジャズライブは今回初めてです。コロナ禍の中自粛自粛でストレスが溜まりいい機会を与えて下さり感謝です。／久しぶりに生演奏を楽しく聞かせていただきました。世間の暗い空気を一転させて下さって音楽の楽しみを味わって幸せなひと時でした。ありがとうございました。／よかったです。浜手でジャズコンサートをもっと開催して欲しいです。年に 1 度はネ！生の臨場感とても良かったです。コロナ禍の中ありがとうございました。／中野先生のおしゃべり、大変良かったです。久しぶりに生のライブを聴けて楽しかったです。

＜課題＞

コロナ禍での出前事業の持ち方。文化事業として継続開催の検討。

ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）

＜ねらい＞

市民の憩いと交流の場、学習やグループ活動の場、情報発信・発表・報告の場、また障がい者の社会参加の場として整備し活用する。

＜状況・成果＞

ロビーは、誰もが自由に利用できる場として開放し、待ち合せや読書・簡単な会議・ゲーム遊び、また２階では卓球など、子どもから大人まで自由に時間を過ごしている。感染症の影響で卓球やゲーム等遊具の消毒・貸出方法の変更等の整備に加え、新たにパーテーションや空気清浄機などの設置を行い、コロナ下でのロビー活用に備えた。

ボランティアグループが運営するコーヒーコーナーは、紙コップを使用するなどの工夫をして徐々に活動を再開したが、マスクを外す飲食のリスクを考え、「いぶき作業所」「社会福祉法人どんまい」の障がい者が運営に参加する日を含め、定期的な開催は控えている。

図書コーナーでは、読みたい本を見付けて借りたり読んだりしている人たちのほか、ボランティアによって綺麗に並べられた児童書や配架台に展示されたお勧めの絵本を見ながら、選んで借りていく親子の姿も多く見かける。感染症対策としては、図書館での対応と同様に、一度触れた本は電解液で２度拭きし図書コーナーへ配架し、図書整理ボランティアも「図書整理中」の立て看板を出しゴム手袋をして作業を行っていた。

割りばし細工展

一方ロビー展示は、一般市民からの作品展示（割りばし細工）や、クラブ関係では絵画やふれあいウイーク 2021 の作品展示、三館の展示交流会など盛んに行なわれた。

テレビモニターを利用した映像展示は、市や公民館の案内として SDG s（持続可能な開発目標）の紹介や貝塚市ブランディングムービー、公民館クラブやプレーパークの紹介映像やジャズフェスタの録画映像などを流し、公民館を訪れる利用者が自由にロビーで鑑賞できるようにした。

プラスチックの海パネル展

その他、「はまて子どもパーク」で子どもたちが作った作品の展示、環境衛生課と共催で行った「プラスチックの海」上映会に伴うパネル展示など他課・他施設からの展示等もあり、利用者はそれぞれ気軽に鑑賞し楽しんでいた。特に今年度より市民サービスコーナーがなくなり、窓口に問合せに来る人も多かったが、不定期で市民課がマイナンバーカードの受付を複数回行っていた。

今年はできなかった取り組みもたくさんあったが、ロビーを活用することで他のクラブ活動の様子や作品鑑賞する機会を多く持つことがでた。

＜課題＞

感染症対策を考慮した新たな活用方法にも取り組み、多目的に使えるよう工夫する。

―地域連携事業―

展　示　内　容	期　　間
中央公民館　コスモ写真クラブ作品展	4/4～18
SDGs 映像展示	7/1～18・24～31
貝塚プレーパーク映像展示	7/19・20
夏の子ども講座作品展示	7/27～8/16
七夕飾り（放課後子ども教室活動）	6/21～7/15
貝塚ブランディングムービー	8/16～31
割りばし細工展	9/2～10
浜手ジャズフェスタ映像展示	9/24～30
浜手ふれあいウイーク 2021 作品展示	10/23～29
プラスチックの海パネル展	10/30～11/22
中央公民館　ろうの花クラブ作品展	11/9～18
かいづか家族の日　作品展示　（社会教育課）	11/25～12/3
クリスマスツリー（放課後子ども教室活動）	11/25～12/25
浜手地区公民館　油絵クラブ作品展	1/11～2/8
善兵衛ランド　天体写真展	2/21～27
浜手地区公民館　光水彩画クラブ作品展	3/1～15

プレイルーム開放

＜ねらい＞

利用のない時間帯にプレイルームを開放し、乳幼児親子が安心して過ごせる場を提供する。

＜状況・成果＞

4/2～1/4　（17 回　延べ 43 人）

近隣に乳幼児のいる家庭や転勤で初めて貝塚市に住むことになった家庭なども多いため、乳幼児親子が安心して過ごせる場・親子同士が交流できる場として、利用のない時間帯にプレイルームを自由に使えるよう年間を通して開放している。同じ時間帯に他の親子があそびに来た時は一緒に使用してもらうよう伝えている。

プレイルーム開放の利用は月に 1～2 回と少なく、また他の親子と交流する機会はなかったが、主に兄弟のいる乳幼児親子がプレイルームを利用して遊んでいた。利用する際には換気や使用したおもちゃ等備品の消毒など感染症対策をとりながらの利用を促した。コロナ禍で利用は少ないが、このような時期だからこそ、乳幼児親子が元気に過ごせる場所は必要である。

＜課題＞

今後も、乳幼児親子が安心して過ごせる居場所として年間を通してさらに周知を図っていく。

第五中学校区地域教育協議会（すこやかネット）

＜ねらい＞

校区内の学校、公共施設、地域の団体・住民が情報を交換し、定期的な会議での交流を深めることにより、子どもを中心とした事業の協働を進める。

＜状況・成果＞

毎年、年 3 回の会議に出席し、周辺施設、学校、こども園、地域団体の近況報告、課題・問題点の解決のため共通理解を図っている。定期的に発行されている「すこやかネットニュース」には、子ども対象の公民館事業などを記事にし提供。今年度もコロナ禍ということもあり会議は速やかに行われ、公民館からは、コロナ禍にあっても公民館に来てボランティア活動をしている地域の人に対しての感謝の意を伝えた。

＜課題＞

地域の子どものすこやかな成長と見守りのため、積極的に公民館としての役割を担っていく。

協議会でのつながりを事業運営に繋げる。

パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）/二色校区福祉委員会

＜ねらい＞

公民館周辺地域住民との相互交流を図るとともに、地域課題について年間数回の会議の機会を設け、問題の解決・地域の福祉に資する。

＜状況・成果＞

パークタウン連絡協議会・防災専門委員会に、地域の公民館として、情報交換やその地域独自の課題について共有するため年に十数回の会議に出席している。二色校区福祉委員会総会は、コロナのため中止し、書面決裁となった。

今年度も、コロナ禍で「盆踊り」は開催中止となった。その他の会議は 4 月から開始され、ソーシャルディスタンスなど、コロナ感染防止対策をとりながら行った。

防災専門委員会の会議では、大勢の人が移動する防災訓練に代わるものとして、コロナ禍での避難所開設に関心が寄せられ、避難所開設研修会を行った。研修が始まり、参加者の真剣に取り組む姿勢がみられ、この地域の防災意識の高さを感じた。

＜課題＞昨今の社会状況を考慮に入れ、地域の公民館として何ができるかを検討する。

【参考】ほかでもがんばっているよ　浜手地区公民館利用者連絡会所属クラブの地域での活動

月日	クラブ名	会　　場	備考（感想など）
9/25	サラダボール	いぶき作業所	クラブ員 18 人参加。コーラスを喜んでいただきました。
10/1	朗読ぐるーぷサルビア	貝塚市立二色小学校	修学旅行の事前学習。メンバーが増え公演に厚みが加わった。子どもたちは真剣に聞き、活発な意見を述べてくれた。
10/29	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立八木南小学校	修学旅行の事前学習。コロナの影響で体育館での演技になり、音響の工夫が必要となった。先生の協力があった。
11/5	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立東光小学校	修学旅行の事前学習。コロナ禍だが、学校の協力があった。後日、公演の DVD と児童の感想文を頂いた。
11/12	朗読ぐるーぷサルビア	岸和田市立光明小学校	修学旅行の事前学習。5 人での公演で大変な部分があった。当初ざわついていたが始まると真剣に聞いてくれた。

―団体支援事業―

浜手地区公民館利用者連絡会

＜ねらい＞

公民館活動への理解を深め、自主的な活動ができるよう支援する。

クラブが連携して活動に取り組み、課題を共有して活性化できるよう支援する。

＜状況・成果＞

クラブ数 29　クラブ員数 365 人　（役員：8 クラブ 9 人）

昨年度末「おとなのガッコウ」が退会し、4 月から新たに「げんき up 体操」がクラブとして入会したので、団体の総数は昨年度と変わらない。ただこれまで浜手地区公民館を利用するクラブとグループで構成されていたのが、唯一在籍していた学習グループ「おとなのガッコウ」が抜けたことでクラブのみの構成となった。

4/4 に総会と役員会を開催したが、その後緊急事態宣言による休館が 2 ヵ月続き、第 1 回定例会は中止となった。その間、ふれあいまつりについての話し合いを代表とまつり実行委員長内定者、職員で進め、今年度の方向性を確認した。

7 月の定例会では利用者連絡会（以下、利連）の役割やふれあいまつりの方向性を役員から伝え、公民館からは例年行っていた利用者団体代表者会議（コロナのため中止）の代わりとして、社会教育施設である公民館の役割について館長より話した。

昨年度同様に「クラブ体験講座」の開催を呼び掛けたところ、9 クラブの開催につながった。他にも、「夏の子ども講座」や三館利用者連絡会の「展示交流」に取り組もうとするクラブも去年より若干増えた。またクラブ見学・体験は広報などでも随時募集しており、問い合わせや体験から入部へとつながったケースもある。

利連の行事は、レクリエーションを中止としたが、他の行事は形を変えたり縮小したりで開催できた。何もできない空気から少しずつではあるが、できることを見つけ活動する様子が見られる。今年度の特徴としてはやはり、コロナ下でも何か始めたいと思う人もいるが、反対に感染が怖いからと活動を見合わせるクラブやクラブを退会する人もいて、まだまだコロナに翻弄されている様子が見て取れる。

役員の仕事は、委員長任せとなる時もあったが、役職ごとに引き継ぎの書類があり概ねうまく機能している。役員会では、年度途中で入会した人の会費納入の仕方やコロナでレクリエーションを開催するか等が話し合われた。職員はその都度、利連の規約を何度も読み返しアドバイスをした。また、公運審や公民館大会実行委員会には昨年度より引き続いて同じ担当者が会議に参加し、力を発揮している。それぞれの会議内容や役員会で決まった内容は担当者より定例会で各クラブに伝えて情報共有している。

特に毎年度出てくる役員のなり手がいないという課題を考えると、定例会で決まったことを降ろすだけでなく、クラブ員の意見を吸い上げる、案件について委員全員で考え決定する機会等を持つことやコロナの状況を鑑みつつレクリエーションなどのお楽しみ的な活動を企画していく必要がある。

＜課題＞

コロナの状況下だが、前向きにとらえ、できる取り組みを一緒に考えていく。

役員会や定例会で一人ひとりの意見を引き出すような仕掛けづくりが必要。

貝　塚　市　立
山　手　地　区　公　民　館

目　　次

■年間総括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 1
■講座・事業
◇ 青少年対象事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 6
将棋倶楽部
フアフアクラブ
夏の子ども講座
ハピネスバコ的科学実験
百人一首
レッツＴＲＹ
かいづかブックフェスタ
◇ 子育て支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 13
はじめての人形劇
絵本ピクニック
保育つき講座　子育て×自分磨き
保育つき講座　フリマアプリ～私もできる SDGs～
親子ヨガ
◇ 成人対象事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 17
ことぶきクラブ
ふれあい料理
健康的な布ぞうりを作ろう
大人のおやつ作り講座
高齢介護課　共催講座
①認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ
②ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう
◇ 人権課題事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 24
第 3 回こうせい展
◇ 文化振興事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 25
ロビーコンサート
～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま「お夏清十郎」(山手地区公民館開館 30 周年事業)
第 9 回　たまねぎ劇場
ウクレレ　夕空コンサート(山手地区公民館開館 30 周年事業)
◇ 人材養成事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 29
保育ボランティア
おさんぽかばさんボランティア
ふれあい料理ボランティア
◇ 地域連携事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 31
ロビー活用
おさんぽかばさん
移動公民館
木島校区新春映画会
水間末廣座(山手地区公民館開館 30 周年事業)
【参考】ほかでもがんばっているよ
◇ 団体支援事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山 36
山手地区公民館活動協議会
利用者団体代表者会議
バンド連絡会

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

令和３年度　山手地区公民館　事業総括

はじめに

年度当初には緊急事態宣言発出により、約２ケ月臨時休館を余儀なくされたが、コロナ対策との両立を図りながら、山手地区公民館開館30周年記念事業をはじめ多くの講座・事業を開催することができた。コロナ対策として文化庁の補助金を活用して、トイレの抗菌化（洋式便器の抗菌化や自動手洗い器等の設置）、空気清浄機やサーマルカメラの設置、二酸化炭素濃度測定器などを購入し、安全・安心して活動できる環境整備に努めた。

１.公民館主催事業

生活課題を反映させた講座事業や親しみやすい文化・学習活動、交流の場を提供するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）実現に向けての学習や実践、人権意識の高揚をめざす。

＜状況・成果＞

・利用者の拡大を図るため、土日開催の講座や事業を強化した。

・青少年対象事業・子育て支援事業などで「山手地区公民館活動協議会」をはじめとする支援団体・ボランティアの協力を得て事業を実施した。

・広報紙・ホームページ・フェイスブックなどで講座や事業の実施案内・報告に努め、また、申込方法に二次元コード（メールアドレス）を掲載し、若い世代の新たな公民館利用者の拡大につなげた。

＜課題＞

・引き続き、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの発掘に努め、学習成果の共有をしていく。

①　青少年対象事業

・子どもたちが興味や関心をもつ講座などを通して、心身の健全な育成をめざし、また大人との異世代交流をすすめる。

・子どもたちの意見を反映させ、主体的な参加意識を高め、継続的な参加につなげる。

＜状況・成果＞

・「将棋倶楽部」は、小学生とボランティアの異世代交流づくりの場になっており、また１月には「新春子ども将棋大会」を開催し熱戦が繰り広げられた。

・「夏のこども講座」を２年ぶりに開催することができた。クラブや団体、ボランティアの協力のもとコロナ禍で制限の多い中でも子どもたちに今しかできない体験や感動を提供することができた。

＜課題＞

・青少年が参加したくなるような魅力ある講座や事業を心掛け、公民館利用につながる環境づくりや広報活動に努める。

②　子育て支援事業

・親子の絆を深める取り組みを促しながら、家族のつながり・地域力の向上をめざす。

・コロナ禍によって親と子が孤立することがないよう子どもを持つ親が気楽に来館でき、学びや交流ができる場を提供し、新たな子育てサークルなど親同士のつながりづくりを促す。

・各種関係団体、関係課と連携し、それぞれの特性を生かした取り組みを進めながら今後の事業の在り方を検討していく。

＜状況・成果＞

・「保育つき講座　子育て×自分磨き」は、同プログラムで開催時期を調整して三館で開催した。受講者から保育付きに対する感謝の言葉が多くあった。子育てで忙しいなかでも自分の時間を持ち、受講者同士悩みを共有するなかで、学びや交流が深まった。

・図書館やすくすく子育て応援隊と連携し講座をすすめた。

・「親子ヨガ」は、募集人数を上回る応募があり親子のふれあいを楽しむ時間を持てた。利用者にアンケートをとり、今後の事業に生かすヒントが得られた。

＜課題＞

・関係団体や関係課と連携し、公民館の特性を生かした取り組みを進める。

・乳幼児をもつ親子が求めるニーズを把握し、公民館の特性を生かした事業を検討していく。

③ 成人対象事業

・新規利用者を増やすため、幅広い世代に関心がある講座を企画し、講座終了後も継続して自主活動につながるよう働きかけを行う。

・障がいのある人が様々な講座に参加しやすい環境に努め、ボランティアとの交流や受講者同士の仲間づくりをめざす。

＜状況・成果＞

・高齢介護課との共催講座は介護予防を目的に「認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ」や「ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう」を開催した。ノルディックでは自主グループに加入する人もいた。

・「ことぶきクラブ」は受講者の意見を聞きながらプログラムを企画している。受講者が班活動に分かれて、役割分担するなどの工夫により交流を深めた。

・「大人のおやつ作り講座」は子育て世代から高齢者まで幅広く参加があった。また、おさんぽかばさん事業を知ってもらう機会となった。

・昨年人気があった「健康的な布ぞうりを作ろう」を再度開催し、古布を再利用して作ることでSDGsを考える機会となった。

・障がいのある人が集う「ふれあい料理」は、コロナ禍で障がい者施設側が慎重であったが、感染者が減少した12月に1施設3人の参加があり2年ぶりに開催することができた。

＜課題＞

・地域住民との交流を継続することで、地域の課題や要望を把握し、講座に結び付ける。

・幅広い年齢層が公民館活動に関心を持ち、気軽に参加しやすい講座を検討する。

・コロナ禍であっても安心して参加できる体制づくりを検討する。

④ 人権課題事業

・身近な人権講座を企画することで、より多くの人の受講参加につなげ、日常生活における人権意識の高揚を図る。

・関係課との情報交換及び連携を強化し、共同での取り組みをめざす。

＜状況・成果＞

・「第3回こうせい展」は人権課題事業に位置づけ、またかいづか家族の日関連事業として開催した。作品展示のほか、トークイベントでは障がい者への理解や人とのつながりの大切さについて参加者と共感できた。

＜課題＞

・人権問題を考えるきっかけや学びの場をつくる。

・担当部署とも連携を取りながら検討していく。

⑤ 文化振興事業

・クラブやグループの発信の場を積極的に提供して、幅広い市民層からの参加と自主活動の推進を促す。

・身近に文化にふれる機会を提供する。

＜状況・成果＞

・ゲリラライブや夕空コンサートは、ウクレレクラブの活動の発表の場となった。

・「ロビーコンサート」は、公民館利用者や市民が身近で気軽に生の演奏を楽しむ機会となった。

・「たまねぎ劇場」を2年ぶりに開催することができた。参加したグループは交流が深まり、次回開催に向けて意欲的であった。

・「水間末廣座」は、落語などの古典芸能を通して、伝統や文化に対する関心や理解を深める機会となった。

・「～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま“お夏清十郎”」が昨年度に引き続き再演され、プロと市民の共演は見ごたえがあった。また地域に語り継がれている「お夏清十郎」物語についての再発見の場となった。

＜課題＞

・幅広い市民参加につながるよう広報活動に努めるとともに、新たな企画、イベントの展開を図る。

２.人材養成事業

・利用者や地域に埋もれている人材を発掘し、公民館活動の継続的な参加につなげる。
・公民館利用者が地域交流貢献活動に積極的に関わることができるよう働きかけを行う。
・ボランティア間の意思疎通を図るため情報交換を行い、ボランティアが自主的に活動に関わることができるような環境づくりに努める。

＜状況・成果＞

・みんなのロビー展を利用した市民に声掛けし、講座の講師を依頼した。
・「ふれあい料理ボランティア」は、コロナ対策など開催に向けての話し合いなどが行われ、ボランティア同士の交流も深まった。
・保育ボランティアの紹介で登録者が１人増えた。

＜課題＞

・今後も必要なボランティア登録者数を確保すると共に、定期的な情報交換を行い、活動しやすい環境作りに努める。

３.地域連携事業

・コロナ禍での地域コミュニティの促進や拠点づくり、地域の課題解決に向けた支援や情報提供を行う。
・地域への関わりを強め地域の活性化を図る。
・地域理解を深めるため、「移動公民館」など地域へ出かける事業の更なる活動拠点の発掘と、その後の自主活動への支援を視野に入れた取り組みを行う。

＜状況・成果＞

・コミュニティ機材は、年末年始には数件の町会・自治会へ餅つきセットの貸し出しがあった。また、「第三中学校区地域教育協議会」は、今年度も活動が見送られた。
・「おさんぽかばさん」は、乳幼児を持つ親同士の交流を図るため、地域に出かけてのつながりづくりを目指したが、コロナ禍もあり公民館での開催となった。来年度以降も状況を見ながら引き続き継続していく。
・「山手地区公民館まつり」は、活動協議会によるクラブ活動発表会として開催され、展示と舞台発表が盛況に行われた。また、同時に開館30周年パネル展示を開催した。
・「移動公民館」は、地域の団体（4ケ所）から要請があり、ノルディックウォーキングなど2年ぶりに開催することができた。また、木島校区福祉委員会と共催で新春映画会「ばあばは、だいじょうぶ」を開催し認知症について理解を深めた。

＜課題＞

・コロナ禍の見通しが立てば、実情を把握しながら地域へ出向き、また第三中学校区地域教育協議会等、地域の各種団体と連携し、各事業を展開していく。

４.団体支援事業

・公民館を拠点に自主的に活動している団体を支援し、新たな活動グループの育成にも努める。
・活動協議会が自主的に活動を推進していくための支援、環境づくりに努める。

＜状況・成果＞

・「山手地区公民館活動協議会」と連携しながら30周年事業をすすめた。定例会は会場を2ケ所に分け、会議回数を半分以下に抑えるなどコロナ感染予防対策に共同して取り組み理解を深めた。
・コロナ禍で音楽室の使用に制限がかかり、各バンドの活動ができなかった。

＜課題＞

・高齢化やコロナ禍でクラブの解散や活動を休止するクラブがあり、今後もクラブの減少傾向が懸念されるため、コロナ感染予防対策を取りながら安心して利用できる環境づくりに努める。
・バンド連絡会の活動の在り方を再考し検討していく。

【主催講座・事業・共催事業】

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	将棋倶楽部（1月は新春子ども将棋大会）※注１　5/17～6/19 中止	11 人	7/19～3/19	9 回	56 人
	フアフアクラブ前期　※注１　4/17～6/19 中止	1 組	7/17	1 回	1 組
	フアフアクラブ後期	2 組	10/23～1/15	4 回	8 組
	夏の子ども講座　公民館でキャンプ体験		7/18	1 回	15 人
	夏の子ども講座　キーホルダー作り		7/24（午前・午後）	各 1 回	12 組
	夏の子ども講座　地球にやさしいエコラップ作り		7/26	1 回	8 人
	夏の子ども講座　ウクレレで楽しく歌おう		7/27	1 回	8 人
	夏の子ども講座　ふわふわパンを作ろう		7/27（午前・午後）	各 1 回	16 人
	夏の子ども講座　いざという時の！防災クッキング体験		7/29	1 回	8 人
	夏の子ども講座　野菜スタンプで暑中見舞い絵手紙を作ろう		7/30	1 回	10 人
	夏の子ども講座　やってみよう！ハピネスバコ的実験教室		8/3	1 回	12 人
	夏の子ども講座　作ろう！自分のお弁当（学校登校日と重なり中止）	―	―	―	―
	夏の子ども講座　ヨガのポーズを楽しもう		8/10	1 回	11 人
	ハピネスバコ的科学実験		12/26	1 回	8 人
	百人一首　※注１　5/1～6/5 中止		4/3～3/5	10 回	100 人
	レッツＴＲＹ	4 組	通年	6 回	116 人
	かいづかブックフェスタ		3/27	1 回	80 人
子育て支援事業	はじめての人形劇		9/26	1 回	51 人
	絵本ピクニック　※注１				
	保育つき講座 子育て×自分磨き	8 人	9/2～10/28	8 回	38 人
	保育つき講座 フリマアプリ～私もできる SDGs～	5 人	11/18～12/2	3 回	12 人
	親子ヨガ	15 組	1/28～3/25	4 回	44 組
成人対象事業	ことぶきクラブ　※注１　4/27～6/15　中止	34 人	4/6～12/7	19 回	646 人
	ふれあい料理　※注１　5/21～11/19・2/18～3/18 中止	3 人	12/17	1 回	3 人
	健康的な布ぞうりを作ろう	15 人	6/21・6/28	2 回	30 人
	大人のおやつ作り講座	11 人	11/30～12/14	3 回	27 人
	高齢介護課　共催講座 ①認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ ②ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう	 10 人 19 人	 6/25～7/16 7/2～12/3	 3 回 7 回	 30 人 133 人

人権課題事業	第３回こうせい展　展示 トークイベント		11/8～11/21 11/11	 １回	 10 人
文化振興事業	ロビーコンサート　※注１　5/18　中止		7/20～3/15	５回	170 人
	～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま「お夏清十郎」 （山手地区公民館開館 30 周年事業） 市民合唱練習 本番	 21 人 100 人	 7/2～10/15 10/17	 ８回 １回	 168 人 100 人
	第９回　たまねぎ劇場		6/27	１回	30 人
	ウクレレ　夕空コンサート （山手地区公民館開館 30 周年事業）		3/8	１回	50 人
材養成事業	保育ボランティア	９人		13 回	84 人
	おさんぽかばさんボランティア	５人		８回	23 人
	ふれあい料理ボランティア	５人		７回	32 人
地域連携事業	ロビー活用		随時	―	―
	おさんぽかばさん		10/19～11/16	５回	４組
	移動公民館 清児楽歩会 東山いきいきクラブ 木積長生会 木島・東山校区福祉委員会		 4/10 8/20 12/8 12/12・12/14	 １回 １回 １回 ２回	 10 人 13 人 60 人 43 人
	木島校区新春映画会　(午前) (午後)		1/9	１回 １回	45 人 131 人
	水間末廣座 （山手地区公民館開館 30 周年事業）		2/27	１回	100 人
団体支援事業	山手地区公民館活動協議会　34 ｸﾗﾌﾞ	424 人		―	―
	利用者団体代表者会議　※注１				
	バンド連絡会　2 ﾊﾞﾝﾄﾞ			―	―

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または、１回限りの事業（参加者数）は「延べ参加人数」欄に記載）、ボランティアにおいては「登録人数」
※注１は「新型コロナウィルス感染拡大防止のため開催中止」

―青少年対象事業―

将棋倶楽部

＜ねらい＞

子どもたちが将棋に親しみ、将棋を通じて仲間づくりをすすめる。

地域の大人との世代間交流の場とする。

＜状況・成果＞

7/19～3/19　第 3 土曜日　13 時半～15 時　（全 9 回）　※5/17～6/19 はコロナのため中止

受講者：11 人（1 年生/0 人　2 年生/2 人　3 年生/3 人　4 年生/3 人　5 年生/2 人　6 年生/1 人）

ボランティア指導者：5 人

今年度はコロナ感染拡大予防のため定員を 15 人から 10 人に減らし実施した。

今年もコロナ対策としてマスクの着用や飛沫防止パーテーションを設置し、対局ごとに駒、盤の消毒と子どもたちの手指消毒などを徹底し、参加する子どもたちや保護者が少しでも安心して参加できるよう工夫した。

最初は、昨年から引き続き受講している子ども達と今年から新規に受講した子どもとの間で、お互い緊張し話すこともなかったが、ボランティアが一緒になり対局することで話をしたり、お互いのことを知り楽しそうに将棋をするようになった。

ボランティアは体調不良でやめていく人や“今は外出自粛している”“子どもと接触することでお互い感染させてはいけない”等の理由で最終 3 人になった。

＝新春子ども将棋大会＝

1/15　土曜日　13 時～15 時　参加者 5 人

昨年度に引き続き、山手地区公民館長杯「新春子ども将棋大会」を開催した。コロナで緊急事態宣言が発出されて、当初 8 人の参加予定だったが体調不良のため欠席があり、5 人の受講者で開催した。

受講者は、日頃の練習の成果を発揮した。

＜課題＞

コロナ感染の不安の中、対策に万全を期し対応する。

新規受講者及びボランティアの確保。

フアフアクラブ

＜ねらい＞

発達障がいや不登校などの困り感のある小学生とその親を対象に、親も子も小集団の中で自分の居場所を見つけ、その中で自分の意見を発言できる場とする。

＜状況・成果＞

前期： 7/17 第 3 土曜日 10 時 15 分～11 時半(全 1 回)　受講者　1 組

※5/15・6/19 はコロナのため中止

後期：10/23～1/15 第 3 土曜日 10 時 15 分～11 時半（全 4 回）受講者　2 組

講師：松本　啓子　　ボランティアスタッフ 8 人（内高校生 3 人）

月 1 回開催予定だったが、緊急事態宣言発出のため 5・6 月は休講。親子で調理や創作などの体験を重視した講座とし、親子・親同士・できたら子ども同士の交流をはかっていく。特に、親も楽しんでもらい、親の悩みも聞いていく場とした。4 月は 1 組だけ参加だったので親子とも緊張した様子だったが、「しっぽとりゲーム」の時には盛り上がり、後期のプログラムにも取り入れた。また、料理実習も予定していたが、コロナ禍での飲食に対する受講者の不安を少しでも取り払うために料理はやめて創作のみのプログラムとした。

後期は、コロナも落ち着き全 4 回実施できた。

感想には「ダンボールで乗り物づくりは作る楽しさ、乗る楽しさ、たくさんのでっかいアトラクションがあり、子どもも一番楽しみにしていました。ゲームも作品作りも私自身が夢中になって子ども以上にのめり込んで楽しめました。いつも楽しめる時間・空間をみなさんで作ってくださりありがとうございました。」とあり、親の居場所となり、継続することで子どもも場の雰囲気になれてきた様子がわかった。

毎回スタッフと事前に念入りな打ち合わせを重ねてきた。高校生のスタッフが参加した小学生に寄り添いながら良い関係をつくりあげている。

受講者増加に向けて、市内小学校にチラシを配布したが、大幅な増加にはつながらなかった。

日時	内　　容
4/17	新聞紙であそぼう
5/15	プラバン・おにぎり作り　（中止）
6/19	紙染め・おにぎらーず　（中止）
7/17	プラバン作り、おにぎり
10/23	みんなで楽しくゲーム
11/20	ランプシェードを作ろう
12/18	ダンボールで乗り物作り
1/15	紙染め体験

＜課題＞

コロナ禍での講座内容を含めて、今後もスタッフと話し合いを重ねていく。

受講者増加に向けて、開催日・宣伝方法を検討する。

―青少年対象事業―

夏の子ども講座

＜ねらい＞

夏休み期間中、子どもが学校外での様々な体験活動を通して、新しいことに挑戦し、地域の大人と交流する機会とする。また、公民館クラブや登録団体の協力を得て、大人も今の子どもを理解する場とする。

＜状況・成果＞

今年度よりメールでの申込方法を新しく加えたところ、申込者の約７割がメールでの申込みだった。

協力団体の募集期間が、緊急事態宣言の発出による休館と重なったこともあり、例年協力しているクラブが辞退するなど、講座数が減少した。また、感染症対策で各講座の募集定員を少なく設定していたので、ほぼ全ての講座で定員を超える状況となった。抽選結果も、複数当選する子や、すべて落選する子がいた。

協力してくれたクラブや団体のおかげで、コロナ禍で制限の多い中でも子どもたちに今しかできない体験や感動を提供することができた。

公民館でキャンプ体験

①公民館でキャンプ体験　7/18　日曜日
9 時半～15 時　受講者 15 人
講師：大阪府少年自然の家
【内容】薪で火をおこしての防災カレー作り、ブルーシートでタープの設置、ロープワーク

②キーホルダー作り 7/24　土曜日　10 時～12 時・13 時半～15 時半　受講者　各 6 組
協力：おさんぽかばさん
【内容】親子対象で、3 歳から参加可能とした。リボンのドレスを着せた人形、レジンを使ったロリポップキャンディー型の 2 種類のキーホルダーを制作。

③地球にやさしいエコラップ作り　7/26　月曜日　10 時～12 時　受講者 8 人
協力：fam
【内容】布に蜜ロウをアイロンで溶かして染み込ませ、何回も再利用できるエコラップの作成、「私・家族のエコ」の紹介、環境の本紹介、クリームソーダの試食。

④ウクレレで楽しく歌おう　7/27　火曜日
10 時～11 時半　受講者 8 人
協力：ククルウクレレクラブ
【内容】ウクレレで童謡やみんなが知っている曲を演奏して歌う。

ウクレレで楽しく歌おう

⑤ふわふわパンを作ろう　7/27　火曜日　9 時 45 分～12 時・13 時～15 時　受講者　各 8 人
　協力：おさんぽかばさん
　【内容】ウインナーパンなど、おかず系のパンを作って試食。

⑥いざという時の！防災クッキング体験　7/29　木曜日　10 時～12 時　受講者 8 人
　協力：ｃｈ∞se
　【内容】サバ缶袋カレー、みそ玉、鍋ごはんの調理と試食。「私・お家の防災」の紹介。

野菜スタンプで暑中見舞い絵手紙を作ろう

⑦野菜スタンプで暑中見舞い絵手紙を作ろう
7/30　金曜日　10 時～11 時　受講者 10 人
　協力：オールドベアー
　【内容】野菜を調理したとき破棄してしまう部分を使って、野菜版画手紙を作成。

⑧やってみよう！ハピネスバコ的実験教室
8/3　火曜日　10 時～12 時　受講者 12 人
　協力：ハピネスバコ（すばこ型図書館グループ）
　【内容】科学の本の読み聞かせ、水の実験、噴水フルーツポンチの試食。

⑨作ろう！自分のお弁当　8/6　金曜日　10 時半～12 時半　※学校登校日と重なり中止
　協力：貝塚市地域活動栄養士会

⑩ヨガのポーズを楽しもう　8/10　火曜日　10 時～11 時　受講者 11 人
　協力：ヨガスマイル
　【内容】ヨガでいろいろなポーズに挑戦。（小学 3 年生までは親同伴）

子どもの感想
・音楽に自信がなかってウクレレ講座で成功してよかった。楽しかった。
・もともとすきだけど、絵ははんこでやるともっともっとすきになりました。
・体を動かしたりリラックスできてよかったです。また機会があれば行きたいと思います。
・ぬのがラップになって、しかもくりかえしつかえるエコになってびっくりした。
・家では作ったことがあるけれど公民館でみんなといっしょに作るとすごく楽しくてパンもおいしかったです。
・防災クッキングをやり、み近にある物でできるんだとわかりました。
・たのしくて時間が早くすぎた。
＜課題＞
　・抽選方法の検討。
　・人気のある講座について、少しでも多くの子が参加できるよう開催方法を検討する。

―青少年対象事業―

ハピネスバコ的科学実験

＜ねらい＞

科学の本や科学実験を通じて様々な体験をし、科学に対して関心を持つ。

＜状況・成果＞

12/26 日曜日　10 時～12 時

受講者：8 人

講師：ハピネスバコ（貝塚スバコ図書グループ）

夏の子ども講座で人気があり再度実施した。

講座では、科学の本の紹介や水を使った実験を中心に噴水フルーツポンチの試食を行った。

水団子作りでは、水に様々な色を付けた油をいれ水中では水と油が分離することを実証したり、コップに水を張りビー玉を入れどこまで溢れず表面張力がはたらくのか？の実験や水を入れたナイロン袋に鉛筆を刺し、“何本まで刺したら破れるのか？”等の実験を行い、受講した子どもたちにとっては“ふしぎ発見”ばかりであった。

最後にフルーツポンチの材料を盛りつけた皿で“メントスサイダー（炭酸飲料にソフトキャンディーを入れ、炭酸力が増す実験）”をしたが、サイダーが冷えすぎてメントスを入れても炭酸が噴き出てこないというハプニングがあった。

実験は成功だけでなく失敗もあることを学んだ。

（受講者の感想）

・実験の原理はわかっていたが試したことがなかったのでわかってよかった。

・実験は成功だけじゃなく、失敗もあって次はどうするのかが大切だとわかりました。いろんな実験をして水ってすごいなと思いました。

・水の勉強になりました。次は電気の実験をしたいです。

＜課題＞

子どもの興味を示すような実験内容を検討し講座をおこなっていく。

百人一首

＜ねらい＞

百人一首の遊び方・覚え方・上達の秘訣を学ぶとともに、日本の伝統文化に触れる機会とする。
また、異年齢交流を深め、グループ作りをすすめる。

＜状況・成果＞

4/3～3/5（全 10 回）　土曜日　13 時～14 時半　受講者 10 人　講師:野路義幸

5・6 月はコロナのため休講となった。昨年度の課題「指導者がいないとマンネリ化になり、低学年と高学年の覚え方にも差が出てくる。」を受けて、4 月には以前お世話になった講師に依頼。あらためて上達の秘訣を教わった。また講師からは「講座が継続していることはすばらしいことです」という励ましのメッセージもあった。

受講者は、以前参加していた親子が再加入し増加した。毎回のすすめ方は、保護者と職員で相談しており、きまり字カルタ作成、カルタをあいうえお順に並べる、カルタの句の意味を学ぶ、坊主めくりやゲームを取り入れている。特に保護者が考案した覚え方は、1 枚ずつのカルタを子どもたちがわかりやすいように解説された手作りのものであった。また、受講者を増やす為に募集のチラシも作成してくれた。

＜課題＞

カルタとりには個人差があるので、全体的なレベルアップをめざす。

レッツＴＲＹ

＜ねらい＞

中高生のグループ活動（音楽やダンス、創作活動など）を支援する。

＜状況・成果＞

中高生のグループ活動の利用度の高い音楽室であったが、コロナ対策で換気が不十分となる為、定員の制限により利用者の減少となったが、大阪府立日根野高等学校・大阪府立佐野高等学校・大阪府立和泉高等学校の 3 グループの利用があった。

また、貝塚市立第二中学校の軽音楽部によるホールの利用もあった。

＜課題＞

コロナ禍で青少年活動や交流する場が制限されるなか、自主的な活動を支援できるよう、積極的に『レッツＴＲＹ』事業についての情報発信をしていく。

―青少年対象事業―

かいづかブックフェスタ

＜ねらい＞

・本を通して人とのつながり作りをすすめる。

・親子で創作活動などを通して学びの機会を提供する。

・公民館で活動する団体の主体的な活動を支援する。

＜状況・成果＞

3/26　日曜日　10 時～12 時　参加者 80 人

共催：市民図書館、貝塚スバコ図書グループ　協力：童謡を歌おうクラブ

貝塚スバコ図書グループ（以下、スバコグループ）との共催で開催を予定していた『絵本ピクニック』がコロナの感染拡大で 2 年連続中止となったため、感染対策がとりやすい公民館の館内で開催できるイベントとして『かいづかブックフェスタ』（以下、『ブックフェスタ』）を企画した。

内容については、月 1 回行っているスバコグループのミーティングで話し合いを重ね、本と SDGｓ（持続可能な開発目標）をテーマとしてオープニングイベントや各コーナー、講座を組み立てた。

「貝塚ファミリー劇場」のイベントもホールで同日開催することになり、午前中は『ファミリーまつり』と題して、遊びのコーナーに会員以外の参加も受け入れた。また、合同でスタンプラリーを実施、来場者が両方に参加してもらえるよう工夫して、相乗効果となった。

『ブックフェスタ』の各コーナーは、申込みが不要なコーナーと事前に申込みが必要な講座で区分したため、当日は混雑もなくスムーズに進めることができた。

各コーナーや講座はスバコグループのメンバーが主となり、出欠確認から講師役の全てを務め、メンバーの得意を活かすことができた。市民図書館は、本のフィルム貼り体験に使うフィルムの提供や絵の本ひろばの設営の指導で関わった。

＜課題＞

今後も、様々な形で本を通した人とのつながり作りを検討していく。

【各コーナー＆講座】

・オープニング合唱＆手話「虹」（童謡歌おうクラブ）
・SDGｓ紙芝居「うらしまじろう」　・絵の本ひろば
・牛乳パックでしおり作り　・牛乳パックでランタン作り
・本のフィルム貼り体験　・えほんで性教育
・各すばこ型図書館の紹介展示

はじめての人形劇

＜ねらい＞

幼児期に親子で生の舞台にふれる機会とする。

＜状況・成果＞

9/26　日曜日　10 時半～11 時半　参加者 51 人（21 組）

出演：人形劇団クラルテ

演目：「ゆらゆらばしのうえで」

「どうして、ぞうさんのはなはながいの」

今年度で 6 年目になる事業。コロナ対策として定員を 80 人とし、前方に子ども用の椅子を配置して子ども同士の距離を確保した。子どもの椅子は仕掛けが見えないよう、人形劇団のスタッフと相談しながら配置し、後方は保護者席とした。

1 歳前半～3 歳の小さな子の参加も多くあったが、橋の仕掛けがシーソーのように動いたり、象の鼻やキリンの首が伸びたりする仕掛け、効果音などの演出がたくさんあり、物語の内容が分からない小さな子でも目と耳で楽しめる内容であった。

＜課題＞

タイトルに「はじめての」とつけているので、今後も幼児向けに人形劇の楽しさに出会える機会として継続していく。

絵本ピクニック

＜ねらい＞

絵本を通して人とのつながり作りをすすめる。

＜状況・成果＞

5/16　日曜日　10 時半～12 時半

※コロナのため中止

場所：水間公園

共催：貝塚スバコ図書グループ

協力：貝塚市民図書館

コロナ下での開催に向け感染予防対策を中心に企画会議を進めていた。(①会場での飲食は禁止とするため開催時間を短縮②入場受付を設置し、検温と来場者の氏名・連絡先の把握など)

コロナ感染拡大で緊急事態宣言が発出され、中止が決定した。秋頃での延期開催の検討も行ったが、コロナの終息も見えない状況での開催は難しいと判断し、来年度以降に見送る事となった。

＜課題＞

貝塚スバコ図書グループの幅広い活動につなげるためにも、貝塚市民図書館と協力して事業を展開していく。

―子育て支援事業―

保育つき講座　子育て×自分磨き

＜ねらい＞

三館同じ内容で時期をずらして開催することで参加しやすくする。

保育を提供することで、親の学びを保障する。

参加者同士で子育ての情報交換や悩みを共有できる場とする。

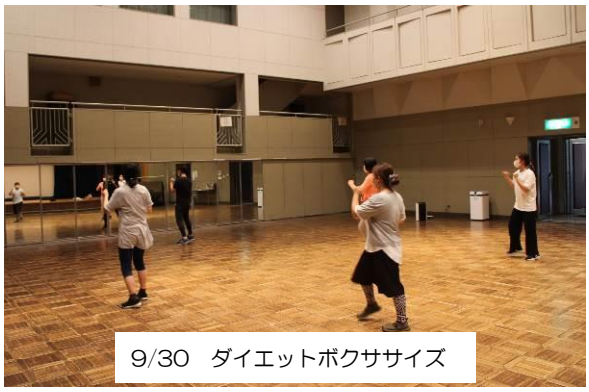
＜状況・成果＞

9/2～10/28　木曜日（全８回）　10 時～11 時半　受講者８人　保育７人

６月から予定していた中央公民館の子育て講座が緊急事態宣言発出による休館のため中止となり、中央公民館へ申込んでいて受講できなかった人の受講もあった。

受講の動機は半数の人が「保育があるから」という理由で、運動不足解消にボクササイズを楽しみにしている人も多かった。

『話してみよう・・・』では講師役の保育ボランティアがうまく話しを引き出してくれ、自分のことや、家族のこと、子育てのことを全員が話せる時間となり、受講者がお互いをよく知る機会となった。アルパハープの美しい音色に癒され、実際楽器に触れての演奏体験や、エコクラフトかごやアロマソープ作りでは、物づくりに没頭できる時間など、子育てで忙しい時期の貴重な時間となった。受講者の感想で保育に対する感謝の言葉が多くあったことからも、自分の時間を過ごせた喜びが伝わってきた。



9/30　ダイエットボクササイズ

『子育て×自分磨き』は全８回だったが、期間を空けず、連続して『フリマアプリ講座（保育付)』『親子ヨガ』を開催したことで、続けて受講した人もあった。結果的に一部の受講者は９月～3 月までの６カ月間一緒に講座を受講することになり、交流が深まっていった。

＜課題＞

ニーズの把握と、学習の要素も入れたプログラムの組み立て。

受講者同士、悩みや不安を共有しやすい雰囲気づくり。

月　日	内容	講師・協力
9/2	講座・保育説明、自己紹介	保育ボランティア・相互
9/9	アルパハープ鑑賞＆体験	濱口　富子（瑞音）
9/16	話してみよう・・・	堀　麻実（保育ボランティア）
9/30	ダイエットボクササイズ	梅本　道代（NPO 法人いきいき・のびのび健康づくり協会）
10/7	エコクラフトカゴの作成	ろうの花クラブ（中央公民館）
10/14	アロマソープ作り	上野　千賀子（まちのすぐれもの登録者）
10/21	入園までに知っておきたいこと	すくすく子育て応援隊
10/28	講座まとめ	相互

保育つき講座　フリマアプリ ～私もできるSDGs～

＜ねらい＞

子育て中の人を対象に、身近なことから『SDGs（持続可能な開発目標）』を意識する機会とする。

＜状況・成果＞

11/18～12/2　木曜日（全3回）　10時半～12時　受講者5人　保育4人

講師：谷地　愛（お片づけ教室「リビング・ホーム」主宰）

1日目は講師作成の資料でフリマアプリ「メルカリ」を使用するための全体の流れを説明、2日目は実際に出品を体験、3日目は2日目のフォローと“かえっこフリマ”※1の内容で実施、実際フリマアプリに出品するかは強制せずに講座を聞くだけでも可能とした。

フリマアプリは顔が見えない相手とのやり取りとなるため、思いもよらないトラブルもある。講師は実体験をもとに注意するポイントや、実際トラブルにあった時の対処方法などきめ細やかな説明をしてくれた。受講者の中にはすぐに出品して取引が成立した人、子どもが入園してからゆっくり楽しみたいと慎重な人など様々であった。

最終日には日々の生活の中でSDGsの実践を紹介し合い、“不用品の活用”や“資源ごみの分別“など小さなことでも一人ひとりが意識して取り組めば大きな変化につながることなどを話し合った。

※1 着られなくなった子ども服、使わなくなったおもちゃや本、日用品を持ち寄る、受講者同士での交換会。

＜課題＞

SDGsについて、学びの要素を増やしていくプログラムの組み立て。

親子ヨガ

＜ねらい＞

同年代の乳幼児をもつ親子が気軽に安心して受講できる場づくり。

受講者同士の交流。

＜状況・成果＞

1/28～3/25　金曜日（全 4 回）　10 時～11 時　受講者 15 組

講師：西村　寿子　（朝ヨガクラブ講師）

乳幼児をもつ親子を対象に、ヨガでココロとからだの疲れを緩和し、家でも家事の合間に出来るヨガを講師が紹介してくれた。また、親と子どものスキンシップにより触れるという刺激は脳や神経機能を高める効果があることや、講師から「毎日お疲れ様です」などの言葉掛けで、受講者は癒されている様子がみられた。

初回は、緊張ぎみであった親子も時間の経過と共に「親子のふれあい」を楽しんでいた。また、大きなホールの中を自由に歩く子どももいることから、親同士もヨガを楽しみながら離れた場所の親子と会話する機会が増えた。4 回の講座で、回数を重ねるごとに、親同士は互いの名前を憶え交流するようになってきた。また、1 回目は、ホール入口で泣いていた子どもも 2 回目からは、自らホールに入る様子が伺えた。

親子ヨガは応募人数を上回った。通常は、講座修了時にアンケートをとることが多いが、今回は、3 回目終了時に、アンケートをとった。回答について、もっと詳しく受講者からの学習要望を聞き取り、受講者の求めるニーズや思いを知り、今後の利用者に寄り添った事業を開催するための手段とした。

公民館講座を初めて受講した人もいたことから、講座の合間に、「公民館では、人がつながり支え合うためのお手伝いをしている。ヨガを楽しむことだけが講座の目的ではなく、4 回連続の親子ヨガ講座を通して、受講者同士の交流を深め、横のつながりを大切にしてもらうきっかけ作りをしていること」などを伝え、受講者とコミュニケーションをとりながら講座を進めた。

受講者からは、「親同士がせっかく顔見知りになれたので、これで終わりではなく、親子ヨガを続けたい」「体を動かしながら親同士の交流を続けていきたい」などの声があり、半数のメンバーが講座終了後も「山手親子ヨガ」と名称を付けグループ活動をすることとなった。

＜課題＞

乳幼児をもつ親子が参加できる講座を検討していく。

受講者の求めるニーズを知り公民館の特性を生かした事業を検討していく。

講座をきっかけとして、横のつながりをつくる。

ことぶきクラブ

＜ねらい＞

65 歳以上対象の講座で、受講者自ら企画したことをみんなで協力しながら運営していく。

生き生きとした高齢期を過ごせるよう、受講者同士で支え合う関係づくりをすすめる。

＜状況・成果＞

前期 4/6～7/13　後期 9/7～12/7　火曜日（全 19 回）10 時～12 時

※4/27～6/15 コロナのため中止　受講者 34 人（内新規 5 人）

4/27～6/15 緊急事態宣言発出のため中止。前期は 14 回予定していたが 7 回開催し、中止したプログラムは後期に延期した。身近な介護予防の話を聞いたり、手話体験を通して障がい者理解を深めたり、顔と名前が一致するようグランドゴルフに取り組んだ矢先、休講となった。

再講は 6 月末となったが、お互いを知りあうためにグループごとに分かれての自己紹介や創作活動、新規受講者に 6 点セットである南京玉すだれや皿回しのやり方を先輩受講者が伝え、交流を深めた。今年は、皿まわしの皿も作り直しをした。経験者が以前より改良された皿の作り方を指導してくれ、新規受講者もスムーズに皿を作ることができ、「これからの練習は自分で作った皿を使用できる」と喜んでいた。

また、ハーバリウムや一輪さし作りでやり方を学んだ後、「たくさん作って友達にもらっていただきました」という人もあり、講座で学んだことを活かしていることがわかった。

「近畿中央ヤクルト販売株式会社」出前講座の健康セミナーを月 1 回ずつ企画し、合計 3 回開催した。スタンプラリー方式で 3 回出席したらプレゼントがもらえたことで受講者は意欲満々だった。また、健康の話と血管年齢測定や血流測定とのセットだったので、「自分の健康管理にも役立つ」と感想があった。

後期最終日は公民館クラブの協力でコーラス山の手クラブによるトーンチャイムの演奏を鑑賞した。クラブ員の中には受講者も加入しており、クラブの代表としてあいさつしていた。その後今年を振り返り、次年度への要望も聞いて修了となった。

今年度は、コロナ禍にあっても不安を抱く人もなく、三密に注意しながらなるべく会場を広いホール内とし、時おり扉を開けて換気したり、毎回その日の受付担当者が検温とヘルスチェックを行い、講座時間も短縮した。

プログラムは受講者の意見を聞きながら最終は代表者 3 人と相談して決めているが、ハイキングのように歩くとなると受講者が減少した。

＜課題＞

料理実習や社会見学など受講者の要望が高い内容のものを感染対策しながら実施するために工夫をする。

＜年間プログラム＞

日時	内　　容
4/6	フレイルって知っていますか 講師：大阪河﨑リハビリテーション大学　理学療法学専攻　講師　今岡　真和
１３	グランドゴルフ　場所：東山グランド
２０	ビデオ鑑賞
２２	簡単な手話を学ぼう　講師：貝塚市障害福祉課職員
２９	好きな花をいつまでも楽しむ　ハーバリウムに挑戦 講師：大阪河﨑リハビリテーション大学　作業療法学専攻　助教　田崎　史江
7/6	自己紹介、朗続に挑戦
１３	手ぬぐいの活用、6 点セットの練習（南京玉すだれ、皿まわし）
9/7	ヤクルトの健康セミナー「生活習慣病とその予防、血管年齢測定 講師　近畿中央ヤクルト販売株式会社　総務統括部　広報課　戸川真早美
１４	卓球バレー、6 点セット（つげさん体操、南京玉すだれ、皿まわし）
２１	落語　出演：千里亭だし吉さん・食育亭卯舞
２８	水間寺の歴史～古絵図を中心に～　講師：社会教育課職員　上畑　治司
１０/5	ヤクルトの健康セミナー「快腸生活で健幸になろう、つまようじで一輪さし作り」 講師：近畿中央ヤクルト販売株式会社　総務統括部　広報課　戸川真早美
１９	水間寺厄除け街道「十六童子」に導かれながらハイキング
２６	グランドゴルフ　場所:青少年運動広場（貝塚市東山）
１１/2	ヤクルトの健康セミナー「ロコモと骨粗鬆症と寝たきり予防、骨密度測定」 講師：近畿中央ヤクルト販売株式会社　総務統括部　広報課　戸川真早美
９	皿まわしの皿作り
１６	健康体操　講師：公民館クラブ講師 坂上　紀子
３０	6 点セット（よさこい、花笠音頭、ゲーム）
１２/7	トーンチャイムの音色を楽しみましょう　出演：コーラス山の手クラブ 今年を振り返って（合作川柳）

※6 点セットとは・・つげさん体操、つげサンバ、南京玉すだれ、花笠音頭、皿まわし、よさこい

開講式の様子

落語の様子

ふれあい料理

＜ねらい＞

障がいのある人が主体的に料理実習にかかわることで社会参加へつなげる。

受講者同士やボランティアとの交流をはかる。

＜状況・成果＞

12/17　金曜日　10 時半～12 時半　（全 1 回）

※5/21～11/19・2/18～3/18（第 3 金曜日）はコロナのため中止

障がい者施設・料理ボランティア・公民館職員の打ち合わせを 4 月に開催した。5 月、6 月はコロナによる緊急事態宣言発出のため休館となった。料理室の人数制限により、7 月から各施設ごと順番に参加してもらうこととなった。しかし、「施設の状況が、外部の人との接触を避けるため、外出しない」「施設では、外出可能となったが、コロナ禍で施設から出ないという習慣がついてしまい外出しない人が増えた」「今までの受講者が入院したことにより参加できなくなった」という理由から受講者が減少した。

コロナ感染者が減少傾向となった 12 月に 1 施設 3 人の受講者の参加で開催することができた。コロナ禍で長い間、開催できなかったこともあり受講者からは「昨日から楽しみで、自分一人でエプロン、三角巾など準備をした」「たくさん野菜が切れてよかった」「全部おいしかった」などの感想があった。また、その感想を聞いたボランティアたちからも「やりがいがある、また頑張ろう」「今日は開催できてよかった」との声が聞けた。

残念ながら、再び 1 月以降はオミクロン株の感染拡大のため、施設担当者、ボランティア、職員の協議の結果、中止することとなった。今年度のふれあい料理は 1 回限りの開催となった。

＜課題＞

コロナ禍であっても受講者が安心して参加できるような体制づくりを検討する。

―成人対象事業―

健康的な布ぞうりを作ろう

＜ねらい＞

コロナ禍、自宅でも楽しめる物づくりとして、頭や手指を使って、健康にもよいとされる布ぞうり作りに取り組む。また、古布を再利用ということで SDGs(持続可能な開発目標)を考える機会とする。

＜状況・成果＞

6/21・28　月曜日　13 時半～15 時半　全 2 回　受講者 15 人

講師：上野　千賀子

昨年好評だったので再度要望もあり開催した。前回抽選にもれた人も参加できて、「やっと作ることができた」と喜んでいた。

自宅で自分一人でも作ることができるように、布をひも状に切断するところから始めた。ハンガーとビニールひもで道具を作り、ひも状の布で編んでいく。両足分を編み上げて第 1 回目は終了。第 2 回目は、鼻緒作り。先に完成した人は、まだ未完成の人に教えるなど相互に教え合っていた。手作りの布ぞうりは愛着もあり、古布を使うので SDGs を考える機会となった。作り方を覚えて家族の分も作るという人もいた。

＜課題＞

創作活動は、頭や手指を使い、達成感があると同時に受講者間の交流にもつながるので、今後も新しい講座に取り組む。

大人のおやつ作り講座

＜ねらい＞

お菓子作り体験をきっかけに参加者同士の交流を深める。

＜状況・成果＞

11/30～12/14　火曜日　全 3 回　10 時～12 時　受講者 11 人

協力：おさんぽかばさん

山手地区公民館の事業である「おさんぽかばさん」の、おやつとして提供している人気のシフォンケーキを体験講座のメニューに加え 3 回の講座を開催した。

受講者は、子育て世代から高齢者の幅広い参加があった。また、前回に引き続き男性の参加もあった。

3 回の講座で、3 つのグループに分かれお菓子作りを体験した。たくさんの人との交流をきっかけづくりとしているため、毎回グループのメンバーを変更し作業を行った。

～メニュー～
１回目　プリンと蒸しパン
２回目　パン作り
３回目　シフォンケーキ

受講者からは、「知らない人と交流できて楽しかった」「幅広い年齢の人と交流できて良かった」「お菓子作りが楽しかった」などの感想があった。

また、パンの焼き時間を利用し「おさんぽかばさん」の活動を冊子にしたものを受講者に配布し、知ってもらう機会ともなった。

＜課題＞

今後も「おさんぽかばさん」の事業を知ってもらう取組みを継続していく。

―成人対象事業―

高齢介護課　共催講座

＜ねらい＞

介護予防・健康づくりに役立て、それらを地域で推進していくために高齢介護課と連携して取り組む。

①認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ

＜状況・成果＞

6/25・7/9・16　金曜日　10 時～11 時半　全 3 回　受講者 10 人

講師：パソコン教室「らいく」専任講師

応募者 14 人で抽選を行い、受講者 10 人を決定。高齢者がスマホの活用方法を学び、生活に役立つ情報や介護予防につながる情報を得て、コロナ禍での人とのつながりをつくるために取り組んだ。

内容は、スマホの基本的な操作・動画を楽しむ・地図を調べる・カメラ機能の使い方などであった。はじめに受講者全員の Wi-Fi 接続に時間がかかったり、アンドロイドのスマホで統一したが、機種によって操作方法が異なりとまどっている様子だった。講師だけでは対応しきれなくて、スタッフを増員した。

一回目に受講者の要望に応えるため「二回目からどんなことをこの講座で学びたいか」というアンケートをとった。講師が設定したプログラムと毎回質問コーナーをつくり、個人の要望にも対応したので、時間が足りなくて、毎回予定していたプログラム通りには進まなかった。

地図検索が一番身近に感じたようで、行先までの所要時間や電車の時刻などがわかり便利な機能だということがわかった。また、自宅を地図から探して、航空写真で発見した時は感動していた。

ユーチューブで動画を検索した時は、ひとりの受講者が楽しい動画を見ていると、他の受講者も興味を示し、検索方法を教え合っていた。スマホの使い方はある程度わかっていた人でも、新しい発見があったようだ。

（アンケートより）

・写真の事よくわかりよかったです。ラインもよくわかり、本当に参加してよかったです。認知症予防になりますね。

・ラインの事が良くわかりました。先生の説明がやさしかったのでうれしかった。

・自分に知識がないもので充分に理解できないところがあった。写真の撮り方・その他はこれからの生活が楽しくなると思う。

・今まで便利な道具として扱ってたが、楽しみ方（ユーチューブ、地図・カメラなど）を教えてもらえたのがラッキー！今度玩具として楽しめそう。

・わからなかったことがわかり良かったです。気長に説明していただいてありがたいです。スマホに愛着を持てるご指導をいただいて良かった。

・だいたいの事はわかっていたけど、細かいところでわかったことがあったので良かったです。写真に文字を入れる方法がわかったのでうれしかった。

＜課題＞

機種により操作方法が異なるので、対応するスタッフの確保。

受講者のスマホ操作に個人差があるので、広報で内容を明確にする。

②ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう

＜状況・成果＞

7/2～12/3　金曜日　10 時～12 時　全 7 回　受講者 19 人

講師：松田　浩一（NPO 法人日本ノルディックウォーキング協会公認インストラクター）

募集時は 17 人であったが、途中から 2 人追加となった。今回は、今まで受講した人も申し込み可能とし、もう一度歩きながらフォームを確認した。また風景や歴史も楽しむということで市外にも出かけることや、仲間と歩く楽しさを感じ、継続して取り組むことで効果を高めていくことを目的とした。

受講者は全員 60 代以上で、初心者 7 人。動機は「猫背なので姿勢をよくしたい。ポールを持っているが、基本をマスターしたい。友達にノルディックはいいよと誘われて参加した。」ということだった。

実際、外を歩くと経験者と初心者間で歩く速度や距離に差がでてしまった。対応策として、列の前・中間・後ろにリーダー的な人を配置した。

遠方にでかけた時は、開放感があり、周りの風景にも癒され、受講者同士の交流も深まった。新規参加者 3 人が継続してグループ加入を希望した。

月日	行　先
7/2	山手地区公民館周辺
9/3	山手地区公民館ホール
10/1	二色ノ浜周辺
10/22	山手地区公民館周辺
11/5	万博記念公園
11/19	たわわ方面
12/3	京都方面

（アンケートより）

・知らない道を歩いて新しい発見があり、毎回楽しい時間でした。

・ポールは持っていましたが、自己流で歩いていたので、正しい歩き方を教えてもらって勉強になりました。

・途中から参加させていただきましたが、なんとかみなさんについていくことができました。

・背すじが伸びて姿勢がよくなった感じです。今後もぜひ続けていきたいです。

＜課題＞

二つの講座とも新規希望者の要望もあり、今後も介護予防につながるような取り組みを継続していく。

第３回こうせい展

＜ねらい＞

身近な場所で障がいがある人の作品にふれ、障がい者理解につなげる。

家族や地域とのつながりの中で子育てをすることの大切さを伝える。

＜状況・成果＞

展示期間　11/8～11/21

トークイベント　11/11　木曜日　午前 10 時半～11 時半　参加者 10 人

第 1 回、第 2 回はみんなのロビー展で実施していた「こうせい展」を、今年度は人権課題事業と位置付け、実施することとなった。

展示期間中は、クラブや団体の活動に来た利用者が鑑賞している姿があり、第 1 回や第 2 回の展示を覚えている利用者からは「こうせい君の作品から成長を感じた」との声もあった。トークイベントは、こうせい君の母親である村上千絵さんにこれまでの子育てについて話してもらう時間とした。参加者には、障がい児を育てる親のほか、障がい者の支援に携わる人も多く、「障がい者本人だけでなく、その家族の気持ちに寄り添うために話を聞きに来た」という人もいた。

村上さんからは、初めて深く関わった障がい者が我が子であり、母親目線で自身の体験談から障がい者への理解や、人とのつながりの大切さを話してくれた。参加者のみなさんがトークイベント終了後もすぐに帰らずに村上さんと色々お話をしていたのがとても印象的だった。

今回のトークイベントでは、障がい者が身近にいない人でも、子育てを通して共感できる部分がとても多かったと感じる。今後も身近にあるテーマから、一人でも多くの人に人権問題を自分事として考え、学ぶ場を提供していく必要がある。

トークイベント参加者の感想

・「あやまってばかりいた」という一言が胸にズンときました。色々なことを乗り越えて、こうせい君のありのままを受け入れ、寄り添い、認め、前を向いているステキなお母さん。

・お母さんが明るく前向きなのは地域や仲間のおかげだろうと感じました。

・明るさ、前向き、プラス思考、子育てや生きていくうえで大切だと学んだ。

＜課題＞

今後も、人権問題について考えるきっかけや学びの場を作る。

担当部署とも連携を取りながら進められる方法を検討していく。

ロビーコンサート

＜ねらい＞

身近で気軽に生の演奏を楽しむ機会とする。

市内で活動する音楽家の発表の場とし、内容の企画・運営についても自主的に進める。

＜状況・

奇数月　第 3 火曜日　12 時半～13 時半　全 5 回　延べ 163 人　※5/18 はコロナのため中止

コロナのため、5 月は中止となった。

昨年に引き続き参加定員を 40 人として事前申し込み制とし、入場時の検温と座席の間隔を確保し感染対策をとり実施した。

今年度もコロナ禍で、年度計画は立てたものの予定日にはできるかどうか心配しながら取り組んだ。

出演関係者には、飛沫対策や客席との距離、フェイスガードやマスクをしての演奏や感染状況によっては直前でプログラム変更等無理を依頼することもあった。

月日	内　容 *下段：出演者*	企画	参加人数
5/18	コロナのため中止	B	
7/20	“夏”満喫コンサート ～童謡・民謡・歌謡曲より“愛”を込めて～ *荒瀬紘子・安田保奈美*	ク	36
9/21	＝ピアノ連弾による＝舞踏への誘い *荒瀬紘子・安田保奈美*	ク	25
11/16	～こもれびの中で共に奏でるひとときを心和むとき～ *こも池博子・今川知恵子・西規子・三井好子*	B	28
1/15	新春に寄せて　～箏とフルート～ *岡部雅浪・今川知恵子*	B	45
3/16	はるかぜコンサート　～童謡のひととき～ *岡野玲子・佐東理絵・西上裕恵・北野知子・荒瀬紘子*	ク	36

※「企画」欄のＢ=アンサンブルBUNS、ク＝貝塚市クラシック音楽家協会

参加した人たちからは、コロナ禍で音楽を聴く機会も少なくなった中、生の演奏を聞くことができてよかったとの声が聞かれた。

（参加者の感想）

・公民館でのロビーコンサートが行われ、楽しいひと時を過ごせたのがよかったし、癒されました。

・早く“皆さんと一緒”のコーナーで大きな声で歌える日がくるよう願います。

・ロビーコンサートを楽しみにしてました。やっぱり生演奏はよかったです。

＜課題＞

定期的なロビーコンサートだけではなく多くの人が参加できるよういろんなジャンルのコンサートや若い世代にも照準を当てた内容を企画する。

―文化振興事業―

～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま「お夏清十郎」

(山手地区公民館開館 30 周年事業)

＜ねらい＞

山手地区公民館開館 30 周年事業として、山手地域の水間に伝わるお夏清十郎の伝説の音楽劇（オペレッタ）を通して、地域の良さを再発見する機会とする。また、一般市民を募集し、この事業を協同で作りあげる。

＜状況・成果＞

市民合唱練習期間　7/2～10/15　金曜日（全 8 回）19 時～21 時

市民合唱（村人合唱団役）　21 人

指導：声楽家　角野　芳子、ピアノ　安枝　まなみ

本番　10/17　日曜日　13 時半～14 時　参加者 100 人

共催：すいてつ沿線魅力はっしん委員会

昨年度、村人合唱団役として参加した人に新規 10 人が加わり 21 人で練習を重ねた。練習回数も前回よりは少なかったので、進むスピードも速く、初めての人にとってはついていくのが大変そうだった。しかし衣装を着けたり立ち位置を決めていくと、次第に打ち解けていき交流が深まってきた。人数も増えたので迫力があり、また楽器の演奏では、ピアノ・ヴァイオリン・カホンに今回はクラリネットが加わったので音楽にボリュームがあった。

本番は午後から一般募集した人が対象だったが、より多くの人に鑑賞してもらうために午前中にクラブ員対象にリハーサルも兼ねて行った。

すいてつ沿線魅力はっしん委員会からは、お夏清十郎についての歴史を書いた資料や水間寺のパンフレット、クリアファイルを受付で配布。また、ロビーではお夏清十郎の等身大パネルを設置したり、過去のすいてつ沿線魅力はっしん委員会のイベントのパネルを展示し、来場者にとっては山手地域の歴史を再発見する機会となった。

本番終了後の市民合唱メンバーの顔には、みんなでひとつの劇を創りあげて発表できたという達成感があらわれていた。劇の様子を録画し、後日、貝塚市のユーチューブで流した。また DVD に録画し、出演者全員に配布した。

（市民合唱メンバーの感想）

- 今回オペレッタに参加させてもらい本当に多くのことを学ばせてもらいました。きめ細かな指導にぎりぎりついていった感じで、今後これを生かしてまたこの様なチャンスがあれば参加したいと思っています。このコロナ禍の中で、あざやかな光を放った秋の日の一日でした。
- はじめて合唱にプロの方と参加でき、すばらしい体験ができました。音楽（メロディー）がすごくキレイで全国に広まってほしいと思いました。

＜課題＞

今後も地域と連携しながら、文化事業をすすめていく。

第９回　たまねぎ劇場

＜ねらい＞

市民グループの発表の場として、皆でひとつの事業を企画・運営する。

地域で活動しているグループに発表の場を提供することにより、貝塚の文化の裾野を広げる。

＜状況・成果＞

6/27　日曜日　13 時半～15 時　参加者 30 人

第 8 回はコロナのため中止となり、第 9 回は 4 月に予定していたが、緊急事態宣言発出のため 6 月に延期した。今年は 4 つのグループが集まり、実行委員会会議を 3 回行った。初参加ではウクレレグループが加わった。チラシ作成・出演順・役割分担を決めたり、当日の舞台スタッフも少ない人数ではあったが、協力してすすめることができた。また、グループ間の交流も深まってきた。コロナ禍で観客は少なかったが、出演者からは、「久しぶりに照明があたると引き締まります。コロナ禍で公演の機会がなく今年はあきらめていたが、舞台でできてよかった。」という声があり、次回開催に向けて意欲的であった。

出演グループ	内　容
朗読劇グループ「ことの葉」	朗読劇
しえるバレエクラブ	バレエ
ビートルズバンド「ビースマイル」	軽音楽
ウクレレフレンズ	ウクレレ

＜課題＞

地域で活動しているグループの掘り起し。

―文化振興事業―

ウクレレ　夕空コンサート

(山手地区公民館開館 30 周年事業)

＜ねらい＞

クラブ同士の横のつながりを作る。

山手地区公民館の窓越しから見える身近な自然風景「夕空」を楽しむ。

＜状況・成果＞

3/8　火曜日　4 時半～5 時半　参加者 50 人

山手地区公民館開館 30 周年記念事業の一環として、山手地区公民館の講座室から見える夕日を背景に、「オルオルウクレレクラブ」と「ククルウクレレクラブ」2 つのクラブによるコンサートを開催した。クラブ員が奏でるメロディーが、沈んでいく太陽と絡み合い、ゆったりと時が流れた。

開催場所は、2 階ロビーと講座室 1 の間仕切りを取り、1 つのフロアとして使用した。

コロナ下で思い通りに旅行に行けない状況で、クラブ員は、アロハシャツやレイを身に付け、ハワイアンミュージックを演奏するなど、ハワイに来たような雰囲気を演出してくれた。

日頃は午前と午後で、別々に練習しているクラブだが、コンサートでは、合同で演奏する場面があった。本番まで何度か合同練習を行い、段取りについても、きめ細かく話し合った。クラブ員、講師、担当職員は、互いに、コンサートの結果に至るプロセスの大切さを実感した。異なるクラブ同士の絆も深めることができた。

また、障がい者対象の料理で活躍している「ふれあい料理ボランティア」による温かいコーヒーなどのサービスが提供され、参加者や演奏者から、ボランティアへの感謝の言葉があった。

自然を取り入れた企画だったため、当日の天気が大変心配されたが、晴天で開催することができ安堵した。参加者からは、「日頃、山手地区公民館を利用しているが、このような美しい夕日が見える事を知らなかった」「ウクレレの音色と夕日が素敵だった」「時期を変えてもう一度開催して欲しい」「演奏を聞いている私達も楽しかったが、演奏しているクラブのみなさんはもっと楽しそうだった」「ますますウクレレが好きになった」など感想を聞くことができた。

＜課題＞

山手地区公民館の魅力を地域に伝え、多くの人が参加できる事業を企画する。

保育ボランティア

＜ねらい＞

子どもが安心･安全に過ごせる保育環境作り。ボランティアが主体的に関われるような場の提供。

＜状況・成果＞

定期登録者５人　不定期登録者４人

保育付き講座「子育て×自分磨き」子ども７人

「フリマアプリわたしもできる SDGs」子ども４人

７月に打ち合わせの場を設定した。ボランティアは代表・会計を決めたり、連絡事項はラインで行うなど自主的に活動している。コロナ禍での保育のすすめ方について相談したり、１才児がほとんどだったのでおやつ選びについて意見を交わした。子どもの年齢が低いので、定期・不定期登録にかかわらず、出席できる人は全員来てもらうようにし、ボランティアが多い時は、交代で講座に参加するよう調整した。毎回講座終了時には、ボランティアの反省会を行い、各自がその日の保育で気がついたことなど意見を出し合い、ボランティア間で共有し、次回の保育に役立てた。欠席した人には、職員から前回の様子を伝えている。最終回には受講者に保育室の様子を伝えようと、ボランティアが保育中の子どもの動画を撮影した。

登録者を増やすために、ボランティアが知り合いに声掛けし、新規登録者が１人増加した。

＜課題＞

今後もコロナ禍で受講者が安心して預けられる保育を、ボランティアとともに考えていく。

おさんぽかばさんボランティア

＜ねらい＞

ボランティアが主体的に活躍できるよう支援する。

＜状況・成果＞

活動メンバー：５人

春に実施予定だった水間寺客殿での「おさんぽかばさん」はコロナのため中止となった。

秋の「おさんぽかばさん」では講座企画のためにボランティアの意見を出す場をもった。感染予防をしながらできる方法を考え、開催場所は空気清浄機がある、山手地区公民館の保育室を使用し、おやつの提供の代わりに、ものづくりをするなど工夫をし、開催した。

また、誰でも気軽に参加し交流できる場とし、「大人のおやつ作り講座」をボランティアが、家でも簡単にできるお菓子メニューを提案する講座を開催した。パンを焼いている待ち時間など、和気あいあいとした雰囲気づくりへと導いてくれた。

「夏の子ども講座」についても「親子で一緒にもの作りをすることで得られる達成感を実感して欲しい」というボランティアの気持ちから『キーホルダー作り』や、子ども達が興味のある『ふわふわパンを作ろう』を提案し協力した。どちらも大変好評でたくさんの応募があった。

＜課題＞

ボランティアが地域に出て活躍できる場を提供できるよう取り組む。

ふれあい料理ボランティア

＜ねらい＞

障がいのある人が主体的に料理実習に関わることで、自立や社会参加へつなげる支援を考える。

ボランティア同士の交流を深める。

＜状況・成果＞

定期登録者５人

登録者が昨年度より２人減少となった。（家族の介護の為）

昨年度はコロナ禍でふれあい料理講座を開催することができなかった。

４月に障がい者施設職員・料理ボランティア・公民館職員で話し合う場をもった。講座再開に向けては、それぞれの立場から意見を出し合い情報交換を行った。3 密を避けるためのパーテーションの利用、手指消毒の徹底、調理実習する際は施設ごとで行うなど開催に向けての取り決めをした。

しかし、緊急事態宣言発出による休館や緊急事態宣言解除後の障がい者施設の状況により残念ながら１回の開催となった。

ボランティアは、コロナ禍で講座が開催できない期間は、公民館を利用して時短で簡単にできるメニューを考え、調理実習時に注意する点など確認をしながら試作するなど、開催に向けての自主的な準備の取り組みがされた。

今年度初めて開催した、12 月のふれあい料理の際には、受講者から「とても楽しみにしていた」との感想がありボランティアの励みとなった。

また、3/8 開催の「ウクレレ　夕空コンサート」では、ボランティアが中心となって準備を進め、参加者に温かい飲み物を提供してくれた。

コンサートに参加した、参加者の中から、料理ボランティアの活動に感動され、「私も、料理ボランティアの一員になりたい」との声があり、来年度からメンバーに加わり活動してくれることとなった。

コロナ禍により、ふれあい料理を開催できる回数は少なかったが、ボランティア同士の交流を深めることができた。

＜課題＞

ボランティアの意欲を持続するための工夫。

ロビー活用

＜ねらい＞

いつでも誰でも気軽に利用でき、交流できる空間づくりに努める。

文化事業や気軽な作品発表の場、啓発や事業案内などの情報提供の場としても活用する。

＜状況・成果＞

コロナ禍でロビーでの遊び道具は使用禁止としていたため、火曜日の“げんき広場”以外ほとんど子どもたちの姿がなかった。

図書コーナーでは本の貸し出しや返却はあったが、気軽に読書や学習に利用できるスペースの利用者は激減し、また市民サービスコーナーが閉所となった影響もあり、ロビーに配架をしている情報コーナーに立ち寄る人の姿も少なく、利用者以外の市民の姿も少なくなった。

今年度のロビー展示については、コロナの影響で昨年に引き続き少なかった。

毎年希望するクラブの作品展示も前半コロナで活動が止まった影響で作品が少なく、過去の作品を展示しているクラブもあった。

昨年に引き続き三公民館クラブの交流を目的とした「三館展示交流会」を開催した。浜手、山手で公民館まつりに代わる活動発表会の時期と重なったこともあり、展示クラブも少なかったが、来場者名簿だけではなく展示への感想などを書いてもらえるように工夫をした。

各館では、自館にないクラブの作品展示のため好評で、「これからも展示交流を続けてほしい」との声もあった。

クラブ以外では市民の展示として絵画・写真・工作などの展示や『かいづか家族の日』の受賞作品や人権・環境問題の啓発展示などを行った。

昨年に引き続き宣伝告知をせず、ロビーでオルオルウクレレクラブの“ゲリラライブ”や、公民館 30 周年記念のクラブインタビューと振り返る写真展等、協議会やクラブでの利用もするようになり好評であった。

＜課題＞

今後も、地域の人たちや公民館利用者が気軽に参加できるような工夫と発信を行う。

作品展示だけではなく、ミニライブやコンサート等様々な催しができるよう広く周知する。

―地域連携事業―

おさんぽかばさん

＜ねらい＞

乳幼児をもつ親の交流をはかる。また、地域でのつながり作りを目指す。

＜状況・成果＞

10/19～11/16　火曜日　10 時～11 時半　（全５回）　参加者：延べ４組

春に予定していた水間寺客殿での「おさんぽかばさん」はコロナのため中止となった。秋はコロナ禍で地域の町会館を借りることは困難と判断し、山手地区公民館の保育室での開催となった。

コロナ予防対策として、ボランティアが作るおやつの提供を止め、その代わりに「クリスマスリース」や「ヘアゴム」の制作をして交流することにした。

参加者が１組、または０組の日もあった。参加親子が少なかったため、親同士の交流ができなかった。また、開催場所を水間寺客殿から山手地区公民館保育室としたことにより、地域で親同士のつながりをつくることができなかった。しかし、小人数だった為、ボランティアと参加者との交流を深めることができた。参加者からは「日ごろ、子どもが小さいので家で針仕事ができないが夢中になってリースを作ることができた」との感想があった。

＜課題＞

コロナ禍で予防対策を取りながらの企画内容の検討と開催場所の選定、確保。

参加者を増やすための呼び掛けの工夫。

移動公民館

＜ねらい＞

近隣の地域住民の交流の機会をつくる。

様々な条件から公民館に来られない人たちに公民館活動を知ってもらう機会とする。

＜状況・成果＞

≪清児楽歩会≫　4/10　土曜日　10 時～11 時半　　参加者 10 人

清児老人会のクラブの一つである「清児楽歩会」より依頼。普段は健康づくりのためにウォーキングで交流しているが、今回はノルディックウォーキングに挑戦。町会館の前でポールの持ち方や歩き方を学んだ後、近隣の風景を楽しみながら歩いた。

初めてポールを持って歩いた人でも慣れてくると自然とバランス良く歩けるようになり、特に坂道ではポールの効果を感じることができたようだ。

≪東山いきいきクラブ≫　8/20　金曜日　10 時～11 時半　　参加者 13 人

東山老人会「東山いきいきクラブ」より依頼。歯ヨガ・タオル体操・頭の体操（数字合わせのパズルを各自で作成）で交流。数字合わせでは、ヒントを伝えながらではあったが、完成した時の達成感を伝えることができた。

茶話会では、不安を抱きながらも集まることの大切さや楽しさが伝わってきた。またコロナについて貝塚の現在の情報を求める声が多かった。

≪木積長生会≫　12/8　水曜日　13 時～14 時半　　参加者 60 人

出演　山手地区公民館津軽三味線クラブ・喜怒家　哀楽（落語）

木積老人会「木積長生会」より依頼。長生会役員が中心となり会場設営を行った。公民館からは出演者を紹介し、当日の音響設備を担当。参加者はコロナ禍だったので久しぶりに会う人たちが多くあちらこちらで会話がはずんでいた。

津軽三味線の演奏に耳を傾け、知っている曲があるとロずさんでいた。また、落語の時には約 1 時間笑いが絶えなかった。

≪木島・東山校区福祉委員会≫

①12/12　日曜日　10 時～正午　参加者 22 人

②12/14　火曜日　10 時～正午　参加者 21 人

木島・東山校区福祉委員会よりノルディックウォーキング体験の依頼があった。健康推進委員が中心となり、各町会へのチラシ配布・受講者募集・当日の運営も分担して行っていた。

参加者は、40～70 代と幅広く、夫婦や現役世代の参加もあり、日頃の運動不足解消につながった。

また、初めて顔を合わす人もいたが、同じ校区ということもありすぐに打ち解け、会話もはずんでいた。歩くコースは、見慣れた近隣の公園であったが、初めて訪れる人もあり、「近くにこんないい場所があったなんて、見晴らしもいいし、孫を連れてまた来ます」という声もあった。

＜課題＞

今後も地域からの要望があれば取り組んでいく。コロナ禍でもできる内容を考慮する。

木島校区新春映画会

＜ねらい＞

山手地区公民館開館 30 周年事業として木島校区福祉委員会と連携し、認知症について理解を深める。

＜状況・成果＞

1/9　日曜日　①10 時～11 時半　参加者　45 人　　②13 時～14 時半　参加者　131 人

映画「ばあばは、だいじょうぶ」

会場　山手地区公民館ホール

山手地区公民館が地域の団体にささえられて 30 年を迎える。山手地域の課題である高齢化と認知症について地域の人たちとともに考える機会となった。過去に家族などの介護を体験した人にとっては思い出がよみがえったり、特に高齢者をかかえている人にとっては認知症理解が深まった。

＜課題＞

今後も各種団体と連携し、地域コミュニティ活性化につながる事業を展開していく。

水間末廣座

(山手地区公民館開館 30 周年事業)

＜ねらい＞

生の舞台をとおして古典芸能にふれる機会を提供する。

＜状況・成果＞

2/27　日曜日　13 時半～15 時　　場所：ホール　参加者 80 人

出演：桂　文昇（落語家)、桂　恩狸（落語家)、豊来家　一輝（太神楽)

コロナ禍のため、開催場所を水間寺から山手地区公民館ホールに移して 2 年目となる。今回もコロナ対策として整理券を事前に配布し、当日氏名・連絡先を記入して持参するという方法をとった。

まん延防止等重点措置が発出されており、参加者からは開催するかどうかの問い合わせも多々あった。当日は整理券発行数よりも参加人数は減少したが、開場時間前から来館する人の姿もあった。日本の古典芸能「落語」の他に趣向を凝らした演出を文昇さんが考えてくれており、今年は太神楽の豊来家　一輝さんに依頼。傘の上でまりや升をまわしたり、口にくわえたばちの上で本物の土瓶を操るという究極のバランス芸はスリル満点で、観客は拍手のタイミングを忘れるほど見入っていた。

親子連れの参加もあり、子どもが楽しめる落語の演目もあったので笑い声も聞こえてきた。

＜課題＞

コロナ感染や開催会場の準備などを考慮し、今後は山手地区公民館で文化事業として開催する。

【参考】「ほかでもがんばっているよ！」

山手地区公民館活動協議会所属クラブやグループの地域での活動

NO	月日	クラブ・グループ	会　　場	備　　考
1	11/20	ククルウクレレ	貝塚市立中央公民館	講座「夢にチャレンジ」 障がいがある方を対象にウクレレの演奏体験
2	12/8	津軽三味線	木積町会館	依頼者は木積長生会　津軽三味線の演奏

―団体支援事業―

山手地区公民館活動協議会

＜ねらい＞

活動協議会の主体的な活動を支援し、協働・連携をはかっていく。

クラブ運営における様々な課題をみんなで考え、解決できるように共に考えていく。

＜状況・成果＞

クラブ数 34、クラブ員 424 人（11 月 1 日現在）、役員 8 人

昨年度より 3 クラブが廃部となった。（クラブ員の高齢化とコロナ禍によるクラブ員の減少）

役員体制は、前年度に引き続き留任となった。

今年もコロナ禍での定期総会は開催した。

総会で年間の事業計画を決定したが、各部会での話し合いにより主要事業は中止となり、定例委員会も毎月開催を 2 か月に 1 回となった。

“公民館まつり”については、コロナ感染状況を判断し、各クラブの「活動発表会」と名称を変え、規模を縮小し舞台発表と展示を行った。2 年ぶりの舞台発表と作品展示に各クラブとも日常のクラブ活動の発表に向け活動にも活気があった。

今年は、山手地区公民館開館 30 周年、活動協議会結成 30 周年事業として、“クラブ訪問インタビュー”を取り組み、各クラブの紹介をまとめクラブ発表会の時にロビーで展示した。また、歴代協議会委員長の“想い出語ろう会”と題して座談会を開催し、結成当初からの公民館や協議会活動、これからの公民館に期待する事など貴重な話を聞かせてもらった。職員、協議会役員も興味深い話を聞きこれからの公民館を考えていくため良い機会となった。

＜課題＞

登録団体で活動協議会未加入の団体へ活動協議会と共に加入促進を支援する。

講座をおこなう中で、グループ化、クラブ化に向け取り組みを進めていく。

クラブ発表会＝クラブインタビュー展示＝

クラブ発表会＝舞台発表＝

利用者団体代表者会議

＜ねらい＞

公民館を利用する団体が公民館活動の理解を深め、公民館利用団体の交流する場とする。

＜状況・成果＞

活動協議会主催の新委員勉強会と同日開催してきた。

今年の利用者団体代表者会議はコロナ拡大防止による緊急事態宣言発出の影響や、団体登録制度の変更で対象団体があいまいになったことにより、開催することができなかった。

＜課題＞

コロナ禍による新しい生活様式の下、公民館利用の在り方などを啓発するとともに利用団体が公民館活動の理解を深める場として実施していく。

対象団体の整理と内容の検討を行う。

バンド連絡会

＜ねらい＞

登録バンドの自主活動の支援。

＜状況・成果＞

コロナ禍で音楽室の使用制限もあり、各バンドの練習ができなかった。

個々の登録バンドの練習もほとんどなく、バンド連絡会（以下、バンド連）としての活動も出来なかった。

4 月からバンド連としての活動協議会加盟をどうするのか協議し、個々のバンドでの協議会加盟をしていく方向で確認した。

長年バンド連として公民館を拠点として活動をしてきたが、今年度末をもって解散し、個々のバンドとして活動をしていくこととなった。

＜課題＞

個々のバンドとして継続して活動できるよう支援方法を検討する。

三　公　民　館　共　通

目　　次

■三館連携事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・三館 1
・第 10 回貝塚公民館大会事前学習会
・第 10 回貝塚公民館大会
・しゃべり場★公民館
・保育ボランティア養成講座
・公民館だヨ！Zoom で集合①②（オンライン座談会）
・はじめての Zoom サロン（浜手・山手地区公民館連携事業）

■会議・資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・三館 10
・貝塚市立公民館運営審議会
・阪南公民館運営研究協議会（阪公運）
・阪南地区公民館利用者連絡協議会（阪公連）
・三館利用者連絡会（三館利連）
・Ｋ（研修）部会
・大阪府公民館・関連施設連絡会（府公連）
・市内小中学校施設見学受け入れ
・視察・研修受け入れ
・貝塚主事会
・まちのすぐれもの
・広報
・新型コロナウイルス感染症への対応と公民館の動き
・利用統計

第 10 回 貝塚公民館大会事前学習会　佐藤一子さんを迎えて考える「持続可能な未来に向けての学びと公民館」

＜ねらい＞

利用者と職員がともに考え学ぶ。

第 10 回貝塚公民館大会（以後、大会）に向けて学びを深め相互の交流を図る。

＜状況・成果＞

1/18　火曜日　13 時～15 時半　対面受講者 40 人　（オンライン受講者：6 人）

講師：佐藤一子（東京大学名誉教授）　コーディネーター：村田和子（和歌山大学教授）

コロナでこの 2 年間に公民館は 2 回に及ぶ休館を経験した。昨年の公民館大会でわたしたち（利用者と職員）は「公民館は命綱」であったことを確認した。単なる「行く場所」から、暮らしに欠かせない「生きる場所」であった公民館。そのことを学びの中で確かめようと今回、大会の事前学習会として佐藤一子先生を招聘し学習の機会をもった。

当初、対面での開催予定はオミクロン株の急拡大で佐藤先生のみ急きょオンラインとなり、公民館と先生をつないでの学習会となった。（注）当日、和歌山大学学生と公民館アドバイザーの 6 人がオンライン参加となる。

佐藤先生は、社会的困難や生きづらさを抱えた人が増える中、「ともに生きる学び」が競争社会にかわる新しい生き方となり、これこそ社会教育の出番だと「社会教育の必須性」を挙げた。一方で、公民館には好きな人が好きなことをする場だと世間からみられている節があり、社会教育の必須性の認識の弱さを検証していく必要性も語られた。

先細りしていく活動に危機感をもっている利用者には、活動の当事者として自覚的・自発的に活動を広げられるか、困難な者どうしが支え合える多様な学びの場を自分たちの手で作り上げていけるのかを問われた。

佐藤先生の投げかけに対し、後半は村田先生のコーディネートで、会場参加型のディスカッションを行った。村田先生から①講演で印象に残った言葉 ②公民館への期待 ③自分へのエール、と 3 つの質問があり、参加者は用紙に各々の思いを書いて発表をした。

会場からは、当事者としての自覚をもち、グローカル*な視点で公民館活動を地域にひろげたい、伝えたいとの意見が語られた。少子高齢社会が各々の活動の課題となる中、多世代との交流や双方向的な助け合いなど新たなネットワークづくりに目を向けていくことを知ったことで今までとは違う視点で活動を展開してみようという意欲を示した参加者もいた。

最後に佐藤先生が「本気でみなさんが貝塚の中で社会教育という多様な、ともに生きる場を発信する一歩が明日から始まっていくことを心から願っています。」との言葉に会場は胸を熱くした。

参加者には自らの活動をみつめ、職員にとっては多角的な視点をもち社会教育の仕事とは何かをふりかえる機会になった。学習会により学ぶことの必要性を感じ大会への期待も高まった。

＜アンケート＞

・久しぶりに講座に参加しました。社会教育についてあらためてより深く理解する事ができ、その重要性を確認する事ができました。参加して本当に良かったです。

・学歴社会とは異なる新しい価値観を社会教育が生み出していかなければならないというところが印象的でした。

※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

＜課題＞

学習会の振り返りを行い、学びを実践に結びつける。　*グローカル＝グローバルとローカルの造語

―三館連携事業―

第１０回貝塚公民館大会

＜ねらい＞

いろいろな人、世代が集まりお互いを知る、気付きを得る、共有する場を目的とする。

自分たちの活動について課題を解決するために考え、語り合う場とする。

利用者と職員がともに学び合う機会とする。

＜状況・成果＞

2/6 日曜日　13 時～15 時半　参加者　115 人

中央 53 人 浜手 25 人 山手 29 人　オンライン 8 人

講師：牧野篤（東京大学大学院教育学研究科教授）

コロナ禍の公民館大会は、昨年に引き続きオンラインを用いての開催となった。今年は 3 館をサテライトとした昨年の方式に新たにオンライン参加者を募り 8 人を受け入れての大会となった。

講師の牧野先生には対面での講義を依頼したところ、快く引き受けてくれオミクロン株が拡大した最中でも足を運んでくれた。

当日は貝塚少年少女合唱団（以下合唱団）のコーラスで幕を開けた。合唱団はコロナでこの 2 年間、発表の場を奪われ今秋は定期演奏会の開催 1 週間前に断念をせざるを得なくなり何度も涙をのんできた。今回、子どもたちに合唱の場を設けたいとの合唱団の思いも強くオープニングを引き受けてくれ、子どもたちの歌声が Zoom を通して中継された。各会場からは大きな拍手が湧き感動的なオープニングであった。

続いて牧野先生の基調講演が始まった。国の施策や経済界などに通じている先生の講義は、私たちが気づかない国の動向と社会教育を結ぶ結節点や、社会教育の学びがますます生活に欠かせない時代であることが語られた。

改めて個々が自らの活動を照らし、振り返り、人生 100 年時代のこれからを生き抜く力をいかにつけていくのか、公民館での学びと活動を継続することの必要性を確認し、次代に継ぐためにどうすればよいのかを考える機会となった。

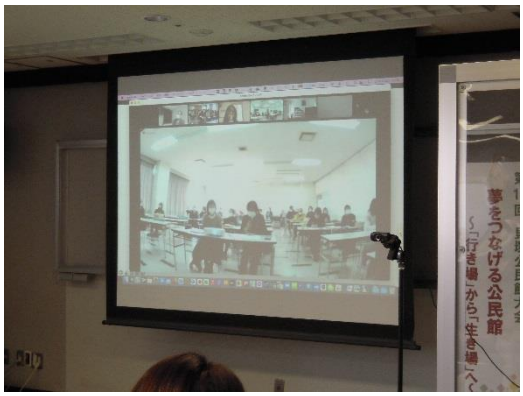
基調講演の後は各館でグループトークが行われた。オンライン参加者は職員が進行役となり、画面上での交流となった。プログラム上、グループトークの時間が短いことで十分に話し合うことはできなかったのだが、対話をする場面を設けられたことでテーマに沿った話や講演感想を出し合うなど、どの班も話が弾んでいた。生き生きと語る参加者や話し出すと止まらないほど夢中になっている姿に、対話をすることや集える場、人との結びつきが求められていることが垣間見られた。

グループトークを終えたあと 3 館から代表者が報告を行い各館の状況を共有した。

再度、牧野先生から全体のまとめを受け公民館大会を終了した。久しぶりに開催された大きな集会で会場は熱気を感じられただけでなく、子育て関係団体からは、再度牧野先生のお話を聴きたいとのリクエストも飛び出した。

（オンライン活用）

今年度は3館を通じてオンライン講座・事業を積極的に行ったことでオンラインを使える市民を増やしてきた。講座の受講者たちが自宅からの参加を試みた。名前の変換、ミュートなどの操作も慣れ大きな支障もなく進められた。初の試みとなったブレイクアウトルームでのグループトークも画面上ではあるが交流を深められた。ただ、対面ではないゆえに個々が十分に話すことができず進行上の工夫が求められた。



（実行委員会）

9月に結成された実行委員会は本番まで6回の委員会を開催し準備を進めた。昨年の公民館大会で初めて実行委員を受け、その経験が楽しかったからと今年度も引き受けた人が複数いた。構成団体は、各館のクラブ協議会、貝塚子育てネットワークの会、貝塚ファミリー劇場、しゃべり場★公民館、3公民館職員である。コロナで各団体からの出席数の制限を設けたので、しゃべり場★公民館からは交代で委員会に出席する形となった。

実行委員が毎回苦労するところに公民館大会のテーマと講師を決めることがある。今年も2回の実行委員会で議論を重ねテーマを決めた。講師に関しては事前にユーチューブで牧野先生の講演会を聴き、委員間で共有して決めるなどした。

＜プログラム＞

13:00　開催（主催者挨拶・来賓挨拶）
13:05　オープニング　貝塚少年少女合唱団
13:15　基調講演　講師：牧野篤さん
　　（東京大学大学院教育学研究科教授）
14:15　グループトーク
14:55　各館から報告（各館5分）
15:10　講師まとめ
15:25　閉会（中央公民館会長挨拶）

＜アンケートより＞

- 講演で新しい今の時代の社会状況なども知れてよかったです。自分たちの活動がこれからの社会に必要な事の最先端だと自信を持ってやっていきたいと思いました。
- 公民館は次世代を育てるところだと聞いて、とても頼もしく、また責任も感じるところです。子どもとの関りが大切で地域の役割の大切さをはじめて知りました。
- 社会教育の大切さ、高齢化、孤立から居場所を作ってくれる。いい人間関係をたくさん持てたら長生きと聞き、自分もまだまだだけど公民館から色々と楽しくいきたいと思いました。

＜課題＞

実行委員が大会の企画・運営の過程にやりがいを感じられる会議の進め方。
各館のクラブ員など公民館利用者への参加を促進する。
公民館の意義や役割をどのように伝えるか。
オンラインを用いた大会のさらなる工夫。

しゃべり場★公民館

＜ねらい＞

公民館利用者及び市民と職員が共に公民館について語り、考えていく場とする。

＜状況・成果＞

メンバーは 13 人（職員 3 人含む）である。

しゃべり場スタッフミーティング（以下、ミーティング）では、年度最終ミーティングで次年度の大きな目標とおおまかな活動内容について話し合っている。その年を振り返り、できたこと、できなかったことを共有し、4 月からの活動に繋げていくためである。

初回ミーティングで貝塚公民館大会（以下、大会）への参画、「しゃべり場★REPORT」の発行、「Zoom でしゃべり場」の実施を具体的な目標とした。

コロナの影響で「しゃべり場★公民館」（以下、しゃべり場）のクラブ訪問は保留し、新たにオンラインを活用し、遠方であっても顔を見ながら話ができる「Zoom でしゃべり場」を取り入れた。初めて Zoom に挑戦する人もいて、「新しい学びにチャレンジする力」を発揮する機会となった。

第 2 回目のミーティングでは、公民館はどういうところかを深く話し合い、再確認する場となった。また、もっと多くの人に一緒に公民館について考えてもらうきっかけ作りとして、10/25 に和歌山大学教授村田和子さんを招いて、共催講座を開催した。村田先生のわかりやすい話や和歌山大学学生たちの参加もあり、グループワークではこれまで以上にさまざまな話ができた。受講者からは、「公民館には人と人をつなげる意義がある。コロナで公民館を取りまく環境が変わってきているが、これまで積み上げてきたもの、作って来たつながりがなくなってしまわないようにしたい。」「貝塚市と市民とのつながり、手続きなどのハード面は市役所の組織だが、精神的なソフト面のつながりは公民館だ。公民館の役割はますます重要だ。」などの感想があった。また、「これからの公民館がどうあるべきか」を考える場ともなった。

大会実行委員会については、しゃべり場からは交替で 2 人が参加し、ミーティング時に大会について話し合うことで実行委員長を支え大会運営にも積極的に関わる姿勢が見られた。

来年度の活動についても話し合い、クラブ訪問やしゃべり場 10 周年の企画を通じて公民館を伝えていく活動を進めていく事を確認した。

※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

＜課題＞

公民館利用者はもちろん、公民館を利用していない人にも公民館を知ってもらう場作りを広げていく。

月日	内　容	会場・人数
4/20	スタッフミーティング①	中央・12
6/25	スタッフミーティング②	中央・13
9/2	スタッフミーティング③	中央・9
9/28	Zoom でしゃべり場	浜手・7　山手・4　自宅・3
10/8	スタッフミーティング④	中央・11
10/25	「公民館ってどんなとこ？」 講師:和歌山大学教授　村田和子さん しゃべり場★公民館共催講座	浜手・6　山手・17　自宅・4
11/26	スタッフミーティング⑤	中央・4　浜手・3　山手・1　自宅・
11/26	Zoom でしゃべり場	中央 4・浜手 5・山手 3・自宅 3
12/13	スタッフミーティング⑥	中央・9
1/7	スタッフミーティング⑦	中央・8　浜手・2
1/7	Zoom でしゃべり場	中央・8　浜手・4　自宅・2
2 月	しゃべり場★REPORT32 の発行	
2/18	スタッフミーティング⑧	中央・9　浜手・1
2/18	Zoom でしゃべり場	中央・8　浜手・4　自宅・1
3/18	スタッフミーティング⑨	中央・9

保育ボランティア養成講座

＜ねらい＞

公民館の保育つき講座における保育者の養成を図り、体制の充実につなげる。

＜状況・成果＞

2/15・22　火曜日（全２回）10 時～11 時半　受講者３人

講師:先輩ボランティア２人、貝塚市すくすく子育て応援隊、あそび隊メンバー

３年ぶりの養成講座開催となった。申込みは５人（保育１人）だったが、コロナのため欠席が相次ぎ、受講は３人となった。うち１人はすでに保育ボランティアで、２人は今年度途中から保育のボランティア活動をしている人たちだった。

第１回目は、公民館保育の歴史や先輩ボランティアの体験談を聞く場とした。先輩ボランティアからは、自身も保育つき講座に預けた体験談や、預かる側としてコロナ禍で緊張しながら保育にかかわっているということ、ボランティア間でも相互の学びになっているという話があった。受講者にとっては、わが子を初対面のボランティアに預けることに不安はあると思うが、信頼関係を築くために「大丈夫！大丈夫！」と声かけをし、安心して預けてもらえるようにしているという話もあった。

第２回目は､貝塚市すくすく子育て応援隊の方に乳幼児の発達やあそびについて話してもらった。受講者は子育ての経験はあるが、あらためて子どもの発達を再確認をすることができた。

また、保育時に子どもといっしょに手作りのおもちゃを作ったり遊んだりできるよう、あそび隊メンバーの協力で風車とタオル人形を作った。メンバーは材料などすべて準備し、時間内に終わるように段取りよく進めてくれた。

（職員の振り返り）

・乳幼児の発達の話は時間が短かった。
・保育室の様子は話だけでなくビデオで見てもらってもよかった。
・今の保育ボランテイアのスキルアップも今後必要ではないか。

（アンケートより）

・山手地区公民館以外のお話もあり、保育士さんそれぞれの経験も聞くことができ、私自身全く知らなかったこともあり、これからお手伝いさせて頂く上でとても勉強になり、公民館の事をもっと知って頂けるように私も力になれたらと思いました。
・楽しいおもちゃ作りを体験できました。保育ボランティアの場で生かしたいです。

＜課題＞

来年度の保育つき講座の保育体制を考慮しながら、養成講座かスキルアップ講座にするかを検討する。

公民館だョ！Zoom で集合①（オンライン座談会）

＜ねらい＞

オンラインを用い、人と人とがつながれる機会とする。

話すことでストレスを発散させ、不安や情報を共有し元気を分かち合う。

利用者も職員もオンラインに慣れる機会。

＜状況・成果＞

・5/24 月曜日 13 時半～14 時半　・5/25 火曜日 10 時半～11 時半（全 2 回）

【11 人申込中 9 人参加】　【5 人参加】

コロナにより、4/25 から緊急事態宣言が発出された。宣言はその後延長され、5/31 までの期間と長引くことになった。（その後再延長で 6/20 までとなった）

昨年度に取組んだオンラインでの公民館大会の成功体験を基に、オンラインでの座談会「公民館だョ！Zoom で集合」を 3 館が連携し緊急企画として取り組んだ。

事業を決定してから実行まで 7 日間しかなく、チラシづくりから、SNS での発信告知と職員が総力を挙げて取り組んだ。利用者が口コミや SNS で拡散するなどの協力があり、短期間の準備でありながら参加者も集まり 2 日間の取組みが実現することとなった。

この機会にオンライン会議に挑戦しようと、アプリのダウンロードから始める人、1～2 度だけやったことがある人など経験値も様々で、子育て中の若い母親から高齢者まで幅広い年齢層が集った。

不慣れな人は当日までに機器の操作や相談に公民館に訪れるなど、職員と一緒に何度か試して当日を迎えた。それでも機器の不具合で途中挫折する人もいたが、おおむね全員がオンライン座談会で話をすることができた。

公民館を利用しながら初めて見る顔、聴く話、ここでの出会いに新鮮さを感じた参加者も多く、楽しい時間になったとの感想が多かった。

拙速ではあったが、つながりと対話がくらしの中でいかに大切か、コロナ禍での公民館の役割と意義を確認できた機会となった。また、職員にとってもオンラインを活用する学習の機会にもなり、これからの事業に活かせるという手ごたえも感じていた。

＜課題＞

個々のネット環境のちがいや、機器の取り扱い、初心者など多様な参加者に対しての技術的な助言や対応。

※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

＜アンケートより＞

・素敵な企画を考えてくださりありがとうございました。この企画ネーミングセンスが素敵で、どなたの発案なんだろうとおもいながら参加していました。

・マスクが着用できない 1 歳児連れでは公園とスーパーと子育て支援センター以外はいけないので、大人と話せる機会を作っていただいて嬉しかったです。

・楽しい企画をありがとうございました。何度か経験するうちにオンラインの良さも実感でき、Zoom に対するハードルも下がってきました。

・久しぶりに公民館職員さんの顔も拝見でき嬉しかったです。

公民館だョ！Zoom で集合②（オンライン座談会）

＜ねらい＞
オンラインを用い、人と人とがつながれる機会とする。
話すことでストレスを発散させ、不安や情報を共有し元気を分かち合う。
利用者も職員もオンラインに慣れる機会。
＜状況・成果＞
・6/14 月曜日 13 時半～14 時半　・6/18 金曜日 10 時半～11 時半（全 2 回）
【12 人参加】　【10 人参加】

緊急事態宣言のさらなる延長（6/20 まで）を受け、再度事業を展開した。今回も各公民館からの呼びかけを中心とし、高齢者講座つるかめ大学の受講者にも呼びかけを行った。意外にも、オンライン未経験の高齢者の反応が良く、5 組が参加することになった。アプリをパソコンやスマートフォンに取り込むことから始まり、使い方、オンライン会議でのルールなどを短時間で習得した。

また、今回は岡山市西大寺公民館館長内田氏と、大阪河崎リハビリテーション大学 今岡講師を招いた。岡山市も緊急事態宣言が発出されており、内田館長には岡山市公民館の状況を話してもらい、今岡講師には長引く緊急事態宣言下での大学の授業の様子や高齢者に対して QOL（生活の質）の低下を懸念しているものの、コロナ禍でできることをして過ごしているという人が増えているという調査結果を話てくれた。

機器の扱い方や個々のネット環境の違いで、些細なトラブルはあったものの、オンラインで繋がれたことに喜びを見つけ新たな刺激を受け楽しんでいた。

2 回のオンライン座談会を開催し、「対面かオンラインか」ではなく「対面もオンラインも」のハイブリッドで公民館事業の今後を見据えていかなくてはいけないと痛感した。特に、スマホやパソコン機器に不慣れとする高齢者層を中心に学習の機会を設けていく必要性を感じている。

終了後、浜手地区公民館を中心に講座「はじめての ZOOM サロン」がたちあがった。アプリの取得や使い方など困難な要素となるハードルを下げることで、オンラインを身近に感じてもらい生活の中で活用してもらいたい。今回のように有事の時に活かされるツールを取得することは災害への備えにも成りうる。今後もさまざまな事態を想定しながら、オンライン配信など可能性を広げていきたい。

＜感想＞
・Zoom の話題で、別に住む孫とつながり会話が弾んだ。
・社会とつながっている感じがした。
・失敗を恐れず、チャレンジすることが大事
・コロナなのでやっているのではなく、これからも広げていってほしい。

※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

＜課題＞
ネット環境が未熟な中でのオンラインを活用した講座事業の構築。
オンラインを活用できる市民の拡大。

はじめてのZoomサロン（浜手・山手地区公民館連携事業）

＜ねらい＞

感染症等の自粛期間でも繋がれるオンラインの活用方法を伝え、利用者のすそ野を広げる。

学んだ知識を日々の生活に生かし支え合う環境作り。

＜状況・成果＞

浜手地区公民館（以下、浜手）山手地区公民館（以下、山手）と表記。（①および②全18回）

① Zoomアプリのインストールと簡単な操作方法の学習

浜手：7/5・8/23・9/6・10/4・11/1・12/6　月曜日13時半～15時　受講者：15人

山手：7/9・8/23・9/2・10/5・11/1・12/3　曜日不定15時半～17時　受講者：10人

② お家からZoomでつながろう

浜手・山手合同：7/12・8/30・9/13・10/11・11/8・12/13（月曜日）

13時半～14時10分　受講者：25人

昨年度から続く感染症の影響で自粛期間が増え、家族や友人・仲間と直接会って話をする機会が減り、それに伴ってオンラインの活用機会も増えてきた。また、5～6月にかけて公民館が緊急事態宣言の発出に伴い休館となり、この状況下でもなんとか公民館活動ができないか模索し、3公民館で『公民館だヨ！Zoomで集合』と題し、はじめてオンライン事業に取り組んだ。職員も初めての取り組みで、機材の準備やアプリのインストールといった環境設定に時間を要した。この取り組みを受けて、緊急事態宣言が明けても、今後の感染症の広がりに対応すべく、Wi-Fi環境を常設している浜手・山手が共催講座として、はじめてZoomに挑戦する人を対象に、アプリのダウンロードと簡単な操作方法を学習するサロンを開催した。講師はあえて設けず、浜手では職員に加え可能な日はボランティアに協力してもらい、受講者同士わからないところを共有しながら進めるようにした。山手ではWi-Fi環境が安定しているロビーの談話スペースを利用してサロンを実施する事が多かった。その結果、クラブに来て通りかかった利用者が興味を持ち、次月のサロンへの申し込みにつながったケースもあった。

浜手・山手で各館月に一回、①Zoomアプリのインストールと簡単な操作方法の学習を行い、次週に②浜手・山手受講者合同で、自宅から公民館とオンラインで繋げる機会を持った。

7月と8月は広報が間に合わず公民館利用者の参加が中心であったが、9月以降は広報を見て申し込む人が増えた。手探りで始めたサロンは、Wi-Fi環境や利用機器の種類により設定やダウンロードの方法などが異なり、受講者の進行状況はさまざまであった。

初回に一連の操作を学んだあと、Zoom参加方法を複数回練習し、自宅から参加する不安の軽減に努めた。それでも不安そうな顔をしている受講者も多かったので、「つながらなかっても大丈夫。一度一人でチャレンジしてみよう！」と声かけし当日を迎えたが、誰一人欠くことなく全員オンラインにつなぐことができた。

受講者が自宅からZoom会議に参加できると、「つながった！嬉しい！」と歓喜し、またマスクを外して参加してくれたので、表情も良く伝わった。講座終了時に自己紹介と感想を聞くと、「使う予定がないので今できてもすぐ忘れそう。」「会議に友達を誘いたいけど、Zoom会議を開催する方法が分からない。」などの意見があった。参加の練習には他のZoom会議へ参加を呼びかけ、ホストについては急きょはじめてのZoomサロンに参加した受講者を対象に、『開催者（ホスト）になってZoom

会議を開催しよう！』の追加講座を 10/11（月）15 時～（受講者 6 人）と 1/17（月）13 時半～（受講者 9 人）に行った。

ホストの学習会では、Zoom のアカウント登録にメールとパスワードが必要であるが、近年ラインの利用者が増えメールアドレスは持っていても未設定の人が多く、参加者に会議の案内通知が送れない人が多かった。思ったより難しかったと漏らしている人もいたが、アカウントを登録することで背景やその他使える機能が増えたので、ホストの役割等も含め新しい利用方法を習得する機会となった。

はじめての Zoom サロンは、設定さえできれば誰でも簡単に利用できることを知る目的で進めたが、パソコンやタブレット、スマホを持っていることが前提になっており、また必要性を実感できていないことや端末を触ることが苦手な人も多いので、利用拡大は緩やかではあったが、受講者と共に職員もオンラインの活用につながる一歩を踏み出せる機会となった。

※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

【受講者の感想】

・Zoom に興味があってもできないでいました。参加して良かったです。
・Zoom という、新しいことを覚えるのは楽しいです。
・初めての Zoom、ハラハラドキドキでしたが何とか出来ました。嬉しいです。

＜課題＞

継続開催や次につながる事業展開の検討。それに伴うボランティアまたは講師の協力。

12 月 6 日　浜手 Zoom サロン

山手 Zoom サロン

貝塚市立公民館運営審議会

＜ねらい＞

今後の公民館のあり方、新たな利用者の開拓、地域課題の解決に向けた講座・事業を展開できるように諮っていく。

＜状況・成果＞

第 35 期（令和 3・4 年度）審議会委員の改選では新委員 3 人を含む 10 人に委嘱をおこなった。

まず、コロナにおける社会教育施設の休館について議論された。コロナ禍においても市民の生活があり、公民館を必要とする市民がいる。コロナによる市民の孤立化も問題である。公民館運営の根幹ともいえる、人と人をつなぐための社会教育活動の必要性・重要性を鑑みた貝塚公民館の運営について議論は深まった。

コロナ禍での公民館事業報告をするにあたり動画配信、Zoom、SNS を利用した事業展開への取り組みが議論された。さらにコロナ対策での事業展開だけでなく、新しい事業展開、市民の学びをさらに深めることを考慮するにあたり、以前より利用者からも要望があった中央公民館の Wi-Fi 環境整備もあわせて議論された。

以前からの課題である新たな利用市民の開拓についても審議され働く世代、中高生を含む若年層へのアプローチ、講座内容を考察した。

今年度は特にコロナ禍での運営検証を行い更なる公民館活動を審議した。新年度を見据えて貝塚市立公民館運営審議会の存在価値、運営自体の更なる研究、充実をも課題として終了した。

※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

＜課題＞

混沌とする世相状況であっても引き続き公民館運営審議会を設置する。

市民各層の代表者から知識や経験に基づく率直な意見を聞き、公民館運営に反映できるようにする。

貝塚市立公民館運営審議

区　分	委員氏名
学校教育の関係者	中　村　彰　男
社会教育の関係者	中　川　政　文
	西　田　　陽
	黒　井　政　信
	木　村　恵美子
	中　野　伸　和
	谷　口　和　紀
	井　上　誠　一
家庭教育の向上に資する活動を行う者	井　谷　麻衣子
学識経験のある者	萩　原　雅　也

会議・研修の状況

開催年月日	案　　件
令和 3. 7.29	第 35 期（令和 3 年・4 年度）公民館運営審議会委員委嘱について 委員長、副委員長の選出について 審議会の進め方について 令和２年度第４回貝塚市立公民館審議会の会議録について 令和３年度の事業方針・予算について
令和 3.10.15	令和３年度第１回貝塚市立公民館審議会の会議録について ３館事業報告・事業予定について
令和 3.12.13	令和３年度第２回貝塚市立公民館審議会の会議録について ３館事業報告・事業予定について
令和 4. 3. 7	令和３年度第３回貝塚市立公民館審議会の会議録について 3 館事業報告・事業予定について 「一年のとりくみ」について

阪南公民館運営協議会（館長会・実務担当者会含む）

＜ねらい＞

「阪南公民館相互の緊密な連携のもとに、公民館運営の研究並びに職員の研修及び親睦をはかり、公民館活動の振興に寄与する」という会の目的が十分果たされるよう、積極的に参加協力する。

＜状況・成果＞

阪南公民館運営協議会（以下、「阪公運」と表す）は、現在 4 市 2 町（高石、岸和田、貝塚、阪南、忠岡、田尻の各市町）にある公民館 11 館で構成されている。

協議会には、館長会・実務担当者会（以下、「実担会」と表す）の 2 つの部会があり、今年度の会長（館長会代表兼務）は田尻町、実担会代表は阪南市が担った。

館の運営や講座・事業また大阪府公民館・関連施設連絡会に関する事項等幅広く情報交換を行っているが、5/14 に予定していた総会は、コロナのため今年度も書面表決となった。7/2 にようやく館長会を阪南市で開催、各市町の館長が顔を合わせ、コロナ下での館の運営状況など情報交換ができた。

その後、会長が 9 月の人事異動により交代したこともあり 9 月予定の館長会が開催されずしばらく活動が滞ったが、本市からも積極的に働きかけ 12/24 に協議会を開催（田尻町）、今年度の研修の取扱いについて協議した。

2/3 には館長会を開催（田尻町）し、各市町の公民館運営審議会等の設置・開催状況や今年度から指定管理者制度を導入した阪南市の公民館の運営状況などについて情報交換ができた。

2/17 には、コロナのため前年度延期となっていた泉佐野市立日根野公民館の視察研修を予定していたが、視察研修より交流を優先させたいとの実担会からの意見を受けて予定を変更し、公民館職員交流会を開催した。

実担会は、4 回会議を開催し、出席率もよく、人数が増えると活発で充実した会議ができた。おもに 2 月の公民館職員交流会に向けて話し合ってきた。毎回の情報交換では、「コロナ禍における公民館事業の取り組み、Wi-Fi 環境、公民館クラブ運営、障がい者講座」などについて、各館の取り組み・課題点を出し合った。

公民館職員交流会では、阪公運に加入していない館にも直接呼びかけ、当日は泉南市と岬町が参加した。交流会では、「講座企画」「クラブ等に関すること」と 2 つのテーマで 3 グループに分かれて討議し、他市との違いを知ることで、あらためて自館の取り組みを見つめ直す機会となった。

なお、館長会と協議会は、参加館が同一であることから、今年度統合する予定としていたが、現会則の解釈を整理し、協議会は役員と各市町の代表者による会議とし、主に会の運営に関することを審議することを目的に開催、館長会は会を構成する公民館の館長による会議とし、主に館の管理・運営に関することについて情報交換を行うことを目的に開催することとした。

会の組織力低下は否めないが、これからも積極的に 3 館担当者が可能な限り参加し活動を支え、館職員の資質向上と社会教育・生涯学習の発展に努め、公民館活動の振興に取り組んでいきたい。

＜課題＞

阪南公民館の活動振興を見据えた、阪公運参加市町館以外とのネットワークの創出。

協議会の組織維持。

阪南地区公民館利用者連絡協議会

＜ねらい＞

情報交換・交流をはじめ、文化・学習活動を通して公民館活動の推進及びまちづくりを目指すことを目的に活動を進める。

＜状況・成果＞

阪南地区公民館利用者連絡協議会（以下阪公連）は高石市以南の公民館で活動している利用者団体で構成されていたが、現在は貝塚市（中央）、阪南市（東鳥取）の二者が残された状況である。

平成 29 年度末から岸和田市の中心メンバーが体調不良になってからは、一度も定例会議を開催できないままその岸和田市が令和元年に入り、条例改正により公民館クラブ連絡会が昨年解散という事態が起こり、実質阪公連脱退となった。

今年度も貝塚市から阪南市に連絡を取ってはいるが、何の進展もないままである。

＜課題＞

実質阪公連は解散状態ではあるが、阪公連の活動の記録等、どのように残していくか今後の終い方を検討したい。

三館利用者連絡会（三館利連）

＜ねらい＞

公民館を活動拠点とする三館の利用者団体が集まり、各館の特色を活かし、連携と交流を図り、共通課題に取り組んでいくことを支援する。

＜状況・成果＞

三館の利用者団体相互の交流と親睦を深め、広く地域社会へ公民館活動の啓発・発信を行う事を目的に平成 25 年 4 月より「三館利用者連絡会(以下　三館利連)申し合わせ」をもとに、年 3 回程度集まり情報交換や事業の話し合いを行なっている。

例年どおり 4 月に前年度と今年度の役員で引き継ぎ会を行い、次回会議を 6 月に予定したがコロナの緊急事態宣言発出以降、時短開館となり夜の会議が持てなくなった。そこで 8 月に昼間の時間帯で会議を持つことを協議し開催した。

取り組みは遅くなったが、三館の展示交流は今年度も引き続き取り組むこととした。

展示交流　協力クラブ

所属館	クラブ名	展示場所
中央	月曜絵画	山手
中央	ろうの花	浜手
浜手	いけ花クラブ	中央
浜手	水彩画　光	中央
山手	花を楽しむ会	中央

第 10 回公民館大会については実行委員会にも積極的に参加し、他の役員も当日に関わった。

今年度もコロナ禍で制約される中での活動となり、展示交流以外取り組めず各館からの情報交換に終わった。

＜課題＞

今後も各館共通の課題について話し合い、連携して事業に取り組むことを促し支援する。

K（研修）部会

＜ねらい＞

職員の資質向上を図る。日頃の課題を共有する。職員の情報交換の場を設ける。

＜状況・成果＞

3 公民館の職員が集まり公民館職員としての資質向上を図る貴重な場とし、毎月できる限り研修の時間を確保した。また、社会的課題や職員の関心事について、認識を深め実践にいかせるよう取り組みを行った。

4 月は、異動してきた職員とのコミュニケーションを図るため、アイスブレイクを交えた自己紹介をおこなった。5 月はユネスコ学習権宣言を職員全員で読み解き学習権の重要性を確認しあった。6 月は、ホワイトボードミーティング形式を取り入れ中央公民館のクラブ協議会、浜手地区公民館の利用者連絡会、山手地区公民館の活動協議会について各館の活動事情など情報共有を行った。3 館の共通する課題について深く追求する場となった。7 月は、社会教育法を読み理解を深め 4 つのテーゼについて学習した。改めて公民館職員の役割などを考える機会となった。8 月は、子育て講座担当者による各館の状況を報告し、意見交換を行った。9 月は、中央公民館職員による社会教育主事講習の報告を受け、社会教育主事、公民館主事についての理解を深めた。10 月は事業運営を行っていくうえで気をつけなければいけない著作権についての再確認を行った。11 月はコロナ禍によりオンラインが導入されてきていることから Zoom で室谷雅美先生(公民館利用促進アドバイザー)と 3 公民館によるミーティングを行った。それぞれの公民館のクラブ協議会の現状を中心とした情報交換を行った。12 月は、ニュースポーツ「ボッチャ」「コーンホール」のルールを知り職員交流を兼ね今後の講座事業に活かすための実践を行い、大いに盛り上がった。

今年度は、「聞く」「話す」内容が多く、公民館職員に求められる「コミュニケーション力」を高める研修となった。また、経験年数の浅い職員にとっては、情報交換を行う中で「公民館職員として大事にしていること」をベテラン職員から学ぶ貴重な場となった。

	テ　ー　マ
4月	アイスブレイクを交えた自己紹介
5月	令和３年度公民館職員研修（K部会）年間計画を考える　ユネスコ学習権宣言を読み解く
6月	ホワイトボードミーティング形式でクラブ協議会（中央）・利用者連絡会（浜手）・活動協議会（山手）各館の活動状況など情報共有
7月	社会教育法令を読み理解を深める(4 つのテーゼ他)
8月	子育て講座について３館公民館で情報交換
9月	社会教育主事講習報告（中央公民館職員池田）
10月	「著作権」についての再確認
11月	（公民館利用促進アドバイザー：室谷雅美さん（豊岡短期大学准教授）と３館公民館職員）による Zoom ミーティング
12月	ニュースポーツである「ボッチャ」「コーンホール」のルールを学び実践する
1～3月	＜今年度総括のためＫ部会なし＞

※Zoom とはオンライン会議システムのことをさします。

＜課題＞

今後も、公民館職員としての資質向上を図る貴重な場として、できる限り研修の時間を確保する。社会的課題や職員の関心事について、認識を深め実践に生かせるよう取り組んでいく。

大阪府公民館・関連施設連絡会

＜ねらい＞

大阪府内の公民館・関連施設等の連携により、豊能・三島・北河内・中河内・南河内・泉北・泉南の府内７ブロック及び大阪市との情報交換を行い、学び合い講座を通して職員の資質向上を図る。

＜状況・成果＞

大阪府公民館・関連施設連絡会（以下、府公連と表す）は、2013 年、以前の大阪府公民館振興協議会（以下、府公振）が解散し、近畿公民館連合会脱退を経た中、府内公民館等社会教育施設職員の交流、情報交換、さらに資質向上を図るため府公振残余金の活用により「学び合い講座」を継続開催する組織へと生まれ変わっている。今年度、本市は幹事（会計）として運営に加わり、積極的に運営会議に参加した。（運営会議は 4 回開催）

学び合い講座では､例年 3～4 回の講座を行ってきたが､今年度はコロナ禍ということもあり｢Zoom in コロナの時代の学び合い｣｢SDG s どう取り組むべきか？｣の 2 回の開催となった。しかし、北摂地域を中心に府下公民館や社会教育施設職員の集まれる機会とする地域交流研修会及び親睦会などは、コロナ禍のため開催には至らなかった。

＜課題＞

各市町村の府公連に対する理解を求めていく。

公民館等社会教育施設の情報交換の機会創出を考えたネットワーク構築への協力。

府公連事業の宣伝や実践報告を強化していくための SNS 活用による発信。

市内小中学校施設見学等受け入れ

月　日	学　校　名	来館学年	見　学　目　的	担当館
6/24	中央小学校	第 3 学年	社会科授業（公共施設の役割）	中央

視察・研修受け入れ

月　日	団体・機関名	内　　容	担当館
7/15	大阪樟蔭女子大学	社会教育施設取材	中央
8/ 6	令和 3 年度社会教育主事講習	社会教育施設フィールドワーク	中央
11/21	和歌山大学	プレーパーク・フィールドワーク	中央
11/25・26	北九州市立大学	家庭協力支援関係取材	中央
12/10・18	岸和田市生涯学習課 岸和田市立中央公民館	障がい者対象講座視察	中央

貝塚主事会

＜ねらい＞

社会教育関係各課（施設）の情報や課題を共有し、連携する方法を模索するとともに、貝塚市の社会教育のあり方を考える。

＜状況・成果＞

貝塚主事会（以下、主事会）は 1985 年の発足以来、貝塚市の社会教育関係課（施設）(※)職員が集まり、年数回の会議を行っていたが、近年は発足時の意義を見失い会議も開催されないままの状態が続いていた。

(※)社会教育課・郷土資料室、青少年課・青少年人権交流館・スポーツ振興課、図書館、公民館（中央・浜手地区・山手地区）

今夏に中央公民館の職員が社会教育主事講習を受講したことを受け、今年度、主事会として中央公民館職員による社会教育主事講習の報告会を開催しようとする動きが見られた。

しかし、数年間の活動空白期間中に職員の異動もあったことから、主事会の再開にあたっては、担当職員間の意識共有と主事会の今後のあり方についての議論が優先されるべきとの意見が相次ぎ、社会教育主事講習の報告会開催は中止となった。

その後、担当課である社会教育課からは、主事会の開催について調整・連絡がない状態が続いている。

＜課題＞

貝塚主事会の意義と必要性の再確認。

担当課である社会教育課と主事会開催について協議が必要。

まちのすぐれもの

R3 年度 新規登録者	合　計	R3 年度 利用回数
8 人	66 人	19 回

※3 年ごとに更新（次回更新令和 6 年度）

公民館タイムズ

3館合同

保育つき講座

入園までに知っておきたいことを学び、悩み解消！
いろいろな体験を通じて日頃の子育てにホッと一息しませんか！

中央公民館「おや子教室」
▷日時(全8回)　6月1日～7月20日火曜午前10時～11時30分▷対象乳幼児をもつ親▷保育定員　12人(先着順)▷内容　アロマソープづくりやボクササイズ体験、子育て学習など▷講師　上野千賀子さん(まちのすぐれもの登録者)、梅本道子さん(Physical Heart代表)、すくすく子育て応援隊ほか▷材料費　実費徴収▷申込・問合せ先　中央公民館

山手地区公民館「子育て×自分磨き」
詳しくは広報8月号に掲載します。
▷日時(全8回)　9月2日～10月28日、木曜午前10時～11時30分

浜手地区公民館「げんきに子育て」
詳しくは広報10月号に掲載します。
▷日時(全8回)　10月29日～12月17日、金曜午前10時～11時30分

レッツTRY

公民館では、青少年(中高生)の音楽やダンス、創作活動を応援します！まずはお近くの公民館へ相談に来てください。

ふれあい料理

ボランティアにサポートしてもらいながら、料理を楽しみます。
▷期間　4月～来年3月午前10時30分～午後0時30分、中央:第4金曜、浜手:第2月曜(8月は休み)、山手:第3金曜(8月は休み)▷対象　心身に障害のあるかた▷材料費(1回)　350円

中央公民館　☎072－433－7222

心身に障害のあるかた対象 挑戦講座「夢にチャレンジ」

みんながやりたい事にチャレンジしよう！(要申込)
▷日時(全11回)　4月17日～3月19日、第3土曜午前10時～正午▷内容　陶芸、料理など▷材料費(1回)　100円～500円程度

介護について語り合う場

みんなで支え合う介護について考えます。気軽にご参加ください。
▷日時　4月26日(月)、6月28日(月)午後1時30分～3時▷場所　講座室▷協力　貝塚市介護者家族の会

プレーパーク

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした、子どもたちの冒険あそび場です。
▷日時　5月8日(土)・9日(日)午前10時～午後4時(雨天中止)▷場所　市立青少年野外広場(第四中学校横)▷参加費　100円

第37回市民民踊まつり

▷日時　5月9日(日)午前11時▷場所　コスモスシアター中ホール
▷入場　無料▷出演　貝塚市民踊連盟

クラシックコンサート「音楽サプリ～あなたの心をサポートする名曲たち～」

▷日時　5月16日(日)午後2時▷場所　コスモスシアター中ホール
▷出演　貝塚市クラシック音楽家協会▷参加協力券　1,000円▷定員　240人

子育てサークル体験会

貝塚子育てネットワークの会乳幼児部会では、子育てサークル体験会を行います。
いっぱい遊べて、友達がたくさんできる子育てサークル！今しか味わえない子育てを楽しんでみませんか。

◆どんぐりようちえん
四季を感じながら親子で遊んでいます。
▷日時　火・金曜午前10時～▷場所　市民の森(シェル公園)など

◆ありんこ
親子で遊んでいます。
▷日時　木曜午前10時～▷場所　市立青少年野外広場(第四中学校横)

◆ノンタン森のようちえん
自然の中を親子で遊んでいます。
▷日時　火曜午前9時30分～▷場所　せんごくの杜ほか

◆さくらんぼ
さくらんぼ体操や親子で遊んでいます。
▷日時　火・金曜午前10時～▷場所　中央公民館ほか

8月のコミュニティ機材貸出

コミュニティ機材の貸出しは、使用日の3カ月前から受付けます。
ただし、8月中は申込が多いため、3館分(中央・浜手・山手)を中央公民館で一括受付・抽選を行います。かき氷機や鉄板など機材の貸出を地域活動などで希望するかたはお越しください。
▷日時　4月25日(日)午前10時(時間厳守)▷場所　中央公民館　講座室3

報告

第9回貝塚公民館大会

今年の公民館大会は、「やっぱり好きやねん♥公民館」をテーマに、新型コロナウイルス感染拡大にともなう活動自粛や予防対策を経験した今年だからこそ感じたこと、工夫したことなどの意見を出し合い、改めて公民館の役割についてみんなで考える機会を持ちました。また今年はコロナ下での開催を見据え会場を分散し、浜手地区公民館をメイン会場とし、中央・山手地区公民館をオンラインでつないで開催しました。

各館で行ったグループトークでは、コロナ下での活動をどうするか話し合う中で、価値観の違う人と交流できるのが公民館であると気づけたとの発表もありました。また、和歌山大学教授の村田和子さんからは、普段慣れ親しんだ公民館は命綱であると同時に、公民館に来たくても来れない人たちの存在にも着目し、今後オンラインを取り入れた新たな可能性を探る必要性があると総評頂き、公民館の新たな挑戦の一歩を踏み出せた大会となりました。

浜手地区公民館　☎072－431－0926

＋KOMINKAN(プラス公民館)

高校生・大学生の居場所としてホールを開放します(申込不要)。
▷日時　4月18日(日)午後1時～4時

Spring Jazz Concert

グレンミラーの名曲を中心に、親しみやすいナンバーをお届けします。
▷日時　5月16日(日)午後1時30分～▷場所　二色小学校体育館
▷定員　120人(定員になり次第締切)▷申込　4月9日(金)から電話・窓口で(整理券あり)

シニア世代の筋力アップ講座

(高齢介護課共催)
機能改善ストレッチで筋力アップをはかり、フレイルを予防しましょう。
▷日時(全4回)　5月18日、6月1日・15日・29日、火曜午後1時30分～3時▷場所　ホール▷対象　市内在住のかた▷定員　20人(定員になり次第締切)▷講師　梅本道代さん(いきいき・のびのび健康づくり協会)▷申込　4月16日(金)から電話・窓口で

子育てサロン☆ほっとスペース

乳幼児親子のひろばです。時間内自由に遊べます(申込不要)。
▷日時　火曜午前10時～正午▷場所　プレイルーム(第2・4火曜は「造形あそび」も開催)▷内容　4月27日:しかけダンボール、5月11日:スタンプ遊び

山手地区公民館　☎072－446－0090

おさんぽかばさん

同年齢の子どもを持つママたちの交流の場です。ヘアゴムなど手作り小物のワークショップをします。
▷日時(全5回)　5月18日～6月15日、火曜午前10時～11時30分▷対象　乳幼児親子(ママだけの参加も大歓迎)▷場所　水間寺客殿▷材料費　100円▷申込　窓口・電話で▷締切　5月14日(金)

ファファクラブ

子育てに悩むお母さんと、その子どもたちの居場所です。月1回、親子で工作やゲームをしましょう。
▷日時(全4回)　4月17日～7月17日、第3土曜午前10時15分～正午
▷対象　発達障害かな？と悩む親と小学生▷定員　12組(多数の場合は抽選)▷材料費　1組800円▷講師　松本啓子さん(学校心理士)▷申込　窓口・電話で▷締切　4月12日(月)

ノルディック・ウォーキングで健康寿命をのばそう

(高齢介護課共催)
2本のポールを交互に地面について歩きます。姿勢も良くなり、ひざ・腰への負担軽減、介護予防にもなります。ポールのないかたは貸出します。
▷日時(全7回)　5月7日～12月3日、第1金曜(8月は休み)午前10時～正午(行先によっては1日になる場合もあり)▷対象　市内在住・在勤の成人▷定員　20人(多数の場合抽選)▷参加費　無料(交通費実費)▷申込　窓口・電話で▷締切　4月22日(木)午後5時

英会話クラブ体験

英語でおしゃべりを楽しみます。
▷日時　5月13日(木)午後1時30分
▷定員　3人(定員になり次第締切)
▷参加費　無料▷申込　窓口・電話で

公民館タイムズ

中央公民館　☎072－433－7222

スポーツ吹矢の体験講座
(高齢介護課共催)

▷日時(全４回)　６月８日・22日・29日、７月13日、火曜午後２時～３時30分▷講師　(一社)日本スポーツウエルネス吹矢協会会員▷場所　視聴覚室▷定員　15人(定員になり次第締切)▷材料費　200円(マウスピース代)▷申込　５月10日(月)午前10時～電話で

【市民企画講座】SDGs　私たちのちょっとした選択が未来をかえる

▷日時(全３回)　６月３日・17日、７月１日、木曜午前10時～正午▷場所　視聴覚室▷定員　15人(保育要相談)▷参加費　無料▷協力　貝塚子育てネットワークの会▷申込　５月10日(月)午前10時～電話で

日本語会話よみかき教室

ボランティアが日本語会話やよみかきを教える講座で、現在受講者は全員在住外国人です。

日本語学習だけでなく、受講者の母国料理を一緒に作り交流を深めています。

よみかきに困っているかた、ボランティアに興味のあるかたは気軽にお問合せください。

◇山手地区公民館：月曜午後７時30分～
◇中央公民館：火曜午前10時～
◇浜手地区公民館：火曜午前10時～

ノルディック・ウォークでグループを作ろう(高齢介護課共催)

中央公民館では、現在様々な自主グループが活動しています。

この講座を受講したかたも、自主グループメンバーに加わることができます。みんなで歩くのはとても楽しいです。興味のあるかたは、お問合せください。

▷日時　月曜午後２時～

妊婦・０歳児親子の交流のひろば「赤ちゃんルーム」

気軽に参加できる親子の交流の広場です。妊婦さんから参加でき、スタッフに先輩おかあさんも関わっています。参加される場合は、事前にお問合せください。

▷日時　第２・４月曜午前10時～

子育てネットワークの会共催講座

部会・対象	日時・内容	場所
乳幼児部会 乳幼児をもつ親	５月25日(火)・27日(木)午前10時～11時30分 子育てサークル体験会 (さくらんぼ、どんぐり、ありんこ、ノンタン森のようちえん)	ハート交流館
園児部会(保育付) 園児をもつ親	５月20日(木)「貝塚市の防災について」危機管理課 ５月28日(金)「ヨガ～心と体を整える～」平山公子さん ６月11日(金)「トークシェアリング」 いずれも午前10時～正午	中央公民館
小学生部会(保育付) 小学生をもつ親	５月18(火)「おしえて!?貝塚市のタブレット学習」 ６月10(木)座談会「新学年　はじまってどう？～こどものこと話しませんか～」 ７月９日(金)「学童期に大きくかわる心と身体」木戸口光子さん(助産師) いずれも午前10時～正午	中央公民館
中高生部会 中高生をもつ親	５月31日(月)「身近にしのび寄る危険」上西永一さん(元学校相談員) ６月14日(月)「その子にあった進路選択」水野保さん(進学アドバイザー) ７月２日(金)「リアルな思春期の話」先輩おかあさん いずれも午後１時～３時	中央公民館

▷保育定員　各回10人(定員になり次第締切、各講座の１週間前まで受付)▷費用　１回100円(おやつ、保険代)

浜手地区公民館　☎072－431－0926

子育てサロン☆ほっとスペース

乳幼児親子のひろばです。時間内自由に遊べます。

第２・４火曜は「造形あそび」も開催します。

▷日時　火曜午前10時～正午▷場所　プレイルーム▷内容　５月25日：スポンジあそび、６月８日：小麦粉ねんど▷申込　不要

パパサロン

さつまいもや野菜を植えよう。

▷日時　５月23日(日)午前10時～正午▷対象　未就学児とパパ▷定員　８組(定員になり次第締切)▷申込　５月16日(日)午後５時までに窓口・電話で(申込がない場合は、フリーサロンとしてプレイルームを開放します)

＋KOMINKAN(プラス公民館)

高校生・大学生の居場所としてホールを開放します。ゲームや本などやりたいものを持って来てね。

▷日時　５月９日(日)・６月６日(日)午後１時～４時▷申込　不要

浜手アフタヌーンコンサート　ジャズの心髄～ピアノ＆ベースデュオ～

▷日時　６月10日(木)午後２時～３時▷場所　ホール▷出演　たなかかつこさん(ピアノ)、萬荘隆さん(ベース)▷定員　80人(定員になり次第締切)▷申込　①市内のかた：５月17日(月)～②市外のかた：５月24日(月)～電話・窓口で

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Ｅメール(右記QRコード)で

健康的な布ぞうりを作ろう

▷日時(全２回)　５月24日・31日、月曜午後１時30分～３時30分▷対象　市内在住・在勤のかた(初めて受講されるかた優先)▷定員　15人(定員になり次第締切)▷材料費　無料▷申込　５月10日(月)午前10時から

認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ(高齢介護課共催)

スマホを活用して、生活に役立てましょう。

一人じゃないから安心。みんなでスマホを使って楽しみましょう！

▷日時(全３回)　６月11日・18日・25日金曜午前10時～11時30分▷対象　市内在住・在勤の60歳以上でAndroidスマホをお持ちのかた▷定員　10人(多数の場合は抽選)▷教材費　500円▷締切　５月20日(木)

将棋倶楽部

将棋をやりたい小学生募集！

子ども同士や地域のボランティア(大人)さんと対戦できるよ！

▷日時(全10回)　６月19日～令和４年３月19日、第３土曜午後１時30分～３時30分▷対象　小学生▷定員　10人(多数の場合は抽選)▷参加費　無料▷締切　６月13日(日)

※定員に満たない場合は、順次受付けます。

クラブ体験

◆**親子でリトミッククラブ**

親子で音楽リズムを楽しみながら、新しい出会い(友達づくり)を大切にし、子どもの自立心を育みます。

▷日時　５月17日(月)午前10時▷定員　10組(定員になり次第締切)▷参加費　無料

◆**ククルウクレレクラブ**

初心者でも大丈夫、一緒に楽しみましょう。

▷日時　５月25日(火)午前10時▷定員　６人(定員になり次第締切)▷参加費　無料

◆**太極拳クラブ**

太極拳の基礎から体幹を感じてみませんか。子どもから大人のかたまで参加していただけます。

▷日時　６月19日(土)午前10時▷定員　10人(定員になり次第締切)▷参加費　無料▷持物　運動靴・お茶・運動しやすい服装

公民館タイムズ

中央公民館　☎072－433－7222

七夕・ピアノリレー
どなたでも参加できます。
▷日時　7月4日(日)午前9時～午後4時▷場所　視聴覚室▷定員　28人(要申込、定員になり次第締切。一人15分。空きがあれば連続可)
▷参加費　無料

赤ちゃんルーム
0歳児をもつ親子と妊婦さんの交流のひろばです。
▷日時　6月14日・28日・7月12日・26日、第2・4月曜午前10時～11時30分▷場所　保育室
※毎回、講座終了後に次回分の申込ができます。(新型コロナウイルス感染症対策のため事前にお問合せください)

介護について語り合う場
みんなで支え合う介護について考えます。(申込不要)
▷日時　6月28日(月)午後1時30分～3時▷場所　講座室▷協力　貝塚市介護者家族の会

夏のプレーパーク
「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに子どもがやりたい!!と思うことを自分の手で実現できる場です。
▷日時　7月23日(金)～25日(日)午前10時～午後4時(雨天中止)
▷場所　市立青少年野外広場(四中横)▷参加費　100円

クラブ体験講座(要申込)
◇ガラクタクラブ
歌謡曲からジャズまでバンド演奏を楽しむクラブです。
▷日時　金曜午後7時30分～8時30分▷持物　楽器(あるかた)
◇箏曲クラブ
初心者のかた、大歓迎です!
▷日時　6月24日(木)午後7時～

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール(右記QRコード)で

クラブ体験「水墨画」
水墨画の基礎である竹・笹を描いて筆の使い方を練習します。
仲間は和気あいあいと笑顔が絶えません。
▷日時　6月24日(木)午後1時(要申込)▷定員　5人(定員になり次第締切)▷参加費　無料▷持物　大筆または中筆、硯石▷締切　6月17日(木)

第9回たまねぎ劇場
市民グループ発表の場です。
▷日時　6月27日(日)午後1時30分▷場所　ホール▷出演　ピースマイル(ビートルズ音楽)、朗読劇グループことの葉、しえるバレエクラブ▷入場　無料▷定員　80人(要申込、定員になり次第締切)

市民合唱募集 ～あの感動をもう一度～

昨年10月に開催した歌と語りで綴る愛物語～「お夏清十郎」を30周年記念「公民館まつり」で行います。そこで、村人合唱団として舞台に参加しませんか。
▷場所　ホール▷練習日(全9回)7月2日・16日、8月6日・20日、9月3日・17日、10月1日・15日・17日(日曜本番)いずれも金曜午後7時～9時▷対象　一般成人で年齢不問。簡単な芝居や動きができ、練習日に参加可能なかた▷定員　若干名(多数の場合は、オーディションあり)▷締切　6月18日(金)

3館合同

地域出前講座
みなさんのお住まいの地域(町会・自治会ほか)で開催しませんか。日時などご相談ください。
例えば
出前寄席…“生”の日本の伝統話芸を通して、地域のみなさんの触れ合いがうまれるきっかけづくりをします。

公民館ロビー展示
あなたの作品を展示しませんか。個人・グループを問いません。
気軽にご相談ください。
▷申込・問合せ先
中央公民館　☎072－433－7222
浜手地区公民館　☎072－431－0926
山手地区公民館　☎072－446－0090

浜手地区公民館　☎072－431－0926

かしこく夜活～仕事帰りに公民館に行ってみよう～
▷日時　7月1日・8日・15日、木曜午後7時～8時30分
▷場所料理室または講座室1▷定員　16人(多数の場合抽選)
▷材料費　1,500円▷申込　6月22日(火)午後5時まで。電話・窓口・Eメールまたは右記のQRコードで

	タイトル	講師(敬称略)
7/1	発酵食品で健康を手に入れよう	桐原朋子
7/8	伝わるコミュニケーション術	中本麻里子
7/15	レザークラフトに挑戦	七野祐子

子育てサロン☆ほっとスペース
乳幼児親子のひろばです。時間内自由に遊べます。
▷日時　火曜午前10時～正午▷場所　プレイルーム(第2・4火曜は「造形あそび」も開催)▷内容　6月22日：色水あそび、7月13日：水あそび▷申込　不要

パパサロン
七夕飾りを作ろう。
▷日時　6月27日(日)午前10時～正午▷対象　未就学児とパパ▷定員　8組▷申込　6月20日(日)午後5時までに窓口・電話で(申込がない場合は、フリーサロンとしてプレイルームを開放します)

＋KOMINKAN(プラス公民館)
高校生・大学生の居場所としてホールを開放します。ゲームや本などやりたいものを持ってきてね。
▷日時　7月4日(日)午後1時～4時▷申込　不要

浜手アフタヌーンコンサート企画委員募集
コンサートの企画運営をしてくれる企画委員を随時募集しています。コンサートは偶数月第2木曜の午後2時～3時、企画委員会議は月1回程度行っています。興味のあるかたは浜手地区公民館までお問合せください。

報告

浜手アフタヌーンコンサート「歌の春風～故郷に寄せて～」
4月8日、ホールで第1回目の浜手アフタヌーンコンサートを開催しました。
地元、二色パークタウン出身のテノール歌手、佐々木涼輔さんと、ピアニストの志賀俊亮さんの出演で、日本の春の曲やカンツォーネなどを演奏していただきました。身近に美しい歌声と優しい響きのピアノを聴くことができ、参加者も存分に楽しんでいた様子でした。

公民館タイムズ

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール(右記QRコード)で

ロビーコンサート
“夏”満喫コンサート～童謡・民謡・歌謡曲より愛を込めて～

▷日時　7月20日(火)午後0時30分▷出演　貝塚市クラシック音楽家協会西村文花さん(ソプラノ)・若杉亮さん(ピアノ)▷定員　40人(定員になり次第締切)▷申込　市民のかた7月8日(木)～、市外のかた7月13日(火)～電話・窓口・Eメールで

中央公民館　☎072－433－7222

介護と仕事・子育て・学業の両立・悩みを話して心を軽くしよう～ダブルケアに悩まないで！　みんなで話そう～

▷日時　7月31日(土)午後1時30分～3時30分▷講師　斎藤真緒さん(立命館大学教授)▷内容　仕事、育児、学業などと介護の両立に悩む「ダブルケアラー」、「ヤングケアラー」について▷場所　視聴覚室▷申込　窓口・電話で

クラブ体験講座

茶道の基本と歴史を知ろう。

▷日時(全2回)　8月3日・10日火曜午後7時～9時▷材料費　1,000円(2回分)▷持物　扇子▷協力　茶道クラブ▷申込　窓口・電話で

浜手地区公民館　☎072－431－0926

パパサロン

水遊びを楽しもう。

▷日時　①7月25日②8月22日、日曜午前10時～正午▷対象　未就学児とパパ▷定員　各8組▷申込　窓口・電話で(申込がない場合は、フリーサロンとしてプレイルームを開放します)▷締切　①②の1週間前の午後5時

子育てサロン☆ほっとスペース

乳幼児親子のひろばです。時間内自由に遊べます。第2・4火曜は「造形あそび」も開催します。

▷日時　火曜午前10時～正午▷場所　プレイルーム▷内容　7月27日：片栗粉あそび、8月10日：フィンガーペインティング▷申込　不要

コドモ防災塾

①台風を学ぼう

▷日時　8月1日(日)午後1時～3時▷対象　小学4～中学生(親も参加可)▷定員　15人

②災害から身を守ろう

▷日時　8月10日(火)午前10時～11時30分▷対象　小・中学生(親も参加可)▷定員　20人

◎いずれも

▷申込　電話・窓口・Eメール(右記QRコード)で(多数の場合抽選)▷締切　7月19日(月)午後5時

浜手アフタヌーンコンサート　オペラティックコンサート

▷日時　8月12日(木)午後2時～3時▷場所　ホール▷出演　木澤佐江子さん(ソプラノ)、細川勝さん(バリトン)、竹山陽子さん(ピアノ)▷定員　80人(定員になり次第締切)▷申込　市内のかた7月12日(月)～、市外のかた7月19日(月)～電話・窓口で

明るいおばけやしき作戦会議

8月20日の明るいおばけやしきの作品を一緒に作ろう。

▷日時　7月26日(月)、8月2日(月)・16日(月)・19日(木)午後1時30分～3時▷場所　講座室▷申込　電話・窓口・Eメール(上記QRコード)で▷対象　小学3年～中学生▷定員　15人(多数の場合抽選)▷締切　7月19日(月)午後5時

◎作品展示のみの参加募集

作品を持参してください。

▷申込　電話・窓口で▷締切　8月8日(日)午後5時

中央公民館クラブ紹介①(クラブ協議会所属)　☎072－433－7222

あなたも一緒に活動してみませんか！見学もできます

	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容
創作	ろうの花	2・4(火) 9:00	200	クラブ員相互に教え合い、好みの花作りを楽しんでいます(材料費別)
	火曜陶芸	1～4(火) 19:00	3,000 (3カ月)	心癒せる作品づくりが目標です
	どろんこ(陶芸)	1～4(木) 10:00	2,500	先生が基礎から丁寧に教えてくださいます。素敵な作品ができますよ
	彫金	2・4(金) 12:30	750	世界で1個自分だけの作品は楽しいですよ！
	木工クラブ	1～4(土) 18:30	500	ミニチュアだんじりも本物と同じ製作方法で完成まで数年かけてつくっています
	土曜陶芸	1・3(土) 9：00	500	チャレンジ精神のある、初心者の多い集まりです
	やさしい仏像彫刻クラブ	1・2・4(日) 12:30	3,000	心安らぐ仏さまを彫ってみませんか(材料費別)
書画	月曜絵画	1～4(月) 10:00	1,000	個性的で独創的な絵を追求し、春・秋の写生会などを開催
	木曜書道	1～3(木) 13：00	2,000	かな・漢字・実用書道を楽しみながら練習しています
	水墨画	2・4(金) 10：00	2,000	初心者のかたも基礎から学べます 会員募集中です
	絵手紙	2(土) 10:00	1,000	絵に言葉を添えて四季を楽しみませんか
音楽	月曜民謡	月3回(月) 19：00	2,500	少人数ですが、和気あいあいとやっています
	クラシックギタークラブ	2・4(月) 19：00	1,000 (2カ月)	初心者も含め、合奏やソロを学び楽しんでいます
	コールシェル	1～4(火) 10:00	2,000	ステージで唄うのは気持ちが良いものです。あなたも！
	室内楽	(火)15:30 (金)19:00	1,000	第2・4火曜がリコーダーで毎金曜が弦楽アンサンブルです
	詩吟	1・3 (火) 19：00	2,000	詩の持っている情感をこめて声高らかに…
	コール・フリーリー	2・4(木) 9：30	3,000	美しいハーモニーを求めて日々がんばっています
音楽	貝塚ハーモニカクラブ	1・3(木) 13:00	2,000	高名な先生に童謡、歌謡曲の指導を受け楽しんでいます
	箏曲クラブ	2・4(木) 19:00	2,000	日本文化に触れて楽しくおけいこしています
	ホロホロウクレレ	2・4(金) 10:00	2,000	初心者も含め、みんなで楽しくウクレレを弾いています
	ラ・ポール	1～4(金) 13:30	2,000	楽しく、時にはきびしく練習しています
	ガラクタ	1～4(金) 19:00	1,000	ジャズから歌謡曲まで軽音楽を楽しむクラブです
	オカリナふぁみりあ	2・4(金) 15:30	4,000	土でできた楽器で、素朴な音色のアンサンブルを楽しんでいます
	熟年コーラス銀の貝	1・3(土) 10:00	2,000	55歳を越える集団が唄うことで健康維持を
	ロックバンド連絡会	(月)～(土) 16:30	400	青春の思い出は、ロックから
語学	ニーハオ中国語	2・4(火) 13:30	2,500	だれでも始められます。日常の中国語会話を一緒に楽しみませんか
	木曜英会話	1～4(木) 19:30	3,000	たまにはテキストも使い、各自のレベルで楽しんでいます
体操・舞踊	大人のHIPHOPチェケラッシュ	1～4(月) 10:00	3,000	ダンス曲に合わせて楽しく踊りませんか。心身ともにリフレッシュ！
	ハワイアンフラ	1・3(火) 13:30	4,800 (3カ月)	ハワイアンの曲に合わせて楽しく踊っています
	たのしい踊り	2・4(日) 13:00	4,100	かくし芸に挑戦しています。笑いのたえない楽しいクラブです
	つむぎ踊りの会	1・3(金) 13:30	1,000	楽しい雰囲気で仲良く踊りの練習をしています
	ストレッチ	1・3(金) 19:30	1,500	楽しいトークと音楽に合わせて全身のストレッチ。体も心もいい気持ち！
	子どもHIPHOP	1～4(土) 9:30	2,500	小学生から中学生まで楽しく踊っています！
	太極拳	1～4(土) 13:00	1,000	健康と美容に効果があり、老若男女に人気があります

材料費などが別途必要な場合があります。内容は変更になる場合があります。中央公民館の他のクラブは9月広報で紹介します。詳しくはお問合せください。

公民館タイムズ

中央公民館　☎072－433－7222

夏の子ども講座「人形劇をみよう!」

▷日時　8月21日(土)午前10時30分(約45分)▷場所　コスモスシアター小ホール▷内容　「おべんとうなあに？」ほか▷対象　幼児～小学生と保護者▷定員　80人(中央公民館で整理券を配布)▷入場　無料▷協力　人形劇あひる

【市民企画講座】SDGs私たちのちょっとした選択が未来をかえる

▷日時(全3回)　9月2日(木)・14日(火)、10月7日(木)午前10時～正午▷場所　視聴覚室ほか▷定員　15人(保育要相談)▷参加費　無料▷協力　貝塚子育てネットワークの会▷締切　8月26日(木)

笑福亭鶴笑の爆笑寄席～SDGs落語「ゴミ怪獣」ほか～

▷日時　9月5日(日)午後2時▷場所　コスモスシアター小ホール▷定員　50人(定員になり次第締切)▷入場　無料▷協力　貝塚ファミリー劇場▷申込　8月10日(火)午前10時～窓口・電話で

ダイエットボクササイズ～みんなで楽しくシェイプアップ、ストレス発散で一石二鳥！～

▷日時(全4回)　9月14日・28日、10月12日・26日、火曜午後7時30分～8時30分▷場所　視聴覚室▷講師　梅本道代さん(NPO法人いきいき・のびのび健康づくり協会理事)▷定員　15人(定員になり次第締切)▷持物　運動しやすい服装・靴、タオル、飲物▷参加費　無料▷申込　8月15日(日)午前10時～窓口・電話で

介護について語り合う場

介護の悩みや疑問は一人で抱えこまず、みんなで話し合いましょう。気持ちを楽にして来てください。▷日時　8月23日(月)午後1時30分～3時▷場所　講座室

第43回貝塚少年少女合唱団定期演奏会

子どもたちが元気いっぱいに日頃の活動の成果を発表します。▷日時　9月12日(日)午後1時30分▷場所　コスモスシアター中ホール▷入場　無料(入場制限をさせていただく場合があります)

クラブ体験講座～一緒にはじめてみませんか～

陶芸　どろんこ(要申込)

陶芸の楽しさや自分で器をつくる体験をしてみませんか。▷日時(全2回)　9月2日・9日、木曜午前10時～正午▷材料費　500円▷持物　エプロン、タオル

貝塚子育てネットワークの会小学生部会講座

▷日時　9月16日(木)午前10時～正午▷内容　「おしえて!?　貝塚市のタブレット学習」▷対象　小学生を持つ親▷定員　30人(定員になり次第締切)▷保育定員　10人(1歳以上)▷参加費　100円(おやつ、保険代)

浜手地区公民館　☎072－431－0926

子育てサロン☆ほっとスペース

乳幼児親子のひろばです。時間内自由に遊べます。第2・4火曜は「造形あそび」も開催。▷日時　火曜午前10時～正午▷場所　プレイルーム▷内容　8月24日：シールはがし、9月14日：野菜スタンプ▷申込　不要

＋KOMINKAN(プラス公民館)

高校生・大学生の居場所としてホールを開放します。▷日時　8月29日(日)午後1時～4時▷申込　不要

認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ(高齢介護課共催)

スマホの基本的な操作を学び日常生活に役立てましょう。▷日時(全3回)　9月10日・24日、10月8日、金曜午前10時～11時30分▷場所　講座室▷対象　市内在住・在勤の60歳以上で、Androidスマホをお持ちのかた▷定員　10人(多数の場合抽選)▷教材費　500円▷締切　8月19日(木)

浜手・山手合同はじめてのZOOMサロン

ZOOMアプリの使い方を聞いて、自宅からつながってみよう。

1回目(申込館にて)		2回目	
浜手	9月6日(月)午後1時30分～3時	自宅から	9月13日(月)午後1時30分～2時10分
山手	9月2日(木)午後3時30分～5時		

いずれも▷対象　市内在住・在勤のかた▷定員　各館5人(定員になり次第締切)▷持物　スマートフォン、タブレット、ノートパソコンのいずれか▷申込　8月13日(金)～電話・窓口またはQRコードからメールで

浜手QRコード　山手QRコード

カラダすっきり☆ストレッチ(第1期)

ストレッチを習慣にして、スッキリした身体をつくりませんか？▷日時(全6回)　9月7日・14日・21日、10月5日・12日・19日、火曜午前11時～正午▷場所　ホール▷対象　市内在住・在勤のかた▷定員　20人(定員になり次第締切)▷申込　8月13日(金)～電話・窓口で

明るいおばけやしき

みんなが作ったおばけ作品を見にきてね！▷日時　8月20日(金)午前10時～午後3時▷場所　講座室▷申込　不要(必要に応じて入場制限をする場合があります)

浜手ジャズフェスタ

芸術の秋、浜手でジャズを楽しみましょう。

◇Autumn Jazz Concert

グレンミラーの名曲を中心に、親しみやすいナンバーをお届けします。▷日時　9月5日(日)午後1時30分～▷場所　二色小学校体育館▷出演　中野ひろし＆スウィングガイズオーケストラ▷定員　120人(定員になり次第締切、整理券あり)▷申込　市内のかた8月10日(火)～、市外のかた8月30日(月)～電話・窓口で

◇浜手アフタヌーンコンサート　ジャズの心髄～ピアノ＆ベースデュオ～

▷日時　9月16日(木)午後2時～3時▷場所　ホール▷出演　たなかかつこさん(ピアノ)、萬恭隆さん(ベース)▷定員　80人(定員になり次第締切)▷申込　市内のかた8月16日(月)～、市外のかた8月23日(月)～電話・窓口で

◇Autumn Jazz Concertとジャズの心髄の様子をロビーで上映します

自由に見に来てください。▷日時　9月24日(金)午後1時～、9月25日(土)～30日(木)午前10時～と午後1時～

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール(右記QRコード)で

保育付講座　子育て×自分磨き

子育てで忙しい毎日に、ホッとできる自分時間を♪保育を通して、子どもの成長も感じることができます。
体験：ダイエットボクササイズ、アルバハーブ演奏
作る：クラフトかご、アロマソープ
学ぶ：「子育てについて話そう」「入園までに知っておきたいこと」
▷日時(全8回)　9月2日～10月28日、木曜午前10時～11時30分▷場所　講座室▷対象　乳幼児を持つ母親▷定員　12人(多数の場合は抽選)▷保育定員　12人(1歳以上)▷材料費　700円▷申込　窓口・電話またはEメールで▷締切　8月23日(月)午後5時▷抽選　8月24日(火)午前10時

ロビーコンサート～舞踏への誘い～

▷日時　9月21日(火)午後0時30分▷出演　貝塚市クラシック音楽家協会(荒瀬紘子さん、安田保奈美さん)▷定員　40人(定員になり次第締切)▷申込　市民のかた8月20日(金)～、市外のかた8月27日(金)～

はじめての人形劇

幼児から楽しめる人形劇です。▷日時　9月26日(日)午前10時30分～11時30分(開場午前10時15分)▷場所　ホール▷入場　無料▷出演　人形劇団クラルテ▷演目　①どうしてぞうさんのはなはながいの？②ゆらゆらばしのうえで▷定員　80人(多数の場合は抽選)▷締切　9月14日(火)午後5時▷抽選　9月17日(金)午前10時

公民館タイムズ

中央公民館　☎072－433－7222

子育てネットワークの会園児部会ヨガ～心と体を整える～

▷日時　9月30日(木)午前10時～正午▷講師　平山公子さん▷持物　ヨガマット（あれば）、バスタオル、水分▷定員　30人（定員になり次第締切）▷保育定員　10人（保険・おやつ代100円必要）▷締切　9月22日(火)▷申込　窓口・電話で

赤ちゃんルーム

▷日時　第2・4月曜（9月13日：水あそび、27日：人形劇）午前10時～11時30分▷場所　保育室▷対象　2020年4月以降生まれの子どもと親、妊婦のかた▷申込　窓口・電話で（必ず事前にお問合せください）

クラブ体験講座

貝塚ハーモニカクラブ

一緒に歌い、吹き、楽しい活動をしませんか。ハーモニカと簡単な楽譜と吹き方の説明をします（初めてのかたOK）。

▷日程　10月7日・14日、木曜午後1時～3時▷持物　複音ハーモニカ（ない場合は見学可）▷申込　窓口・電話で

ゆるふわヨガ

カチカチさんのためのココロとカラダをほぐすヨガです。

▷日時（全6回）　10月15日・29日、11月5日・19日、12月3日・17日、金曜午後7時～8時30分▷講師　津田美穂さん▷場所　和室▷定員　9人（多数の場合抽選）▷締切　9月24日(金)▷持物　ヨガマット（あれば）、バスタオル、水分▷申込　窓口・電話で

第54回 貝塚市美術協会展

▷日時　9月18日(土)～19日(日)午前9時～午後5時（最終日は午後3時）▷場所　視聴覚室▷内容　油絵・水彩画・日本画・陶芸・彫刻・絵手紙・染色・版画など▷入場　無料

第37回 市民民踊まつり

▷日時　10月3日(日)午前11時開演▷場所　コスモスシアター中ホール▷入場　無料▷出演　貝塚市民踊連盟

報告

スポーツ吹矢の体験講座報告

スポーツ吹矢の体験講座が終了しました。

コロナの影響で開催日の変更もありましたが、欠席もほぼなく、講座への関心の高さが伺えました。吹矢は腹式呼吸で矢を飛ばし、的を狙うために集中力を高め「礼に始まり、礼に終わる」動作は脳の活性化や自律神経の強化も期待できるスポーツです。

初回は動作がぎこちなく、あちらこちらで講師の指導する声がありましたが、2回目からは矢が的を射る音が静かな部屋に響いていました。受講者からは「スッキリした」「もっとしたい」との声がありました。秋に再度講座を開催する予定です。

浜手地区公民館　☎072－431－0926

＋KOMINKAN（プラス公民館）

高校生・大学生の居場所としてホールを開放します。

▷日時　9月19日(日)午後1時～4時▷申込　不要

パパサロン

段ボールでままごと冷蔵庫を作ろう。

▷日時　9月26日(日)午前10時～正午▷対象　未就学児とパパ▷定員　8組▷申込　9月19日(日)午後5時までに窓口・電話で（申込がない場合は、プレイルームを開放します）

浜手アフタヌーンコンサート ピアノであそぼう

▷日時　10月14日(木)午後2時～3時▷場所　ホール▷出演　宮崎剛さん▷定員　80人（定員になり次第締切）▷申込　市内のかた9月21日(火)～、市外のかた9月28日(火)～電話・窓口で

映画会「プラスチックの海」（環境衛生課共催）

プラスチックごみによる海洋汚染の実態を知り、考えよう。

▷日時　10月30日(土)午前10時～正午▷場所　ホール▷対象　市内在住・在勤（学）のかた▷定員　80人（定員になり次第締切）▷申込　9月16日(木)～窓口・電話で

げんきに子育て

乳幼児期を親子で楽しく過ごすコツをみんなで学びましょう。

▷日時（全8回）　10月29日～12月17日、金曜午前10時～正午▷対象　乳幼児を持つ親▷定員　12人（定員になり次第締切）▷保育定員　8人（1歳以上）▷材料費　700円▷申込　9月28日(火)～窓口・電話またはQRコードで

子育てサロン☆ほっとスペース

乳幼児親子が自由に遊べます。第2・4火曜は「造形あそび」も開催。

▷日時　火曜午前10時～正午▷場所　プレイルーム▷造形あそび　9月28日：タンポ押し、10月12日：外あそび▷申込　不要

カラダすっきり☆ストレッチ（第2期）

▷日時（全6回）　11月2日・9日・16日、12月7日・14日・21日、火曜午前11時～正午▷場所　ホール▷対象　市内在住・在勤のかた▷定員　20人（定員になり次第締切）▷申込　新規のかた10月1日(金)～、第1期から継続のかた10月8日(金)～窓口・電話で

浜手・山手合同 はじめてのZOOMサロン

ZOOMアプリの簡単な利用方法を聞いて、自宅からつながってみよう。

1回目（申込館にて）		2回目	
浜手	10月4日(月) 午後1時30分～3時	自宅から	10月11日(月) 午後1時30分～2時10分
山手	10月5日(火) 午後3時30分～5時		

▷対象　市内在住・在勤のかた▷定員　各館5人（定員になり次第締切）▷持物　スマートフォン、タブレット、ノートパソコンのいずれか▷申込　9月13日(月)から窓口・電話またはQRコードで

浜手QRコード　山手QRコード

山手地区公民館　☎072－446－0090

山手地区公民館開館30周年事業 ～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま「お夏清十郎」

昨年好評でしたので、あの感動をもう一度お届けしようと、恋人の聖地「水間寺愛染堂」に伝わるお夏清十郎伝説のオペレッタを開催します。村人役として公募した一般市民のかたも加わり、プロの音楽家と共演します。

▷日時　10月17日(日)午後2時～2時30分▷場所　ホール▷定員　100人（定員になり次第締切）▷入場　無料▷申込　市内のかた9月21日(火)～、市外のかた10月1日(金)～窓口・電話で▷申込・問合せ先　すいてつ沿線魅力はっしん委員会（山手地区公民館内）

中央公民館クラブ紹介（クラブ協議会所属）　☎072－433－7222　あなたも一緒に活動してみませんか！見学もできます

	クラブ名	活動日時	月会費（円）	内容
演芸・演劇	人形劇あひる	1～4(木) 10：00	200	どこへでも人形をつれて出かけます。夢を届けませんか。
	マジック	2・4(金) 19：00	500	男女が集まり、賑やかに楽しく学んでいます。
伝統	茶道	1～4(火) 19：00	1,000	窮屈な作法ではなく、真心で人に接することが第一。
パソコンほか	コスモ写真クラブ	2・4(日) 13：30	3,000（年間）	写真を通じて友達の輪！仲間達の家族的な指導で初心者も安心。
	コスモスパソコン	2・4(火) 19：00	1,500	「パソコンに慣れ親しみ、実用面で大いに利用しよう」をモットーに活動中！
	貝塚パソコン研究会	2・4(土) 12：30	3,000	パソコンの初心者のかたを対象に楽しく学習しています。
料理	パンづくり	1(火) 10：00	1,000	フランスパンから菓子パンまで色々なパン作りが楽しめます。
	なごみクッキング	3(火) 10：00	1,500	おふくろの味も披露しながら新メニューにもチャレンジ！
	おやじのｼﾝｸﾞﾙｷｯﾁﾝ	2(木) 9：30	1,000	親父同士で簡単家庭料理を作って食べて楽しんでいます。
	体にやさしい料理	2(木) 19：00	1,500	旬の野菜を使った献立で心と体にやさしい料理を作っています。
学習	第3土曜の会	3(土) 14：00	2,000（年間）	相互に話題やテーマを決めて知識を深めあっています。
	あこーる♪	3(土) 19：00	なし	身近な問題から、女性の生き方を考えていきます。

公民館タイムズ

山手地区公民館まつり・浜手地区公民館ふれあいまつりを中止
山手地区公民館(10月17日)・浜手地区公民館(10月24日)の公民館まつりは、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、中止になりました。

中央公民館　☎072－433－7222

◎対象は、市内在住・在勤・在学のいずれかのかたです

Handmade factory in 公民館 ～身近なところからSDGs～

エコクラフトかごバックを作ろう「コサージュつきの小さなバック」

▷日時(全3回)　11月13日・20日・27日、土曜午後1時30分～▷場所　講座室▷定員　12人(成人対象、定員になり次第締切)▷材料費(3回分)600円(事前にカラーを決めてください)▷持物　メジャー、洗濯バサミ(20個程度)、ボンド、はさみ、工作用マット(あれば)、筆記用具▷申込　10月7日(木)午前10時～窓口・電話で

スポーツ吹矢を楽しもう

▷日時(全4回)　11月2日・9日・16日・30日、火曜午後1時30分～3時▷講師　(一社)日本スポーツウエルネス吹矢協会会員▷場所　浜手地区公民館ホール▷定員　20人(多数の場合10月21日抽選)▷材料費200円(マウスピース)▷申込　10月19日(火)午後7時まで

講座「気軽に書道」

初心者も、もう一度筆を持ちたいかたも歓迎！基本を学ぼう！
▷日時(全3回)　11月8日・15日・22日、月曜午後1時～3時▷場所　視聴覚室▷持物　大筆、小筆、下敷き、文鎮、すずり▷定員　12人(成人対象、定員になり次第締切)▷材料費　300円(3回分。墨汁・半紙などを含む)▷申込　10月7日(木)午前10時～窓口・電話で

クラシックコンサート「音楽サプリ－あなたの心をサポートする名曲たち－」

▷日時　11月27日(土)午後2時開演▷場所　コスモスシアター中ホール▷出演　貝塚市クラシック音楽家協会▷定員　240人(定員になり次第締切)▷入場　無料
※要整理券。各公民館で配布。一人4枚まで。市内のかた10月7日(木)～、市外のかた10月14日(木)～

介護について語り合う場

市立貝塚病院の認知症看護認定看護師が認知症の話をします。気軽にご参加ください。
▷日時　10月25日(月)午後1時30分～3時▷場所　視聴覚室▷協力　貝塚市介護者家族の会▷参加費　無料

第33回貝塚ファミリー劇場「こども市」

子どもが考え、工夫したお店がたくさん出ます！ぜひ遊びに来てください！
▷日時　10月30日(土)午後3時～6時▷場所　コスモスシアター前庭(雨天時は、中央公民館2階)

子育てネットワークの会共催講座

◎いずれも
▷保育定員　10人(中高生部会除く。各講座の1週間前締切)▷参加費　1回100円(保険・おやつ代)
▷申込　各講座の前日まで

親児部会

◆**みんなで学ぶ防災講座**
▷日時　10月21日(木)午前10時～正午▷講師　危機管理室職員▷場所　視聴覚室▷定員　40人(定員になり次第締切)

小学生部会

◆**ギャングエイジって何だろう？～思春期の入り口?!～**
▷日時　10月29日(金)午前10時～正午▷講師　代田盛一郎さん(大阪健康福祉短期大学学科長)▷場所　視聴覚室▷定員　45人(定員になり次第締切)

◆**座談会「みんなどうしているの？こんなとき」**
▷日時　11月11日(木)午前10時～正午▷場所　和室▷定員　24人(定員になり次第締切)

中高生部会

◆**中学校ってどんなところ？「小学生と中学生のちがい」**
▷日時　10月26日(火)午後1時～3時▷講師　学校教育課職員▷定員　30人▷場所　視聴覚室

クラブ体験講座(要申込)

◆**ラ・ポール**
やなせたかしさんの曲集を歌おう！
▷日時　10月22日・11月5日、金曜午後1時30分～

◆**熟年コーラス　歓の会**
気分も体ものびのびしながら楽しく歌いましょう。身体ほぐし体操、愛唱歌、簡単な2部合唱で誰でもとけこめますよ。
▷日時　10月16日・11月20日、土曜午前10時～正午

浜手地区公民館　☎072－431－0926

茶歌舞伎

お茶の産地や銘柄を当てる遊び「茶歌舞伎」体験と、美味しいいれ方の講座です。
▷日時　11月21日(日)午後1時30分～3時30分▷対象　18～59歳のかた▷定員　16人(多数の場合は抽選)▷材料費　300円▷申込　11月1日(月)までに窓口・電話またはQRコードからメールで

クラブ体験講座

◆**木彫書道**
▷日時　11月11日または18日、木曜午後1時～3時▷申込　各回の開催2日前までに窓口・電話で

◆**二色珊瑚クラブ**
▷日時　11月13日・20日・27日、土曜午後1時～4時▷申込　11月12日(金)までに窓口・電話で

◆**太鼓撥Ⅱ**
▷日時　11月18日(木)午後1時～3時▷申込　11月16日(火)までに窓口・電話で

◆**おやじの料理**
▷日時　11月21日(日)午前9時30分～正午▷申込　11月15日(月)までに電話・窓口で

浜手・山手合同 はじめてのZOOMサロン

ZOOMアプリを使ってみよう。
▷定員　各館5人(定員になり次第締切)▷申込　10月14日(木)から窓口、電話またはQRコードからメールで

	1回目(申込館にて)		2回目
浜手	11月1日(月)午後1時30分～3時	自宅から	11月8日(月)午後1時30分～2時10分
山手	11月1日(月)午後3時30分～5時		

浜手QRコード　山手QRコード

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール(右記QRコード)で

ロビーコンサート ～こもれびの中で共に奏でるひとときを～

▷日時　11月16日(火)午後0時30分▷出演　アンサンブルBUNS▷定員　40人(定員になり次第締切)▷申込　市民のかた10月21日(木)～、市外のかた10月28日(木)～

【保育つき講座】"フリマアプリ"わたしもできるSDGs

あなたの不用なものが、誰かにとっては価値のあるものに！スマートフォン・タブレットを使ってフリマアプリを体験します。子育て中の身近なことからSDGsを考えよう。
▷日時(全3回)　11月18日～12月2日、木曜午前10時30分～正午▷対象　子育て中のかた▷定員　10人(多数の場合抽選)▷持物　スマートフォンまたはタブレット▷申込　11月5日(金)まで
※保育あり(0歳は要相談、おやつ代必要)

フアフアクラブ

子育てに悩むお母さんへ、子どもとのホッとする時間を一緒に作ってみませんか。月1回、親子で工作やゲームで楽しみましょう。ランプシェイド作り・ダンボールで乗り物作り・紙染め体験などをします。
▷日時　①10月23日②11月20日③12月18日④来年1月15日、土曜(1回だけの参加や体験も可。要申込)午前10時15分～11時30分▷対象　なんでうちの子は他の子と同じようにできないのかな？と悩む親と小学生▷定員　10組(定員になり次第締切)▷材料費　②④のみ一人200円▷講師　松本啓子さん(学校心理士)

おさんぽかばさん

年齢が同じくらいの子どもを持つママたちの交流の場です。キーホルダーなどの小物作りをします。
▷日時(全5回)　10月19日～11月16日、火曜午前10時～11時30分▷対象　乳幼児親子(ママだけの参加も大歓迎)▷場所　保育室▷材料費　実費▷申込　10月15日(金)まで

第3回　こうせい展

重度の知的障害があり自閉症のこうせい君は絵をかくことが大好きな小学5年生。こうせい君の作品を鑑賞しながらお母さん(村上千絵さん)の子育ての話を聞き、家族のつながりについて考えませんか。
▷日時　11月11日(木)午前10時30分～11時30分▷場所　ロビー▷対象　どなたでも▷定員　10人(多数の場合抽選)▷申込　11月7日(日)まで▷作品展示　11月8日(月)～21日(日)※開館時間内で自由に観覧できます。

公民館タイムズ

中央公民館　☎072－433－7222

◎対象は、市内在住・在勤(学)のかたです

Handmade factory in 公民館 ～身近なところからSDGs～

◆**ボディスクラブ**

角質をケアするクリームです。
▷日時　12月4日(土)午後1時30分～▷場所　講座室▷定員　15人▷材料費　500円▷持物　ティッシュ、ハンカチ

◆**ダーニング**
かわいくお直ししましょう。
▷日時(全2回)12月12日・19日、日曜午後1時30分～▷場所講座室▷定員　10人▷材料費　500円▷持物　穴があいたり、シミがついた洋服や布製品など(あれば)
◎いずれも11月8日(月)午前10時～窓口・電話にて申込受付開始(定員になり次第締切)

赤ちゃんルーム

気軽に参加できる親子の交流の広場です。クリスマス会をしたり手づくりおもちゃで遊びます。
▷日時　11月8日・22日、12月13日・27日、第2・4月曜午前10時～11時30分▷対象　0歳の子どもがいる親子、妊婦のかた(要申込)

民謡フェスティバル

公民館や地域で日本の伝統である民謡を歌い継いでいます。
▷日時　11月28日(日)午前11時～▷場所　山手地区公民館ホール▷出演　貝塚市日本民謡連合会▷入場　無料

第44回合唱フェスティバル

公民館や地域、PTAグループの美しいコーラスをお楽しみください。
▷日時　12月5日(日)午後1時～▷場所　コスモスシアター大ホール▷出演　貝塚市合唱連盟▷入場　無料

X'mas・ピアノリレー

老若男女、どなたでも参加できます。
▷日時　12月19日(日)午前9時～午後4時▷場所　視聴覚室▷定員　28人(定員になり次第締切、一人15分、空きがあれば連続可、要申込)▷参加費　無料

子育てネットワークの会共催講座

▷保育定員　各10人(各講座の1週間前締切)▷保険・おやつ代　1回100円

園児部会

◆トークシェアリング
講座で学んだことをみんなで共有しよう。
▷日時　11月25日(木)午前10時～正午▷場所　講座室2▷定員　20人(定員になり次第締切、要申込)

小学生部会

◆子どもの個性の伸ばし方～ありのままを認めたい～
▷日時　12月2日(木)午前10時～正午▷場所　視聴覚室▷講師　朝日陽子さん(NPO法人えーる)▷定員　45人(定員になり次第締切、要申込)
◎いずれも申込締切は各講座の前日まで

秋のプレーパーク

子どもたちの「やってみたい」を最大限叶えてあげながら一緒に遊びませんか。
▷日時　11月20日(土)・21日(日)午前10時～午後4時(雨天中止)▷場所　市立青少年野外広場(第四中学校横)▷参加費　100円

障害者施設合同作品展示「にっこり展」

陶芸や絵画などさまざまな力作が並びます。
▷期間　12月7日(火)～20日(月)、水曜は休館▷場所　中央公民館ロビー壁面▷入場　無料

クラブ体験講座

◆**子どもHIPHOP**
初めてのかた、興味のあるかたは気軽に見学・参加してください。
▷日時　11月27日(土)小学生クラス午前9時30分～、中学生クラス午前10時30分～▷持物　水分、タオル

◆**茶道クラブ**
▷日時(全2回)　12月14日・21日、火曜午後7時～9時▷持物　扇子▷材料費　1,000円(2回分)

浜手地区公民館　☎072－431－0926

来年1月末頃までトイレなどの改修工事をしています。仮設トイレの使用や、駐車場の一部減少などご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

パパサロン

11月は布ぞうりとやきいも、12月は牛乳パックでサンタブーツを作ります。
▷日時　11月28日(日)午前10時～午後1時、12月19日(日)午前10時～正午▷対象　未就学児と父親(11月は母親も参加可)▷定員　各8組▷申込　各開催日1週間前の午後5時までに窓口・電話で

子育てサロン☆ほっとスペース

第1～4の火曜午前10時～正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。12月14日は造形遊び「ひも通し」をします。
▷申込　不要

子育てサロンde子連れヨガ

赤ちゃん同室で受けるママのためのヨガです。
▷日時　11月30日(火)午前10時30分～11時30分▷対象　0歳～未就園児と母親▷定員　6組(定員になり次第締切、要申込)▷申込　窓口・電話で

浜手アフタヌーンコンサート Christmas Concert ～冬を彩るクラリネット&チェロ&ピアノのイルミネーション～

▷日時　12月9日(木)午後2時～3時▷場所　ホール▷出演　森田美穂さん、伊石昂平さん、田所千佳さん▷定員　80人(定員になり次第締切)▷申込　市内のかた11月15日(月)～、市外のかた11月22日(月)～窓口・電話で

浜手・山手合同 はじめてのZOOMサロン

ZOOMアプリを使ってみよう。
▷定員　各館5人(定員になり次第締切)▷申込　11月12日(金)～窓口・電話・Eメールで

	1回目(申込館にて)		2回目
浜手	12月6日(月)午後1時30分～3時	自宅から	12月13日(月)午後1時30分～2時10分
山手	12月3日(金)午後3時30分～5時		

浜手Eメール　山手Eメール

クラブ体験講座

◆**浜手川柳**
▷日時　11月19日(金)午後1時～3時30分▷申込　11月18日(木)まで
※当日参加も可。

◆**茶道クラブ**
楽しくお茶をのみましょう。
▷日時　11月25日(木)午後1時30分～2時30分▷材料費　100円▷持物　白い靴下▷申込　11月22日(月)まで

◆**光水彩画クラブ**
来年のカレンダー作りをします。みんなで楽しく描きましょう。
▷日時　12月7日(火)午後1時30分～3時▷材料費　100円▷持物　絵の具、色鉛筆▷申込　12月6日(月)まで

◆**油絵クラブ**
絵を描いてみませんか！楽しみがいっぱいひろがります。
▷日時　12月14日(火)午後1時30分～3時30分▷申込　11月21日(日)まで

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール(右記)で

おやつ作り講座(おさんぽかばさん)

おうちで簡単にできるシフォンケーキなどのおやつを紹介します。
▷日時(全3回)　11月30日、12月7日・14日、火曜午前10時～正午▷対象　市内在住・在勤の大人(保育なし)▷定員　10人(多数の場合抽選)▷材料費　1,200円▷持物　エプロン・三角巾・ハンドタオル・布きん2枚▷締切　11月20日(土)

ハピネスバコ的実験教室

夏休みの子ども講座で大人気だった講座が冬休みに帰ってくる！
科学の本の読み聞かせや、いろいろな水実験、噴水フルーツポンチの試食をします。
▷日時　12月26日(日)午前10時～正午▷対象　市内在住の小中学生(初めてのかた優先)▷定員　12人(多数の場合抽選)▷材料費　200円▷協力　ハピネスバコ(すばこ型図書館のグループ)▷締切　12月16日(木)

「たまねぎ劇場」参加グループ募集

普段地域で活動しているが、なかなか発表の機会がないというグループの参加をお待ちしています。
発表に向け数回の打ち合わせ会議を行い、協力して進めていきます。
▷締切　11月30日(火)▷発表日　来年4月10日(日)

公民館タイムズ

中央公民館　☎072－433－7222

ジャズライブ

▷日時　1月16日(日)午後1時30分▷場所　視聴覚室▷出演　中野ひろしクァルテット▷入場　無料▷定員　40人(要整理券。受付名簿に氏名、住所、連絡先の記入と引き換えに中央公民館窓口で配布、一人4枚まで、定員になり次第締切)▷整理券配布開始　市内のかた12月10日(金)～、市外のかた12月17日(金)～

介護について語り合う場

認知症の基礎知識、施設のこと、お世話する家族や自分について、いっしょに考えましょう。
▷日時　12月20日(月)午後1時30分～3時▷場所　講座室3▷参加費　無料▷協力　介護者家族の会

貝塚子育てネットワークの会共催講座

◇乳幼児部会
～入園前に親ができること～
▷日時　12月14日(火)午前10時～11時30分▷講師　公立幼稚園園長▷場所　ハート交流館▷対象　乳幼児をもつ親▷保育定員　10人(定員になり次第締切)▷保険代　50円

クラブ体験講座

◇ハワイアンフラ
様々なステップをハワイアンミュージックに合わせて基礎練習します。ゆったりと身体を動かしながら、固くなった心と身体をほぐしましょう。
パウ(スカート)を準備してお待ちしています。
▷日時　12月21日(火)午後1時30分～3時▷場所　視聴覚室

報告　いすヨガ

いすにすわった状態で、気軽に体を動かせるいすヨガ。高齢介護課との共催でフレイル予防を目的とし、高齢のかたを対象に行いました。体を動かしたいけど体力に自信のないかた、腰が弱いかた、また寝転ぶ体勢が苦手なかたなどが受講されました。呼吸を整えながらゆっくりと体を動かし、裸足になって足の指をほぐすなど心身ともにリラックスした状態になりました。
笑いヨガの要素も取り入れて少し声を出してみると緊張もほぐれ、みなさんの笑顔も絶えませんでした。
みなさんからは、「ほぼ体力のない状態でも何とか体を動かすことができてうれしく思います」「いすに座ってするヨガ、足が痛くならないのですごくいいと思います」などが寄せられ、さっそく継続を望む声がありました。

浜手地区公民館　☎072－431－0926

子育てサロン☆ほっとスペース

第1～4火曜午前10時～正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。1月11日は造形遊び「マラカス作り」をします。
▷申込　不要

＋KOMINKAN(プラス公民館)

高校生・大学生の居場所としてホールを開放します。
▷日時　12月19日(日)午後1時～4時▷申込　不要

新春あそびたい会

ボランティアのみなさんが、コマ回し・折り紙・百人一首・手作りおもちゃなど、楽しい遊びを教えてくれます。
▷日時　1月11日(火)午後1時30分～3時▷申込　不要

気が付きすぎて疲れる気質HSP入門講座

脳の多様性の一つで、5人に1人はHSP(繊細な人)。まずは知るところから始めてみませんか？
▷日時　1月24日・31日、月曜午後1時30分～3時▷定員　25人(定員になり次第締切)▷申込　12月16日(木)から電話・窓口で

認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ（後期）

スマホの基本的な操作を学び日常生活に役立てましょう。
▷日時(全3回)　1月14日・21日・28日、金曜午前10時～11時30分▷対象　市内在住・在勤の60歳以上で、Androidスマホをお持ちのかた▷定員　10人(多数の場合抽選)▷教材費　500円▷申込　1月7日(金)午後5時までに電話・窓口で

かしこく夜活(後期)～仕事帰りに公民館に行ってみよう～

各回ごとに、ヨガ、睡眠と健康、コミュニケーション、レザークラフト、ハーブ＆アロマをします。
▷日時(全5回)　1月13日・20日・27日、2月10日・17日、木曜午後7時～8時30分▷定員　16人(多数の場合抽選)▷材料費　1,500円▷申込　12月24日までに窓口・電話・Eメールで

カラダすっきり☆ストレッチ（第3期）

ストレッチを習慣にして、すっきりした身体をつくりませんか？
▷日時(全6回)　1月18日・25日、2月1日・8日・15日・22日、火曜午前11時～正午▷対象　市内在住・在勤のかた▷定員　20人(定員になり次第締切)▷申込　新規のかた12月17日(金)～、第1期・2期から継続のかた12月24日(金)～電話・窓口で

クラブ体験講座

◇T2R（キッズダンス）
初級、中級、上級の3クラスに分かれてレッスンしています。
▷日時　1月8日・15日・22日、土曜午後1時40分～2時40分▷申込　電話・窓口で。当日の参加も可。

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール(右記)で

親子ヨガ

乳幼児を持つ親と子どもがヨガを通して楽しく過ごせる場です。
▷日時(全4回)　1月28日、2月25日、3月11日・25日、金曜午前10時～11時▷対象　乳幼児(1～3歳)がいる親子▷定員　15組(多数の場合抽選)▷参加費　無料▷講師　西村寿子さん▷持物　ヨガマットまたはバスタオル・汗拭きタオル・水分補給用飲み物・運動しやすい服▷締切　1月11日(火)

山手地区公民館クラブ紹介(クラブ協議会所属)☎072－433－7222

あなたも一緒に活動してみませんか！見学もできます。

	クラブ名	活動日時	月会費(円)		クラブ名	活動日時	月会費(円)		クラブ名	活動日時	月会費(円)		クラブ名	活動日時	月会費(円)
創作	パッチワーク	1・3(火) 10：00	1,000	音楽	オルオルウクレレ	2・4(火) 13:30	3,000	書画	水墨画	2・4(木) 13:00	2,000	体操・舞踊	体操クラブチェリー	1～4(木) 10:00	1,000
創作	ろうの花	2・4(木) 12:30	1,000	音楽	コーラス山の手	2・3・4(木) 9:30	2,000	書画	絵手紙	2(火) 13:30	2,000 (3ヶ月)	体操・舞踊	剣詩舞道	2・4(金) 13:00	500
創作	手編み工房	1・3(金) 10:00	4,000 (3カ月)	音楽	童謡を歌おう	2・4(木) 13:15	1,000	料理	ジャムおばさん	1(木) 9:00	1,200	体操・舞踊	金曜ストレッチ	1～4(金) 13:30	1,500
創作	陶芸（昼）	1～4(金) 12:30	3,300	音楽	津軽三味線	2・4(木) 15:30	5,000	体操・舞踊	ヨーガ(朝)	1～4(月) 10:00	1,000	体操・舞踊	太極拳	1～4(土) 10:00	1,500
創作	陶芸（夜）	1～4(金) 19：00	10,000 (3カ月)	音楽	沖縄三線あかばな	1～4(金) 19:00	2,000	体操・舞踊	月曜卓球	1～4(月) 12:30	1,000	体操・舞踊	土曜ダンス	2・4(土) 12:30	1,500
創作	木工	1～4(土) 12：30	なし	音楽	邦楽グループ～桜～（箏）	1～4(土) 12:30	1,000	体操・舞踊	ヨガスマイル	1～4(火) 9:30	1,000	伝統文化	文化サロン(茶道・いけばな)	1・3(月) 12:30	2,500
創作	表装研究会	1・3(火) 13:00	10,000 (3カ月)	音楽	女声コーラス『シフォン』	1(月)19:00 2・4(月)9:30	2,000	体操・舞踊	シルバー卓球	1～4(火) 12:30	1,000	伝統文化	花を楽しむ会	2(木) 13:00	100
音楽	親子でリトミック	1・2・3(月) 10:00	1,100	音楽	バンド連絡会	各グループで調整	500	体操・舞踊	男のヨガ	1・2・3(火) 14:00	2,000	演劇	朗読劇グループことの葉	1～4(月) 12:30	4,000
音楽	ククルウクレレ	2・4(火) 10:00	2,000	学習	英会話(昼)	1～4(木) 13:30	6,000	体操・舞踊	ヨーガ(夜)	1～4(火) 19:00	1,000				

※材料費などが別途必要な場合があります。内容は変更になる場合があります。詳しくはお問合せください。

公民館タイムズ

3館合同

第10回貝塚公民館大会

人をつなぎ、活動をつなぎ、地域をつなぐ、持続可能な夢を描き、語り合える公民館であるために学び合いましょう。

▷日時　2月6日、日曜午後1時～▷場所　各館▷テーマ　夢をつなげる公民館～「行き場」から「生き場」へ▷講師　牧野篤さん(東京大学大学院・教育学研究科教授)▷参加費　無料▷申込　各公民館の窓口・電話で

※Zoomでの参加は定員10人(定員になり次第締切)

保育ボランティア養成講座(保育つき)

公民館では、親が学んでいる間、子どもを保育室で預かっています。子どもが好きなかた、何かをはじめたいかた、保育ボランティアと一緒に子どもたちの笑顔のお手伝いをしませんか？

▷日時(全2回)　2月15日・22日、火曜午前10時～11時30分▷場所　中央公民館講座室・保育室▷内容　公民館保育の歴史、乳幼児の発達やあそび▷定員　10人(定員になり次第締切)▷保育定員　5人▷参加費　無料(保育希望のかたは、おやつ代100円)▷申込　1月14(金)～各公民館の窓口・電話で

浜手地区公民館　☎072－431－0926

子育てサロン☆ほっとスペース

第1～4の火曜午前10時～正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。1月25日は「洗濯バサミで遊ぼう」、2月8日は「積み木遊び」をします。

▷申込　不要

＋KOMINKAN(プラス公民館)

高校生・大学生の居場所としてホールを開放します。

▷日時　1月23日(日)午後1時～4時▷申込　不要

浜手アフタヌーンコンサート 二胡よ、唄え！～悠久の音色に想いをのせて～vol.3

▷日時　2月10日(木)午後2時～3時▷場所　ホール▷出演　田中鷹一さん(二胡)、田中寛治さん(ギター)、中務靖一郎さん(カホン)▷定員　80人(定員になり次第締切)▷申込　市内のかた1月17日(月)～、市外のかた1月24日(月)～窓口・電話で

にんぎょうげき

乳幼児向けの人形劇です。

▷日時　2月19日(土)午前10時30分～11時10分▷場所　2階ホール▷定員　60人(定員になり次第締切)▷申込　1月18日(火)～窓口・電話で▷出演　人形劇きしゃぽっぽ(浜手地区公民館クラブ)▷演目　「まるさんかく しかく」「オレ、カエルやめるや」ほか

報告

浜手ふれあいウイーク2021

例年の公民館まつり「ふれあいまつり」は中止となりましたが、浜手地区公民館利用者連絡会に所属するクラブの発表会を行いました。

舞台発表は、10月23日と24日の2日間、観客を少なくして行ったので、アットホームな発表会となりました。

作品展示と映像発表は、ロビーや講座室で一週間いつでも見られるようにし期間中舞台も合わせのべ500人の参加がありました。

クラブ員にとってこの発表会が一つの目標となり「全員で取り組むことができ良かった」という感想がありました。

反省会では「来年はまつりができますように」とみんなで願い終了しました。

中央公民館　☎072－433－7222

ライトミュージックコンサート

ジャズのフルバンド演奏を気軽にお楽しみください。

▷日時　2月20日(日)午後1時30分▷場所　コスモスシアター小ホール▷出演　貝塚市軽音楽連盟▷入場　無料

※入場制限を行う場合があります。

貝塚市美術協会作品展

油絵・水彩画・日本画・陶芸・絵手紙

▷日時　1月16日(日)～1月30日(日)午前9時～午後9時(最終日は午後3時、日曜は午後5時まで。水曜休館)▷場所　中央公民館ロビー壁面▷入場　無料

赤ちゃんルーム

親子の交流のひろばです。気軽にご参加ください。

▷日時　1月24日、2月14日・28日、3月14日・28日(第2・4月曜)午前10時～11時30分▷内容　節分、バレンタイン、ひなまつりなど▷場所　中央公民館保育室▷対象　0歳児と親、妊婦のかた

クラブ体験講座

◆どろんこ(陶芸)

▷日時　1月13日・20日、木曜午前10時～正午▷内容　自分で創るカップ、皿など▷材料費　500円▷持物　エプロン、タオル

報告

ダイエットボクササイズ

～みんなで楽しくシェイプアップ、ストレス発散で一石二鳥！～をテーマに、ダイエットボクササイズ講座を開催しました。

日中、公民館に来られないかたが気軽に参加できるよう夜間に開催したところ、若い世代や働く世代のかたたちがたくさん参加してくれました。ダイエットやストレス発散というネーミングに惹かれて参加した受講者も多く、ボクササイズが初めてでも楽しめるよう講師指導のもと、ウォーミングアップから基本的なパンチやキックの動きを軽快な音楽のせて行いました。回を重ねるごとにアップテンポのリズムに受講者も合わせられるぐらい上達し、最終回はコロナにも負けないくらいの熱気に包まれて終了しました。

～受講者の感想～

「とてもよかったです。肩こり解消！ストレス解消！またあったら参加したいです」「ダイエットボクササイズ楽しかったです。汗かけました。またやってほしいです」「ボクササイズははじめてしましたが、説明もわかりやすく楽しかったです」

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール(右記)で

ロビーコンサート 新春によせて～箏とフルートの饗宴～

▷日時　1月18日(火)午後0時30分▷出演　岡部雅浪さん、今川知恵子さん▷定員　40人(定員になり次第締切)▷申込　市民のかた1月7日(金)～、市外のかた1月13日(木)～

水間末廣座

日本の古典芸能「落語」や、あめでたさ満載でハラハラドキドキの太神楽曲芸をお楽しみください。

▷日時　2月27日(日)午後1時30分～3時▷場所　ホール▷出演　桂文昇さん・桂恩狸さん(落語家)、豊来家一輝さん(太神楽師)▷対象　市内在住・在勤のかた▷入場　無料[要整理券、1月14日(金)～各公民館で配布。一人4枚まで]

報告

2021公民館クラブ活動発表会

10月14日～17日の4日間、公民館クラブの「活動発表会」を開催しました。

昨年からのコロナ禍で公民館まつりが中止となり、日ごろの練習の成果の発表ができませんでした。今年は、山手地区公民館創立30年、活動協議会結成30周年の記念すべき年に活動発表会として取り組みました。当日は、展示発表、舞台発表にはクラブ員中心に延べ420人の参加があり、盛況のうちに終えることができました。

公民館タイムズ

中央公民館　☎072－433－7222

NEWつるかめ大学受講者募集

生活にはりが生まれる高齢者講座です。学習と交流、レクリエーションや班活動など盛りだくさん。
▷日程（全12回）　4月11日～7月11日、月曜午前10時～正午▷対象　おおむね65歳以上のかた▷定員　10人（定員になり次第締切）▷申込　2月14日（月）～3月13日（日）までに電話・窓口で

俺の公民館 ～趣味を見つけて楽しく生き生き、リア充生活～

男性を中心とした講座です。公民館で趣味を見つけて日々の生活を豊かにしませんか。
▷日時（全4回）　①3月5日（土）午後1時～3時②11日（金）午後7時～8時③18日（金）④25日（金）、③④は午後7時～9時▷内容・場所　①手づくりうどん打ち～モチモチうどんで元気に！～・料理室②星空観察で気軽にアウトドア～夜空を見上げて男のロマン～・善兵衛ランド③魚のさばき方～魚をさばいて晩酌のおともに～・料理室④コーヒーの入れ方と基礎知識～お家でゆったりとコーヒータイム～・料理室▷材料費　1回500円程度▷定員　各10人（定員になり次第締切）▷申込　2月10日（木）～電話・窓口で

貝塚少年少女合唱団団員募集

仲間とハーモニーをつくりませんか。ぜひ見学に来てください。
▷日時　日曜午前10時～正午▷場所　講座室▷対象　新年長児～中学2年生▷団費　1,500円（1カ月。別途ユニフォーム貸与代、合宿参加費などあり）▷申込　電話・窓口で
※園児は費用・時間が異なります。
※2・3月は無料で参加体験できます。

介護について語り合う場

介護の悩みや疑問をみんなで話しあって心を軽くしましょう。
▷日時　2月28日（月）午後1時30分～3時▷場所　講座室▷協力　貝塚市介護者家族の会▷申込　電話・窓口で

春一番コンサート

木管五重奏を中心としたアンサンブルをお楽しみください。
▷日時　3月20日（日）午後1時30分▷場所　視聴覚室▷出演　サザンウインドアンサンブル▷入場　無料▷定員　40人▷申込　2月12日（土）午前9時～2月25日（金）午後5時までに電話・窓口で

楽しくフィットネス2 ～いっしょに動きましょう～

ストレッチ、脳トレ、音楽にあわせて簡単な運動など。
▷日時（全4回）　2月21日・28日、3月7日・14日、月曜午後1時30分～2時30分▷場所　視聴覚室・和室▷対象　市内在住・在勤の成人▷持物　タオル、水分、運動しやすい服と靴▷参加費　無料▷定員　15人（定員になり次第締切、初めてのかた優先）▷申込　電話・窓口で

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール（右記）で

ロビーコンサート はるかぜコンサート ～童謡のひととき～

▷日時　3月15日（火）午後0時30分▷出演　貝塚市クラシック音楽家協会：岡野玲子さん・佐東理絵さん・西上裕恵さん（ソプラノ）、北野知子さん（メゾソプラノ）、荒瀬紘子さん（ピアノ）▷定員　40人（定員になり次第締切）▷申込　2月17日（木）～

山手地区公民館開館30周年事業 ウクレレ　夕空コンサート

美しい夕日を背景にウクレレの素敵な演奏を一緒に楽しみませんか。
▷日時　3月8日（火）午後4時30分～▷場所　講座室1▷出演　オルオルウクレレクラブ、ククルウクレレクラブ▷入場　無料▷定員　35人（定員になり次第締切）▷申込　市内のかた2月14日（月）～、市外のかた2月21日（月）～

浜手地区公民館　☎072－431－0926

＋KOMINKAN（プラス公民館）

高校生・大学生の居場所としてホールを開放します。
▷日時　2月20日（日）午後1時～4時▷申込　不要

楽酒もう（たのしゅもう）

日本の伝統文化「日本酒」を学びませんか。利き酒もします。
▷日時　2月27日（日）午後1時30分～3時30分▷対象　市内在住、在勤の20歳以上のかた（60歳未満のかた優先）▷定員　16人（多数の場合抽選）▷材料費　500円▷申込　2月20日（日）までに窓口・電話・Eメールで
※利き酒に参加される受講者は、受講後の車の運転はできません。（自転車含む）

笑って！認知症と介護予防

介護エンターテイナーが笑顔で元気になる方法をお伝えします。
▷日時　3月4日（金）午後1時30分～3時▷場所　ホール▷出演　石田竜生さん（介護エンターテイナー）▷定員　60人（定員になり次第締切）▷申込　市内のかた2月4日（金）～、市外のかた2月18日（金）～窓口・電話で

子育てサロン☆ほっとスペース

第1～4火曜午前10時～正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。2月22日は「新聞紙あそび」、3月8日は「ラップの芯で遊ぼう」をします。
申込は不要です。

浜手　歌声サロン

思い出の歌、青春時代の懐かしい歌をリクエストしてみんなで歌おう！
▷日時　3月20日（日）午後1時30分～3時▷場所　ホール▷出演　深海勝也さんほか▷定員　60人（定員になり次第締切）▷申込　2月20日（日）～3月13日（日）に窓口・電話で
※リクエストカードを浜手地区公民館に置いています（1人2曲まで）

文化サロン「万葉集を学んでみよう」

“令和”の出典にもなった万葉集入門講座です。
▷日時　3月25日（金）午前10時30分～正午▷講師　神保智さん▷定員　25人（定員になり次第締切）
▷申込　2月17日（木）～窓口・電話で

♪かいづかブックフェスタ♪

申込・問合せ先　山手地区公民館

本とSDGsをテーマにした家族で楽しめるイベントです。
絵本や写真本をたくさん並べる“絵の本ひろば”もあるよ。
▷日時　3月27日（日）午前10時～正午▷場所　山手地区公民館2階フロア▷参加費　無料▷共催　貝塚スパコ図書グループ・市民図書館
▷申込　3月18日（金）までに窓口・電話・Eメールで

申込不要	
10：00～ オープニングイベント	つげさんと一緒に手話で合唱♪（協力：童謡を歌おうクラブ） SDGs紙芝居　「うらしまじろう」
10：30～ 牛乳パックでしおり作り	牛乳パックを再利用したしおりをかわいくデコレーションしよう！

申込必要（多数の場合は抽選）

講座名	内容・定員	時間	持物
牛乳パックでランタン作り	牛乳パックを再利用してランタンを作ります。（1組1つ） 対象　親子10組	10：30～ 順次（所要時間30分）	なし
えほんで性教育	絵本を使った幼児からできる親から子へ伝える性教育。 対象　大人10人（子ども入室可）	11：00～ 12：00	なし
本のフィルム貼り体験	お気に入りの1冊を図書館の本みたいにラミネート。（1組1冊） 対象　親子または大人15組	10：30～ 順次（所要時間30分）	本（縦横26cm以内）30cm定規

公民館タイムズ

浜手地区公民館　☎072－431－0926

子育てサロンde子連れヨガ

赤ちゃん同室で参加できるママのためのヨガです。
▷日時　3月29日(火)午前10時30分～11時30分▷定員　6組(定員になり次第締切)▷申込　窓口・電話で

浜手アフタヌーンコンサート アンデスの風

アンデスの民族音楽を楽しもう。
▷日時　4月14日(木)午後2時～3時▷場所　ホール▷出演　アントニオ・カマケさん▷定員　80人(定員になり次第締切)▷申込　市内のかた3月22日(火)～、市外のかた29日(火)～窓口・電話で

シルバーライフ 受講者募集

▷日時(全22回)　5月12日～12月1日(8月を除く木曜)午前10時～正午▷対象　65歳以上の市民▷定員　10人(定員になり次第締切)▷参加費　無料(材料費実費)▷申込　4月15日(金)までに窓口・電話で

浜手地区公民館クラブ紹介①(利用者連絡会所属)

あなたも一緒に活動してみませんか！見学もできます　☎072－431－0926

	クラブ名	活動日時	月会費(円)	内容
創作	陶芸　こねこね	1～4(月) 9:00	1,300	月4回。1回は先生の指導、残り3回は自由な作品作りを楽しんでいます。
書画	光　水彩画クラブ	1・3(火) 13:00	2,000	水彩画製作を通して地域の交流を図り楽しく真剣に取り組んでいます。静物、スケッチなど。
	火曜ペン習字・書道	1・3(火) 19:00	大人2,000 子ども1,000	書いている間は何もかも忘れて没頭しています。みなさんも体験してみませんか。
	書道　木曜会	1～3(木) 13:00	1,500	みんな楽しく、漢字、仮名、日常必要な慶弔辞などを学んでいます。
料理	シュガー(お菓子・パンづくり)	2(火) 10:00	1,500	パンとお菓子づくりを楽しんでいます。
	おやじの料理	3(日) 9:30	1,000	男も料理をして楽しむ時代です。
音楽	コーラス・サラダボール	1・3(土) 10:00	2,000	幅広いジャンルの歌を楽しく歌ってストレス解消!明るく楽しいクラブです。
	ハーモニカ・アンサンブル アンダンテ	1・3・4(木) 13:00	500	アンサンブルの楽しさを味わいませんか。現在15人在籍。
	浜手ピアノクラブ(60歳以上)	(土)9:00 2(金)19:00	2,500	5人で1グループ。5グループが月1回のレッスンを楽しんでいます。
	リトミック1，2，3	2・4(木) 10:30	1,000	音楽を使って、手遊びや体を動かし、親子で楽しく遊んでいます。
語学	Enjoy English in Hamate	1～3(火) 10:00	2,000	陽気な先生を中心に初・中級英会話を。コーヒータイムをはさみ、和気あいあいです。
体操・舞踊	T2R(キッズダンス)(幼稚園年長～中学生)	1～3(土) 13:40	2,000～	楽しく、リズムに合わせて元気よく踊るクラスです。
		1～3(土) 14:40	2,000～	音に合わせて、かっこよくをモットーに踊っているクラスです。
		1～3(土) 15:40	2,000～	さらにかっこよく、レベルアップを目指すクラスです。
	踊るママ御殿	1～4(日) 10:00	1,000	子連れでできる大人のヒップホップです。
	太極拳	1・3・4(火) 19:00	2,000	楽しくゆったりと気の流れを良くする健康体操。初心者大歓迎。
	太極拳II	1・3(木) 13:00	1,000	転ばぬ先の太極拳。初心者の方大歓迎。見学もOK！
	ストレッチ体操 浜風	1・3(金) 10:00	1,000	脳トレ・筋トレ・ストレッチ。音楽に合わせて楽しく元気に健康づくり。
	卓球コロコロ	1～4(月) 9:00	年2,000	相手の気持ちを考えて楽しくラリーを続けています。
	サターナイト(卓球)	1～4(土) 19:00	年2,000	和気あいあいと楽しんでま～す。
	浜手ノルディックウォーククラブ	2・4(火) 14:00	年3,000	健康保持と体力増進を目指し、その輪を広げる活動をしています。
	げんきup体操	2・4(金) 13:30	1,000	健康な日常を過ごすための、高齢者にもできる優しい体操。
演芸・演劇	朗読ぐる～ぷサルビア	2～4(金) 13:00	年2,000	ヒロシマ・ナガサキの被爆者の手記・詩を朗読します。
	人形劇きしゃぽっぽ	1～3(月) 10:00	200	子ども達の笑顔といっぱいふれあいます。仲間募集！
伝統文化	いけ花	2・4(金) 13:30	3,500(花代込)	四季折々の花をいけて、楽しんでいます。
	茶道	1・3・4(木) 12:30	1,500	美味しいお茶とお菓子を一緒に楽しみませんか？
	二色囲碁クラブ	1～4(土) 12:30	年2,000	白石と黒石で19×19の碁盤での陣取りゲーム。老若男女、誰でも楽しむことができます。
コンピュータ	木曜PCクラブ	1・3・4(木) 12:30	1,000	ワード・エクセル・パソコンでお絵書きをしています。
文芸	浜手川柳	1・3(金) 13:20	1,500	日頃のちょっとした感動を、五・七・五のリズムにのせて表現してみませんか。

中央公民館　☎072－433－7222

第43回貝塚少年少女合唱団 定期演奏会

子どもたちが元気いっぱいに日頃の活動の成果を発表します。
▷日時　3月26日(土)午後2時▷場所　コスモスシアター中ホール▷入場　無料(入場制限をさせていただく場合があります)

GWピアノリレー

老若男女、だれでも参加できます。
▷日時　5月1日(日)午前9時～午後4時▷場所　視聴覚室▷定員　28人(要申込。定員になり次第締切。一人15分、空きがあれば連続可)▷参加費　無料▷申込　窓口・電話で

プレーパーク

子どもたちの「やってみたい」を最大限かなえてあげながら一緒に遊びませんか。
▷日時　3月26日(土)～30日(水)午前10時～午後4時(雨天中止)▷場所　市立青少年野外広場(第四中学校横)▷参加費　100円

中央公民館　ふれあい料理 ボランティア募集

障害のあるかたと一緒に料理をする講座のボランティアを募集しています。
講座日に体験や見学ができます。気軽に和やかな雰囲気を見に来てください。
▷日時　4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、金曜午前9時30分～午後0時30分(要申込。各講座日の1週間前締切)▷持物　エプロン、三角巾、ふきん(体験希望の場合)▷申込　窓口・電話で

日本語会話よみかき教室

いろいろな事情で学校に行けなかったかた、外国から日本に来て日常生活に不自由しているかた、各公民館へ気軽にお越しください。
◆中央公民館(毎火曜午前10時～)
◆山手地区公民館(毎月曜午後7時30分～)
◆浜手地区公民館(毎火曜午前10時～)

赤ちゃんルーム

毎月第2・4月曜開催。人数制限をしています。申込のかたが優先となりますので、事前にお問合せください。
▷時間　午前10時～11時30分▷場所　保育室▷対象　令和3年4月以降生まれの子を持つ親子、妊婦のかた
▷申込　窓口・電話で

山手地区公民館　☎072－446－0090

◎申込　窓口・電話・Eメール(右記)で

フアフアクラブ「みんなで楽しくあそぼう！」

子育てに悩むお母さんへ…日曜のひととき子どもとのホッとする時間を一緒に過ごしませんか。親子で工作やゲームを楽しみましょう。
▷日時　4月17日(日)午前10時15分～11時30分▷対象　なんでうちの子は他の子と同じようにできないのかな？と悩む親と小学生
▷定員　10組(定員になり次第締切)▷受講料　無料▷講師　松本啓子さん(学校心理士)

第10回たまねぎ劇場

市民グループ発表の場です。
▷日時　4月10日(日)午後1時30分▷場所　ホール▷出演　ピースマイル(ビートルズ音楽)、朗読劇グループことの葉(海神わだつみ)、シエルバレエクラブ(花のワルツdeストレッチ、スペインのおどり)、和太鼓・民舞サークルわだち(豊年音頭、ソーラン節など)
▷入場　無料▷定員　80人(要申込。定員になり次第締切)

将棋クラブ

将棋をやりたい子、あつまれ～。子ども同士・地域のボランティアさんと対戦できるよ。
▷日時(全10回)　5月21日～来年2月18日、第3土曜午後1時30分～3時30分▷対象　小学生▷定員　10人(多数の場合は抽選)▷参加費　無料▷締切　4月14日(木)
※定員に満たない場合は順次受付
◆ボランティアも同時に募集します。将棋の楽しさを子どもたちと一緒に活動しながら指導できるかたを募集します。詳しくはお問合せください。

高齢者講座「ことぶきクラブ」受講者募集

高齢期を生きいきと健康で過ごすために、学習・交流・レクリエーションなど自分たちのやりたいことを話し合ってすすめていきます。
▷日時(全29回)　4月5日～12月13日、火曜午前10時～正午▷対象　65歳以上の市民▷費用　無料(材料費実費)▷締切　3月24日(木)

新型コロナウイルス感染症への対応と公民館の動き（令和２年度）

年	月	日	国・府・市の動き	公民館の動き
R2	1	24	【府】新型コロナウイルス対策本部設置	
		30	【市】新型コロナウイルス対策本部設置	
	2	20	2/19 第８回対策本部会議でイベント等の取り扱いについて 3/20 までの方針決定	公民館利用のクラブ・団体に活動自粛要請
	3	2	公立小中高校の一斉休校(～4/7)（第１波）	18 歳以下（大人同伴の場合も含む）の利用不可（～3/24）
		3		感染拡大を考慮し、公民館大会実行委員会で第８回貝塚公民館大会の中止を決定
		23		18 歳以下（大人同伴の場合も含む）の利用不可延長（～4/7）
		26		中央公民館まつりの開催中止を決定
	4	7	【国】緊急事態宣言発出【府】外出自粛要請（～5/6）【市】小中学校の休校延長(～5/6)（第２波）	公民館が休館（～5/7）になる 館ではコロナ対策の検討・準備や、事業の見直し、休館中にできることに取り組む
		9		18 歳以下（大人同伴の場合も含む）の利用不可再延長（～5/31）
	5	4	【国】緊急事態宣言延長（～5/31）	公民館休館延長（～5/15）
		11	【市】小中学校で週１回程度の登校開始	
		16		６月からの利用停止解除に向けた、打合せ・会議等のみ使用可。（～5/31）
		21	【府】緊急事態宣言解除　5/23 から施設等の利用制限を緩和	
		23		18 歳以下（大人同伴の場合も含む）の利用制限継続。（～6/14）
	6	1	【市】小中学校再開（6/15 まで分散登校）	使用室定員の制限(約半数)を設け、コロナ感染防止対策を講じた上での利用再開
		中旬		山手地区公民館の公民館まつり、浜手地区公民館のふれあいまつりの開催中止を決定
	7	31	【府】大阪市内の感染拡大に伴いイエローステージへ移行　施設等の利用制限についてはさらに緩和（8/1～）	
	10	12		使用室定員の利用制限を７割程度に緩和
	12	4	【府】大幅な感染拡大を受けレッドステージ移行を表明（第３波）	
R3	1	13	【府】２回目の緊急事態宣言 （1/14～2/7）	
		14	【市】公共施設の利用時間制限 （1/18～2/7）	
		18		午後８時以降の利用制限・使用料の按分徴収（当面の間）※2/28 府の緊急事態宣言解除まで
	2	2	【国】緊急事態宣言延長（府：～2/28）	
		7		第９回貝塚公民館大会を、オンラインで三館をつないで開催

新型コロナウイルス感染症への対応と公民館の動き（令和３年度）

年	月	日	国・府・市の動き	公民館の動き
R3	4	5	【府・市】感染症等まん延防止等重点措置 【市】公共施設の利用時間制限（第４波）（4/5～5/5）	4/5～5/5 公民館は 21 時閉館
	4	25	【国】緊急事態宣言（府：～5/11） 【市】公共施設の貸出休止	4/25～5/11 まで公民館が休館
	5	7	【国】緊急事態宣言延長（府：～5/31）	
	5	10	【市】公共施設の貸出休止延長（～5/31）	～5/31 まで公民館が休館延長
		28	【国】緊急事態宣言延長（府：～6/20）	
		29	【市】公共施設の貸出休止延長（～6/20）	～6/20 まで公民館が休館延長
	6	18	【国】感染症等まん延防止等重点措置（府：6/21～7/11）	
		19	【市】公共施設の利用時間制限（6/21～7/11）	～7/11 まで公民館が 20 時閉館
	7	9	【国】感染症等まん延防止等重点措置（府：7/12～8/22） 【市】公共施設の利用時間制限緩和	～8/22 まで公民館が 21 時閉館
	7	30	【国】緊急事態宣言（府：8/2～31）（第５波）	
	8	1	【市】公共施設の利用時間制限強化（8/2～8/31）	8/2～8/31 まで公民館は 20 時閉館
		17	【国】緊急事態宣言延長（府：～9/12） 【市】公共施設の利用時間制限延長	～9/12 まで公民館は 20 時閉館
	9	9	【国】緊急事態宣言延長（府：～9/30）	
		10	【市】公共施設の利用時間制限延長	～9/30 まで公民館は 20 時閉館
	9	28	【国】緊急事態宣言延長（府：～10/31）	
		30	【市】公共施設の利用時間制限延長（～10/31）	～10/31 まで公民館は 21 時閉館
	10	21	【国】緊急事態宣言解除（府：10/25～）	
		22	【市】公共施設の利用時間制限解除（10/25～）	10/25～通常どおり 22 時まで閉館
R4	1	25	【国・府・市】感染症等まん延防止等重点措置（第６波）　（1/27～2/20）	感染症等まん延防止等重点措置に合わせた運用（1/27～2/20）
	2	18	【国・府・市】感染症等まん延防止等重点措置延長（～3/6）	感染症等まん延防止等重点措置に合わせた運用（～3/6）
	3	4	【国・府・市】感染症等まん延防止等重点措置延長（～3/21）	感染症等まん延防止等重点措置に合わせた運用（～3/21）

令和３年度　施設利用統計（令和３年４月～令和４年３月）

＜利用人員数・中央＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講　座	315	4	237	700	469	595	583	581	431	124	239	160	4,438
事　業	219	0	28	82	424	202	418	307	674	215	360	616	3,545
クラブ等	1,516	0	463	1,886	1,243	1,511	2,197	2,068	2,199	1,640	1,237	2,054	18,014
一般利用	128	0	42	321	653	111	212	50	122	83	47	39	1,808
その他	302	10	216	198	323	130	164	340	244	116	275	444	2,762
計(人)	2,480	14	986	3,187	3,112	2,549	3,574	3,346	3,670	2,178	2,158	3,313	30,567

＜浜手地区＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講　座	25	0	44	315	144	177	247	403	310	249	156	79	2,149
事　業	210	0	38	105	211	354	293	140	307	299	294	148	2,399
クラブ等	1,160	0	546	1,177	1,010	1,262	1,622	1,538	1,552	1,161	1,045	1,341	13,414
一般利用	37	0	0	0	79	10	8	40	32	30	55	98	389
その他	272	0	62	247	375	248	373	239	296	311	400	521	3,344
計(人)	1,704	0	690	1,844	1,819	2,051	2,543	2,360	2,497	2,050	1,950	2,187	21,695

＜山手地区＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講　座	158	0	113	296	76	223	231	235	194	64	80	262	1,932
事　業	0	0	116	48	50	105	658	40	13	0	185	413	1,628
クラブ等	942	0	259	1,036	890	1,303	1,101	1,113	837	760	359	828	9,428
一般利用	554	0	98	893	797	882	1,241	1,324	1,267	1,169	406	738	9,369
その他	84	0	32	100	104	118	104	132	96	133	76	136	1,115
計(人)	1,738	0	618	2,373	1,917	2,631	3,335	2,844	2,407	2,126	1,106	2,377	23,472

＜使用状況・中央＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
視聴覚室	47	3	16	54	48	51	67	57	57	47	44	61	552
講座室３	44	0	17	45	42	42	45	51	44	30	32	33	425
講座室２	40	0	14	40	45	45	50	46	44	38	41	45	448
講座室１	27	0	10	33	30	32	38	38	45	27	27	31	338
和　室	9	0	6	19	20	7	23	22	25	17	14	23	185
創作室	29	0	4	28	17	17	30	35	26	24	17	25	252
料理室	9	0	2	12	12	7	14	16	15	3	8	23	121
保育室	18	0	11	34	37	35	53	39	42	37	41	49	396
青少年センター	18	0	2	12	9	13	20	19	17	16	17	12	155
文化会館	2	0	1	2	1	5	3	2	5	2	4	1	28
その他	0	0	0	2	0	0	2	3	1	0	0	0	8
計（回数）	243	3	83	281	261	254	345	328	321	241	245	303	2,908

＜浜手地区＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
ホール	32	0	13	35	30	40	54	59	46	42	40	47	438
プレイルーム	7	0	7	15	10	15	33	21	25	16	18	25	192
第１講座室	28	0	6	38	39	35	40	35	31	36	39	35	362
第２講座室	15	0	9	28	33	36	41	31	26	33	28	27	307
和　室	12	0	8	18	10	14	36	15	16	14	12	14	169
料理室	7	0	9	10	10	13	25	13	7	11	12	7	124
ロビー等	4	0	3	12	7	7	22	12	9	4	8	6	94
計（回数）	105	0	55	156	139	160	251	186	160	156	157	161	1,686

＜山手地区＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
ホール	34	0	11	47	23	36	45	53	37	39	15	38	378
楽屋１	0	0	0	5	0	0	8	5	4	3	0	0	25
楽屋２	0	0	0	5	0	3	8	3	4	5	0	0	28
保育室	5	0	4	8	10	8	18	14	16	8	1	5	97
講座室１	20	0	10	36	36	24	28	25	16	26	18	19	258
講座室２	32	0	7	27	1	14	44	38	26	28	24	34	275
講座室３	19	0	7	20	2	10	19	25	20	16	15	18	171
料理室	2	0	0	14	8	7	5	19	11	9	4	11	90
視聴覚室	9	0	5	20	40	19	19	20	25	18	18	22	215
音楽室	6	0	3	4	7	6	2	5	6	12	5	10	66
創作室	15	0	2	16	15	15	16	14	12	14	11	16	146
和　室	24	0	9	28	30	18	25	25	19	15	12	25	230
計（回数）	166	0	58	230	172	160	237	246	196	193	123	198	1,979

【貝塚市立中央公民館職員】

甲斐 裕二　井川　剛　上野 裕子　池田 浩子
大野 幸子　中川 知子　奥埜 由起子

【貝塚市立浜手地区公民館職員】

小西 克治　坂本 修司　川上 恵里　木藤 順子　小山 智子

【貝塚市立山手地区公民館職員】

西野京太郎　松浪 京子　西本 仁志　南 百合美　熊本 雅代

2021年度　貝塚公民館のあゆみ

発　行　日　令和４年５月
発　行　者　貝塚市立中央公民館　〒597－0072 貝塚市畠中１丁目18番１号
TEL　072（433）7222
貝塚市立浜手地区公民館 〒597－0091 貝塚市二色２丁目７番２号
TEL　072（431）0926
貝塚市立山手地区公民館　〒597－0046 貝塚市東山７丁目10番１号
TEL　072（446）0090
編　　集　あゆみ2021編集委員
部　　数　150部
単　　価　244.8円